岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第 166 集

明　徳　遺　跡

２０２４
岐阜県文化財保護センター

明徳遺跡（みょうとく）

２０２４

岐阜県文化財保護センター

Ａ区全景（北から）

巻頭図版２

明徳遺跡出土土師器

序

養老郡養老町は岐阜県の南西部、滋賀県や三重県と県境を接し、濃尾平野の西部に位置し、西側を養老山地、東側を揖斐川に挟まれた豊かな自然に囲まれています。また、弥生時代後期から古墳時代にかけての東海地方有数の墳墓群である象鼻山古墳群や、町名の由来となった養老改元の故地・元正天皇行幸遺跡など数多くの文化財が残る、自然と歴史や文化が調和する町です。

このたび、大垣土木事務所による令和２年度県単道路新設改良事業及び令和３年度県単道路新設改良（一般分）事業、令和４年度公共社会資本整備総合交付金事業に伴い、養老町石畑及び鷲巣地内に所在する明徳遺跡の発掘調査を実施しました。

明徳遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての時期に営まれた遺跡で、今回の発掘調査では、竪穴建物、掘立柱建物、溝などを検出しました。また、多量の土師器など、当時の遺跡内での暮らしぶりを窺うことのできる豊富な遺物が出土しました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただきました関係機関並びに関係者各位、養老町教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和６年３月

岐阜県文化財保護センター
所長　岡田　知也

例言

1　本書は、岐阜県養老郡養老町石畑・鷲巣地内に所在する明徳遺跡（岐阜県遺跡番号 21341-11214）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、令和２年度県単道路新設改良事業、令和３年度県単道路新設改良（一般分）事業、令和４年度公共社会資本整備総合交付金事業に伴うもので、岐阜県大垣土木事務所から令和２年度は岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課が依頼を受け、令和３・４年度は岐阜県文化財保護センターが依頼を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　宇野隆夫帝塚山大学客員教授の指導のもとに、発掘作業は令和２・３年度に、整理等作業は令和４年度に実施した。

4　発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆は、第１章・第２章は澤村雄一郎、第３章は杉野真平の所見をもとに澤村が行った。また編集は澤村が行った。

6　発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は、令和２年度は株式会社島田組に委託し、令和３年度は株式会社イビソクに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は株式会社ユニオンに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　炭化材の樹種同定及び放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに委託して行い、第４章に掲載した。第４章第１節１・２は澤村が執筆した。

9　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）

岡見知紀、近藤大典、中島和哉、林正憲、早野浩二、廣瀬正嗣

奈良県立橿原考古学研究所、養老町教育委員会

10　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用している。

11　土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の方法と経過……3
第２章　遺跡の環境……7
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……8
第３章　調査の成果……13
　第１節　基本層序……13
　第２節　遺構概要……15
　第３節　遺物概要……17
　第４節　遺構・遺物……19
　第５節　遺物包含層等出土遺物……123
　発掘区全域図　分割図、遺構一覧表、遺物観察表
第４章　自然科学分析……193
　第１節　炭化材の樹種同定及び放射性炭素年代測定……193
第５章　総括……197
　第１節　遺構について……197
　第２節　遺物について……201
引用・参考文献……213
写真図版
報告書抄録

挿図目次

図１　遺跡位置図 …… 1
図２　試掘坑と発掘区の位置 …… 2
図３　発掘区地区割図 …… 3
図４　遺跡周辺の地形分類図 …… 7
図５　周辺遺跡位置図 …… 10
図６　土層柱状図 …… 14
図７　遺構分類模式図 …… 16
図８　SI１遺構図（１） …… 20
図９　SI１遺構図（２） …… 21
図10　SI１出土遺物実測図 …… 21
図11　SI２遺構図（１） …… 22
図12　SI２遺構図（２）・出土遺物実測図 …… 23
図13　SI３遺構図（１） …… 25
図14　SI３遺構図（２）・出土遺物実測図 …… 26
図15　SI４遺構図 …… 27
図16　SI５遺構図 …… 28
図17　SI５出土遺物実測図 …… 29
図18　SI６遺構図 …… 30
図19　SI６出土遺物実測図 …… 31
図20　SI７遺構図 …… 33
図21　SI７出土遺物実測図 …… 34
図22　SI８遺構図（１） …… 35
図23　SI８遺構図（２） …… 36
図24　SI８遺構図（３） …… 37
図25　SI８出土遺物実測図 …… 38
図26　SI９遺構図 …… 39
図27　SI９出土遺物実測図 …… 40
図28　SI10遺構図（１） …… 41
図29　SI10遺構図（２） …… 42
図30　SI10出土遺物実測図 …… 43
図31　SI11遺構図・出土遺物実測図 …… 44
図32　SI12遺構図・出土遺物実測図 …… 45
図33　SI13遺構図（１） …… 46
図34　SI13遺構図（２） …… 47
図35　SI13出土遺物実測図 …… 48
図36　SB１遺構図 …… 50
図37　SB２遺構図 …… 51
図38　SB３遺構図 …… 52
図39　SA１遺構図 …… 53
図40　SA２遺構図 …… 54
図41　SA３遺構図 …… 55
図42　SA４遺構図 …… 56
図43　SA５遺構図 …… 57
図44　SA６遺構図 …… 57
図45　SP１～SP４遺構図 …… 59
図46　SD２遺構図・出土遺物実測図 …… 60
図47　SD３遺構図・出土遺物実測図 …… 62
図48　SD４遺構図・出土遺物実測図 …… 62
図49　SD５～SD７遺構図遺構図・
SD５出土遺物実測図 …… 64
図50　SD６・SD７出土状況図 …… 65
図51　SD６出土遺物実測図（１） …… 66
図52　SD６出土遺物実測図（２） …… 67
図53　SD６出土遺物実測図（３） …… 68
図54　SD６出土遺物実測図（４） …… 69
図55　SD７出土遺物実測図（１） …… 70
図56　SD７出土遺物実測図（２） …… 71
図57　SD７出土遺物実測図（３） …… 72
図58　SK１・SK2・SK6・SK９・SK11～SK13・
SK16遺構図 …… 75
図59　SK19～SK21・SK27・SK30・SK31遺構図・
SK30・SK31出土遺物実測図 …… 78
図60　SK35・SK37・SK38・SK40遺構図・
SK37出土遺物実測図 …… 80
図61　SK41～SK43・SK45・SK47～SK51遺構図・
SK49出土遺物実測図 …… 82
図62　SK52・SK53・SK55・SK56・SK65・
SK66遺構図・SK52出土遺物実測図 …… 85
図63　SK68・SK69・SK80～SK84・SK90・SK91遺構図・
SK69出土遺物実測図 …… 89

図64　SK92遺構図 …… 91
図65　SK92出土遺物実測図（１）…… 92
図66　SK92出土遺物実測図（２）…… 93
図67　SK93・SK96・SK100・SK102～SK104・SK114・
SK116遺構図…… 95
図68　SK117・SK118・SK122・SK124・
SK128～SK131遺構図…… 99
図69　SK132・SK134～SK136・SK138・
SK140遺構図…… 102
図70　SK140出土遺物実測図…… 103
図71　SK142・SK143・SK146・SK147・
SK150～SK153・SK156遺構図…… 106
図72　SK158～SK161・SK164・
SK166～SK169遺構図…… 109
図73　SK177遺構図・出土遺物実測図…… 111
図74　SK196遺構図…… 112
図75　SK196出土遺物実測図（１）…… 113
図76　SK196出土遺物実測図（２）…… 114
図77　SU１遺構図・出土遺物実測図…… 115
図78　SU２遺構図…… 117
図79　SU２出土遺物実測図…… 118
図80　SU３遺構図・出土遺物・
関連遺物実測図…… 119
図81　SU４遺構図…… 120
図82　SU４出土遺物実測図…… 121
図83　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（１）124
図84　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（２）125
図85　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（３）126
図86　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（４）127
図87　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（５）128
図88　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（６）129
図89　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（７）130
図90　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（８）131
図91　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（９）132
図92　土石流堆積土（Ⅱ層）出土遺物実測図・
土石流堆積土（Ｉb層）出土遺物実測図（１）
…… 134
図93　土石流堆積土（Ｉb層）出土遺物実測図（２）
…… 135
図94　土石流堆積土（Ｉb層）出土遺物実測図（３）
…… 136
図95　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土
出土遺物実測図（１）…… 137
図96　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土
出土遺物実測図（２）…… 138
図97　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土
出土遺物実測図（３）…… 139
図98　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土
出土遺物実測図（４）…… 140
図99　発掘区全域図　割付図 …… 142
図100　発掘区全域図　分割図（１）…… 143
図101　発掘区全域図　分割図（２）…… 144
図102　発掘区全域図　分割図（３）…… 145
図103　発掘区全域図　分割図（４）…… 146
図104　発掘区全域図　分割図（５）…… 147
図105　発掘区全域図　分割図（６）…… 148
図106　発掘区全域図　分割図（７）…… 149
図107　発掘区全域図　分割図（８）…… 150
図108　発掘区全域図　分割図（９）…… 151
図109　発掘区全域図　分割図（10）…… 152
図110　発掘区全域図　分割図（11）…… 153
図111　発掘区全域図　分割図（12）…… 154
図112　暦年較正結果 …… 196
図113　遺構変遷図（I期・II期）…… 198
図114　遺構変遷図（Ⅲ期）…… 199
図115　弥生土器・土師器の変遷
（く字甕、受口系甕）…… 202
図116　弥生土器・土師器の変遷
（Ｓ字甕、北陸系甕）…… 203
図117　弥生土器・土師器の変遷
（広口壺、袋状口縁壺、加飾壺、台付壺）‥ 204
図118　弥生土器・土師器の変遷
（パレス壺、内湾壺）…… 205

図119　弥生土器・土師器の変遷
（受口系鉢、鉢・鉢把手・手焙形土器、
北陸系鉢、有孔鉢）…… 206
図120　弥生土器・土師器の変遷
（有段高坏、西濃型高坏）…… 207
図121　弥生土器・土師器の変遷
（有稜・ワイングラス形・椀形・低脚高坏、
北陸系高坏・器台、器台）……208

挿入写真目次

写真１　SI13出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 194
写真２　器台（93）赤外線写真…… 212
写真３　器台（93)･文字若しくは記号部分赤外線写真
……212

表目次

表１　試掘・確認調査結果一覧…… ２
表２　周辺遺跡等一覧表…… 11
表３　周辺街道一覧表…… 11
表４　検出遺構一覧表…… 15
表５　出土遺物点数一覧表…… 17
表６　竪穴建物一覧表…… 155
表７　竪穴建物付属遺構一覧表（１）…… 155
表８　竪穴建物付属遺構一覧表（２）…… 156
表９　掘立柱建物一覧表…… 156
表10　掘立柱建物付属遺構一覧表（１）…… 156
表11　掘立柱建物付属遺構一覧表（２）…… 157
表12　柵一覧表…… 157
表13　柵付属遺構一覧表（１）…… 157
表14　柵付属遺構一覧表（２）…… 158
表15　柱穴一覧表…… 158
表16　溝一覧表…… 158
表17　土坑一覧表（１）…… 159
表18　土坑一覧表（２）…… 160
表19　土坑一覧表（３）…… 161
表20　土坑一覧表（４）…… 162
表21　土坑一覧表（５）…… 163
表22　土坑一覧表（６）…… 164
表23　遺物集積一覧表 ……164
表24　土器類観察表（１）……165
表25　土器類観察表（２）……166
表26　土器類観察表（３）……167
表27　土器類観察表（４）……168
表28　土器類観察表（５）……169
表29　土器類観察表（６）……170
表30　土器類観察表（７）……171
表31　土器類観察表（８）……172
表32　土器類観察表（９）……173
表33　土器類観察表（10）……174
表34　土器類観察表（11）……175
表35　土器類観察表（12）……176
表36　土器類観察表（13）……177
表37　土器類観察表（14）……178
表38　土器類観察表（15）……179
表39　土器類観察表（16）……180
表40　土器類観察表（17）……181
表41　土器類観察表（18）……182
表42　土器類観察表（19）……183
表43　土器類観察表（20）……184
表44　土器類観察表（21）……185

表45　土器類観察表（22）…… 186
表46　土器類観察表（23）…… 187
表47　土器類観察表（24）…… 188
表48　土器類観察表（25）…… 189
表49　土器類観察表（26）…… 190
表50　土器類観察表（27）…… 191
表51　石器・石製品観察表…… 192
表52　金属製品観察表…… 192
表53　竪穴建物（SI13）出土炭化材の
　　樹種同定結果…… 193
表54　測定試料及び処理…… 195
表55　放射性炭素年代測定及び
　　暦年較正の結果…… 195

写真図版目次

巻頭図版
巻頭図版１
　Ａ区全景（北から）
巻頭図版２
　明徳遺跡出土土師器

巻末図版
図版１　全景
　Ａ区全景（東が上）
　Ｂ区全景（北が上）
図版２　全景
　Ｃ区全景（東から）
　Ｄ区全景（東から）
図版３　竪穴建物
　SI２床面検出状況（東から）
　SI２完掘状況（南東から）
図版４　竪穴建物
　SI８床面検出状況（南東から）
　SI８完掘状況（南東から）
図版５　竪穴建物
　SI13床面検出状況（東から）
　SI13遺物出土状況（南西から）
図版６　竪穴建物
　SI１床面検出状況（東から）
　SI１完掘状況（北東から）
　SI４床面検出状況（東から）
　SI４完掘状況（東から）
　SI５床面検出状況（東から）
　SI５完掘状況（東から）
　SI６床面検出状況（東から）
　SI６ミニチュア台付甕出土状況（南から）
図版７　竪穴建物
　SI７床面検出状況（上面）（東から）
　SI７床面検出状況（下面）（東から）
　SI10床面検出状況（東から）
　SI10完掘状況（東から）
　SI３床面検出状況（東から）
　SI９床面検出状況（南東から）
　SI11床面検出状況（東から）
　SI12床面検出状況（東から）
図版８　溝
　SD２完掘状況（西から）
　SD３完掘状況（西から）
　SD４完掘状況（西から）
　SD５完掘状況（西から）
　SD６・SD７完掘状況（南西から）
図版９　溝
　SD６遺物出土状況（南から）
　SD６遺物出土状況（西から）
　SD６遺物出土状況（南西から）
　SD６遺物出土状況（東から）
　SD６鉄鏃（119）出土状況（南から）

図版10　土坑
SK37完掘状況（東から）
SK37遺物出土状況（北から）
図版11　土坑
SK52完掘状況（東から）
SK52遺物出土状況（西から）
図版12　土坑
SK69完掘状況（西から）
SK69遺物出土状況（東から）
図版13　土坑
SK92完掘状況（南から）
SK92遺物出土状況（南から）
図版14　土坑
SK196完掘状況（北から）
SK196遺物出土状況（北から）
図版15　土坑
SK30完掘状況（東から）
SK30遺物出土状況（土層断面）（東から）
SK31完掘状況（南東から）
SK49完掘状況（南東から）
SK102完掘状況（西から）
SK177完掘状況（南から）
SK140完掘状況（東から）
SK140遺物出土状況（南から）
図版16　遺物集積
SU１遺物出土状況（南西から）
SU２遺物出土状況（北から）
図版17　遺構出土土器類
図版18　遺構出土土器類
図版19　遺構出土土器類
図版20　遺構出土土器類
図版21　遺構出土土器類
図版22　遺構出土土器類
図版23　遺構出土土器類
図版24　遺構出土土器類
図版25　遺物包含層出土土器類
図版26　遺物包含層出土土器類
図版27　土石流堆積土等出土土器類
図版28　土石流堆積土等出土土器類・金属製品・石器・石製品

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

養老郡養老町は岐阜県の南西部、三重県との県境をなす養老山地の東部及び濃尾平野の西部に位置する。明徳遺跡は養老郡養老町石畑及び鷲巣地内に所在し、養老山地東麓を流れる谷によって形成された扇状地の末端部に立地する（図１）。当遺跡の東側には濃尾平野の豊かな水田地帯が広がる。

主要地方道大垣養老公園線は大垣市静里町を起点とし、養老町養老へ至る主要幹線道路である。災害時の緊急輸送機能の向上や東海環状自動車道養老インターチェンジへのアクセス向上を目的とし、現道のバイパス路線の整備が計画された。この計画路線上に当遺跡が所在するため、岐阜県大垣土木事務所（以下「大垣土木事務所」という。）が岐阜県教育委員会社会教育文化課（当時、以下「社会教育文化課」という。）に当遺跡の試掘・確認調査を依頼した。

平成17年度から平成19年度に実施した試掘・確認調査では、当遺跡の範囲内及びその周辺の事業予定地内に19箇所（TP1～TP15、H19TP1～H19TP4）の試掘・確認調査坑を設定した（図２）。調査の結果、TP７・TP８・TP10で弥生時代から古墳時代の土坑や溝などの遺構を検出し、TP６～TP10で土師器などの遺物が出土した（表１）。

この試掘・確認調査の結果をもとに、社会教育文化課は平成18年12月20日及び平成19年7月23日に開催した岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、TP６～TP10周辺の2,267.1㎡について本発掘調査が

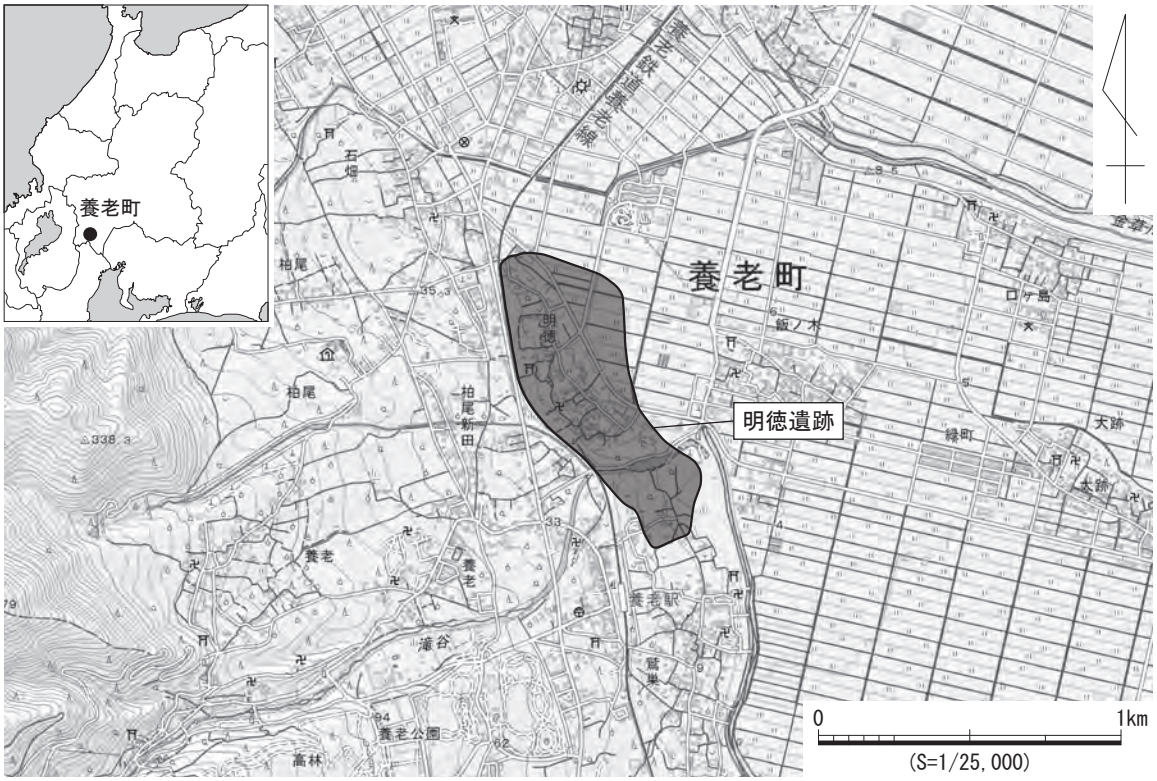


図１　遺跡位置図

（平成 30 年国土地理院発行 電子地形図 25000「養老」に加筆）

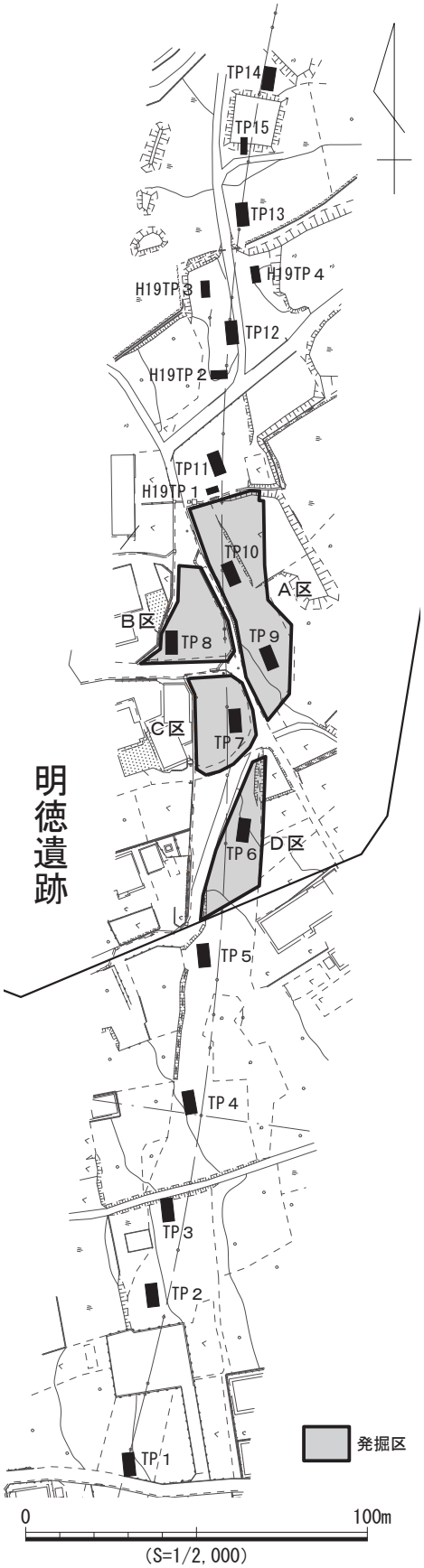


図２　試掘坑と発掘区の位置

表１　試掘・確認調査結果一覧

調査坑	検出遺構（基数）	出土遺物（点数）						合計
		土師器	須恵器	灰釉陶器	中近世陶磁器	石器	その他	
TP１	なし	7	0	0	0	0	0	7
TP２	なし	10	0	0	0	0	0	10
TP３	土坑(1)	2	0	0	2	0	4	8
TP４	なし	0	0	0	0	0	0	0
TP５	なし	0	0	0	0	0	0	0
TP６	なし	54	0	0	0	0	0	54
TP７	溝(1)、土坑(2)	427	0	0	43	0	0	470
TP８	土坑(3)	31	3	0	2	0	0	36
TP９	なし	126	0	0	3	0	0	129
TP10	土坑(1)	15	0	1	0	0	0	16
TP11	なし	0	0	0	4	0	0	4
TP12	水田畦畔(1)	0	0	0	1	0	0	1
TP13	水田畦畔(1)	0	0	0	0	0	0	0
TP14	なし	0	0	0	0	0	0	0
TP15	なし	0	0	0	0	0	0	0
H19TP１	なし	0	0	0	0	0	0	0
H19TP２	なし	0	0	0	0	0	0	0
H19TP３	なし	0	0	0	0	0	0	0
H19TP４	なし	0	0	0	0	0	0	0

必要との意見をまとめた。

本工事については、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、大垣土木事務所長から岐阜県知事（以下「県知事」という。）あてに埋蔵文化財発掘の通知（令和４年１月６日付け大土第776号）が提出され、同条第４項の規定に基づき、県知事から大垣土木事務所長あてに発掘調査実施の勧告（令和４年１月24日付け文伝第114号の179）を通知した。大垣土木事務所長は発掘調査の実施について、令和２年度は岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課長に依頼（令和２年１月14日付け大土第589号）し、令和３年度は岐阜県文化財保護センター（以下「当センター」という。）所長に依頼（令和２年12月24日付け大土第584号）した。当センター所長は調査着手後、文化財保護法第99条第１項の規定に基づく発掘調査の報告（令和２年５月19日付け文財セ第52号及び令和３年５月７日付け文財セ第88号）を県知事に提出した。

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

発掘作業は、発掘調査対象地を北側からＡ区～Ｄ区の４箇所に分割し、令和２年度に1,477.1㎡（Ａ区・Ｂ区）、令和３年度に790.0㎡（Ｃ区・Ｄ区）を実施した。

発掘区には世界測地系座標のＸ＝78635、Ｙ＝55315を原点として100ｍ×100ｍの大グリッド（Ａ、Ｂ）を設定した。さらに大グリッド中に５ｍ×５ｍの小グリッドを設定し、南北列にＡ～Ｔのアルファベット、東西列に１～８のアラビア数字を付した。個別のグリッド名（以下、「グリッド」という。）は大グリッドと小グリッドを合わせた名称とした。そのため発掘区北東隅のグリッドは「AA６」、南西隅のグリッドは「BE３」となる（図３）。

表土掘削は重機を用いて実施し、遺物包含層掘削・遺構検出・遺構掘削はスコップ・草削り鎌・移植ゴテなどを用いて人力で実施した。遺物包含層掘削は、遺物包含層上面から約５㎝下までを遺物包含層①、約５～10㎝下を遺物包含層②というように、概ね５㎝単位の人工層位を設定し、掘削した。遺構掘削は、遺構を半截又は４分割して土層堆積状況を観察し、必要な記録を作成した後に完掘した。また、検出時に遺構埋土と基盤層の識別が困難な場合は、サブトレンチを設定し、土層観察により識別を明確にした上で遺構を掘削した。なお、発掘区内は湧水が激しかったため、排水溝を発掘区の形状に応じて壁面沿いに掘削し、排水作業を行った。

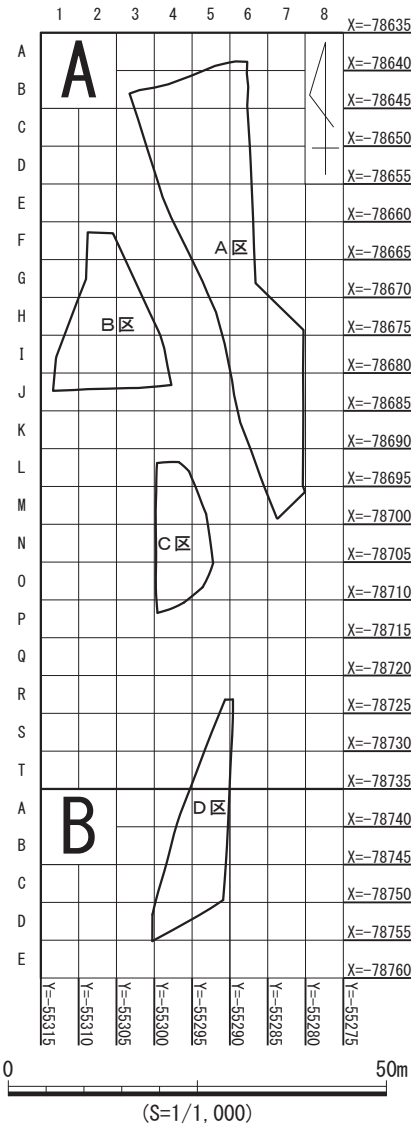


図３　発掘区地区割り図

遺物包含層掘削及び遺構検出の際に出土した遺物は、原則としてグリッド単位、層位ごとに取り上げた。また、遺構出土遺物は半截前後で取り上げ方法を変えた。すなわち、半截前は検出面から約５㎝下までをａ層、約５～10㎝下をｂ層、というように遺構内を概ね５㎝単位の人工層位で取り上げ、半截後は半截時に分層した層位ごとに取り上げた。なお、溝の出土遺物については、土層観察用畦では分層した層位ごとに取り上げ、土層観察用畦以外では人工層位で取り上げた。なお、遺構の時期や性格を表す可能性がある遺物は出土位置を測定し、特徴的な出土状況の遺物は出土状況図を作成した。

出土した遺物は、取上げ順を原則として遺物番号（通番）を付し、取上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「遺跡記号（発掘作業年度の西暦下２桁と明徳遺跡の遺跡記号MT）」、「グリッド・遺構名」、「層位」、「遺物番号」、「出土月日」、「遺物名」を記入し。遺物ラベルをもとに遺物台帳を作成した。

遺構は検出順を原則として調査番号（通番）を付け、「S」と３桁の数字により「S001」のように表記した。調査番号は、整理等作業時に遺構種別で分類し、種別記号と通番に付け替え、例えば竪穴建物の場合「SI１」のように表記した。

遺構等の実測作業は、令和２年度については、平面図、土層断面図ともデジタル測量にて、令和３年度については、平面図はデジタル測量、土層断面図は手測り測量にて、それぞれ実施した。図面の縮尺は20分の１を基本としつつ、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

写真撮影は、デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区の景観写真撮影は、ラジオコントロールヘリコプターに中判カメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）を搭載し、実施した。

２　調査の経過

令和２年度

第１週（５／11～５／15）　11日、Ａ区表土掘削開始。

第２週（５／18～５／22）　Ａ区表土掘削継続。試掘・確認調査では基盤層とされていた黒褐色土が、遺物包含層であることが判明した。

第３週（５／25～５／29）　25日、Ａ区表土掘削終了。26日、Ａ区グリッド杭打設。Ａ区遺物包含層掘削開始。28日、砥石(381)出土。29日、遺物包含層最下層(AM７グリッド)で土師器がまとまって出土。

第４週（６／１～６／５）　３日、Ａ区遺構検出開始。５日、Ａ区遺構掘削開始、土坑SK92上層の遺物出土状況図作成。

第５週（６／８～６／12）　８日、SK92上層の遺物取上げ、下層の遺物出土状況図作成。12日、Ⅱ層上面流路(Ａ区中央部)掘削開始。

第６週（６／15～６／19）　17日、撹乱坑(AG５、AG６グリッド)掘削開始。

第７週（６／22～６／26）　22日、竪穴建物SI７、SI９、SI10検出。

第８週（６／29～７／３）　７月１日、撹乱坑(Ａ区中央部)及び撹乱坑(AG５、AG６グリッド)掘削終了。遺物集積SU１検出、出土状況図作成及び遺物取上げ。

第９週（７／６～７／10）　雨天のため作業休止。

第10週（７／13～７／17）　16日、SI９完掘、土層確認トレンチ（AH６、AH７グリッド）掘削。

第11週（７／20～７／24）　Ａ区遺物包含層掘削、Ａ区遺構掘削継続。

第12週（７／27～７／31）　30日、溝SD９、竪穴建物SI８、SI７(２面目)検出。SI10完掘。

第13週（８／３～８／７）　４日、土坑SK196検出、SD９完掘。５日、SI７完掘。

第14週（８／10～８／14）　夏期休業。

第15週（８／17～８／21）　17日、SK196遺物出土状況図作成。18日、竪穴建物SI６検出。

第16週（８／24～８／29）　25日、撹乱坑(AG７グリッド)掘削開始。26日、溝SD３検出、SI６完掘。27日、宇野隆夫氏(帝塚山大学客員教授)現地指導、撹乱坑(AG７グリッド)掘削終了。28日、竪穴建物SI２検出、SI８完掘。29日、地元向け現地見学会実施(参加者41名)。

第17週（８／31～９／４）　８月31日、Ａ区遺物包含層掘削終了。９月１日、SD３完掘、撹乱坑

(AG７グリッド)追加掘削。２日、竪穴建物SI３、溝SD６検出。

第18週（９／７～９／11）　８日、溝SD４、SD５検出。９日、SD４で砥石(92)出土。10日、Ａ区遺構検出終了。

第19週（９／14～９／18）　14日、SD４、SD５完掘。15日、Ａ区景観写真撮影。17日、SI３完掘。

第20週（９／21～９／25）　21日、SD１完掘。23日、SK196底面で竪穴建物SI１検出、SD６遺物出土状況図作成、SD６で鉄鏃(910)出土。

第21週（９／28～10／２）　10月１日、SD６遺物取上げ、SD６底面で溝SD７検出。SI２完掘、Ａ区埋戻し開始。

第22週（10／５～10／９）　５日、SI１完掘。7日、SD６、SD７完掘、Ａ区遺構掘削終了。

第23週（10／12～10／16）　Ａ区埋戻し継続。

第24週（10／19～10／23）　20日、Ｂ区表土掘削開始。

第25週（10／26～10／30）　27日、Ｂ区グリッド杭打設開始。29日、Ｂ区表土掘削終了、グリッド杭打設終了。

第26週（11／２～11／６）　４日、Ａ区埋戻し終了、Ｂ区包含層掘削開始、遺物集積SU２検出、出土状況図作成及び遺物取上げ。

第27週（11／９～11／13）　10日、Ｂ区遺構検出開始。12日、養老町立広幡小学校６年生見学（児童17名、引率教員２名)。13日、竪穴建物SI４、SI５検出。

第28週（11／16～11／20）　16日、Ｂ区包含層掘削終了。18日、Ｂ区遺構検出終了、SI５完掘。

第29週（11／23～11／27）　24日、SI４完掘。Ｂ区景観写真撮影。25日、Ｂ区遺構掘削終了。27日、Ｂ区埋戻し開始。

第30週（11／30～12／４）　12月４日、Ｂ区埋戻し終了。

令和３年度

第１週（５／３～５／７）　６日、Ｃ区表土掘削開始。７日、Ｃ区表土掘削終了。

第２週（５／10～５／14）　10日、Ｃ区グリッド杭打設。11日、Ｃ区遺物包含層掘削開始。

第３週（５／17～５／21）　17日、遺物集積SU３検出、出土状況図作成及び遺物取上げ。

第４週（５／24～５／28）　26日、Ｃ区遺構検出開始、竪穴建物SI11検出。28日、Ｃ区遺物包含層掘削終了。

第５週（５／31～６／４）　５月31日、SI11完掘。６月３日、Ｃ区遺構掘削終了。

第６週（６／７～６／11）　７日、Ｃ区景観写真撮影、中島和哉氏（養老町役場）現地指導。10日、Ｃ区埋戻し開始。11日、Ｃ区埋戻し終了。

第７週（６／14～６／18）　14日、Ｄ区表土掘削開始。17日、Ｄ区表土掘削終了。18日、Ｄ区遺物包含層掘削開始。

第８週（６／21～６／25）　22日、遺物集積SU４出土状況図作成及び遺物取上げ。23日、Ｄ区遺構検出開始。竪穴建物SI12、SI13、土坑SK140検出。

第９週（６／28～７／2）　６月29日、SI13床面付近で器台（76）及び受口系甕（77）出土、出土状況図作成。

第10週（７／５～７／９）　９日、Ｄ区遺物包含層掘削終了、SK140で土師器がまとまって出土。

第11週（７／12～７／16）　14日、Ｄ区遺構検出終了、SI12、SK140完掘。16日、SI13完掘。
第12週（７／19～７／23）　20日、中島和哉氏（養老町役場）現地指導。
第13週（７／26～７／31）　29日、Ｄ区遺構掘削終了、Ｄ区景観写真撮影。31日、地元向け現地見学会実施(参加者40名)。
第14週（８／２～８／６）　２日、Ｄ区埋戻し開始。５日、Ｄ区埋戻し終了。

一次整理作業（出土遺物の洗浄や注記など）は令和２年度と令和３年度に、整理等作業（遺物実測や挿図作成など）は令和４年度に、それぞれ当センターにおいて実施した。

整理等作業時には、宇野隆夫氏から遺跡全体の評価や総括に関する指導を受けた。また、土師器類に関する指導を早野浩二氏(公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化センター)から受け、SD５出土器台(93)に関する指導を早野氏、林正憲氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)、岡見知紀氏（奈良県立橿原考古学研究所）及び近藤大典氏（岐阜県博物館）から受けた。

出土炭化材の樹種同定及び放射性炭素年代測定（ＡＭＳ法）を株式会社パレオ・ラボ、金属製品保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。

３　調査体制

発掘作業及び整理等作業の体制

センター所長	森勝利（令和２年度)、岡田知也（令和３・４年度）
総務課長	布施三千代（令和２・３年度)、中通珠子（令和３・４年度）
調査課長	春日井恒（令和２年度)、三輪晃三（令和４年度）
調査担当係長	長谷川幸志（令和２・３年度)、近藤正枝（令和４年度）
担当調査職員	杉野真平（令和２・３年度)、澤村雄一郎（令和４年度）

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

明徳遺跡が所在する養老町は、岐阜県の南西部に位置し、大垣市、海津市、不破郡垂井町、安八郡輪之内町、三重県いなべ市と隣接する。

養老町の地形は、町西部の養老山地、養老山地山麓の砂礫台地及び扇状地、町東部から南部の揖斐川やその支流である牧田川による氾濫平野や三角州、それらの範囲内に点在する自然堤防、旧河道からなる[1)]。なお、氾濫平野は古くから洪水災害に度々見舞われ、水害対策として輪中が築かれた。なお、当遺跡の東側（牧田川の南側と揖斐川の西側）の氾濫平野全体が、複数の小輪中を内包する複合輪中である多芸輪中の範囲である。

当遺跡は、養老山地山麓から西側の氾濫平野に流れ出る谷川により運ばれ堆積した砂礫により形成された扇状地の端部に位置する。このため当遺跡の基盤層には礫が多く含まれる。また、遺跡廃絶後も砂礫の堆積は継続したと考えられ、基盤層に加え、表土や遺物包含層にも礫が多く含まれる。発掘区の標高は、Ａ区北端で6.5m、Ｄ区南端で8.5mを測り、発掘区は北へ向かって傾斜する地形に立地する。発掘調査前の発掘区及びその周辺は住宅地及び畑地として利用されていた。

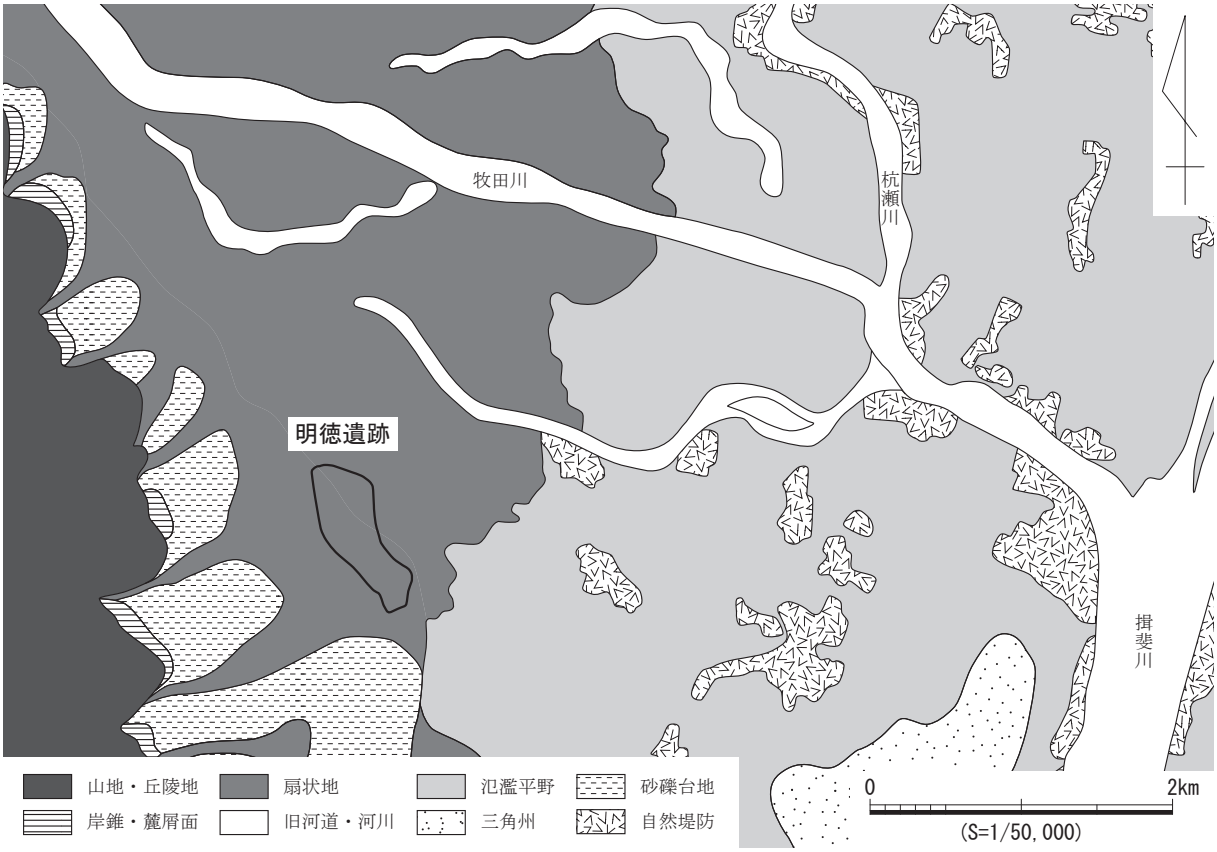


図４　遺跡周辺の地形分類図
（５万分の１都道府県土地分類基本調査　「彦根東部」、「津島」、「桑名」を基に作成）

第２節　歴史的環境

当遺跡は古代律令制における多芸郡[2]に所在する。古代の多芸郡は現在の養老町の大部分、大垣市及び海津市の一部を郡域としたと考えられる[3]。

周辺の遺跡は、主に養老山地山麓の砂礫台地や扇状地、氾濫平野中の自然堤防上に分布する（図５、表２）。図５及び表２は『改訂版岐阜県遺跡地図』を基に、新たな成果を踏まえ作成した。主要な遺跡等について時代ごとに概要を述べる[4]。また、当遺跡周辺には街道が縦横に走り、尾張、伊勢、近江などを結ぶ交通の要衝といえる（図５、表３）[5]。なお、本節初出のみ、遺跡名、街道名に続く括弧内に図５、表２、表３で付した番号若しくは記号を記載した。

旧石器時代　象鼻山古墳群（３）では、石核、ナイフ形石器、台形石器、掻器、彫器、尖頭器、石鏃が出土している。また、京ヶ脇遺跡(30)では、ナイフ形石器若しくはスクレイパーの可能性のあるチャート及びチャート製剥片が出土している。いずれの遺跡でも遺構は確認されていない。

縄文時代　養老町の平野部は、縄文海進により縄文時代には海域であったと考えられ、養老町内で縄文時代の遺跡は確認されていない。なお、象鼻山古墳群では石鏃が出土しているが、遺構は確認されていない。

弥生時代・古墳時代　象鼻山古墳群では、富山大学考古学研究室が平成８～10年度に１号古墳（前方後方墳）、養老町教育委員会が平成16～20年度に３号古墳（上円下方壇）、４号古墳（方墳）、８号古墳（円墳）、平成22年度に12号古墳（方墳）、14号古墳（円墳）、20号古墳（方墳）、36号古墳（方墳）、44号古墳（円墳）、51号古墳（円墳）、53号古墳（円墳）の発掘調査を実施し、同古墳群が弥生時代後期から古墳時代後期にかけての70基からなる墳墓群であることが判明した。また、発掘調査の際に断層崖を確認し、３号古墳及び５号古墳が断層崖に分断されていることから、この断層崖は２世紀中頃に形成されたと考えられる。なお、象鼻山古墳群は町史跡に、出土品は町重要文化財（考古資料）に指定されている。

日吉遺跡（４）では、養老町教育委員会が平成19・20年度に実施した発掘調査で弥生時代後期の竪穴建物、環濠、河道、古墳時代前期の河道などを検出し、土師器、石器、木製品が出土した。弥生時代後期の河道では、川辺に弥生土器が整然と並べられた水辺の祭祀に関連する遺構を確認した。日吉遺跡は象鼻山古墳群の東約1.5kmに近接することから、弥生時代後期に同古墳群築造に関わった集団が営んだ集落と考えられる。また、日吉遺跡に隣接する井ノ下遺跡（７）では、象鼻山１号古墳の築造時期（古墳時代前期前半）と同時期の遺物が採集されており、象鼻山１号古墳築造に関わった集団が営んだ集落と考えられる。

また、養老山地東麓には、坂尻古墳(10)、竜泉寺古墳(13)、喜勢古墳群(17)、柏尾１・２号古墳(20)、千人塚古墳群(24)、白石古墳(25)、京ヶ脇１・２号古墳(31・32)などの古墳が点在する。千人塚古墳群のうち千人塚１号古墳は、養老町教育委員会が令和２年度に実施した発掘調査で葺石、周溝を確認し、円筒埴輪が出土した。発掘調査の成果から千人塚１号古墳は５世紀末から６世紀初頭に築造された全長35mの円墳であることが判明した。他の古墳については発掘調査が実施されていないため詳細は不明であるが、各古墳の立地や墳形から多くは後期古墳と考えられる。坂尻古墳では、大正10(1921)年に人骨５体、剣５振、須恵器多数が発見された。そのうち須恵器２点が町重要文化財（考古資料）

となっている[6]。坂尻古墳の時期は、須恵器から７世紀後半に比定される。

古代　古代には伊勢街道（C）はすでに整備されていたと考えられる。壬申の乱(672年)の際、大海人皇子（後の天武天皇）は吉野（奈良県吉野町）を出立し、桑名郡家（三重県桑名市）から伊勢街道を北上し野上行宮（関ケ原町）に至る。大海人皇子は美濃で兵を整え、兵の一手は伊勢街道から伊勢、伊賀を経由して大和に攻め上った。乱の収束後、大海人皇子は再び伊勢街道を通り畿内に戻り、673年に飛鳥浄御原宮で即位し、天武天皇となった。

元正天皇は、霊亀３(717)年と養老２(718)年の２度、伊勢街道を通り「多度山[7]の美泉」に行幸した。霊亀３年の行幸の際、天皇自身が美泉の効能を実感したことを慶事として、養老に改元した。行幸にちなんだ養老改元が養老町の町名の由来となった。なお、元正天皇行幸遺跡(26)が県史跡に指定されている[8]。

聖武天皇は天平12(740)年、藤原広嗣の乱の最中に美濃に行幸した。この行幸に随従した大友東人が詠んだ歌（万葉集所収）の題詞に「多芸行宮」と記載があることから、天皇は不破頓宮（垂井町）滞在に先立ち、多芸郡に宿泊したと考えられる。戸関遺跡(18)は、伊勢街道に接して東側に位置し、遺跡範囲内には遺跡名称の「戸関」をはじめ、「中門」、「東門」、「南門」といった屋敷等に関連すると考えられる小字名が残る。また、遺跡の範囲内で８世紀中頃から９世紀初頭にかけての遺物が確認されていることから、戸関遺跡が多芸行宮跡である可能性が指摘されている[9]。

養老神社経塚(29)では、昭和37(1962)年、養老神社本殿改築に伴う工事中に常滑産の甕が発見された。この常滑産甕を経筒外容器とし、容器内に銅製経筒１、和鏡３、火打金１、青磁合子１が納められていた。時期は常滑産甕から12世紀末と考えられる。なお、出土品は県重要文化財（考古資料）に指定されている。

中世　養老山地から南宮山にかけての多芸郡には「多芸七坊（たぎしちぼう）」と呼ばれる寺院跡群が残る。多芸七坊は、伊勢街道沿いに集中して所在し、北から別所寺（垂井町）、竜泉寺、光堂寺、柏尾寺、養老寺、光明寺（以上養老町）、藤内寺（海津市）の７か寺で、創建はいずれも古代に遡る天平宝字年間(757～765)と伝わる。各寺に付属する坊は別所寺49坊、竜泉寺24坊、光堂寺24坊、柏尾寺24坊、養老寺12坊、光明寺36坊、藤内寺６坊を数え、中世に隆盛を極めたが、戦国期に兵火によりことごとく焼亡した。このうち、竜泉寺廃寺跡(14)、光堂寺廃寺跡(16)、柏尾廃寺跡(19)は平坦面や礎石などが残存し、柏尾廃寺跡は県史跡に、竜泉寺廃寺跡と光堂寺廃寺跡は町史跡に各々指定されている。なお、応永27(1420)年の古文書に「勢至寺」の記載があり、喜勢遺跡(15)の範囲を含む広大な寺域を有したという。喜勢遺跡の範囲内に光堂寺廃寺跡が所在するため、光堂寺は中世には勢至寺という寺名であった可能性がある。なお、喜勢遺跡の範囲内で古瀬戸の瓶子及び須恵器の提瓶が採集され、古瀬戸瓶子は県重要文化財（工芸品）、須恵器提瓶は町重要文化財（考古資料）に各々指定されている。また、喜勢遺跡内には鉄座が存在し、戦国期に繁栄したという[10]。現在も「鍛冶屋町」の小字名が残り、採集された鉄滓が町重要文化財（考古資料）に指定されている。

城館跡は氾濫平野の自然堤防上及び養老山地東側中腹の尾根上に立地する。宇田城跡（６）及び大墳城跡（９）は河川改修等により現在遺構は確認できない。柏尾城跡(21)は、柏尾廃寺跡の背後の尾根先端部に位置し、北側の緩斜面には畝状空堀群が残存する。なお、明徳遺跡の範囲内に「庄司屋敷」という小字名が残り、小字内に「鷲之巣城跡」の看板が設置されているが、城跡は確認できない[11]。

図５　周辺遺跡位置図

（平成 30 年国土地理院発行 電子地形図 25000「養老」に加筆）

近世　近世には伊勢街道に加え、西濃地域の中核都市・大垣と連絡する多良街道（A）や養老街道（D）、水路若しくは陸路により尾張と連絡する九里半街道（B）、津島街道（E）などが盛行する。なかでも九里半街道は琵琶湖の朝妻湊（滋賀県米原市）と牧田川の川湊、濃州三湊（烏江、栗笠、舟付）を結び、琵琶湖を介して日本海側と太平洋側を結んだ。濃州三湊は太平洋側の物流拠点として栄えた。九里半街道及び養老街道沿いに点在する郷勺遺跡（２）、井ノ下遺跡、高田遺跡(11)、押越遺跡(12)、戸関遺跡で近世の遺物が確認されている。

表２　周辺遺跡等一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	明徳遺跡	散布地・集落跡	弥生・古墳・古代・中世	
2	郷勺遺跡	散布地	古墳・古代・中世・近世	
3	象鼻山古墳群	古墳	旧石器・縄文・弥生・古墳・中世	象鼻山古墳群：町史跡、象鼻山古墳群出土品：町重要文化財（考古資料）
4	日吉遺跡	散布地・集落跡	弥生・古墳	
5	日吉西遺跡	散布地	古墳・古代・中世	
6	宇田城跡	城館跡	中世	
7	井ノ下遺跡	散布地	古墳・古代・中世・近世	
8	枠池遺跡	散布地	中世	
9	大墳城跡	城館跡	中世	
10	坂尻古墳	古墳	古墳	桜井古墳副葬須恵器：町重要文化財（考古資料）
11	高田遺跡	散布地	古代・中世・近世	
12	押越遺跡	散布地	中世・近世	
13	竜泉寺古墳	古墳	古墳	
14	竜泉寺廃寺跡	社寺跡	中世	大威徳山竜泉寺跡：町史跡
15	喜勢遺跡	散布地	古代・中世	古瀬戸：県重要文化財（工芸品）、灰釉長首扁壺・勢至鉄座の鉄滓：町重要文化財（考古資料）
16	光堂寺廃寺跡	社寺跡	中世	勢至山光堂寺跡：町史跡
17	喜勢古墳群	古墳	古墳	
18	戸関遺跡	散布地	古代・中世・近世	
19	柏尾廃寺跡	社寺跡	中世	柏尾廃寺跡：県史跡
20	柏尾１・２号古墳	古墳	古墳	
21	柏尾城跡	城館跡	中世	
22	飯ノ木遺跡	散布地	中世	
23	鷲巣東遺跡	散布地	中世	
24	千人塚古墳群	古墳	古墳	
25	白石古墳	古墳	古墳	
26	元正天皇行幸遺跡	史跡	古代	元正天皇行幸遺跡：県史跡
27	大跡遺跡	散布地	中世	
28	白石道遺跡	散布地	古代	
29	養老神社経塚	その他の遺跡	古代	養老神社経塚出土品：県重要文化財（考古資料）
30	京ヶ脇遺跡	散布地	旧石器	
31	京ヶ脇１号古墳	古墳	古墳	
32	京ヶ脇２号古墳	古墳	古墳	

表３　周辺街道一覧表

記号	街道名	起点(西端)	終点(東端)
A	多良街道	多良(上石津)	大垣城(大垣)
B	九里半街道	朝妻湊(近江)	濃州三湊(烏江・栗笠・舟付)(養老)
C	伊勢街道	関ケ原	桑名(伊勢)
D	養老街道	養老の滝(養老)	塩田橋(大垣)
E	津島街道(今尾街道)	瑞穂(養老)	津島(尾張)　※今尾（海津）経由

注

１）地質・地形に関する記述は、以下の文献を参考とした。
　養老町1978『養老町史』（通史編上巻）
　養老町教育委員会1984『のびゆく養老町』
　養老町教育委員会1989『郷土と治水』
　養老町教育委員会1991『郷土の治水―養老町―』

２）古代には、多伎、当伎、当者、当嗜、多紀とも表記された。斉衡２(855)年に多芸郡の一部を分割し、石津郡が設置された。
３）古代の郡域については、明確に範囲を特定できない。このため近世の多芸郡、石津郡（上石津郡、下石津郡）の郡域について、以下の文献を参考とし、推測した。
三輪晃三2021「GISを用いた近代における岐阜県郡域の復原と変遷」『岐阜県文化財保護センター研究紀要』第６号、岐阜県文化財保護センター
平凡社地方資料センター編1989『岐阜県の地名』（日本歴史地名大系第21巻）、平凡社
４）各遺跡に関する記述は、以下の文献を参考とした。
赤塚次郎1988「東海の前方後方墳」『古代』86号、早稲田大学考古学会
岐阜県教育委員会2002『岐阜県中世城館総合調査報告書』第１集（西濃地区・本巣郡）
岐阜県地方改良協会養老郡支会1925『養老郡志』
東海古墳文化研究会1988「岐阜県西濃地方の前方後方（円）墳の測量調査」『古代』86号、早稲田大学考古学会
養老町1978『養老町史』（通史編上巻）
養老町教育委員会1984『のびゆく養老町』
養老町教育委員会1990『象鼻山古墳群分布確認調査報告書』
養老町教育委員会1992『養老町の文化財』
養老町教育委員会2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第４集）
養老町教育委員会2010『象鼻山古墳群発掘調査報告書―第１～４次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告書第６集）
養老町教育委員会2014『日吉遺跡発掘調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第７集）
養老町教育委員会2015『象鼻山古墳群発掘調査総括報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第９集）
養老町教育委員会2016『竜泉寺廃寺跡測量調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第10集）
養老町教育委員会2020『千人塚１号古墳範囲確認調査現地説明会資料』
養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1997『象鼻山１号古墳―第１次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第１冊）
養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1998『象鼻山１号古墳―第２次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第２冊）
養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1999『象鼻山１号古墳―第３次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第３冊）
５）街道に関する記述は以下の文献を参考とした。
養老町郷土資料館協議会編1995『養老町の古道』、養老町教育委員会
なお、表３において便宜上畿内方面となる街道の西端を起点、東端を終点とした。
６）出土品は「桜井古墳」の名称で文化財指定がなされているが、養老町教育委員会2007において「坂尻古墳」と確認されている。
７）現在は養老山地南端の主峰のみを指して多度山というが、当時、多度山は養老山地全体を指した。
８）歴史的環境に関わる史跡のため、本文、図５、表２に掲載した。
９）養老町教育委員会2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第４集）
10）勢至鉄座に対しては、当地を支配した為政者（大野修理太夫、織田信長、堀秀政、織田信孝、羽柴（豊臣）秀吉、池田恒興）が交代する度に折紙、朱印状、判物を発給し、戦国期に継続して庇護を受けていたことがわかる。
11）周知の埋蔵文化財包蔵地ではない。明徳遺跡の試掘・確認調査（p.１参照）においても鷲之巣城跡に関する遺構、遺物は確認できなかった。

第３章　調査の成果

第１節　基本層序

基本層序は、以下のとおりⅠ層からⅣ層に分層した（図６）。

Ⅰ層　現代耕作土及び近世以降の土石流等による堆積

Ⅰａ層　現代耕作土　10YR3/1 黒褐色土、直径 0.5～５cm の亜角礫を 20～40％含む。

Ｂ区及びＣ区で確認した。層厚は約 0.1m～0.5mである。現代耕作土と考えられる。土器片及び陶磁器片をわずかに含む。

Ⅰｂ層　土石流堆積土　2.5Y7/4 浅黄色土～2.5Y4/1 黄灰色土、直径 0.5～15cm の亜角礫を３～60％含む（Ａ区、Ｂ区、Ｄ区）、10YR6/4 にぶい黄橙色土～10YR3/2 黒褐色土、直径 0.5～10cm の亜角礫を５～50％含む（Ｂ区、Ｃ区、Ｄ区）。

発掘区全域で確認した。層厚は約 0.8m～2.1mである。近世以降の土石流に伴う堆積と考えられる。土器片や陶器片をわずかに含む。

Ⅱ層　土石流堆積土　10YR5/4 黄褐色土～2.5Y4/1 黄灰色土、直径 0.5～10cm の亜角礫を５～30％含む。

発掘区全域で確認した。層厚は約 0.25m～0.6mである。近世以前の土石流等に伴う堆積と考えられる。土器片や陶器片をわずかに含む。

Ⅲ層　遺物包含層　10YR3/2 黒褐色土若しくは 2.5Y3/1 黒褐色土、直径 0.5～15cm の亜角礫を 10～30％含む

発掘区全域で確認した。層厚は約 0.15m～0.5mである。10～30％の亜角礫を含むことからⅠ層、Ⅱ層と同様、土石流等に由来する堆積と考えられる。大量の土師器を包含し、灰釉陶器、石器、金属製品をわずかに含む

Ⅳ層　基盤層　扇状地堆積土　10YR6/3 にぶい黄橙色土、10YR4/3 にぶい黄褐色土、2.5Y6/4 にぶい黄色土～2.5Y3/1 黒褐色土、直径 0.5～15cm の亜角礫を５～40％含む。

発掘区全域で確認した。養老山地西麓から当遺跡西側に広がる氾濫平野に流れ出る谷川により運ばれた砂礫により形成された扇状地堆積土である。Ⅳ層上面で遺構を確認した。無遺物層。

調査前の発掘区の標高は 6.5m（Ａ区）～8.5m（Ｄ区）で、南から北（Ｄ区からＡ区）へ向かって緩やかに傾斜する。また、発掘区の遺構検出面の平均標高は 4.5m（Ａ区）～6.6m（Ｄ区）で、遺構検出面における旧地形が現況の地形に反映しているものと考えられる。

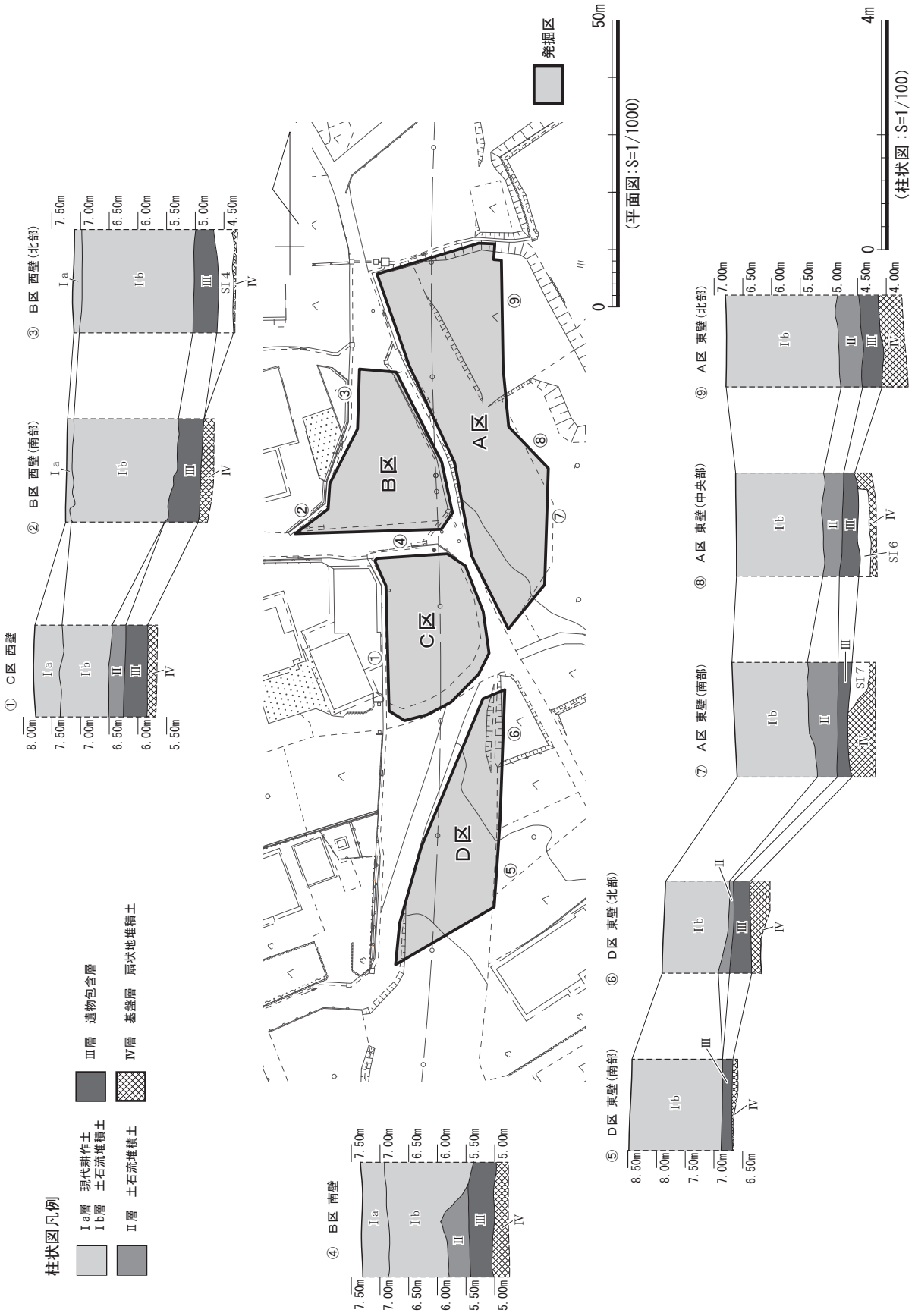

柱状図凡例
Ⅰa層 現代耕作土
Ⅰb層 土石流堆積土
Ⅱ層 土石流堆積土
Ⅲ層 遺物包含層
Ⅳ層 基盤層 扇状地堆積土
① C区 西壁
② B区 西壁（南部）
③ B区 西壁（北部）
④ B区 南壁
⑤ D区 東壁（南部）
⑥ D区 東壁（北部）
⑦ A区 東壁（南部）
⑧ A区 東壁（中央部）
⑨ A区 東壁（北部）
SI 4
SI 6
SI 7
A区
B区
C区
D区
発掘区
0 50m
（平面図：S=1/1000）
0 4m
（柱状図：S=1/100）

図６　土層柱状図

第２節　遺構概要

１　遺構概要

（１）概要

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期に及ぶ遺構を検出した。検出した遺構数は表４のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、埋土の類似性などから判断した。

本報告書では、これらの遺構のうち、遺跡の性格を反映する竪穴建物や掘立柱建物、柵は可能な限りの遺構を報告した。溝や土坑などは検出数が多いため、遺跡の性格を検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構、出土例の少ない遺物が出土した遺構などを抽出して報告した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

（２）分類

今回検出した遺構は、形状と規模、構造から以下の要件に基づき分類し、種別ごとに原則として北東から順に略号とともに種別ごとの通し番号を付し、遺構番号とした。

竪穴建物（SI）　竪穴状に掘り込まれた掘方のうち、上屋を支えるための柱穴が竪穴の内外で確認できるもの。ただし、明確な柱穴が確認できない場合も壁際溝などの付属遺構から竪穴建物に分類した場合がある。通常、竪穴建物を構成する要素は柱穴、土坑、カマド、炉、壁際溝、貯蔵穴などがあげられるが、当遺跡では一部が発掘区外に続く建物も多く、カマド、炉、貯蔵穴は確認できなかった。壁際溝は「壁際溝」とし、複数存在する場合は番号を付した。建物を構成する柱穴及び土坑は、「遺構番号ーP●」と記載した。

掘立柱建物（SB）　規則的に並んだ複数の柱穴によって構成された柱列が向かい合って２辺以上確認でき、上屋構造を有すると推定できるもの。また、建物を構成する柱穴は、「遺構番号ーP●」と記載した。

柵（SA）　建物を構成せず、土地の境界・区画などを仕切るように、直線的に並んだ複数の柱穴若しくは杭跡によって構成されたもの。また、柵を構成する柱穴、杭跡は、「遺構番号ーP●」と記載した。

柱穴（SP）　柱痕跡、礎盤等の出土、断面形状等から柱や杭の存在が想定できることから、柱穴と考えられるが、規則的な配列が確認できず、掘立柱建物や柵として認定できなかったもの。

溝（SD）　人為的に細長く掘り込まれた掘方で、流水の痕跡が確認できる、若しくは区画等の用途が想定できるもの。

土坑（SK）　上記以外の人為的に掘り込まれたもの。

遺物集積（SU）　掘込みを伴わず、遺物が集積あるいは意図的に配置された状態で出土したもの。

表４　検出遺構一覧表

地区	SI	SI 付属	SB	SB 付属	SA	SA 付属	SP	SD	SK	SU	合計
A	8	25	2	10	2	7	0	8	79	1	142
B	2	4	0	0	0	0	3	0	23	1	33
C	1	1	0	0	1	3	0	0	32	1	39
D	2	3	1	6	3	10	1	2	60	1	89
合計	13	33	3	16	6	20	4	10	194	4	303

（３）遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

遺構番号　遺構番号は全遺構に報告順で種別ごとに付した通し番号を記載した。

時期　出土遺物や遺構重複等により時期の判断が可能であった遺構についてのみ記載した。

地区割　第２章第２節で示したグリッド名を記載した。

検出面　第３章第１節で示した基本層序の層位名を記載した。なお、全ての遺構はⅣ層上面で検出した。

堆積状況　遺構の種別ごとに図７のとおり分類し、記載した。

断面形状・平面形状・底面形状　遺構の種別ごとに図７のとおり分類し、記載した。

規模　数値の単位はmで記載した。なお、()で囲んだ数値は残存値を記載した。

重複関係　当該遺構と重複する遺構について、当該遺構より新しい（「新」）若しくは古い（「旧」）遺構の遺構番号を記載した。

出土遺物　出土遺物の破片数を種別（土師器：H、須恵器：P、灰釉陶器：K、中近世陶磁器：T、石器・石製品：S、金属製品：I）ごとに記載した。

挿図　本報告書中の挿図番号を記載した。

図版　本報告書中の図版番号を記載した。

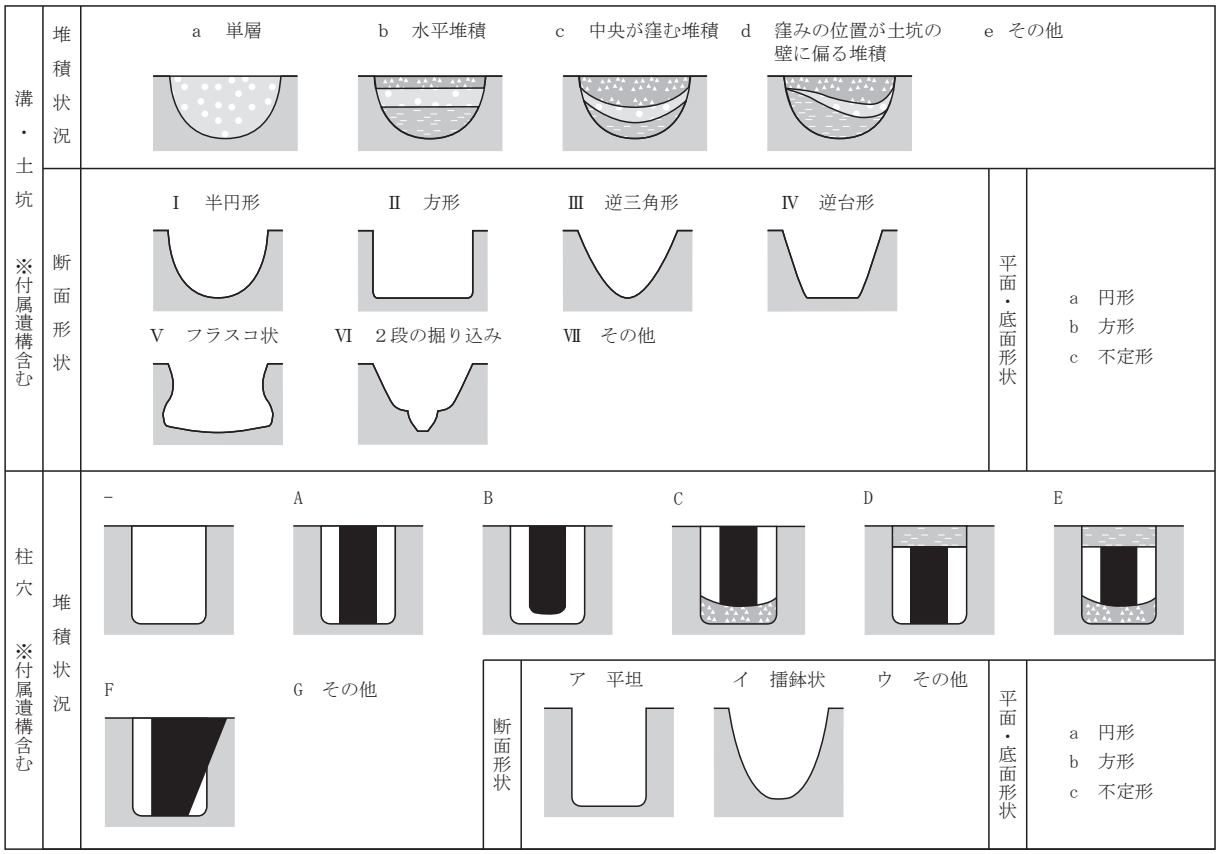


図７　遺構分類模式図

第３節　遺物概要

今回の調査では、土師器（弥生土器含む）、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、石器・石製品、金属製品が出土した。それらの出土数は表５のとおりで、土師器の出土数が非常に多い。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

１　分類

出土遺物の器種分類や編年観及び年代観については、原則として既存の研究を参考とした[1)]。

土師器　弥生土器と土師器の分類は、土器片の場合困難であることから、両者の区別は行わず、弥生時代後期から古墳時代にかけて製作された素焼き製品をすべて土師器とした。ただし、実測遺物で弥生土器と判断できたものについては、本文及び遺物観察表において弥生土器と記載した。器種は弥生時代後期から古墳時代の甕、高坏、器台、壺、鉢が出土している。山中Ⅰ式２段階から廻間Ⅲ式までが確認できる。このうち、く字状口縁台付甕は「く字甕」、Ｓ字状口縁台付甕は「Ｓ字甕」、受口系口縁甕は「受口系甕」、パレススタイル壺は「パレス壺」と略し、記載した。

須恵器　猿投窯産黒笹90号窯式期の甕、美濃須衛窯産Ⅳ期第１小期からＶ期第１小期までの蓋坏、長頸瓶が出土している。

灰釉陶器　猿投窯産黒笹90号窯式期から折戸53号窯式期までの碗、皿、耳皿、小瓶が出土している。

中近世陶磁器　山茶碗、大窯製品、常滑産陶器、近世陶磁器が出土している。

石器・石製品　ＲＦ１点、磨製石斧１点、五輪塔１点、砥石４点が出土している。

金属製品　刀子、鉄鏃各１点が出土している。この他に器種を特定できない鉄製品１点が出土している。

２　遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、主な項目の内容は次のとおりである。

遺構名・グリッド　遺構番号を記載した。遺構以外から出土した遺物のうち、出土位置が明らかなものは、グリッド名を記載した。

表５　出土遺物点数一覧表

種別／破片数等	土師器（弥生土器含む）	須恵器	灰釉陶器	中近世陶磁器	土器類合計	石器・石製品	金属製品	合計
接合前破片数	25,052	70	49	19	25,190	7	3	25,200
接合後破片数	20,980	63	45	19	21,107	7	3	21,117

層位　基本層序Ⅰ～Ⅲ層から出土した遺物は、層位名を記載した。また、遺構出土遺物の場合、土層分層前は埋土を深さ約５㎝ごとに区切り、上層から順に「ａ・ｂ・ｃ…」の順に記載し、土層分層後はその土層番号（１・２・３…）を記載した。

種別・器種・産地　土器は種別と器種名、産地について順に記載した。ただし、それらのうち不明のものについては「－」と記載した。石製品は器種と石材を、金属製品は器種と素材をそれぞれ記載した。

口径等　土器の（　）で示した値は口径及び底径は復元径を、器高は残存高を記載した。

長さ等　石製品及び金属製品の（　）で示した値は残存長を記載した。

口縁部残存率　宇野隆夫氏の論考を参考とし[2]、弥生土器及び土師器の口縁部残存率を示した。12分の１未満の破片は12分の１に切り上げ、12分の１以上の破片は小数点以下第１位まで計測し、記載した。

胎土　含有物は肉眼観察による。混和材の量により、「粗」、「やや粗」、「密」に分け、記載した。

器面調整・文様　内面と外面の調整について、内面/外面の順に記載した。

注

１）出土遺物の器種分類や編年観及び年代観は以下の文献を参考とした。この他に参考とした文献は巻末に一括して記載した。なお、土師器については早野浩二氏の指導を得たが、最終的な判断は執筆担当者が行った。

愛知県史編さん委員会2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』、愛知県

赤塚次郎編2002『考古資料大観　第２巻　弥生：古墳時代　土器Ⅱ』、小学館

各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第４号）

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）

財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2002『八王子遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1992『山中遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1997『西上免遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集）

養老町教育委員会2014『日吉遺跡発掘調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第７集）

２）宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 40 集、国立歴史民俗博物館

第４節　遺構・遺物

１　竪穴建物

SI１（図８～10）

検出状況　Ａ区AB４～AC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の北側及び東側が発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はＮ－45°－Ｗである。SK196と重複する。本遺構はSK196より古い。

埋土　SK196との重複により北側の埋土は消失し、南側のみで確認した。埋土は単層（１層）で、ほぼ水平に堆積する。

壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（４層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は南側ではほぼ平坦であるが、北側ではSK196との重複により北に向かって下がる。床面で土坑１基(Ｐ１)と壁際溝１条、整地土除去後の掘方底面で柱穴１基(Ｐ２)を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。Ｐ２は掘方底面での検出であるが、建物内の位置から主柱穴の可能性がある。柱穴埋土と整地土が類似することから床面検出時に確認できなかった。

遺物出土状況　埋土から土師器80点、壁際溝から土師器25点(掲載番号１を含む、以下括弧内は掲載番号のみを記載)、Ｐ１から土師器１点、整地土から土師器98点(２～６)が散在して出土した。大量の土師器が出土したSK196と重複するため、厳密には遺物を遺構単位で取上げられなかった可能性がある。

出土遺物　弥生土器２点(２、４)と土師器４点（１、３、５、６）を図示した。２は山中Ⅱ式、４は山中Ⅰ式２段階の高坏である。１は廻間Ⅱ式２段階のＳ字甕Ｂ類である。３は高坏若しくは器台、５は有孔鉢、６は廻間Ⅰ式のく字甕である。

時期　埋土から１が出土しているが、SK196との重複関係から、本遺構は２世紀中葉から３世紀中葉と考えられる。

SI２（図11・12）

検出状況　Ａ区AC４～AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はＮ－66°－Ｗである。SK８～SK10、SK13、SK15～SK20と重複する。本遺構はSK８、SK９、SK13、SK15、SK16、SK20より古く、SK10、SK17～SK19より新しい。

埋土　遺構の重複のため埋土は南西側のみで確認した。埋土は２層（１・２層）に分層し、概ね水平に堆積する。

壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（５層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。整地土除去後の掘方底面で柱穴４基(Ｐ１～４)を検出した。Ｐ３は堆積状況及び断面形状から、柱穴を掘り直した可能性がある。Ｐ１～Ｐ４は掘方底面での検出であるが、各柱穴の位置やＰ１底面で礎盤石を確認したことから主柱穴と考えられる。柱穴埋土と整地層が類似することから床面検出時に確認できなかった。

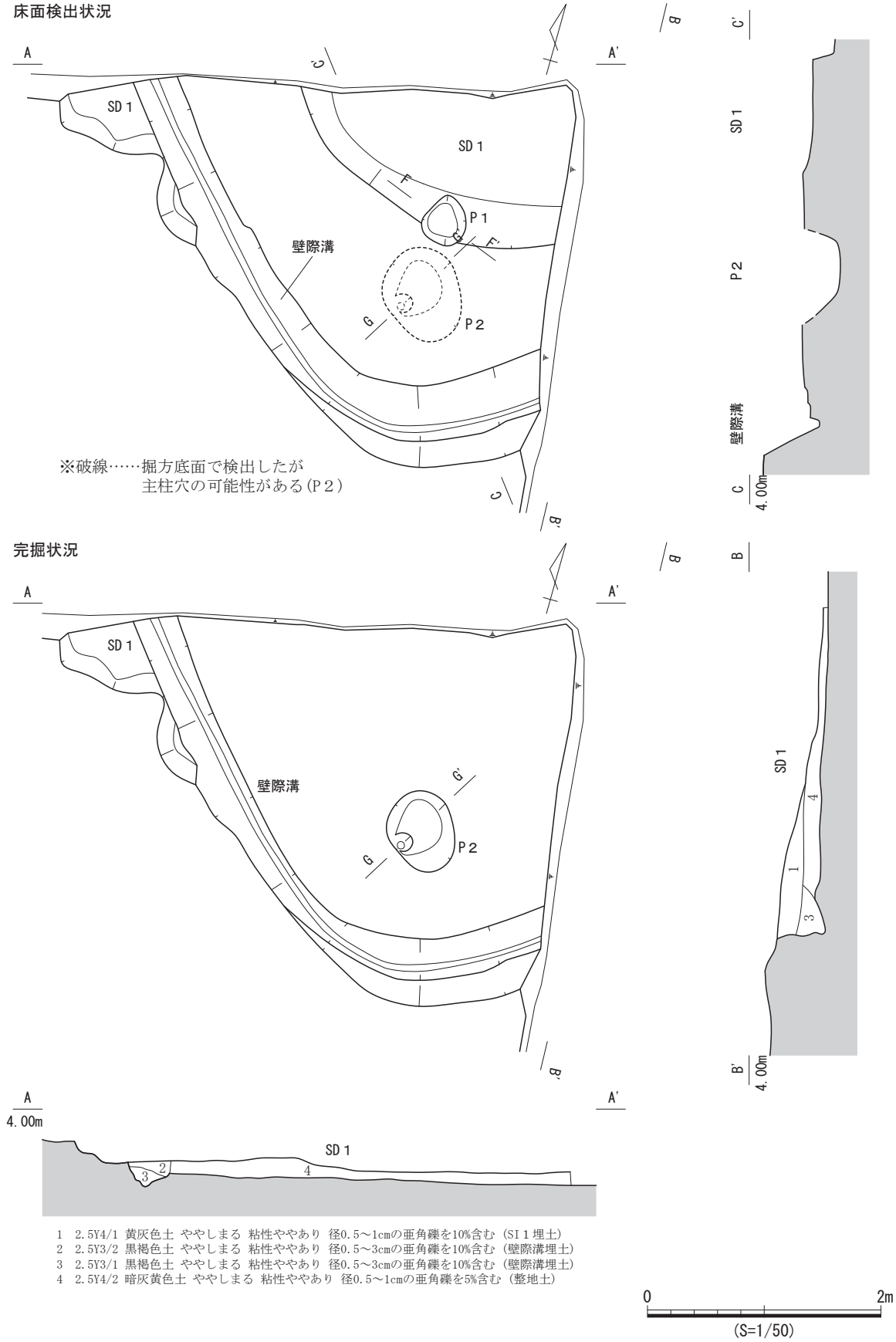
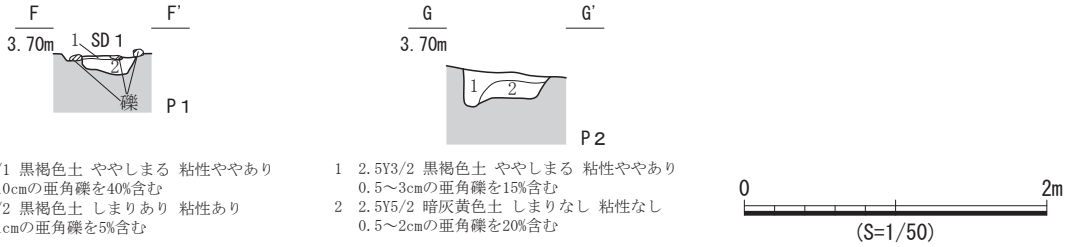

床面検出状況
A
A'
B
B'
C
C'
SD１
P１
P２
壁際溝
F
F'
G
※破線……掘方底面で検出したが
主柱穴の可能性がある(Ｐ２)
完掘状況
G'
4.00m
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を10%含む（SI１埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
3　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を5%含む（整地土）
0
2m
(S=1/50)

図８　SI１遺構図（１）



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～10cmの亜角礫を40%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 しまりあり 粘性あり
　0.5～1cmの亜角礫を5%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を15%含む
2　2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性なし
　0.5～2cmの亜角礫を20%含む

図９　SI１遺構図（２）

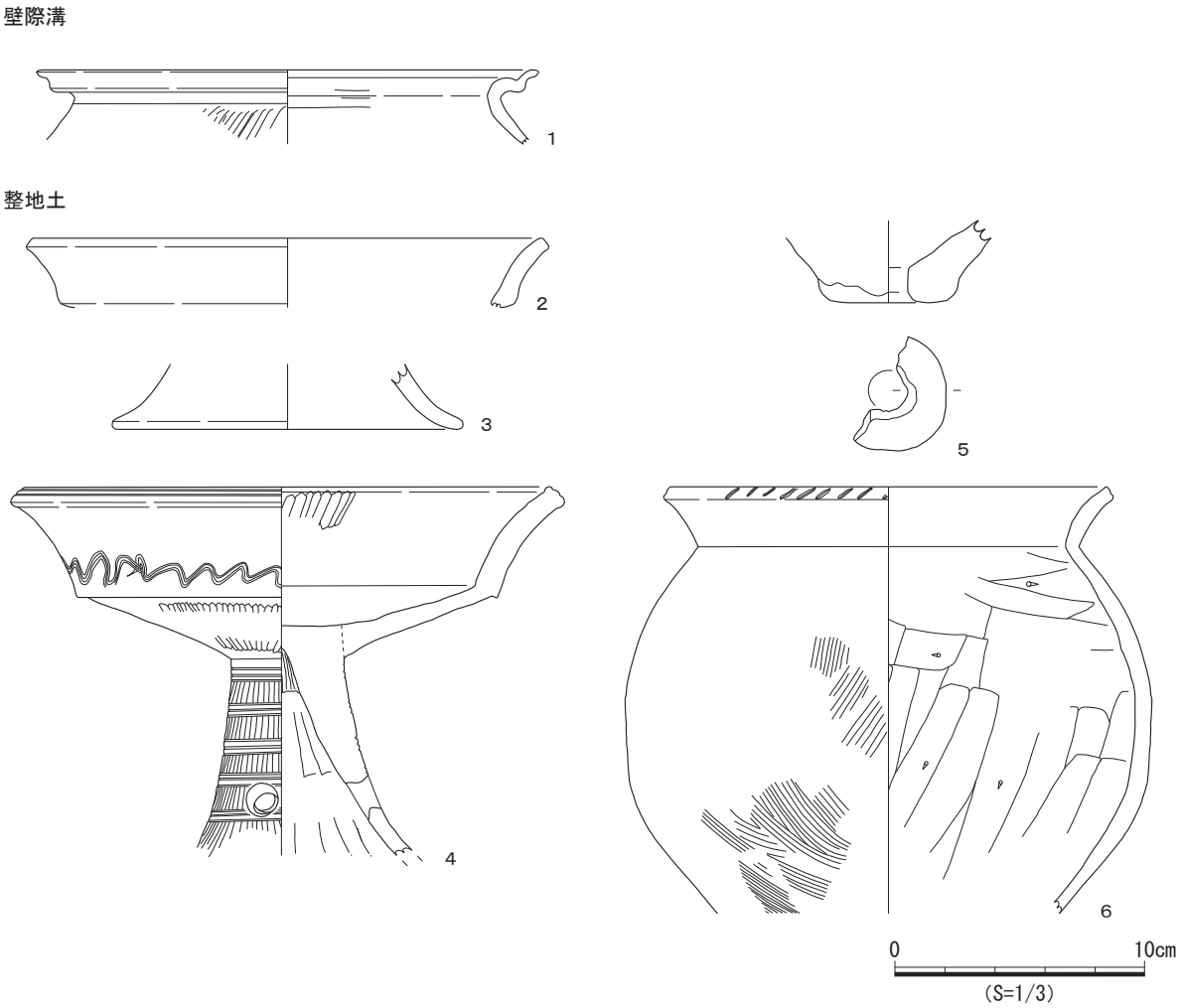


図 10　SI１出土遺物実測図

遺物出土状況　埋土から土師器55点、砥石１点（７）、壁際溝から土師器５点、Ｐ２から土師器１点、整地土から土師器12点が散在して出土した。

出土遺物　砥石１点を図示した。７は砂岩の砥石である。

時期　当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

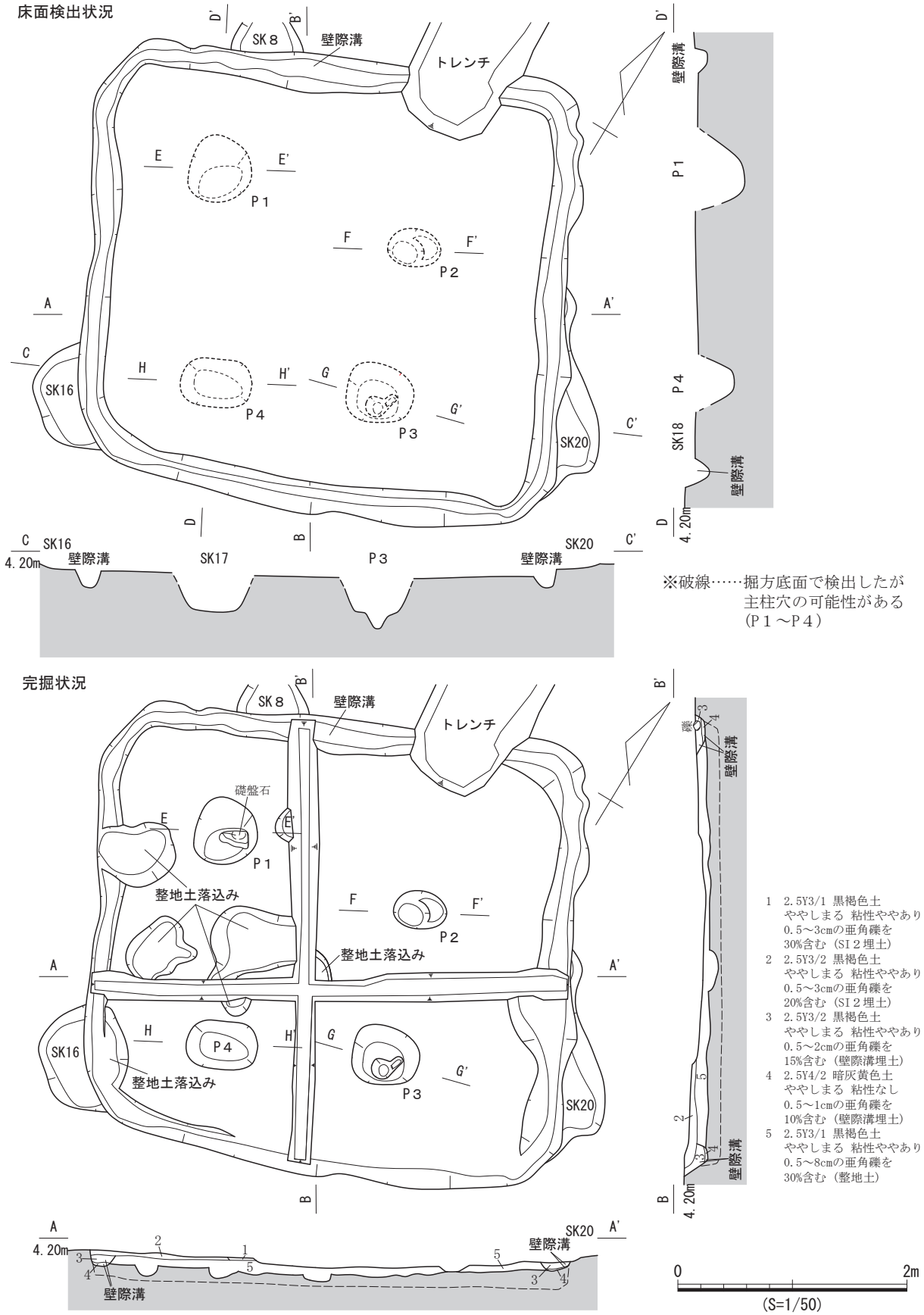
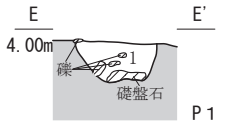
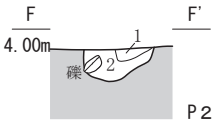

床面検出状況
SK８
壁際溝
トレンチ
P１
P２
P３
P４
SK16
SK17
SK18
SK20
4.20m
※破線……掘方底面で検出したが
主柱穴の可能性がある
（P１～P４）
完掘状況
礎盤石
整地土落込み
1　2.5Y3/1 黒褐色土
ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を
30%含む（SI２埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土
ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を
20%含む（SI２埋土）
3　2.5Y3/2 黒褐色土
ややしまる 粘性ややあり
0.5～2cmの亜角礫を
15%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y4/2 暗灰黄色土
ややしまる 粘性なし
0.5～1cmの亜角礫を
10%含む（壁際溝埋土）
5　2.5Y3/1 黒褐色土
ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を
30%含む（整地土）
0
2m
(S=1/50)

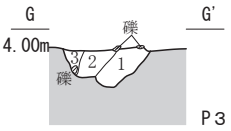
図 11　SI２遺構図（１）



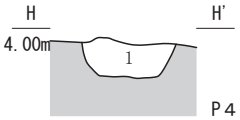
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～10cmの亜角礫を40%含む
　2.5Y3/1 黒褐色土のブロックを10%含む



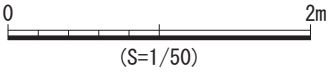
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を15%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～10cmの亜角礫を30%含む



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～8cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を20%含む
3　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を10%含む



1　2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を20%含む
　2.5Y3/2 黒褐色土のブロックを10%含む



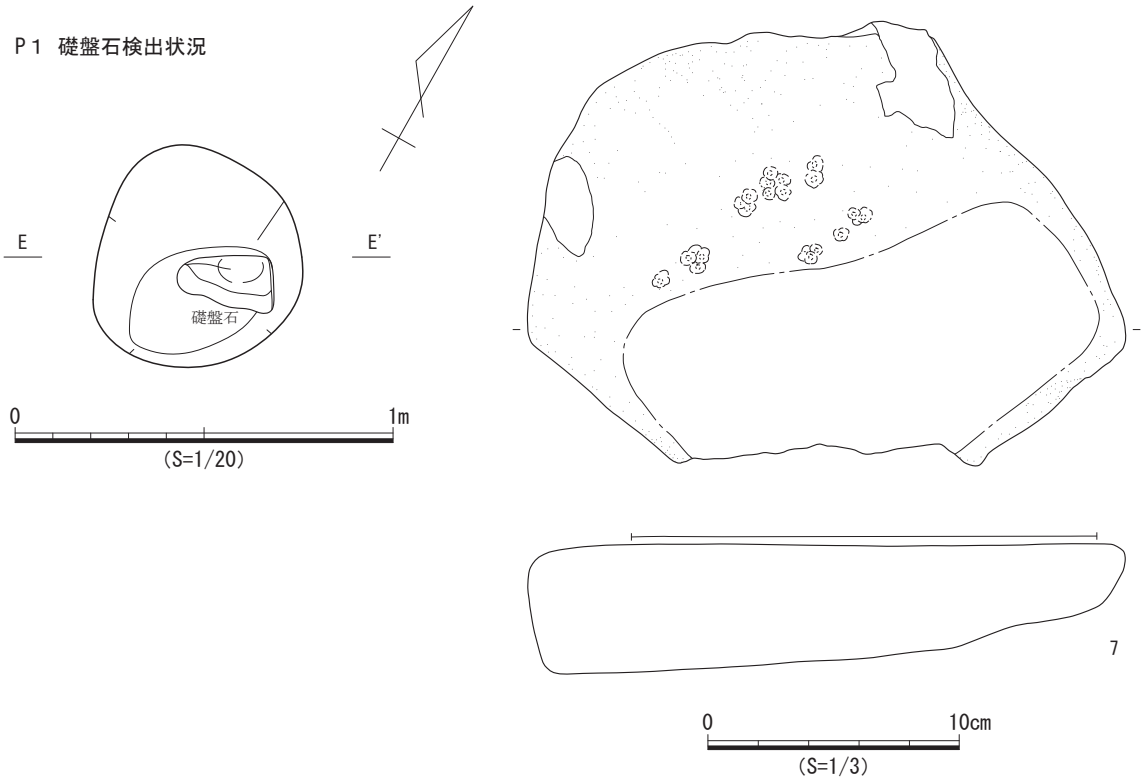


図 12　SI２遺構図（２）・出土遺物実測図

SI３（図13・14）

検出状況　Ａ区AD５～AE５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の東側が攪乱坑により消失し、全容は不明である。湧水が激しく、排水の目的もかねて十字にトレンチを設定し、基盤層まで断ち割った。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はＮ－30°－Ｅである。SD２、SK24と重複する。本遺構はSD２より古く、SK24より新しい。

埋土　攪乱坑との重複により東側の埋土は消失し、東側以外で埋土を確認した。埋土は３層に分層した。１層は概ね水平に堆積し、２層は壁面の立ち上り部分に堆積し、３層は遺構東端部の床面上に薄く堆積する。

壁面　北側の壁面はSD２との重複により消失するが、西側及び南側の壁面は垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（５層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で柱穴２基（Ｐ１・Ｐ２）、壁際溝１条を検出した。Ｐ１とＰ２は、建物内の位置、断面形状から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器300点（８～20）が出土した。このうち18～20は床面直上から出土した。整地土から土師器57点（21～23）、トレンチ等から土師器３点が散在して出土した。

出土遺物　弥生土器１点（22）、土師器16点（８～21、23）を図示した。８は廻間Ⅰ式の高坏、９は廻間Ⅰ式からⅡ式の壺、10は廻間Ⅱ式1段階の広口壺で、柳ケ坪型壺の祖型と考えられる。11、12は廻間Ⅰ式の受口系甕、13～17は廻間Ⅱ式３段階のＳ字甕Ｂ類である。18は高坏、19は廻間Ⅰ式～Ⅱ式の西濃型高坏、20は廻間Ⅰ式の内湾壺である。21は有段高坏、22は山中Ⅰ式～Ⅱ式の高坏若しくは器台、23は廻間Ⅰ式のく字甕である。

時期　SD２との重複関係と図示した20、23から、本遺構は２世紀中葉から３世紀中葉と考えられる。

SI４（図15）

検出状況　Ｂ区AF２～AG３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の南側の一部のみを検出し、建物の大半は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は不明である。長軸方位はＮ－28°－Ｗである。SK31～SK33と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

埋土　埋土は２層に分層した。概ね水平に堆積する。

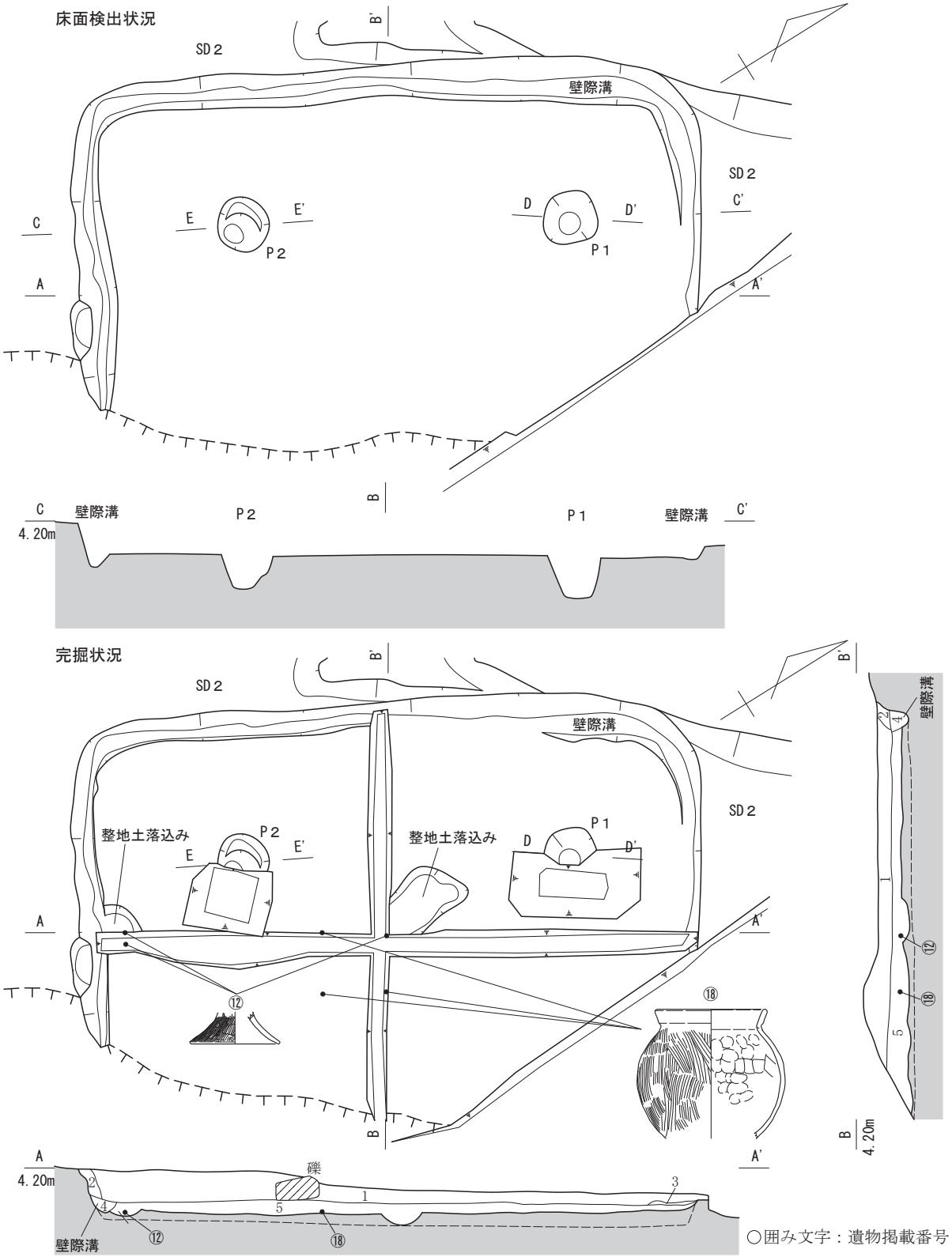
壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（５層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は壁面に沿って直線的に延びる。整地土除去後の掘方底面で柱穴１基（Ｐ１）を検出した。建物の隅部が発掘区外となるため、Ｐ１の建物内での位置は不明であるが、壁際溝との距離から推測すると主柱穴の可能性がある。柱穴埋土と整地土が類似することから床面検出時に確認できなかった。

遺物出土状況　埋土から土師器26点、整地土から土師器７点、層位不明の土師器１点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物がなかった。

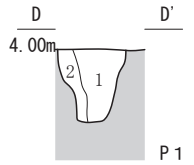
時期　SK31との重複関係と当遺跡出土の土師器が廻間Ⅲ式１段階までに限られることから、本遺構は２世紀中葉から３世紀中葉と考えられる。



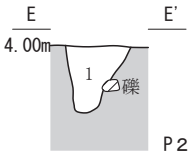
1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を30%含む（SI３埋土）
2　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を30%含む（SI３埋土）
3　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む（SI３埋土）
4　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
5　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を20%含む（整地土）

0　2m
(S=1/50)

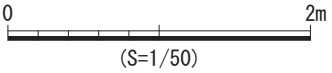
図 13　SI３遺構図（１）



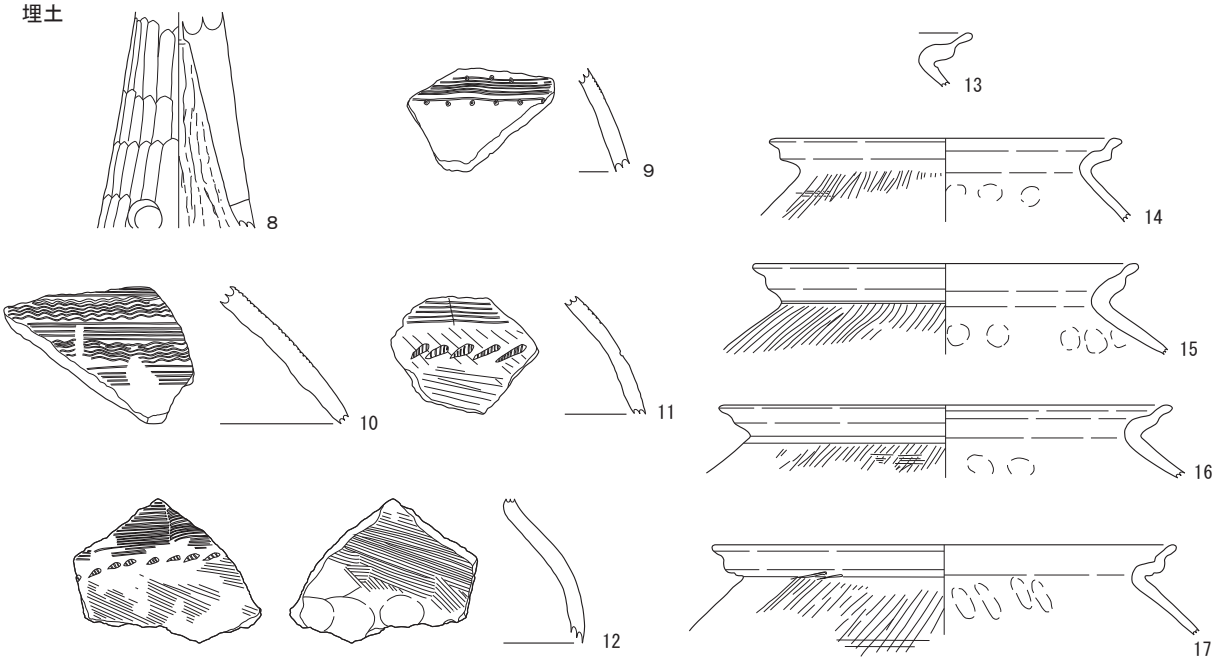
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を30%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む



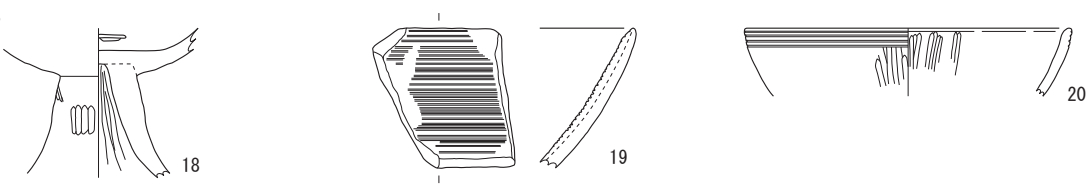
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を15%含む



埋土



床面直上



整地土

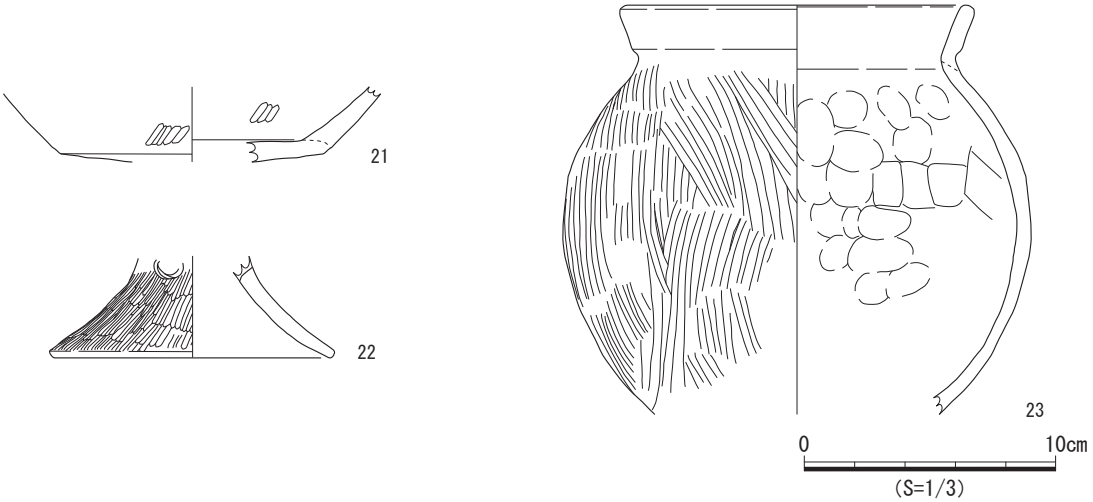
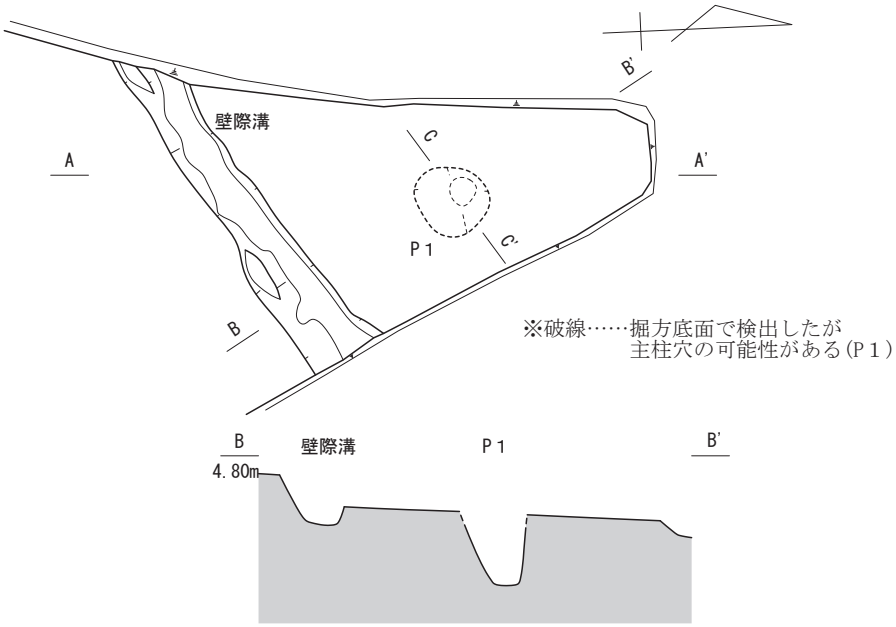
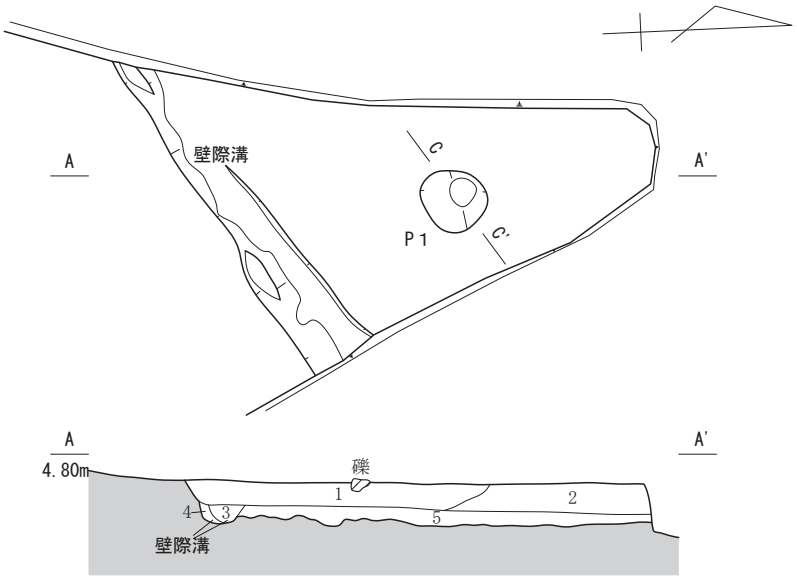


図 14　SI３遺構図（２）・出土遺物実測図

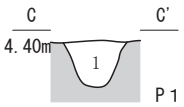
床面検出状況



完掘状況



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を30%含む（SI４埋土）
2　2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～10cmの亜角礫を30%含む（SI４埋土）
3　2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
　2.5Y5/3 黄褐色土のブロックを20%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を30%含む（壁際溝埋土）
5　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を15%含む（整地土）



1　2.5Y3/2 黒褐色粘土 ややしまる
　0.5～3cmの亜角礫を5%含む

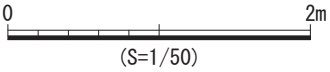
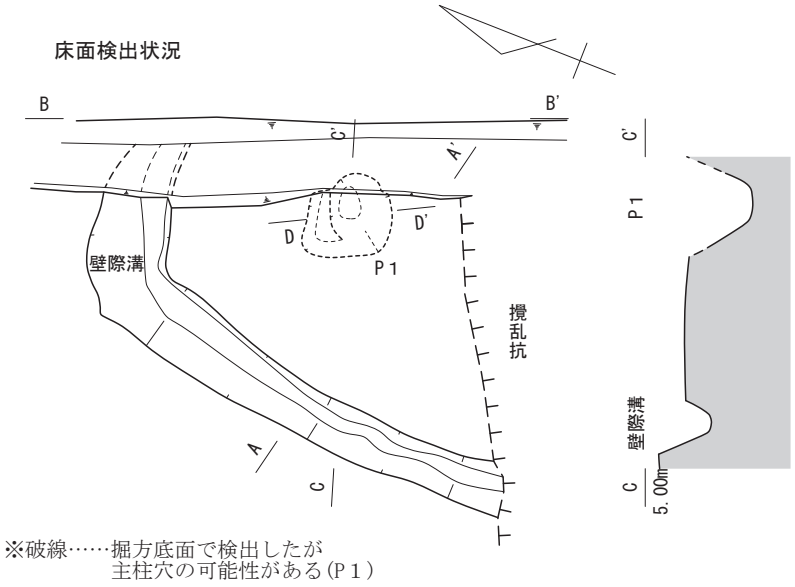
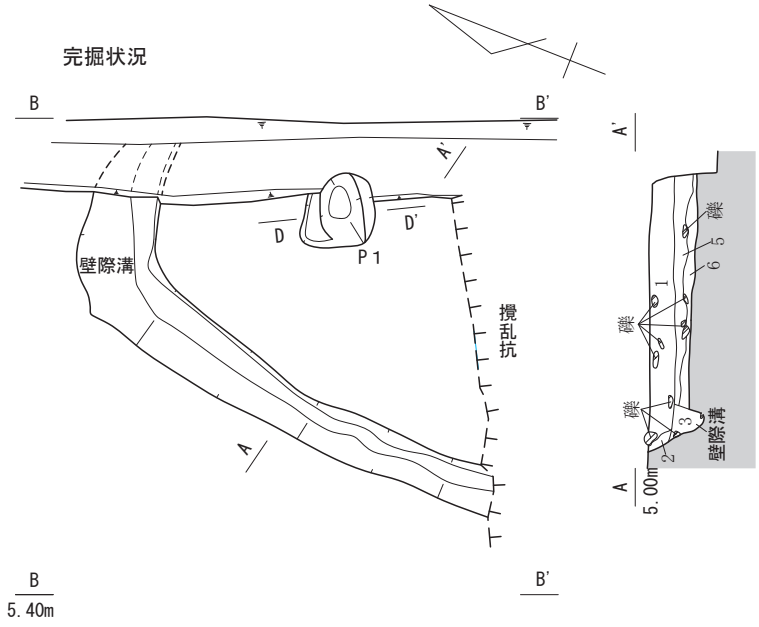
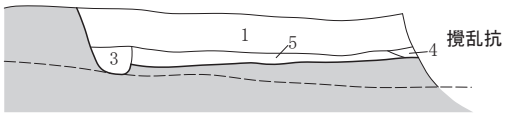


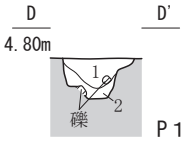
図 15　SI４遺構図







1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を30%含む（SI５埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（SI５埋土）
3　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を7%含む（整地土）
5　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を10%含む（整地土）
6　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を7%含む（整地土）



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を5%含む
2　2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性なし
　0.5～5cmの亜角礫を20%含む

0　2m
(S=1/50)

図 16　SI５遺構図

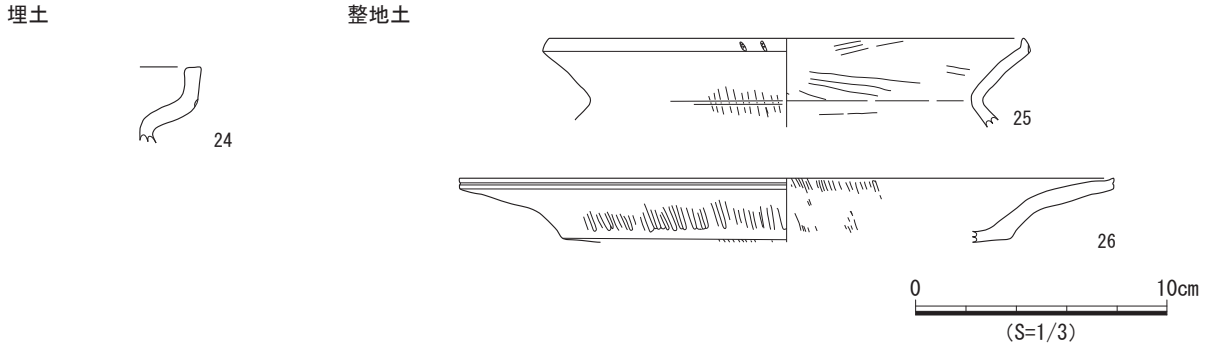


図 17　SI５出土遺物実測図

SI５（図16・17）

検出状況　Ｂ区AH３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の西側及び北側の一部のみを検出した。建物の南側は攪乱坑により消失し、建物の東側は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は隅丸方形と考えられる。長軸方位はＮ－４°－Ｅである。SK37、SK39、SK44、SK46と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

埋土　埋土は２層に分層した。１層は概ね水平に堆積し、２層は壁面の立ち上り部分に堆積する。

壁面　壁面は直線的にやや開き、立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（４～６層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は壁面に沿って直線的に延びる。整地土除去後の掘方底面で柱穴１基(Ｐ１)を検出した。Ｐ１は建物内の位置から主柱穴の可能性がある。柱穴埋土と整地土が類似することから床面検出時に確認できなかった。

遺物出土状況　埋土から土師器44点(24)、整地土から土師器22点（25、26）が散在して出土した。

出土遺物　弥生土器２点(25、26)、土師器１点(24)を図示した。25は山中Ⅱ式の受口系甕である。26は山中Ⅱ式１段階の高坏である。24は山中Ⅱ式から廻間Ⅰ式２段階の受口系甕である。

時期　SK37との重複関係と図示した24から、本遺構は２世紀前葉から末と考えられる。

SI６（図18・19）

検出状況　Ａ区AH６～AI７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の北側は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は方形と考えられる。長軸方位はＮ－43°－Ｗである。SK48、SK51と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

埋土　埋土は単層であった。概ね水平に堆積する。

壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（４層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は壁面に沿って、西側及び南側を巡るが、南側の中央部付近で途切れる。

遺物出土状況　埋土と壁際溝は各々分層したが、お互いに接合する土器片が多かったため、まとめて取り扱うこととした。埋土及び壁際溝から土師器442点(27～42)が出土した。このうち、壁際溝の底面

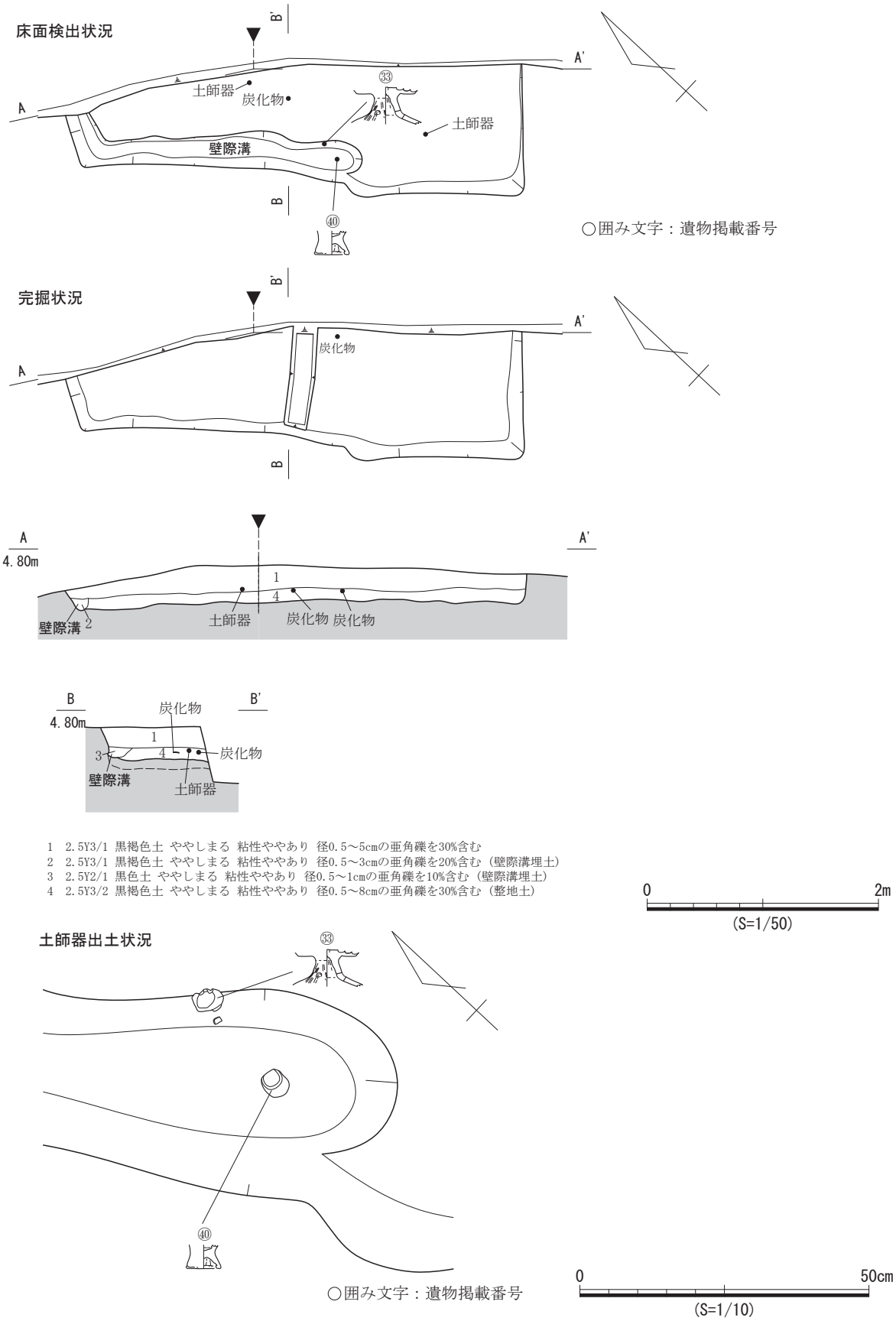

床面検出状況
B'
A'
A
土師器
炭化物
㉝
土師器
壁際溝
B
㊵
○囲み文字：遺物掲載番号
完掘状況
B'
A'
A
炭化物
B
A
4.80m
A'
1
4
壁際溝
2
土師器
炭化物
炭化物
B
4.80m
B'
炭化物
1
3
4
炭化物
壁際溝
土師器
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を30%含む
2　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む（壁際溝埋土）
3　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を30%含む（整地土）
0
2m
(S=1/50)
土師器出土状況
㉝
㊵
○囲み文字：遺物掲載番号
0
50cm
(S=1/10)

図 18　SI６遺構図

埋土・壁際溝(27～42)

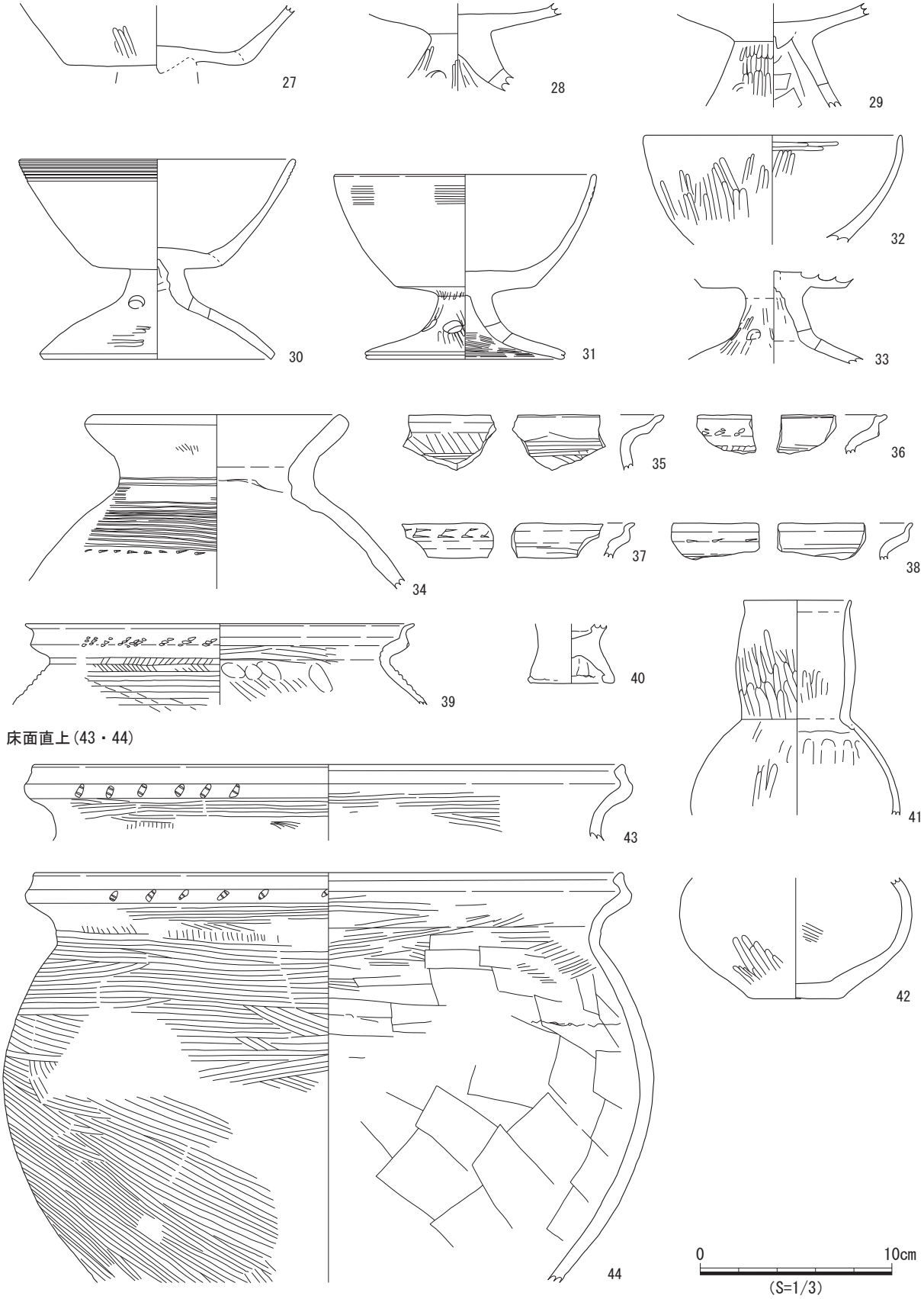


図 19　SI６出土遺物実測図

からミニチュア台付甕(40)が逆位で、壁面から有段高坏(33)が正位で出土し（図18)、床面直上から甕（43、44）が出土した。また、整地土から土師器169点が散在して出土した。

出土遺物　土師器18点を図示した。27～29は有段高坏、30、31、33は有稜高坏、32は椀形高坏で、いずれも廻間Ⅰ式３段階である。34は廻間Ⅰ式の広口壺、35は廻間Ⅰ式４段階の受口系甕、36～39は廻間Ⅰ式２段階のＳ字甕Ａ類である。40はミニチュア台付甕の脚部である。41は廻間Ⅰ式４段階、42は廻間Ⅰ式の内湾壺である。43と44は廻間Ⅱ式１段階の受口系甕で、層位不明の443（図96）も含め、いずれも同一個体と考えられる。

時期　図示した43と44から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SI７（図20・21）

検出状況　Ａ区AJ７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。北西側のみを検出した。ほとんどが発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は方形と考えられる。長軸方位はＮ－26°－Ｗである。SI８、SB１-Ｐ４、SB１-Ｐ５、SK65と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。なお、整地土（６層）の下面で壁際溝②（７層）及び整地土（８層）を検出したことから、１回の建替えが想定され、建替え後（上面）及び建替え前（下面）として記述する。

埋土　上面の埋土は３層に分層した。壁面付近から先に堆積（３層）し、徐々に中央部に堆積（２層、１層）する。下面の埋土は単層で、上面建物構築時の整地土（６層）である。下面埋土上面が上面の床面となる。

壁面　上面、下面とも、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　上面の床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（６層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で土坑１基(Ｐ１)、壁際溝１条(壁際溝①)を検出した。壁際溝①は壁面に沿って巡る。下面の床面でも貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（８層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦であるが、北側に段差が確認できる。床面で壁際溝１条(壁際溝②)を検出した。壁際溝②は壁際溝①と同様に壁面に沿って巡る。

遺物出土状況　上面埋土中から土師器102点(45～48)、壁際溝①から土師器10点(49)、Ｐ１から土師器１点、下面埋土（上面整地土）中から土師器75点(51～53)、壁際溝②から土師器28点(50)、下面整地土から土師器25点、トレンチ（層位不明）から土師器30点(54、55)が散在して出土した。

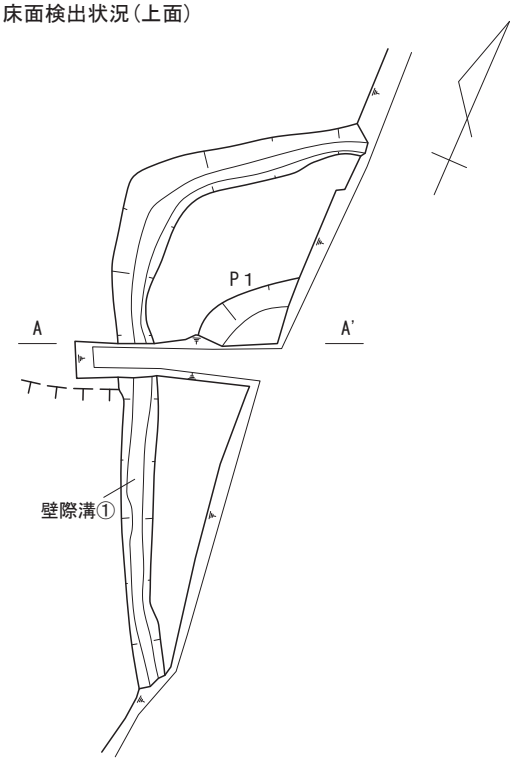
出土遺物　弥生土器１点、土師器11点を図示した。46は山中Ⅰ式の受口系口縁甕である。45は廻間Ⅱ式２段階の内湾壺である。47と49は廻間Ⅰ式４段階のＳ字甕Ａ類、48は廻間Ⅱ式３段階からⅢ式１段階のＳ字甕Ｂ類である。50は器台、51は有段高坏で、ともに廻間Ⅲ式１段階である。52と53は廻間Ⅰ式２３段階の器台で、同一個体と考えられる。54は廻間Ⅱ式４段階からⅢ式１段階の樽型土器である。55は北陸系の土器で、月影式（廻間Ⅰ式併行）の甕である。

時期　図示した48、50、51から、本遺構は建替え前（上面)、建替え後（下面）とも３世紀末と考えられる。

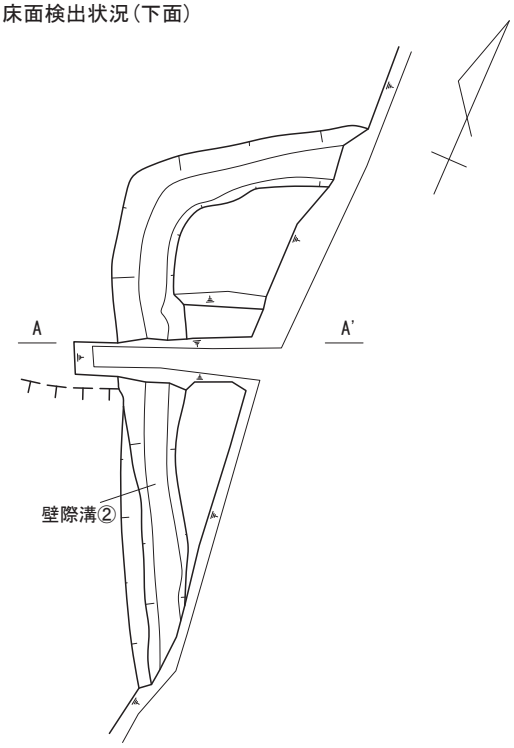
SI８（図22～25）

検出状況　Ａ区AJ６～AK７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の西側のみを検出した。建物の東側は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形

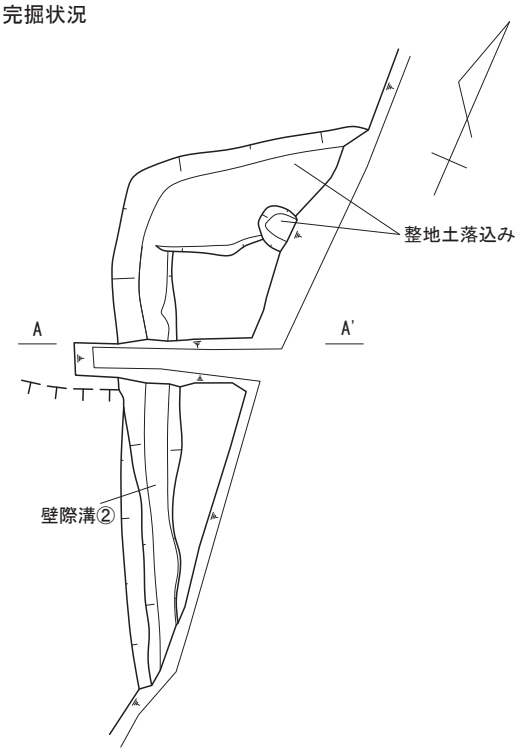
床面検出状況（上面）

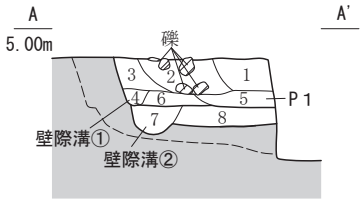


床面検出状況（下面）



完掘状況





1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～2cmの亜角礫を25%含む（上面埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　1～10cmの亜角礫を40%含む（上面埋土）
3　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　1～3cmの亜角礫を10%含む（上面埋土）
4　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～1cmの亜角礫を10%含む（壁際溝①埋土）
5　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～2cmの亜角礫を15%含む（Ｐ１埋土）
6　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を30%含む（上面整地土、下面埋土）
7　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～1cmの亜角礫を10%含む（壁際溝②埋土）
8　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を20%含む（下面整地土）

0　2m
(S=1/50)

図 20　SI７遺構図

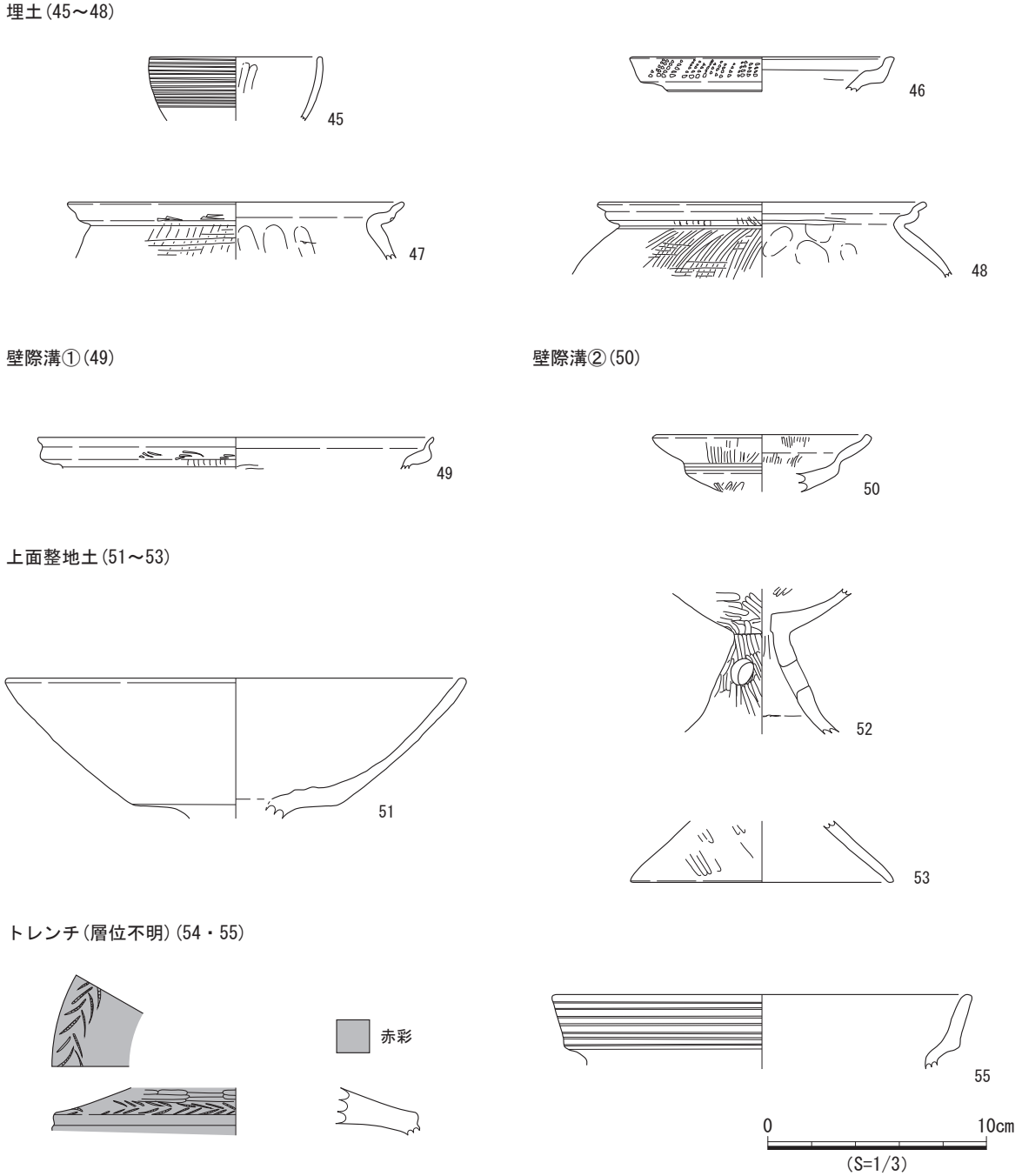


図 21　SI７出土遺物実測図

は方形と考えられる。長軸方位はＮ－30°－Ｅである。SI７、SI９、SB１-P５、SD９、SK65、SK173、SK170、SK174と重複する。本遺構はSI７、SI９、SD９、SK170より古く、SB１-P５、SK65、SK173、SK174より新しい。

埋土　埋土は５層に分層した。床面が１段下がった部分の堆積（５層）、壁際溝①、②上面の堆積（３層、４層）、建物全体を覆う堆積（１層、２層）が確認できる。

壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　建物周縁部は整地土（12層）がテラス状に残存するが、中央の窪んだ部分の形状が隅丸方形を

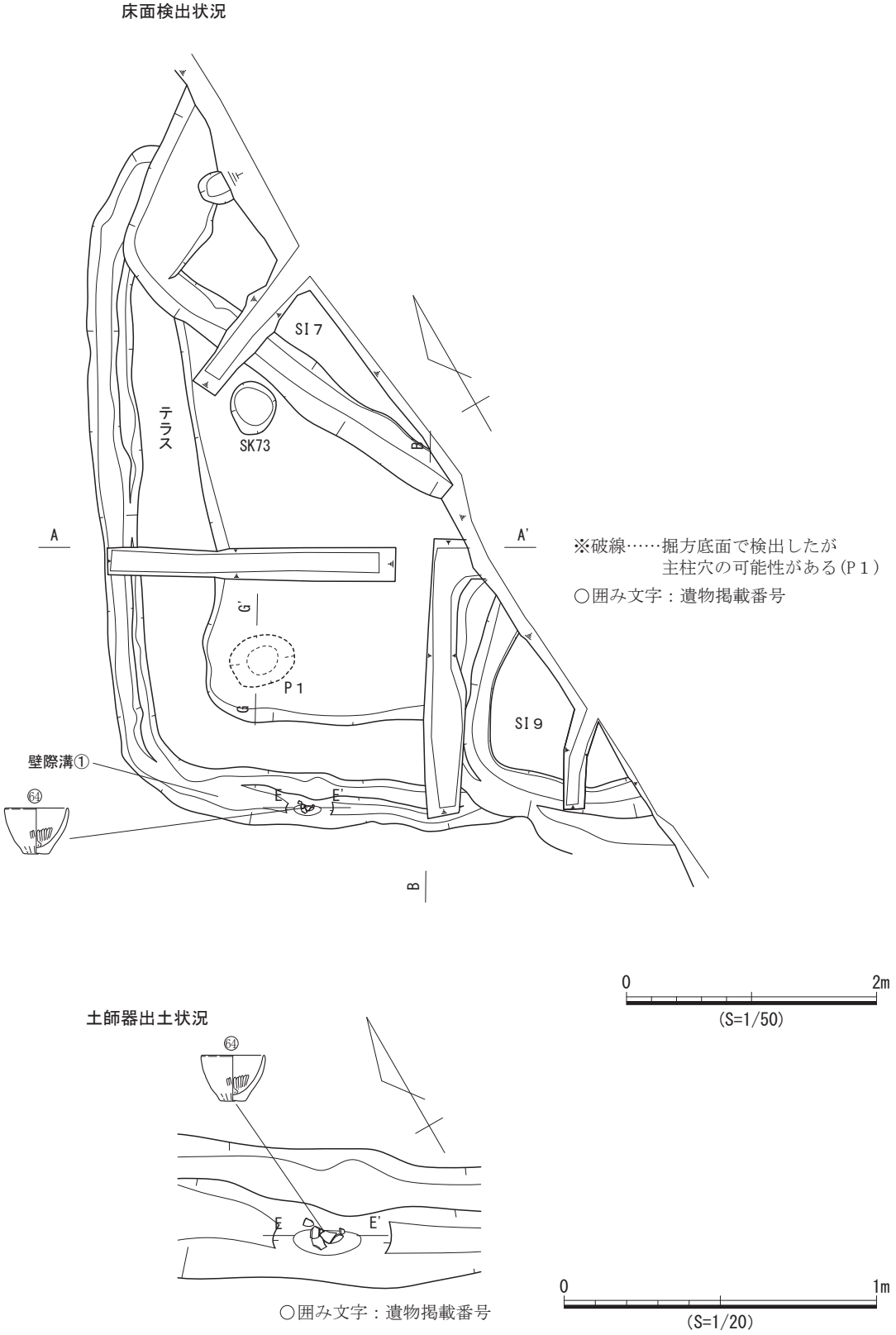
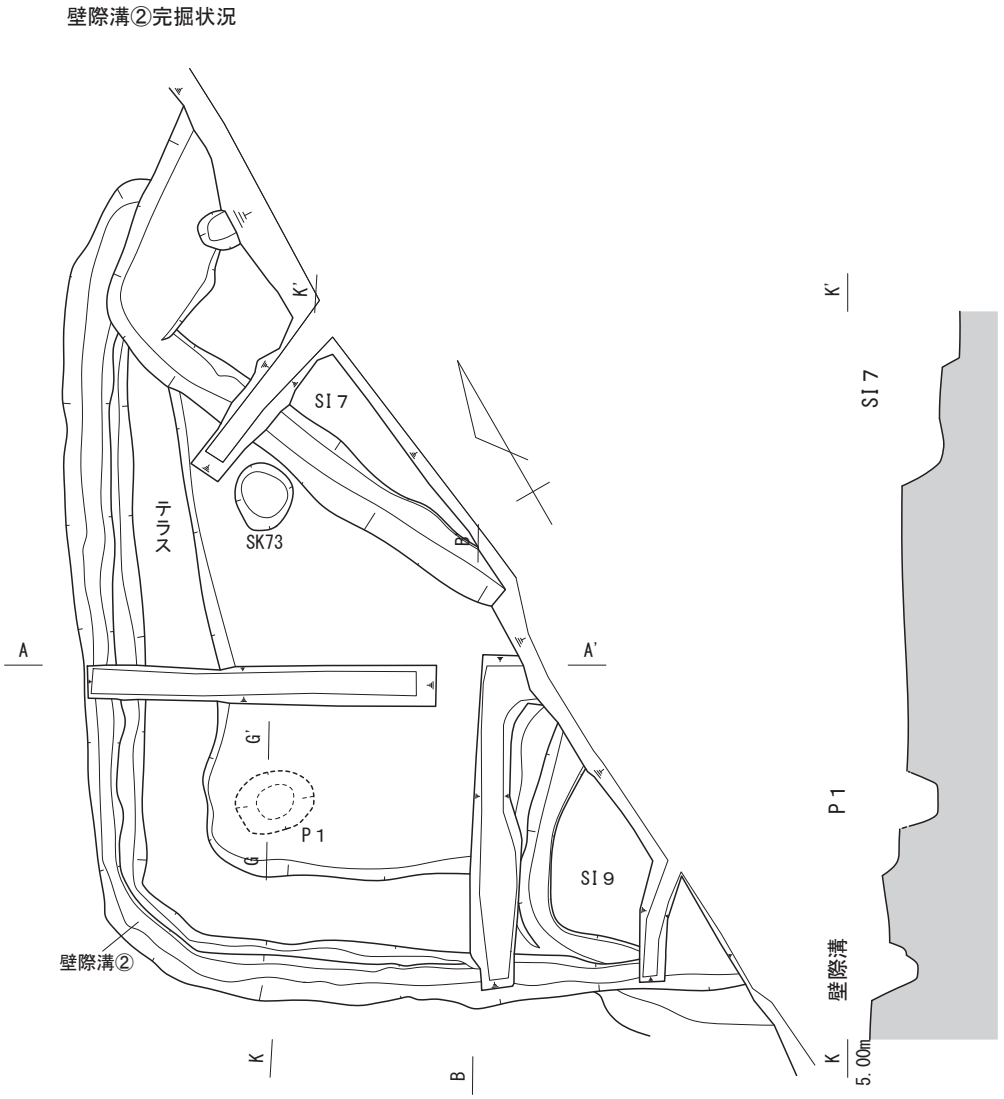

床面検出状況
SI７
SK73
テラス
A
A'
B
B'
G
G'
P１
SI９
壁際溝①
E
E'
※破線……掘方底面で検出したが
主柱穴の可能性がある(P１)
○囲み文字：遺物掲載番号
0
2m
(S=1/50)
土師器出土状況
○囲み文字：遺物掲載番号
0
1m
(S=1/20)

図 22　SI８遺構図（１）

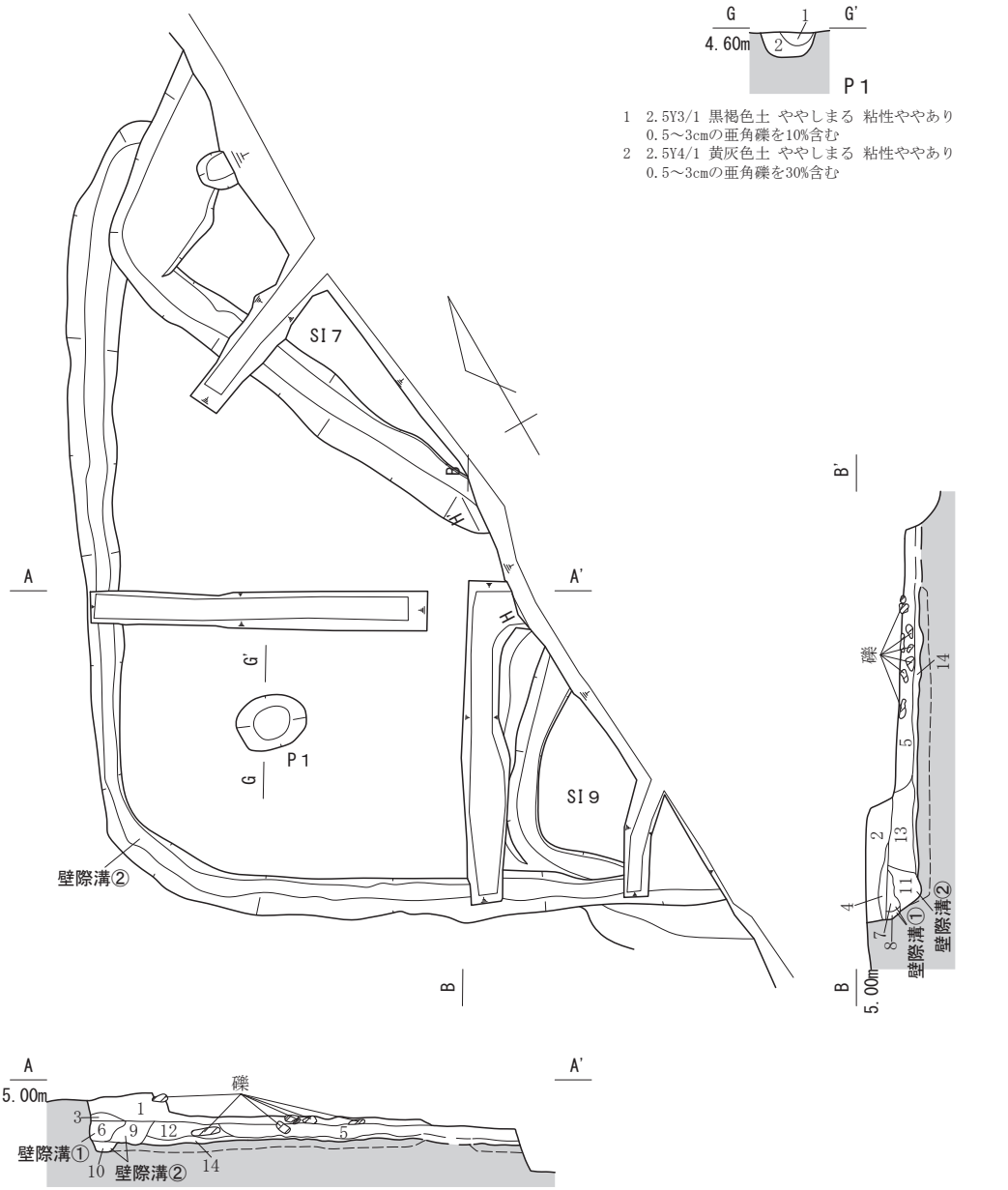


※破線……掘方底面で検出したが
主柱穴の可能性がある(Ｐ１)

0　2m
(S=1/50)

図 23　SI８遺構図（２）

完掘状況



1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～10cmの亜角礫を40%含む（SI８埋土）
2　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～10cmの亜角礫を40%含む（SI８埋土）
3　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を15%含む（SI８埋土）
4　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～2cm亜角礫を10%含む（SI８埋土）
5　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり径0.5～10cmの亜角礫を30%含む（SI８埋土）
6　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝①埋土）
7　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を20%含む（壁際溝①埋土）
8　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を25%含む（壁際溝①埋土）
9　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝②埋土）
10 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性なし 径0.5～2cmの亜角礫を15%含む（壁際溝②埋土）
11 2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を10%含む（壁際溝②埋土）
12 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～10cmの亜角礫を10%含む（テラス構築土）
13 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を15%含む（テラス構築土）
14 2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～2cmの亜角礫を10%含む（整地土）

0　2m
(S=1/50)

図 24　SI８遺構図（３）

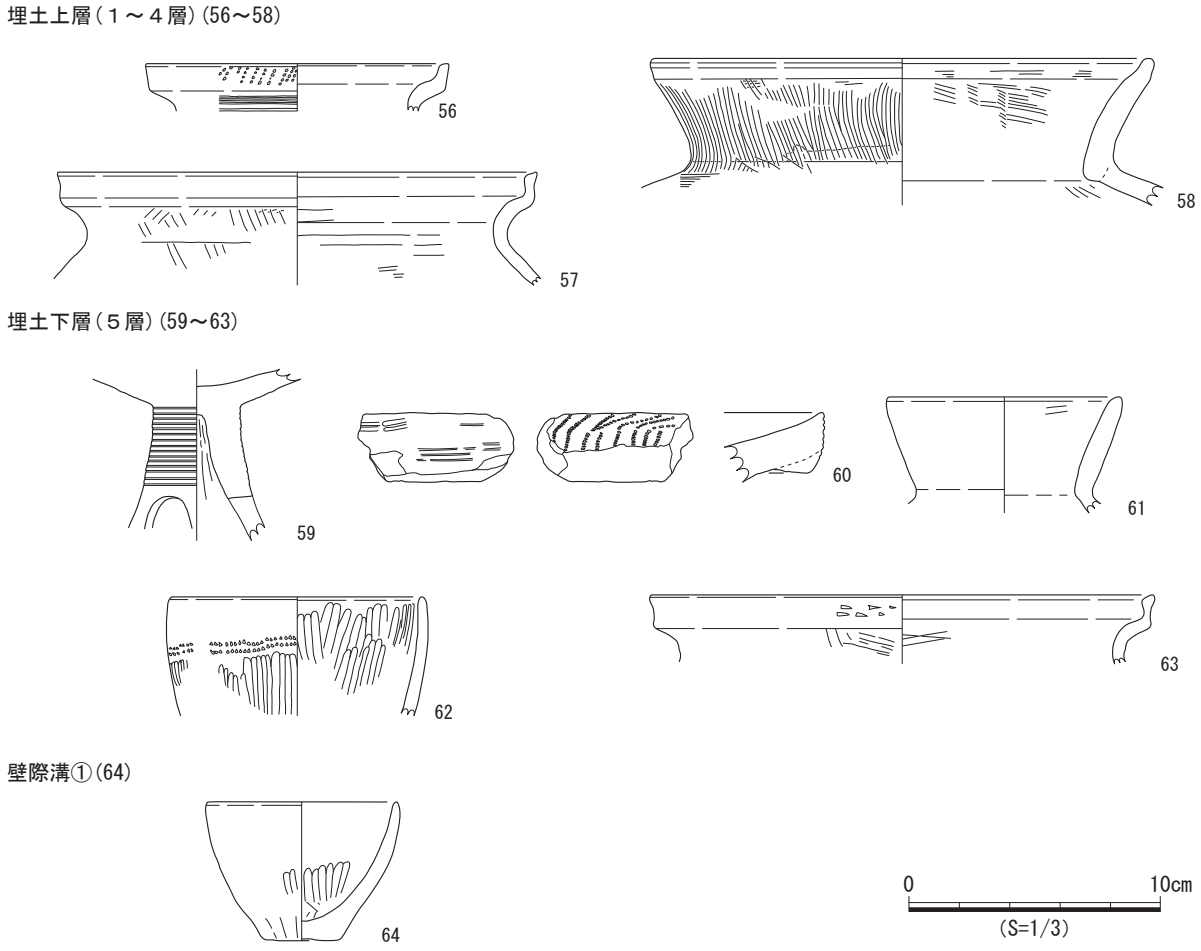


図 25　SI８出土遺物実測図

呈することから、竪穴建物と重複していた可能性がある。床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（14層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。テラス状の整地土上面で壁際溝２条（①、②）を検出した。壁際溝①、壁際溝②は壁面に沿って巡る。壁際溝②と重複して同位置に壁際溝①が掘り込まれていることから、構築時の作り直し、若しくは建物使用時に改修が行われた可能性がある。整地土除去後の掘方底面で柱穴１基(Ｐ１)を検出した。Ｐ１は建物内の位置から主柱穴の可能性がある。柱穴埋土と整地土が類似することから床面検出時に確認できなかった。また、中央部の窪みが重複する竪穴建物とすると、柱穴は重複する建物の柱穴の可能性もある。

遺物出土状況　壁際溝①から土師器58点（64）が出土した。64は壁際溝の底面から出土した（図22)。また、埋土上層（１～４層）から土師器372点(56～58)、埋土下層（５層）から土師器63点（59～63)、テラス構築土から土師器４点、整地土から土師器25点、壁際溝②から土師器31点、層位不明の土師器43点が散在して出土した

出土遺物　弥生土器１点、土師器８点を図示した。56は山中Ⅰ式、57は廻間Ⅰ式３段階の受口系甕、58は廻間Ⅰ式のく字甕、59は廻間Ⅰ式からⅡ式の有段高坏、60は廻間Ⅱ式の加飾壺、61は廻間Ⅱ式４段階からⅢ式１段階の壺である。62は内湾壺、63は受口系甕、64は鉢で、廻間Ⅰ式３段階である。

時期　SI７、SI９との重複関係と図示した62～64から、本遺構は３世紀初頭と考えられる。

SI９（図26・27）

検出状況　Ａ区AJ７～AK７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の北西隅部を検出した。建物の大半は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。壁際溝は概ね直線的ではあるが、発掘区際で屈曲するようにも見え、平面形は不明である。長軸方位はＮ－50°－Ｗである。SD９、SI８と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

埋土　埋土は単層であったが、壁際溝埋土上層（２層）が壁面の中段まで斜めに堆積する。

壁面　壁面はやや開いて立ち上がるが、壁面の中段に平坦部がある。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（４層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で柱穴１基(Ｐ１)と壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。Ｐ１は建物内の位置から主柱穴の可能性がある。非常に浅い掘方であるため、置き柱を据えた痕跡の可能性も考えられる。

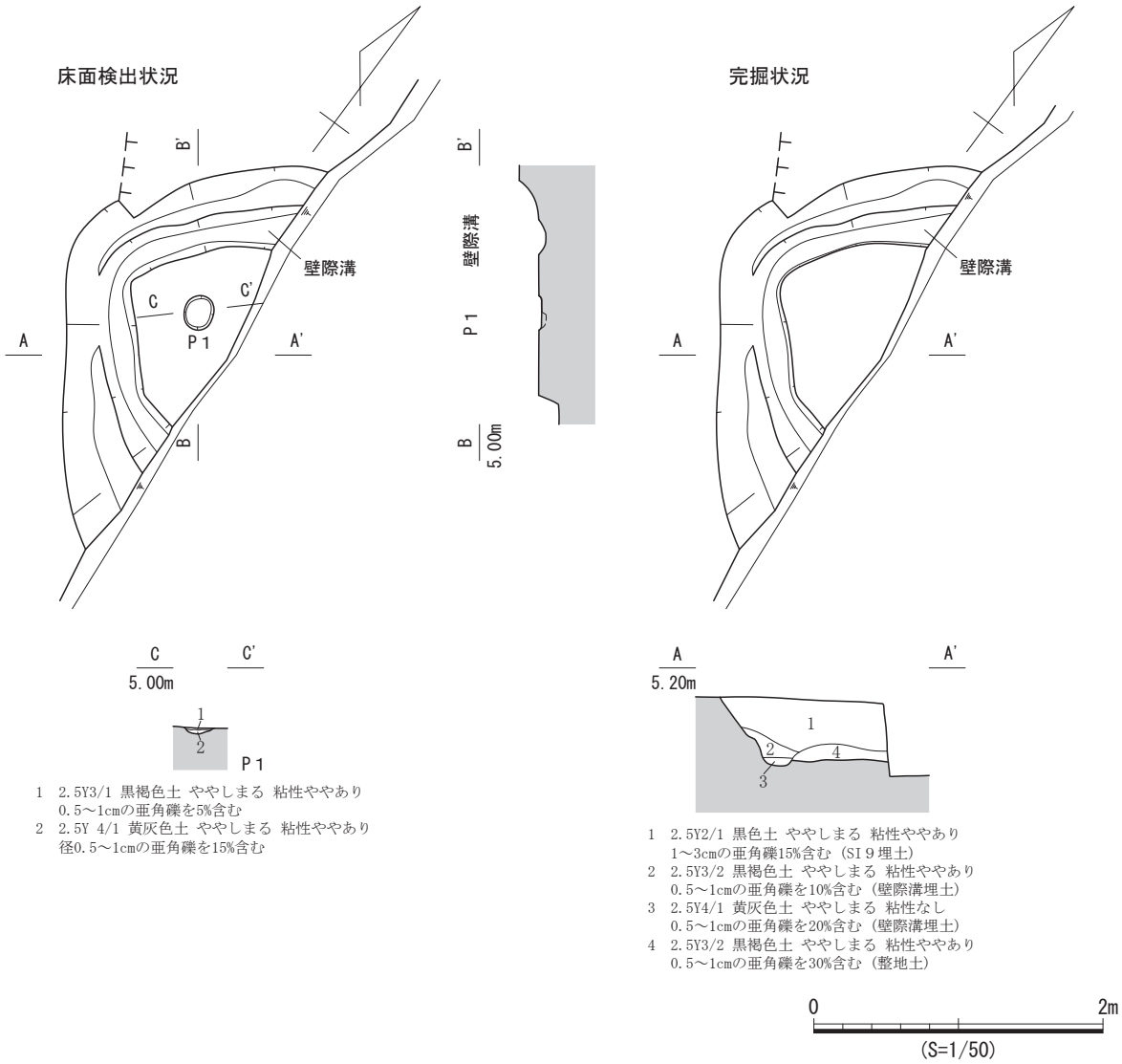


図 26　SI９遺構図

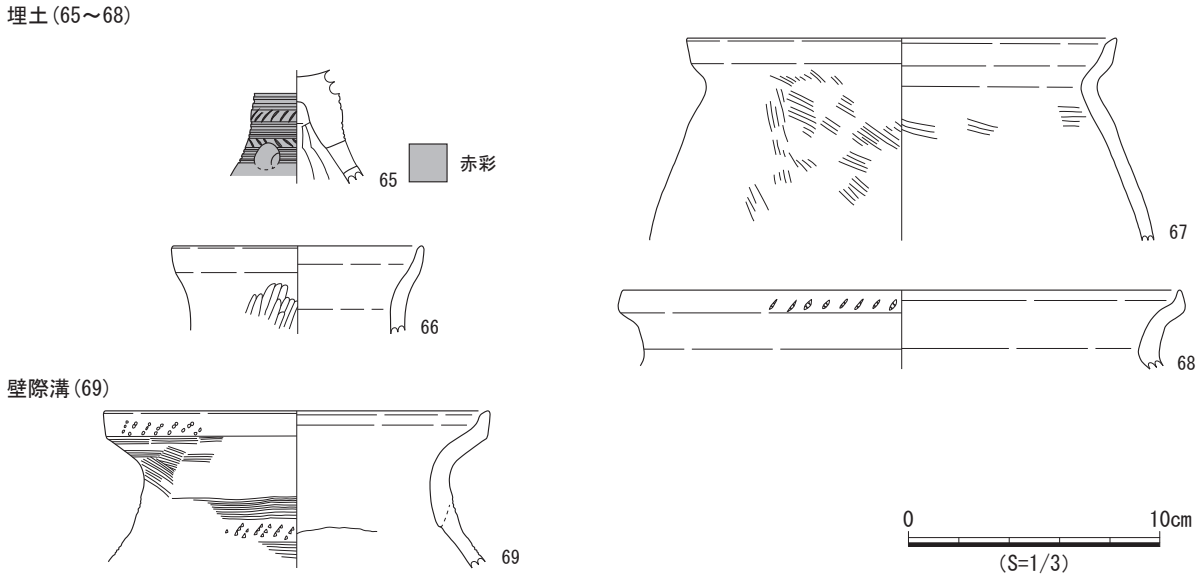


図 27　SI９出土遺物実測図

遺物出土状況　埋土から土師器75点(65～68)、壁際溝から土師器８点(69)、整地土から土師器１点が散在して出土した。

出土遺物　弥生土器２点、土師器５点を図示した。65は山中式の高坏、66は廻間Ⅰ式３段階の内湾壺である。67は廻間Ⅱ式１段階、68と69は廻間Ⅰ式３段階の受口系甕である。

時期　SI８との重複関係と図示した67から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SI10（図28～30）

検出状況　Ａ区AJ６～AK７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の東側のみを検出した。建物の西側は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。壁際溝の平面形は概ね直線的ではあるが、北東隅付近でクランク状に屈曲する。平面形は方形である。長軸方位はＮ－35°－Ｗである。SB1-Ｐ６、SB2-Ｐ１、SD９、SK69、SK70、SK71、SK170と重複する。本遺構はSK69より古く、SB1-Ｐ６、SB2-Ｐ１、SD９、SK70、SK71、SK170より新しい。

埋土　埋土は単層であった。

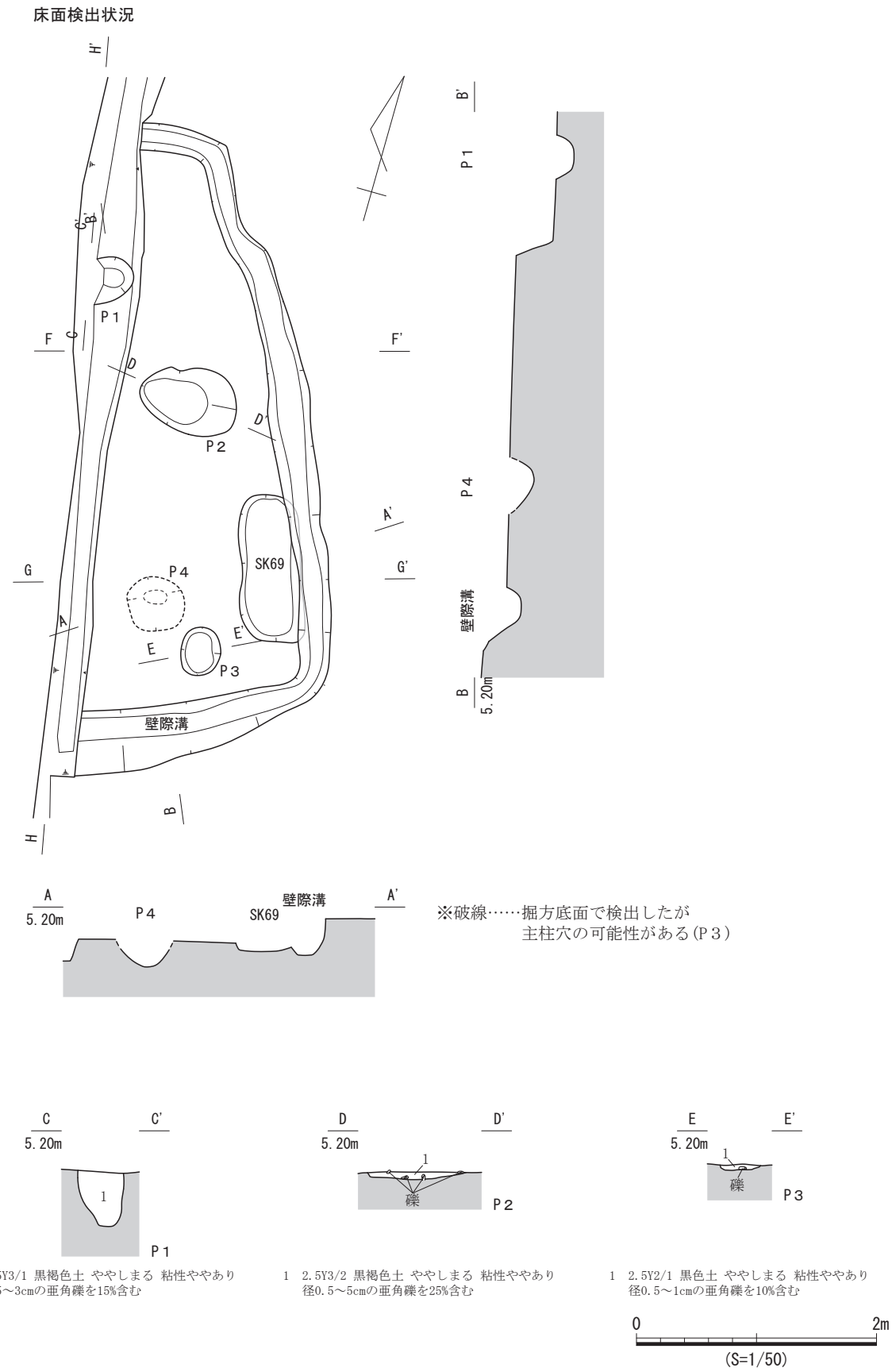
壁面　壁面は南側では大きく開いて立ち上がり、北側ではほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（６、７層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で柱穴１基(Ｐ１)、土坑(Ｐ２、Ｐ３)、壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。Ｐ１は建物内の位置から主柱穴の可能性がある。整地土除去後の掘方底面で柱穴１基(Ｐ４)を検出した。Ｐ４は建物内の位置から主柱穴の可能性がある。柱穴埋土と整地土が類似することから床面検出時に確認できなかった。

遺物出土状況　埋土から土師器107点(70、71)、壁際溝から土師器26点(72)、Ｐ３から土師器２点、整地土から土師器20点、トレンチから土師器９点(73)が散在して出土した。

出土遺物　土師器４点を図示した。70は廻間Ⅰ式の広口壺、71と72は廻間Ⅰ式３段階の受口系甕、73は壺である。

時期　SK69との重複関係から、本遺構は２世紀前葉から中葉と考えられる。



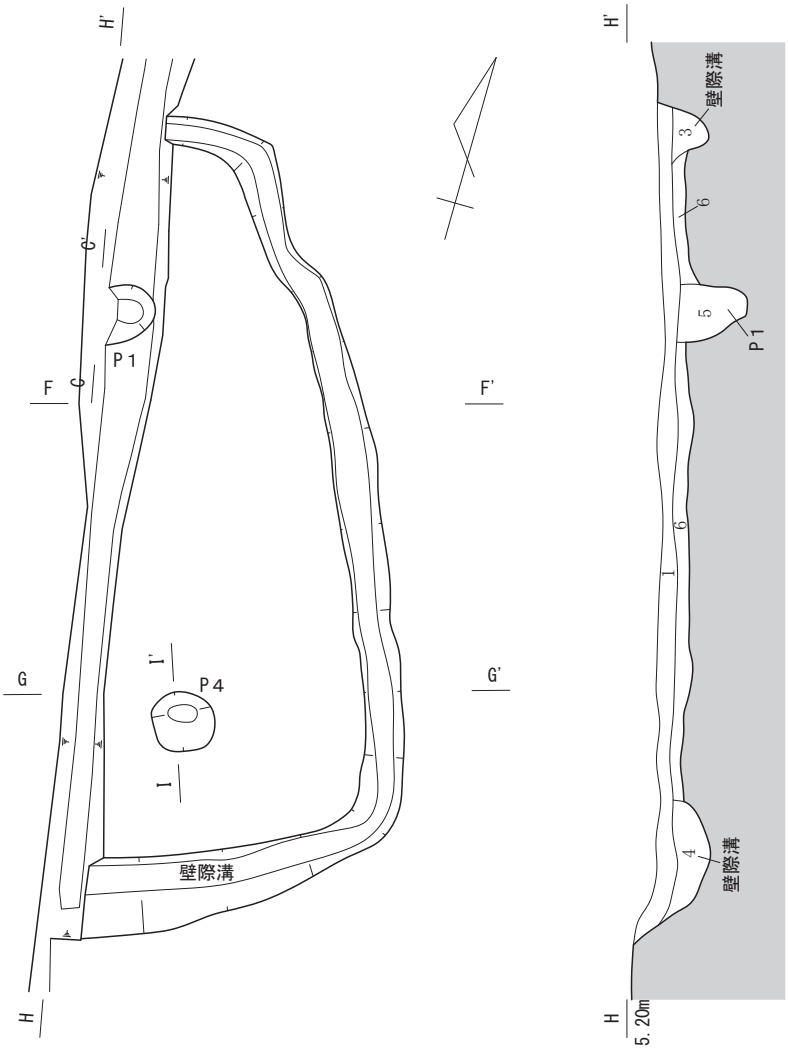
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を15%含む

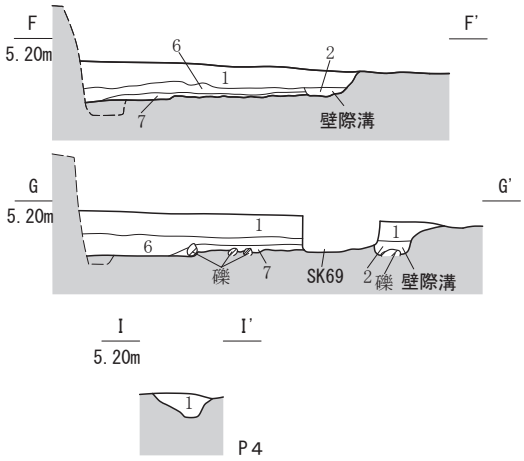
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を25%含む

1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～1cmの亜角礫を10%含む

図 28　SI10 遺構図（１）

完掘状況





1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を15%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を20%含む（SI10埋土）
2　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～2cmの亜角礫を15%含む（壁際溝埋土）
3　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を15%含む（壁際溝埋土）
4　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
5　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を15%含む（Ｐ１埋土）
6　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～5cmの亜角礫を15%含む（整地土）
7　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～1cmの亜角礫を10%含む（整地土）

0　2m
(S=1/50)

図 29　SI10 遺構図（２）

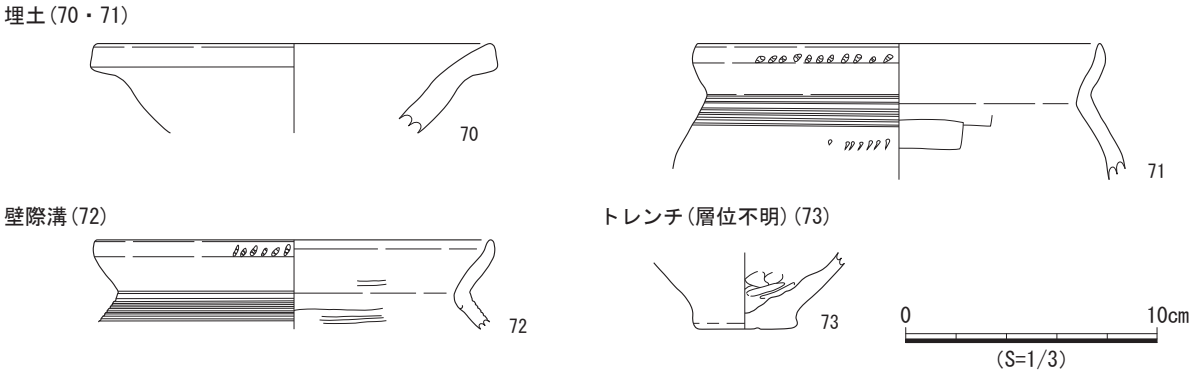


図 30　SI10 出土遺物実測図

SI11（図31）

検出状況　Ｃ区AN４・AN５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の西側のみを検出した。建物の東側は発掘区外となり、全容は不明である。湧水及び遺構の重複により平面形は不明瞭であった。平面形は方形である。長軸方位はＮ－20°－Ｗである。SK112と重複する。本遺構はSK112より新しい。

埋土　埋土は確認できず、遺構検出時に壁際溝を検出した。壁際溝内側の堆積は整地土（２層）である。建物周辺が後世に削平されたと考えられる。

壁面　壁面は確認できなかった。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（２層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。

遺物出土状況　壁際溝から土師器３点(74)、整地土から土師器８点が散在して出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。74は廻間Ⅰ式２段階のく字甕である。

時期　図示した74から本遺構は２世紀後葉と考えられる。

SI12（図32）

検出状況　Ｄ区AS５・AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の北東隅部のみを検出した。建物の大半は発掘区外となり、全容は不明である。平面形は明瞭であった。平面形は方形である。長軸方位はＮ－36°－Ｅである。SA４-Ｐ１、SK127と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

埋土　埋土は２層（１・２層）に分層し、概ね水平に堆積する。

壁面　壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がるが、南側ではやや開いて立ち上がる。

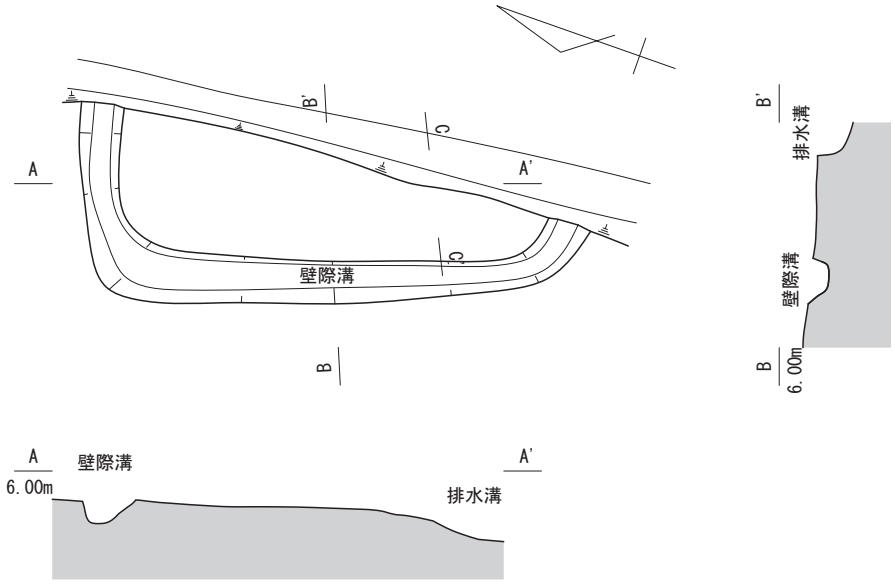
床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（４層）を確認し、整地土上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡り、南北方向では幅が広いが、北東隅部で屈曲し東西方向では徐々に幅が狭まり発掘区外へ続く。

遺物出土状況　埋土から土師器21点(75)、壁際溝から土師器１点、整地土から土師器２点が散在して出土した。

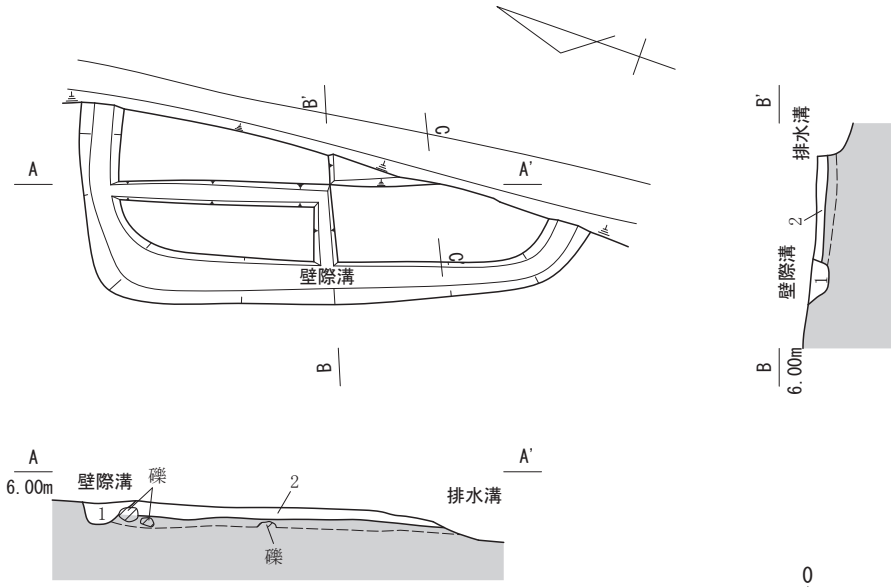
出土遺物　土師器１点を図示した。75は廻間Ⅰ式３段階から４段階の広口壺である。

時期　図示した75から本遺構は３世紀初頭から中葉と考えられる。

床面検出状況

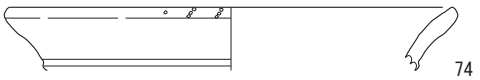


完掘状況



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（壁際溝埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む（整地土）

0　2m
(S=1/50)



0　10cm
(S=1/3)

図 31　SI11 遺構図・出土遺物実測図

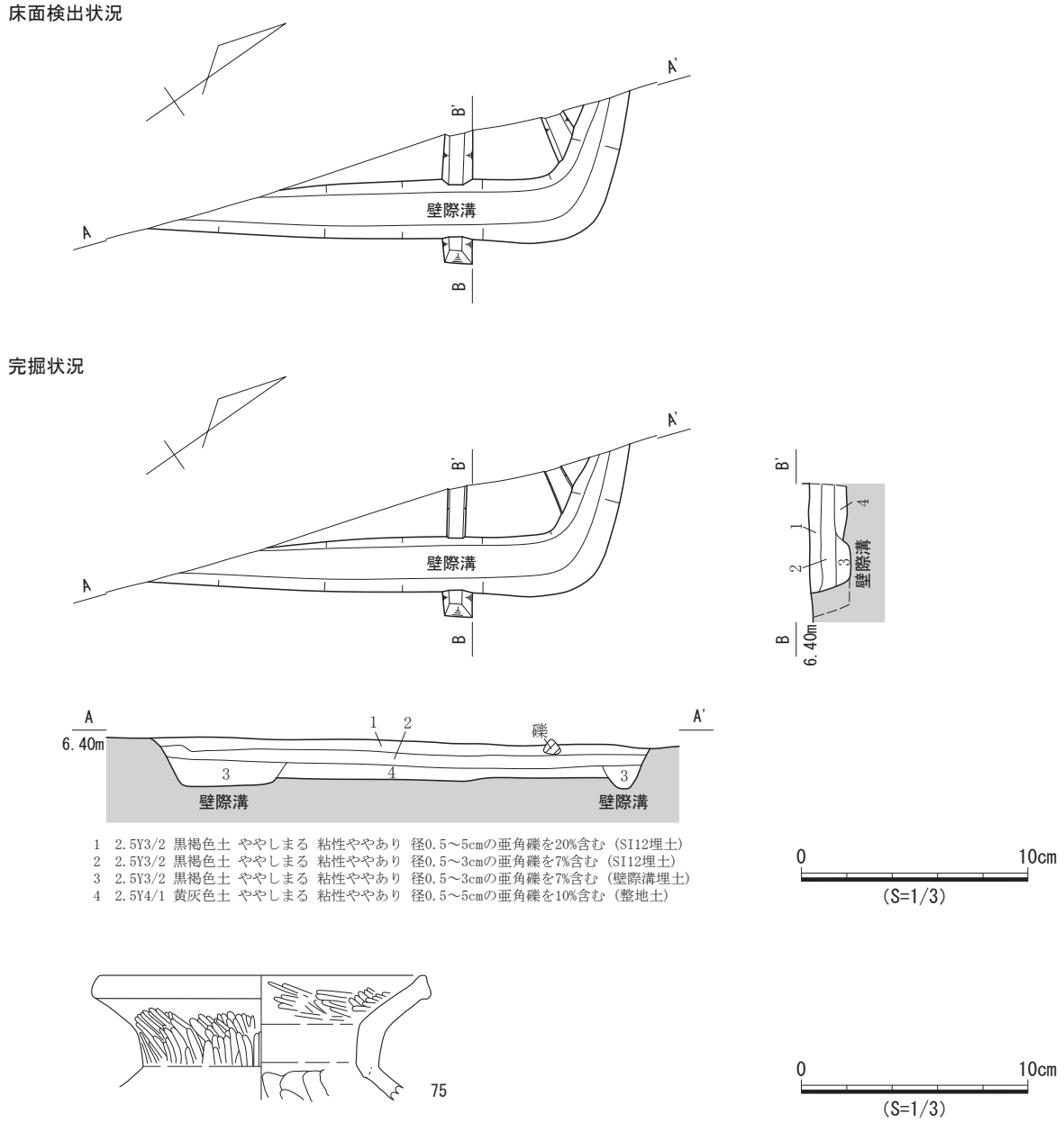


図 32　SI12 遺構図・出土遺物実測図

SI13（図33～35）

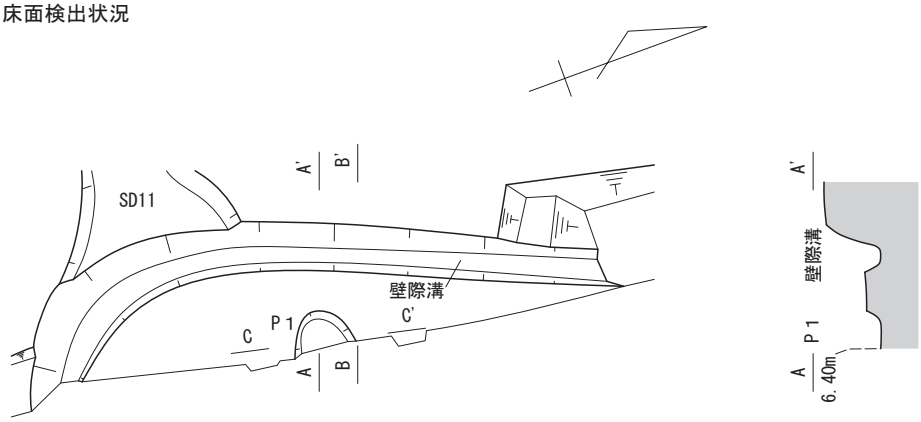
検出状況　Ｄ区AT５・BA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。建物の南西隅部のみを検出した。建物の大半は発掘区外となり、全容は不明である。平面形は明瞭であった。平面形は隅丸方形である。長軸方位はＮ－22°－Ｅである。SD11、SK131、SK133と重複する。本遺構はSD11より古く、SK131、SK133より新しい。

埋土　埋土は３層（１～３層）に分層し、概ね水平に堆積する。

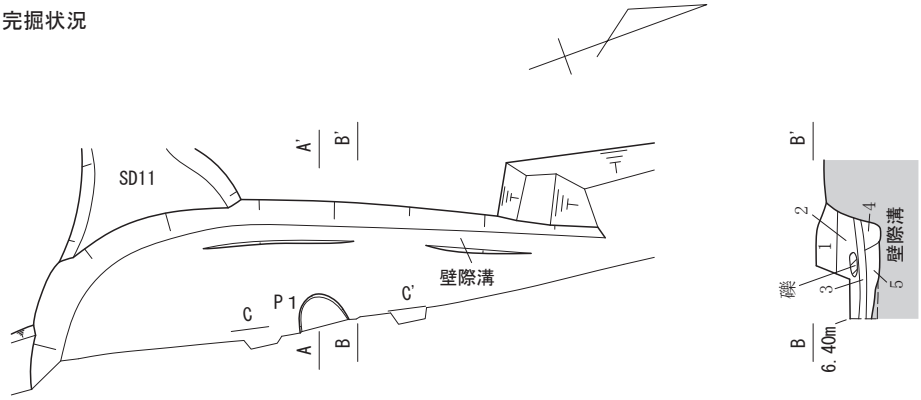
壁面　壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

床面　床面では貼床や硬化面は確認できず、建物構築時に敷詰めた整地土（５層）を確認し、整地土

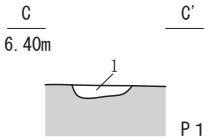
床面検出状況



完掘状況



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む（SI13埋土）
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を7%含む（SI13埋土）
3　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を5%含む（SI13埋土）
4　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を7%含む（壁際溝埋土）
5　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む（整地土）



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む

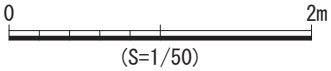


図 33　SI13 遺構図（1）

遺物出土状況

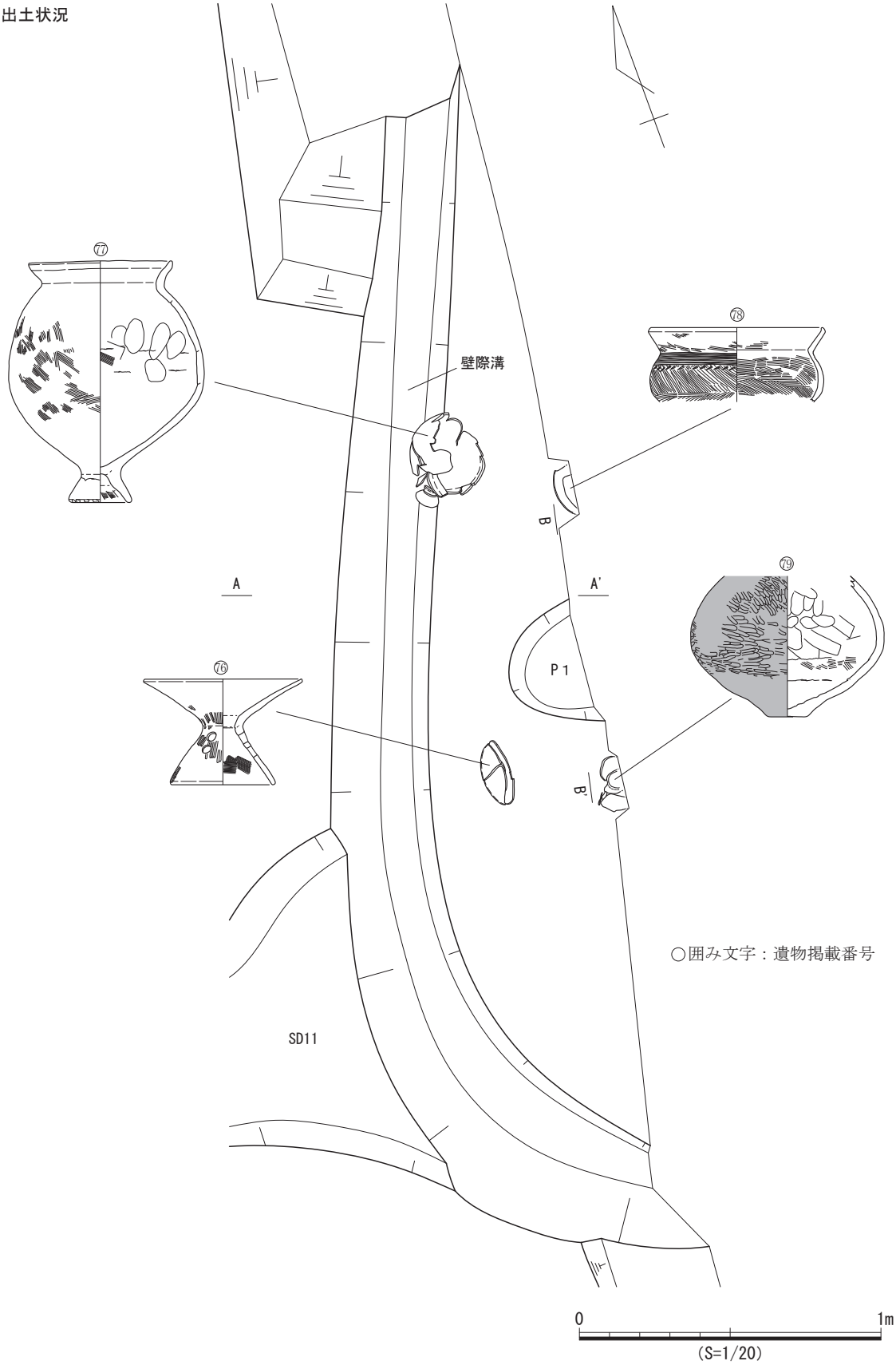


図 34　SI13 遺構図（２）

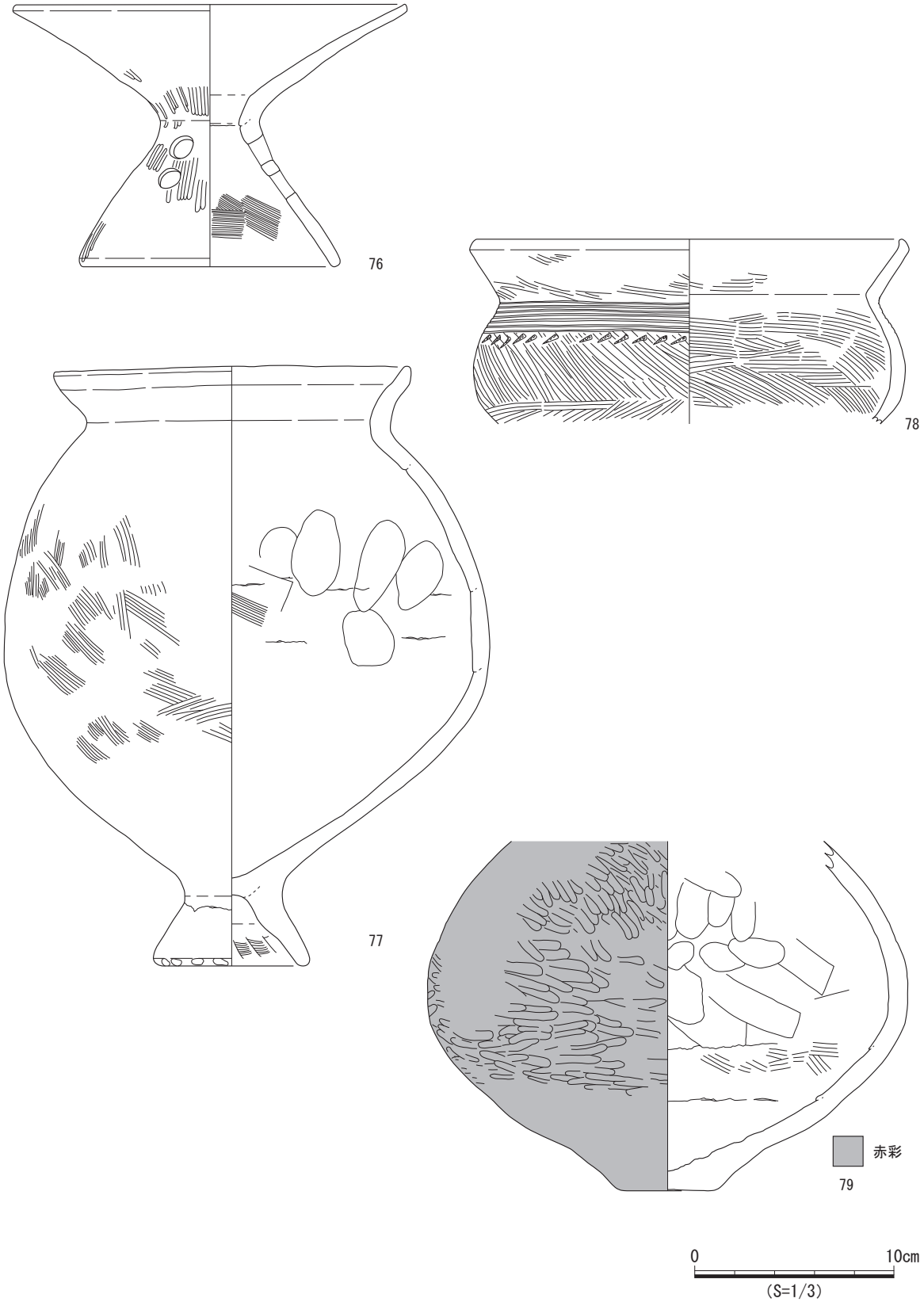


図 35　SI13 出土遺物実測図

上面を床面と判断した。床面は概ね平坦である。床面で土坑１基(Ｐ１)、壁際溝１条を検出した。壁際溝は床面の周縁を途切れることなく巡る。土坑は非常に浅く、柱穴とは考えられない。

遺物出土状況　埋土から土師器272点(76～79)が出土した。76～79は床面直上で出土した（図34)。77は台部が南西、口縁部を欠いた上部が北西となる横倒しの状態で出土した。口縁部は埋土から出土した破片が接合した。77は壁際溝付近の出土であるが、壁際溝埋土の上部に堆積した３層から出土しており、壁際溝埋没後に倒れたものと考えられる。なお、77に接して直径約３cmの塊状の炭化材(取上番号2189)が出土し、樹種同定及び放射性炭素年代測定を実施した。その結果、樹種はカエデ属であることが判明し、放射性炭素年代測定結果の暦年代は２世紀前半～４世紀前半の値を示した（第４章第１節参照）。76は坏部が西側に開いた横倒しの状態で出土した。図34では坏部のみを図化している。78は正位で、79は逆位で出土した。また、壁際溝から土師器１点、Ｐ１から土師器１点、整地土から土師器４点が散在して出土した。

出土遺物　土師器４点を図示した。76は器台、77は受口系甕、78は受口系口縁をもつ鉢、79は加飾壺で、いずれも廻間Ⅱ式１段階ある。

時期　図示した76、77から本遺構は３世紀中葉と考えられる。この年代は、放射性炭素年代の測定結果（第４章）と整合する。

２　掘立柱建物

SB１（図36）

検出状況　Ａ区AI６～AJ７グリッド、Ｐ１～Ｐ３はⅣ層上面、Ｐ４はSI７底面、Ｐ５はSI８底面、Ｐ６はSI10底面で検出した。いずれも柱穴の平面形は明瞭であった。Ｐ４に相対する柱穴がＰ１－Ｐ６上で確認できず、Ｐ２に相対する柱穴がＰ５－Ｐ６上で確認できなかったことから、西側は発掘区外に広がり、南側は攪乱坑等により消失した可能性がある。２間×２間以上の建物と考えられる。Ｐ４はSI７、Ｐ５はSI７、SI８、Ｐ６はSI10と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　長軸方位はＮ－15°－Ｗである。SA１、SA２と同一方向である。発掘区外に広がる可能性や攪乱坑による消失の可能性があるため全容は不明であるが、桁行２間以上（4.6m以上、柱間2.3m－2.30m）、梁行２間以上（3.8m以上、柱間1.7m－2.1m）、床面積17.5㎡以上となる側柱建物である。

柱穴　柱穴の平面形は円形である。いずれの柱穴も柱痕跡は確認できなかった。埋土は、Ｐ１、Ｐ３、Ｐ４は単層で、Ｐ２、Ｐ５、Ｐ６は２層に分層した。Ｐ２の２層にはブロック土を含む。

遺物出土状況　Ｐ１から土師器３点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI７～SI10との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から２世紀中葉と考えられる。

SB２（図37）

検出状況　Ａ区AK６～AL７グリッド、いずれの柱穴もⅣ層上面で検出した。柱穴の平面形は不明瞭であった。Ｐ３に相対する柱穴がＰ１－Ｐ４上で確認できなかったことから、西側は発掘区外に広がる可能性がある。南東隅部の柱穴は攪乱坑により消失する。２間×１間以上の建物と考えられる。Ｐ１は

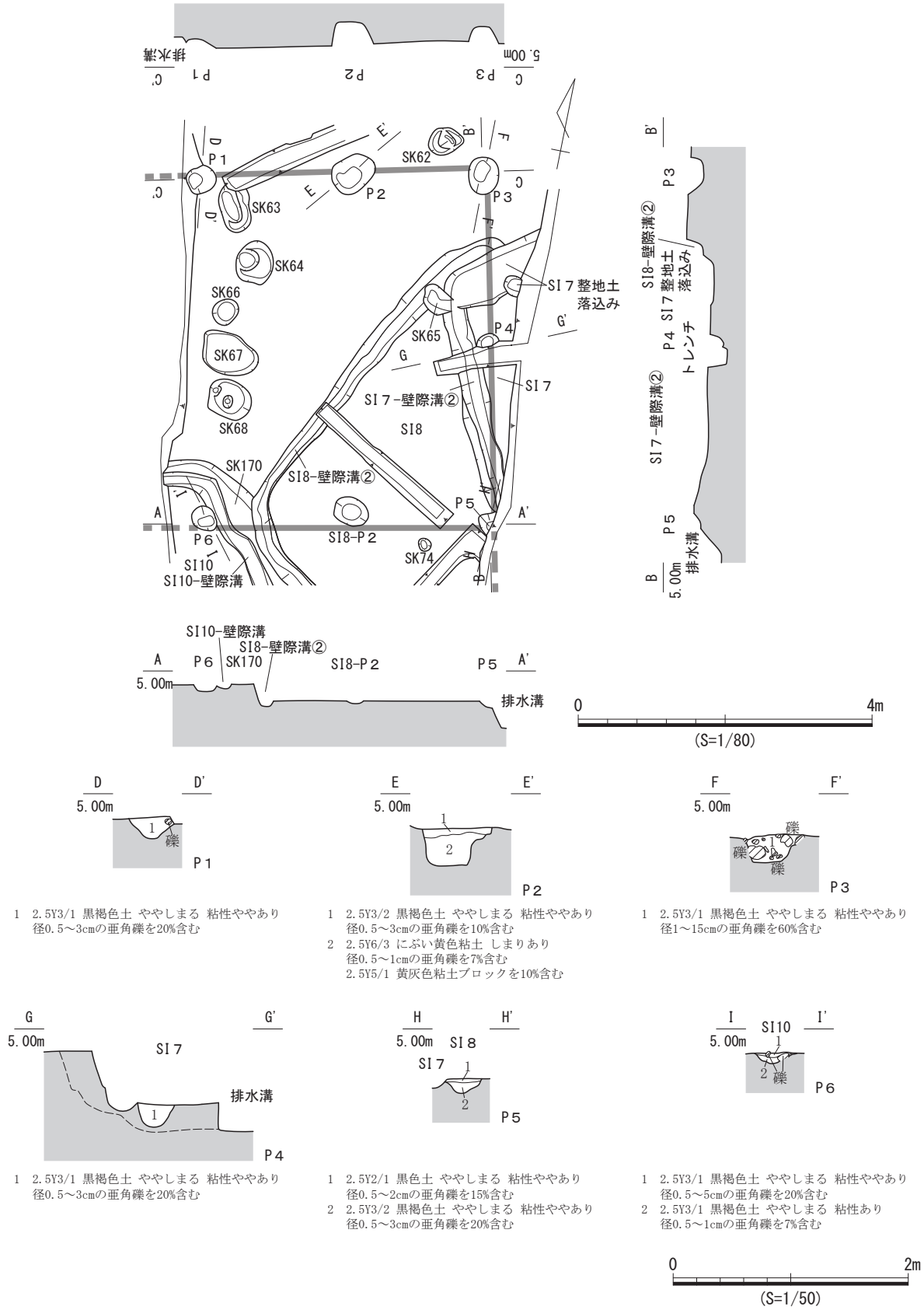

SK62
SK63
SK64
SK66
SK67
SK68
SK65
SK170
SK74
P1
P2
P3
P4
P5
P6
SI7整地土
落込み
SI7
SI7-壁際溝②
SI8
SI8-壁際溝②
SI8-P2
SI10
SI10-壁際溝
排水溝
5.00m
SI8-壁際溝②
SI7整地土
落込み
トレンチ
SI7-壁際溝②
(S=1/80)
0
4m
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む
2　2.5Y6/3 にぶい黄色粘土 しまりあり
径0.5～1cmの亜角礫を7%含む
2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロックを10%含む
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1～15cmの亜角礫を60%含む
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～2cmの亜角礫を15%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性あり
径0.5～1cmの亜角礫を7%含む
0
2m
(S=1/50)

図 36　SB１遺構図

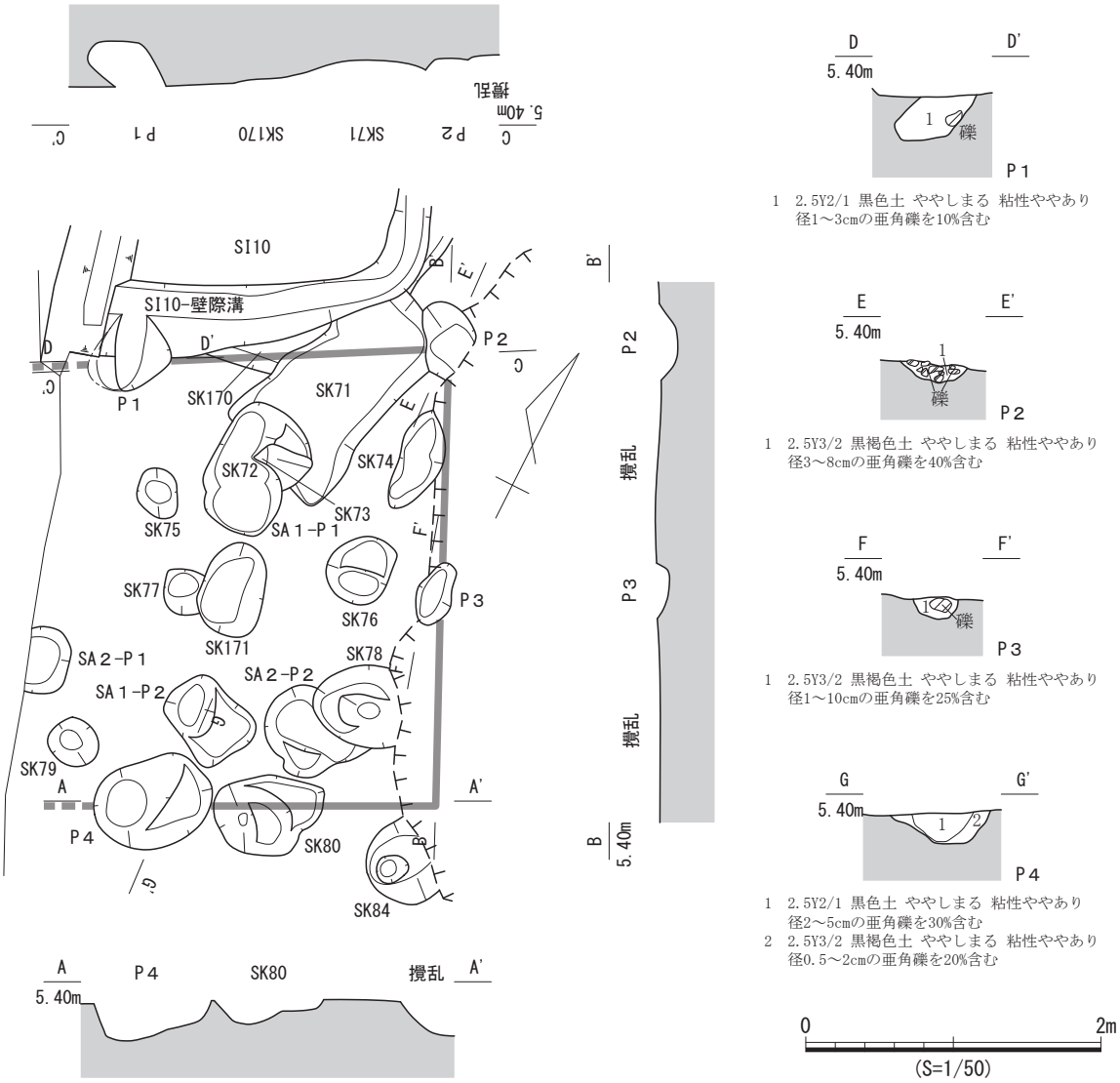


図 37　SB２遺構図

SI10、P２はSK71と重複する。本遺構はSI10より古く、SK71より新しい。

規模・形状　長軸方位はN－25°－Wである。西側は発掘区外に広がる可能性があるため、全容は不明であるが、桁行１間以上(2.2m以上、柱間2.2m)、梁行２間(3.1m以上、柱間1.5m－1.6m)、床面積6.8㎡以上となる側柱建物である。

柱穴　柱穴の平面形は、P３が楕円形で、それ以外は不定形である。いずれも柱痕跡と考えられる堆積を確認できなかった。埋土は、P１～P３は単層で、P４は２層に分層した。P１の断面形状は、西側が斜めにオーバーハングする。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SI10との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から２世紀中葉と考えられる。

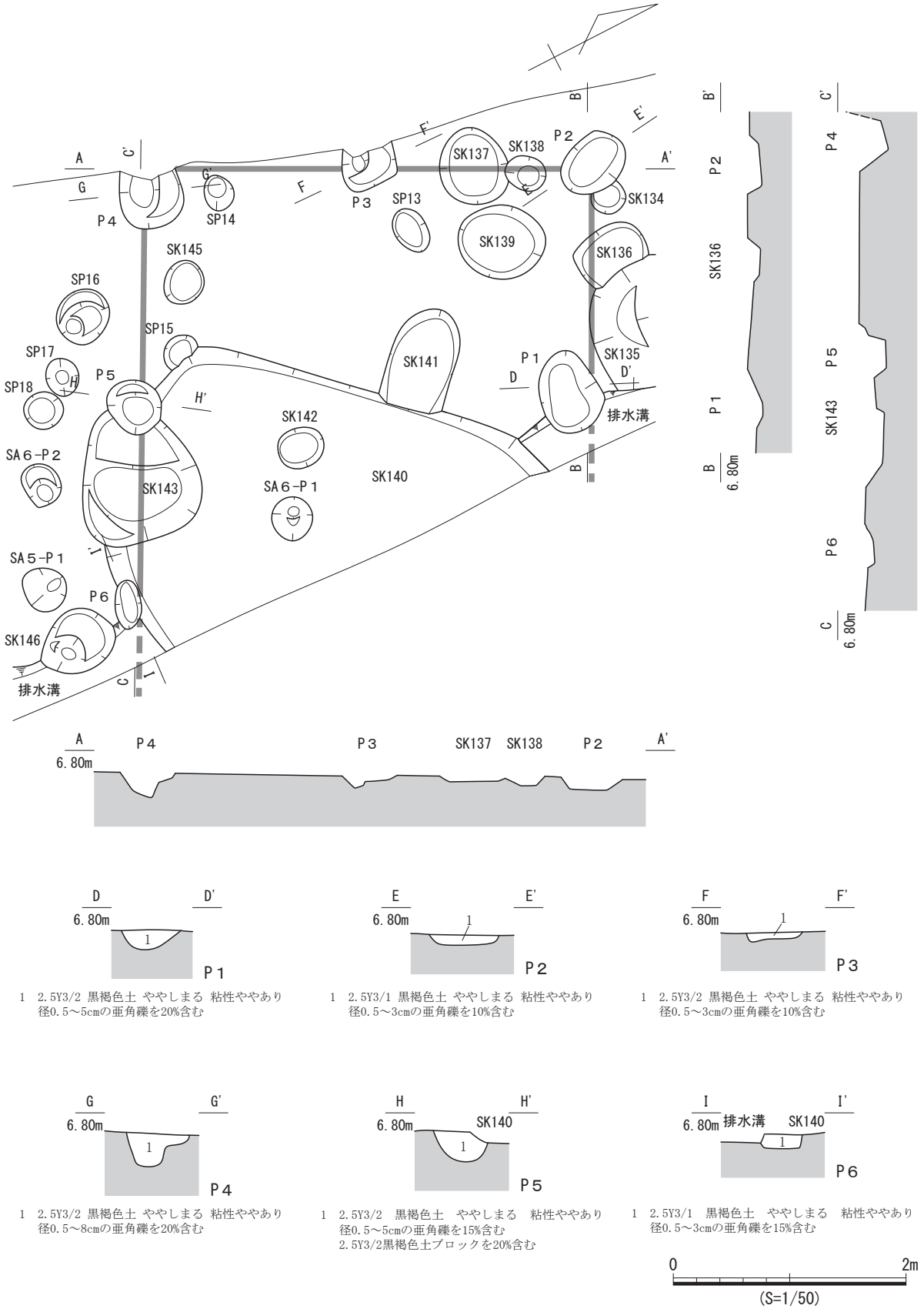

A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
SP13
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SK134
SK135
SK136
SK137
SK138
SK139
SK140
SK141
SK142
SK143
SK145
SK146
SA5-P1
SA6-P1
SA6-P2
排水溝
6.80m
1
2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む
2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む
2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む
2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を20%含む
2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を15%含む
2.5Y3/2黒褐色土ブロックを20%含む
2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を15%含む
0
2m
(S=1/50)

図 38　SB３遺構図

SB３（図38）

検出状況　Ｄ区BA４～BB５グリッド、いずれの柱穴もⅣ層上面で検出した。東側は発掘区外に広がると考えられる。２間×２間以上の建物と考えられる。いずれも柱穴の平面形は不明瞭であった。Ｐ２はSK134、Ｐ５はSK140、SK143、Ｐ６はSK140と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　長軸方位はＮ－62°－Ｗである。SA５、SA６と概ね同一方向である。東側は発掘区外に広がる可能性があるため全容は不明であるが、桁行２間以上（3.8m以上、柱間2.1m－1.7m）、梁行２間以上（3.9m以上、柱間2.0m－1.9m）、床面積14.9㎡以上となる側柱建物である。

柱穴　柱穴の平面形Ｐ１、Ｐ２、Ｐ６は楕円形、Ｐ４は円形、Ｐ３は不定形である。いずれも柱痕跡と考えられる堆積を確認できなかった。埋土はいずれも単層であった。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK140との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

３　柵

SA１（図39）

検出状況　Ａ区AK７・AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。柱穴の平面形はＰ１、Ｐ３では明瞭であったが、Ｐ２では不明瞭であった。Ｐ１はSK72と重複する。本遺構はSK72より新しい。

規模・形状　３基の柱穴が直線的に並ぶ柵である。全長3.0m、柱間距離は北から1.5m－1.5mである。方位はＮ－15°－Ｗである。SB１、SA２と概ね同一方向である。Ｐ１の北側にSI10が位置することから、

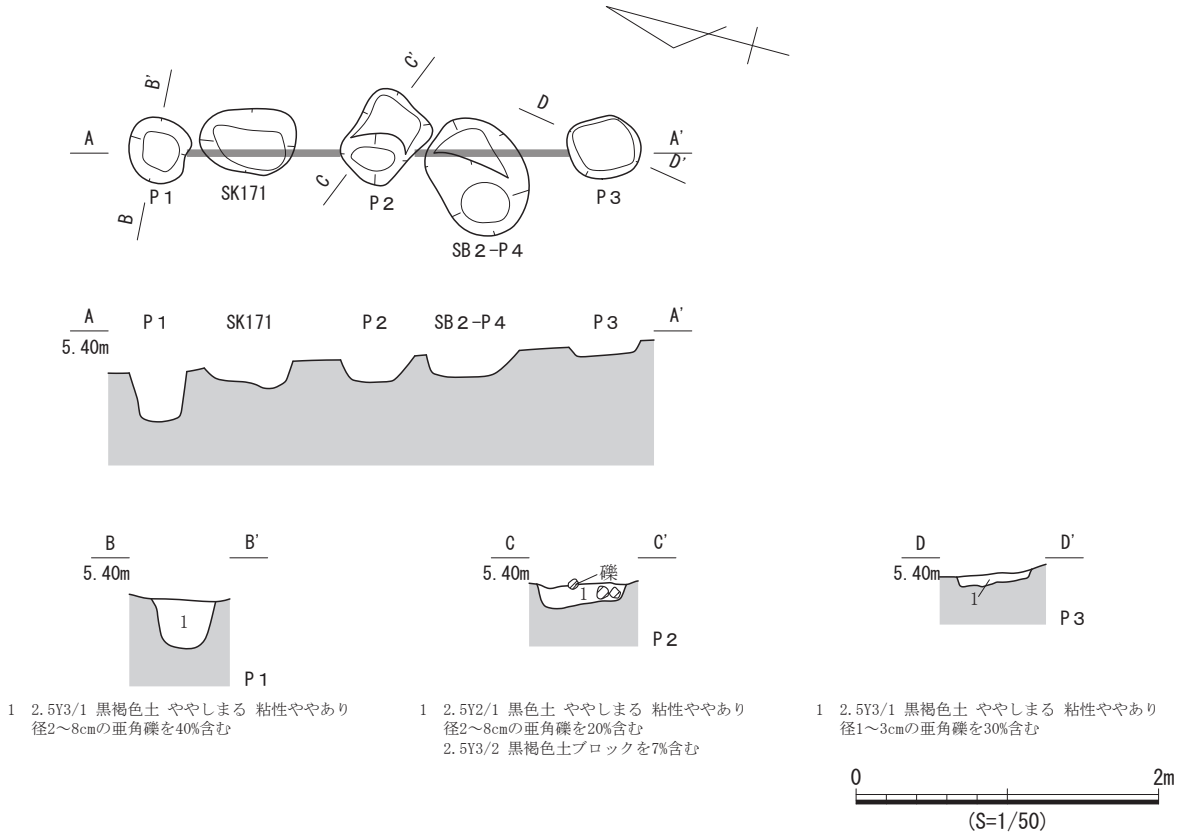


図 39　SA１遺構図

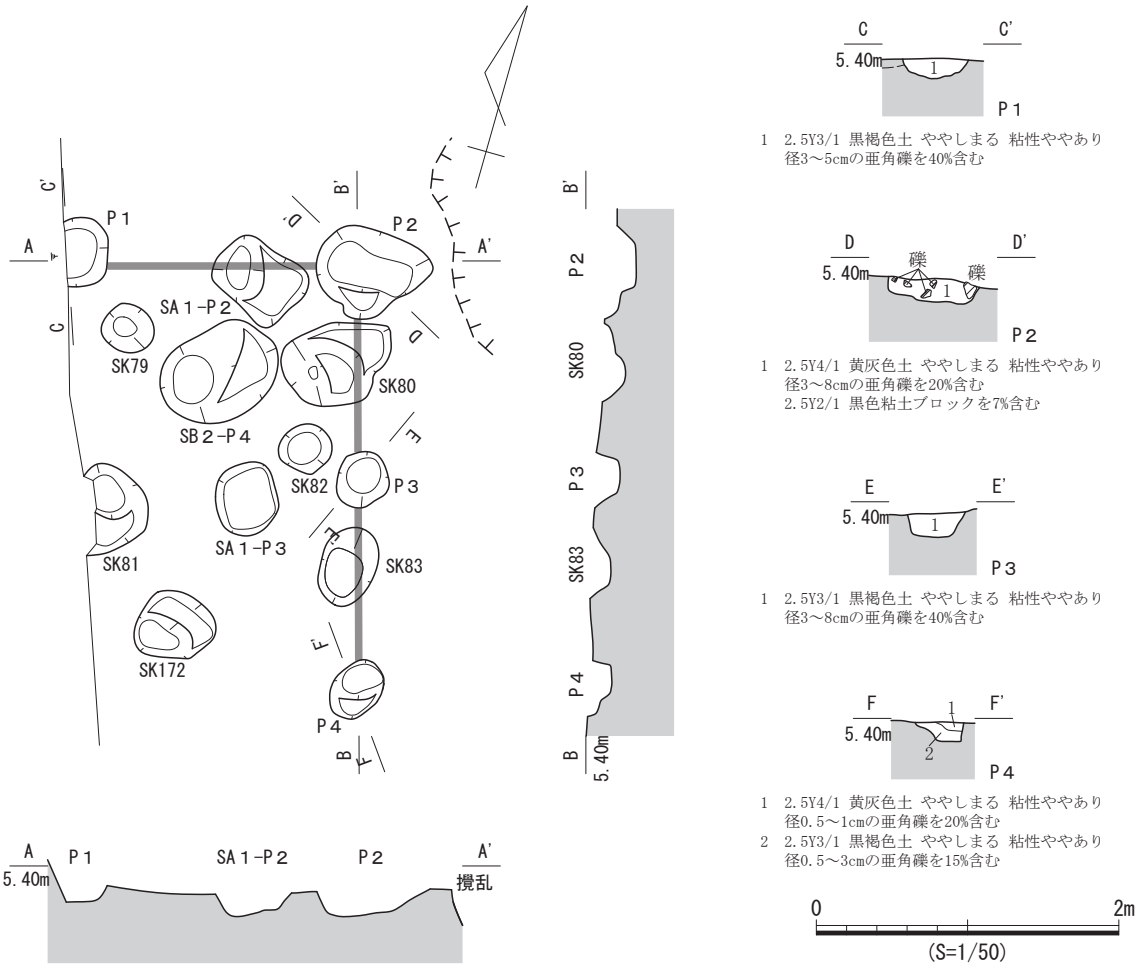


図 40　SA２遺構図

Ｐ１の北側に消失した柱穴が存在し、北側に柵が延びる可能性もある。

柱穴　柱穴の平面形は、Ｐ１とＰ３が円形、Ｐ２が方形である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認できなかった。埋土はいずれも単層であったが、Ｐ２の埋土にブロック土を含む。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、SB１と同一方向であることから、本遺構は１世紀後葉から２世紀中葉と考えられる。

SA２（図40）

検出状況　Ａ区AL６・AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。柱穴の平面形はＰ３では明瞭であったが、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ４では不明瞭であった。Ｐ２はSK78、Ｐ３はSK85、Ｐ４はSK88と重複する。本遺構はSK78、SK88より古く、SK85より新しい。

規模・形状　３基の柱穴（Ｐ２～Ｐ４）が直線的に並び、Ｐ２で西側に直角に屈曲し、Ｐ１へ続くＬ字形の柵である。柱間はＰ１－Ｐ２間は1.8m、Ｐ２－Ｐ４間は北から1.4m－1.4mである。長軸方位はＮ－17°－Ｗである。SB１、SA１と概ね同一方向である。Ｐ４の南側にSK94が位置することから南側に柵が延びる可能性もある。また、Ｐ４で直角に屈曲し、西側の発掘区外に延びる可能性もある。この場合は、

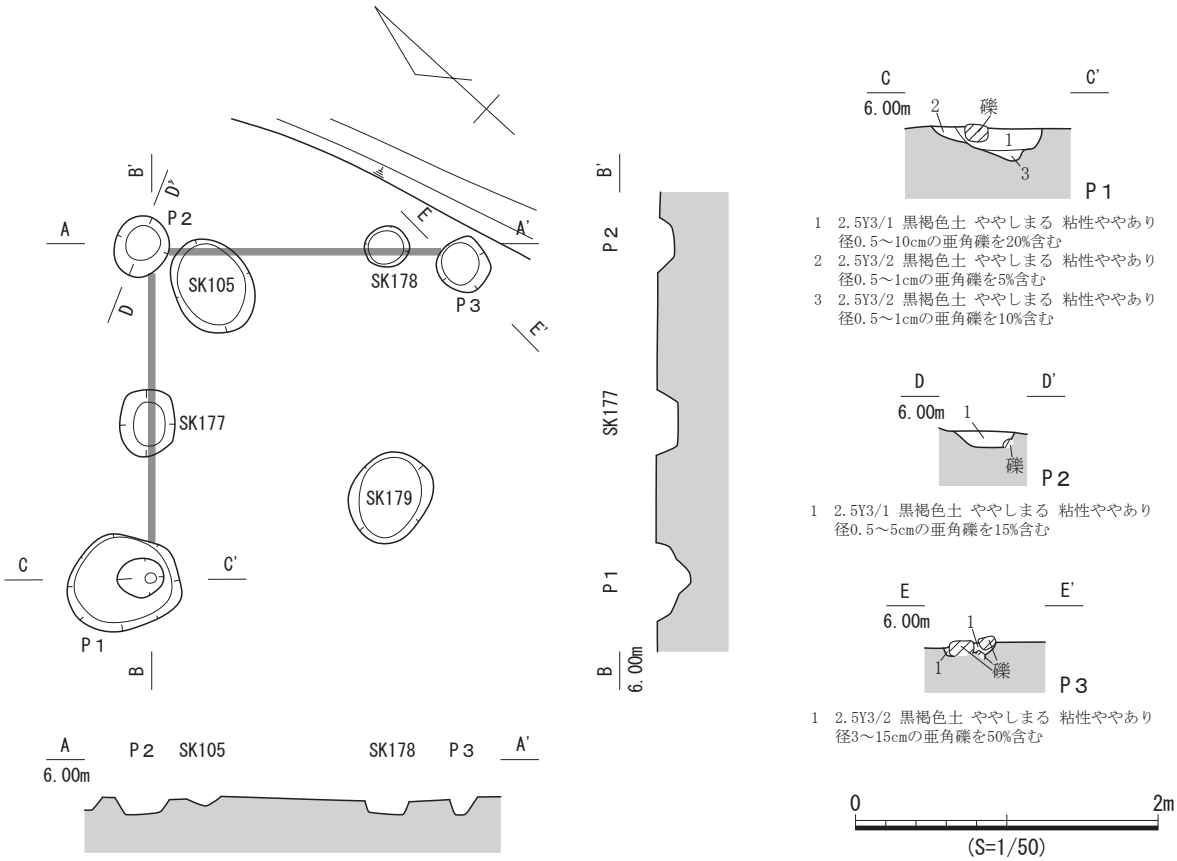


図 41　SA３遺構図

２間×１間以上の掘立柱建物（側柱建物）となる。

柱穴　柱穴の平面形は、P１、P３、P４が円形で、P２が不定形である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認できなかった。埋土は、P１～P３は単層で、P４は２層に分層した。

遺物出土状況　P１から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

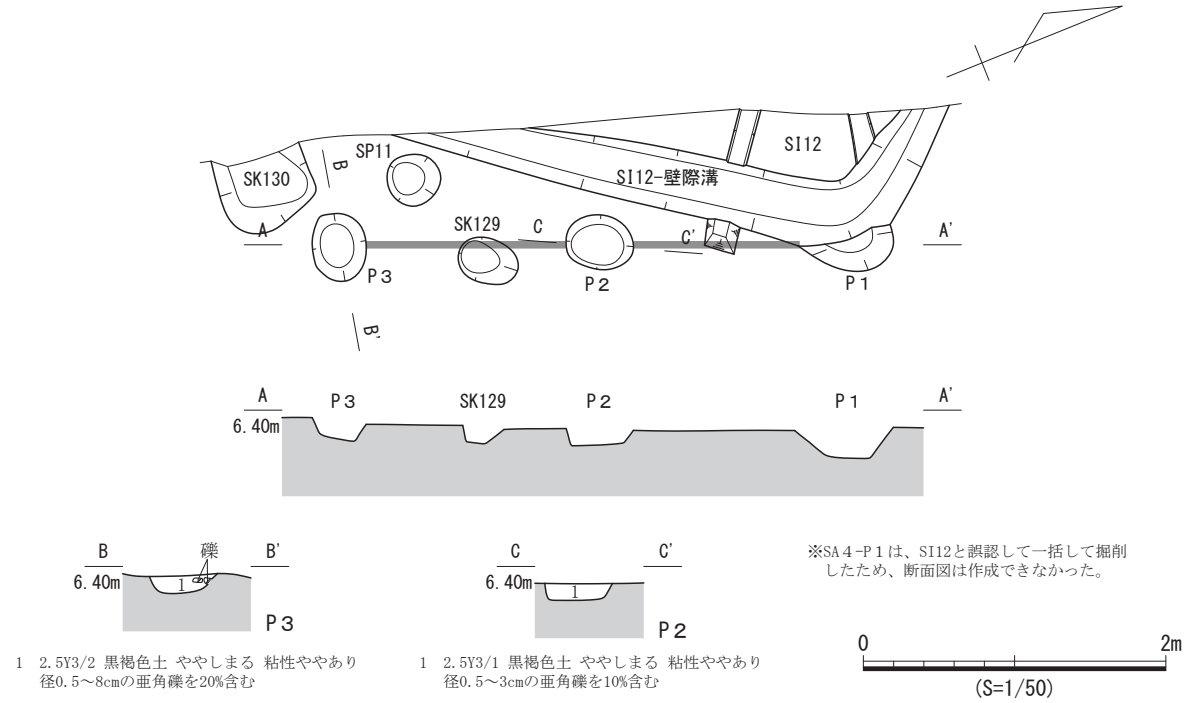
時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、SB１と同一方向であることから、本遺構は１世紀後葉から２世紀中葉と考えられる。

SA３（図41）

検出状況　C区AM４・AM５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。柱穴の平面形はP１では明瞭であったが、P２、P３では不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　３基の柱穴（P１～P３）が、P２を起点に直角に屈曲するＬ字形の柵である。柱間はP１－P２間は2.3m、P２－P３間は2.1mである。長軸方位はN－45°－Eである。P１の南西側及びP３の南東側は発掘区外に延びる可能性がある。

柱穴　柱穴の平面形は、P１が不定形、P２、P３が円形である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認できなかった。埋土は、P１は３層に分層した。平面形が不定形であること、１層と２、３層の堆積状況から複数の遺構が重複する可能性もある。P２、P３は単層であった。



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を10%含む

図 42　SA４遺構図

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SA４（図42）

検出状況　Ｄ区AS５･AT５グリッド､Ⅳ層上面で検出した｡柱穴の平面形はP１では不明瞭であったが、P２、P３では明瞭であった。P１はSI12と重複する。本遺構はSI12より古い。

規模･形状　３基の柱穴が直線的に並ぶ柵である｡全長3.4m､柱間距離は北から1.7m－1.7mである。方位は、N－22°－Eである。

柱穴　柱穴の平面形は、いずれも楕円形である。P２、P３では柱痕跡を確認できなかった。P１は断面図の作成ができなかったため状況は不明である。埋土は、P２、P３は単層であった。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SI12との重複関係と、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SA５（図43）

検出状況　Ｄ区BB５～BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。柱穴の平面形はP１、P２では明瞭であったが、P３では不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模･形状　３基の柱穴が直線的に並ぶ柵である｡全長4.8m､柱間距離は北から2.4m－2.4mである。方位は、N－30°－Eである。SA６と概ね同一方向である。P１の北東側は発掘区外となることから北東側に柵が延びる可能性もある。

柱穴　柱穴の平面形はいずれも円形である。柱痕跡は確認できなかった。埋土は単層であった。

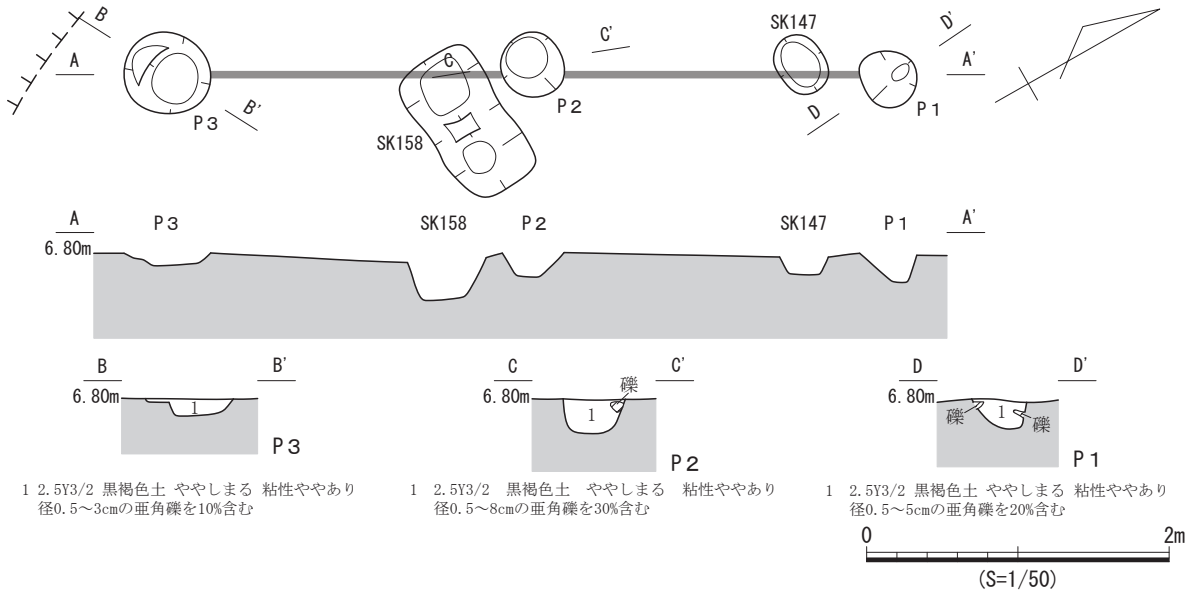


図 43　SA５遺構図

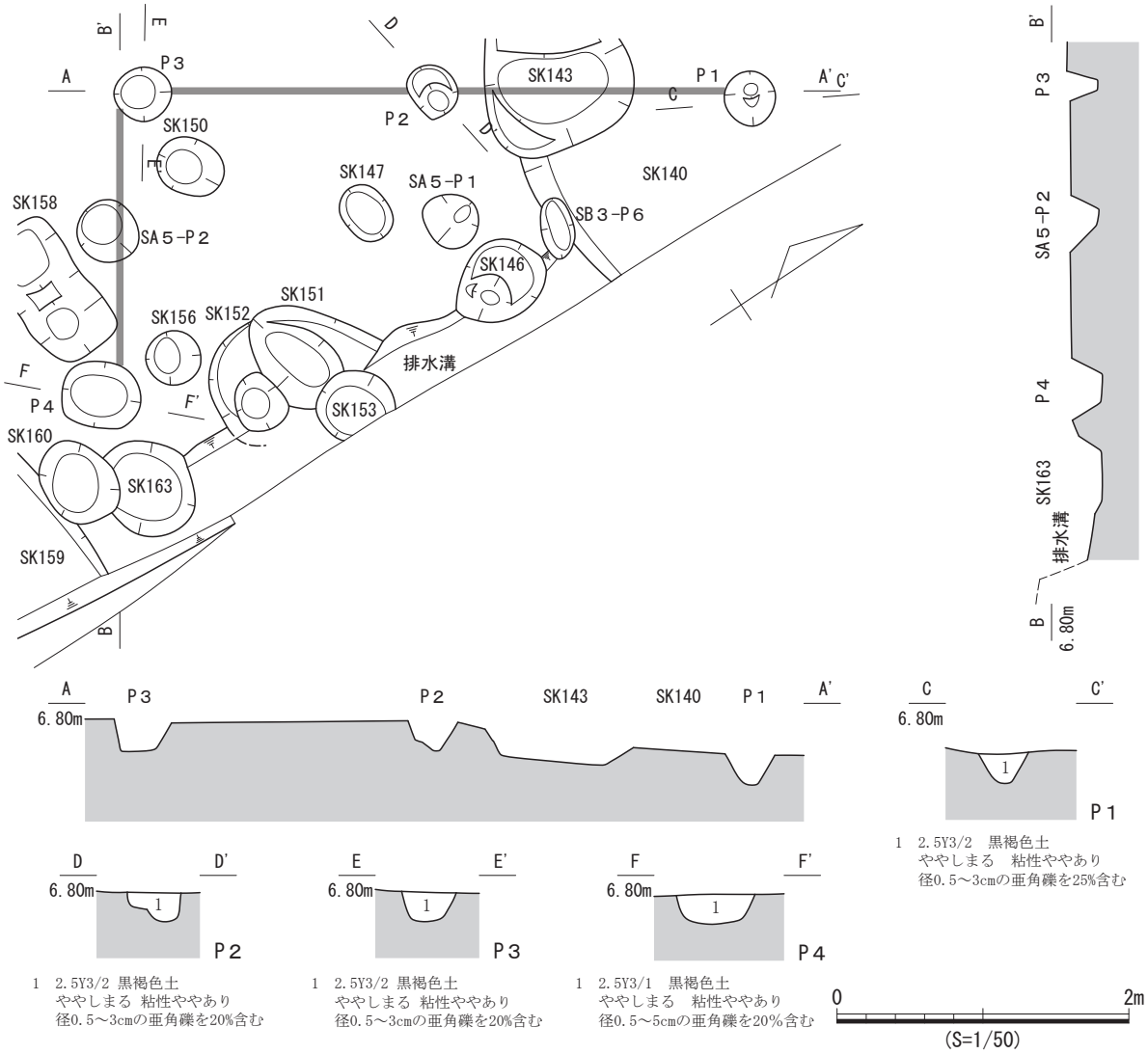


図 44　SA６遺構図

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、SA６と同一方向であることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SA６（図44）

検出状況　Ｄ区BA５・BB５グリッド、Ｐ１はSK140の底面、Ｐ２～Ｐ４はⅣ層上面で検出した。柱穴の平面形はＰ１、Ｐ２、Ｐ４では不明瞭であったが、Ｐ３では明瞭であった。Ｐ１はSK140と重複する。本遺構はSK140より古い。

規模・形状　３基の柱穴（Ｐ１～Ｐ３）が直線的に並び、Ｐ３で南東側に直角に屈曲し、Ｐ４へ続くＬ字形の柵である。柱間はＰ１－Ｐ３間は北から2.1ｍ－2.2ｍ、Ｐ３－Ｐ４間は2.1ｍである。長軸方位はＮ－34°－Ｅである。SA５と概ね同一方向である。Ｐ１の北東側は発掘区外となることからに北東側に柵が延びる可能性もある。また、Ｐ１で直角に屈曲し、南東側の発掘区外に延びる可能性もある。この場合は、２間×１間以上の掘立柱建物（側柱建物）となる。

柱穴　柱穴の平面形は、Ｐ１～Ｐ３が円形、Ｐ４が楕円形である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認できなかった。埋土はいずれも単層であった。

遺物出土状況　Ｐ１から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK140との重複関係と、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

４　柱穴

SP１（図45）

検出状況　Ｂ区AH２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK38と重複する。本遺構はSK38より古い。

規模・形状　長軸長0.36ｍ、短軸長0.30ｍ、深さ0.19ｍである。平面形は不定形である。柱痕跡は確認できなかったが、礎盤石を確認した。断面形は擂鉢状である。礎盤石下部の底面形は円形である。

埋土　３層に分層した。２層と３層の層界で礎盤石を確認した。３層が掘方埋土である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SP２（図45）

検出状況　Ｂ区AH３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.38ｍ、短軸長0.37ｍ、深さ0.31ｍである。平面形は円形である。柱痕跡は確認できなかった。断面形は擂鉢状で、西側が窪む。西側の窪みの底面形は円形である。西側の窪みは柱当たりの可能性がある。

埋土　２層に分層した。１層が西側の窪みの上部に厚く堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１

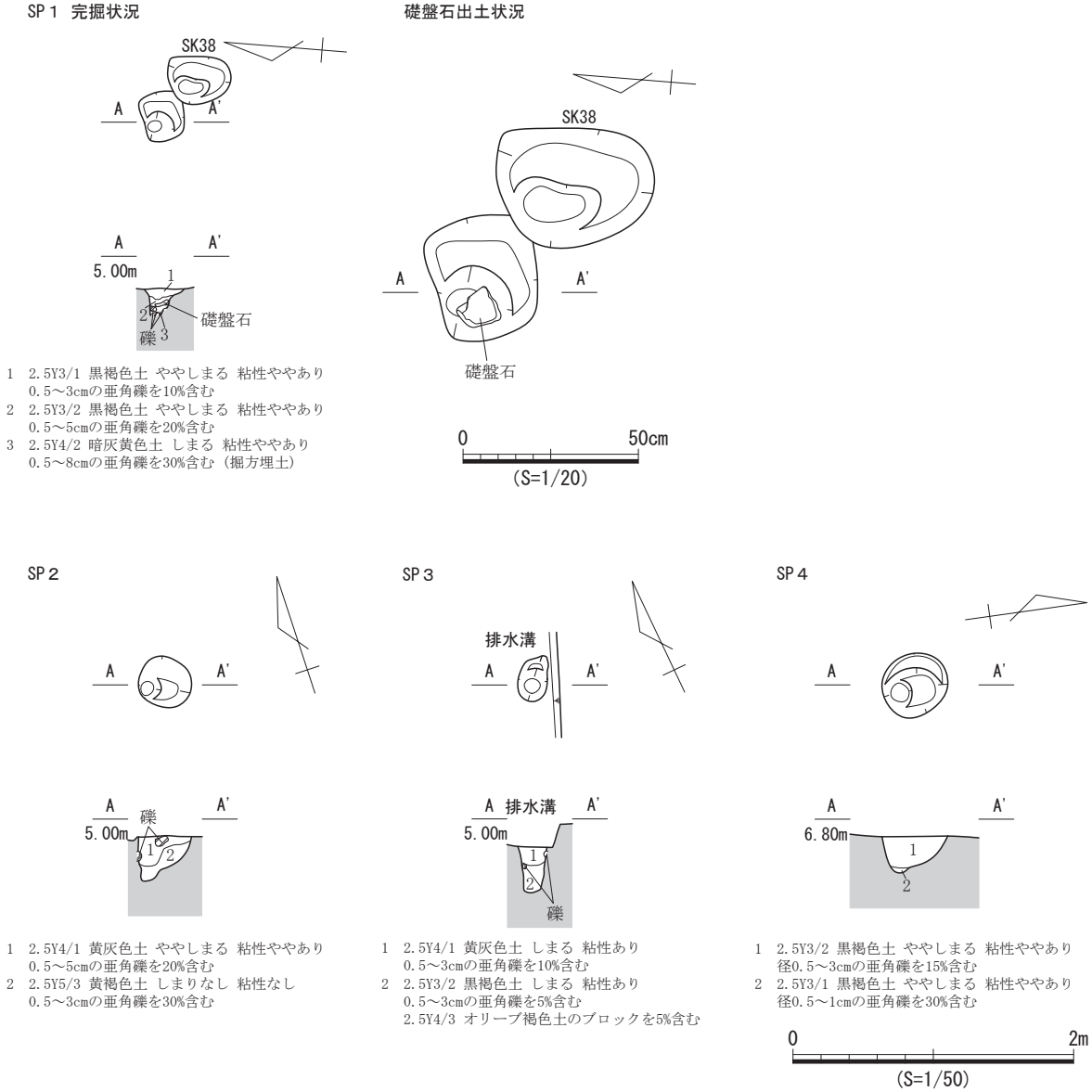


図 45　SP１～SP４遺構図

段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SP３（図45）

検出状況　B区AI１・AI２グリッド、Ⅳ層上面（排水溝底面）で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.30m、短軸長0.20m、深さ0.32mである。平面形は楕円形である。柱痕跡は確認できなかった。断面形は平坦である。底面形は円形である。

埋土　２層に分層した。１層と２層は水平に堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１

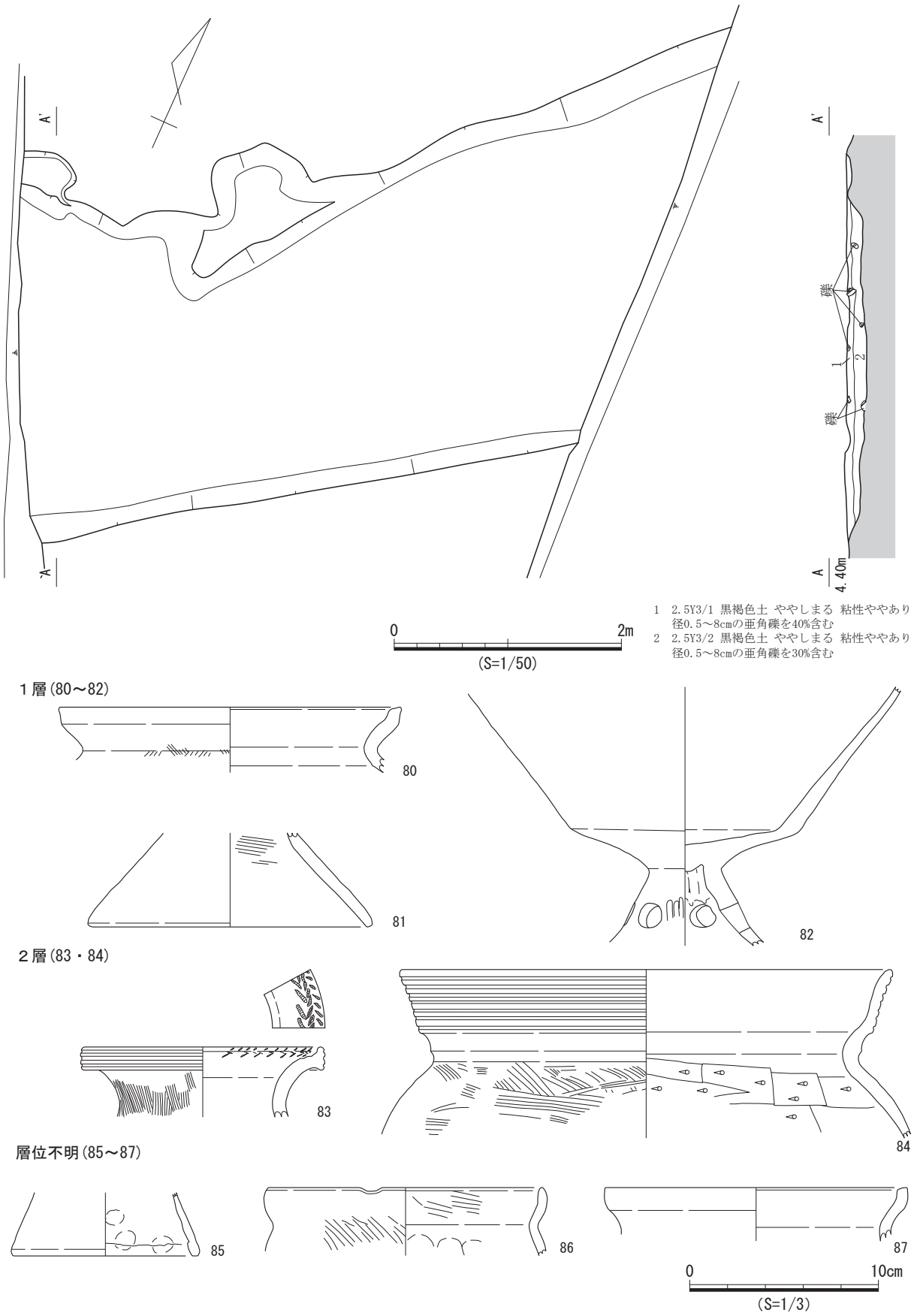


図 46　SD２遺構図・出土遺物実測図

段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SP４（図45）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.47ｍ、短軸長0.45ｍ、深さ0.26ｍである。平面形は円形である。柱痕跡は確認できなかった。断面形は擂鉢状で、南側が窪む。南側の窪みの底面形は円形である。南側の窪みは柱当たりの可能性がある。

埋土　２層に分層した。２層は南側の窪みに堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

５　溝

SD２（図46）

検出状況　Ａ区AD５～AE５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SI３、SK23と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　北東から南西方向に延び、北東側、南西側は発掘区外に続く。溝の北東側、南西側が発掘区外となり、全容は不明である。溝の平面形は、南辺では直線的であるが、北辺では東側は直線的であるが、西側に２箇所の突出部が確認でき、突出部で緩やかに屈曲する。２箇所の突出部にはそれぞれ平坦面が付属する。底面の標高は、北東端で3.98ｍ、南西端で4.07ｍを測り、北東に向かって緩やかに下がる。底面は概ね平坦であるが、やや凹凸がある。壁面は緩やかに開いて立ち上がる。

埋土　２層に分層した。流水の痕跡は確認できなかった。水平に堆積する。

遺物出土状況　１層から土師器198点（80～82）、２層から土師器114点（83、84）、層位不明の埋土から土師器133点(85～87)が散在して出土した。

出土遺物　土師器８点を図示した。80は受口系甕、81は高坏、87は受口系甕で、いずれも廻間Ⅰ式４段階である。84は北陸系の土器で、月影式（廻間Ⅰ式４段階併行）の甕である。遺物包含層（Ⅲ層）出土の323と同一個体と考えられる。82は有段高坏、83は加飾壺で、いずれも廻間Ⅱ式１段階である。85は廻間Ⅱ式のＳ字甕の台部である。86は廻間Ⅰ式３段階の受口系甕である。

時期　SI３との重複関係と図示した82、83から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SD３（図47）

検出状況　Ａ区AF５～AG５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK25～SK30と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　北東から南西方向に延び、北東側、南西側は発掘区外に続く。溝の南辺と、北辺の一部が攪乱坑と重複し、全容は不明である。南辺は攪乱坑により消失するが、Ａ－Ａ´断面の１層及び２層の南端が上方に立ち上がるため溝と判断した。溝の平面形は、北辺では概ね直線的である。底面の標高は、南西端、北東端でともに4.17ｍを測り、概ね水平である。底面は概ね平坦である。壁面はやや開いて立ち上がる。

埋土　２層に分層した。流水の痕跡は確認できなかった。水平に堆積する。

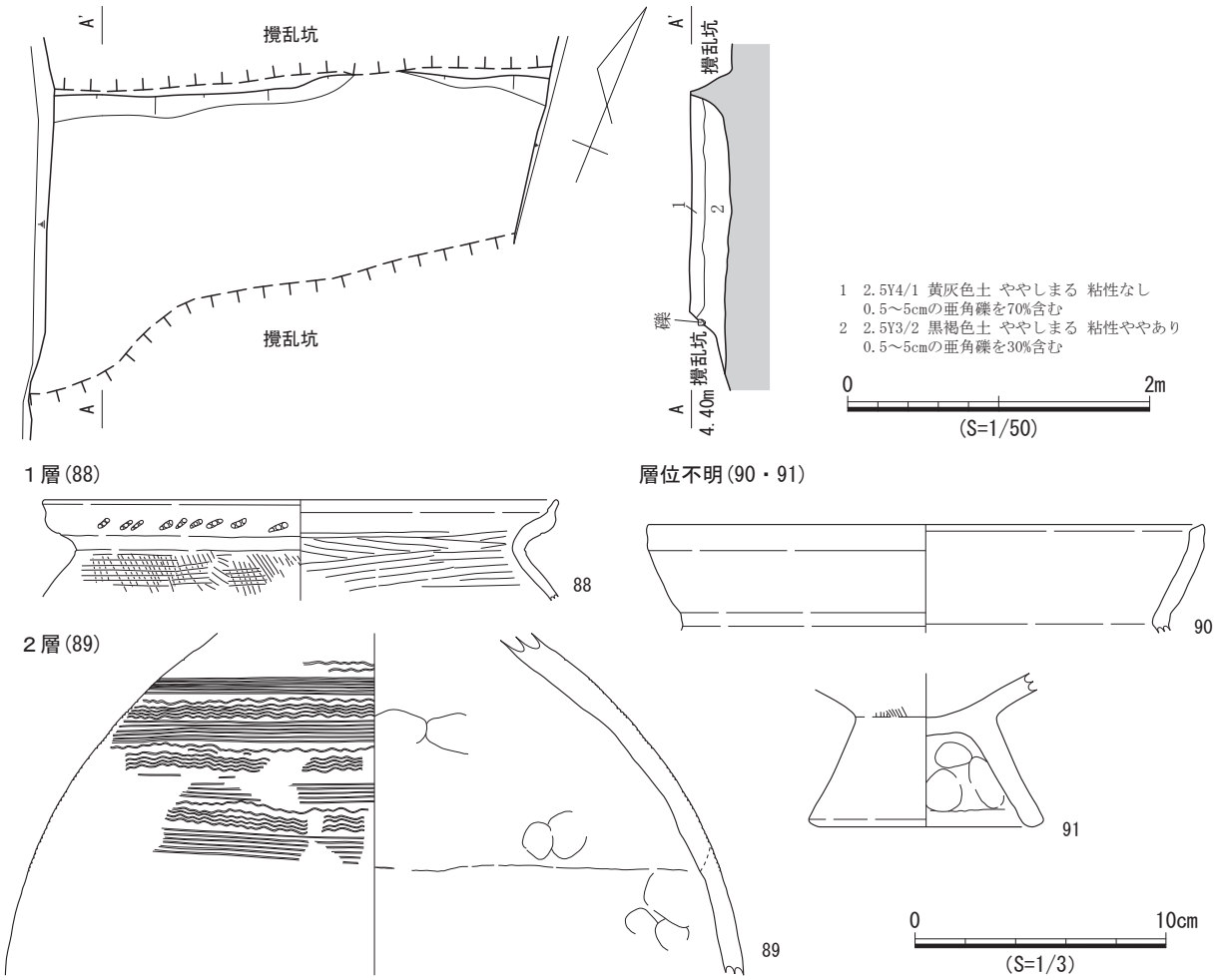


図 47　SD３遺構図・出土遺物実測図

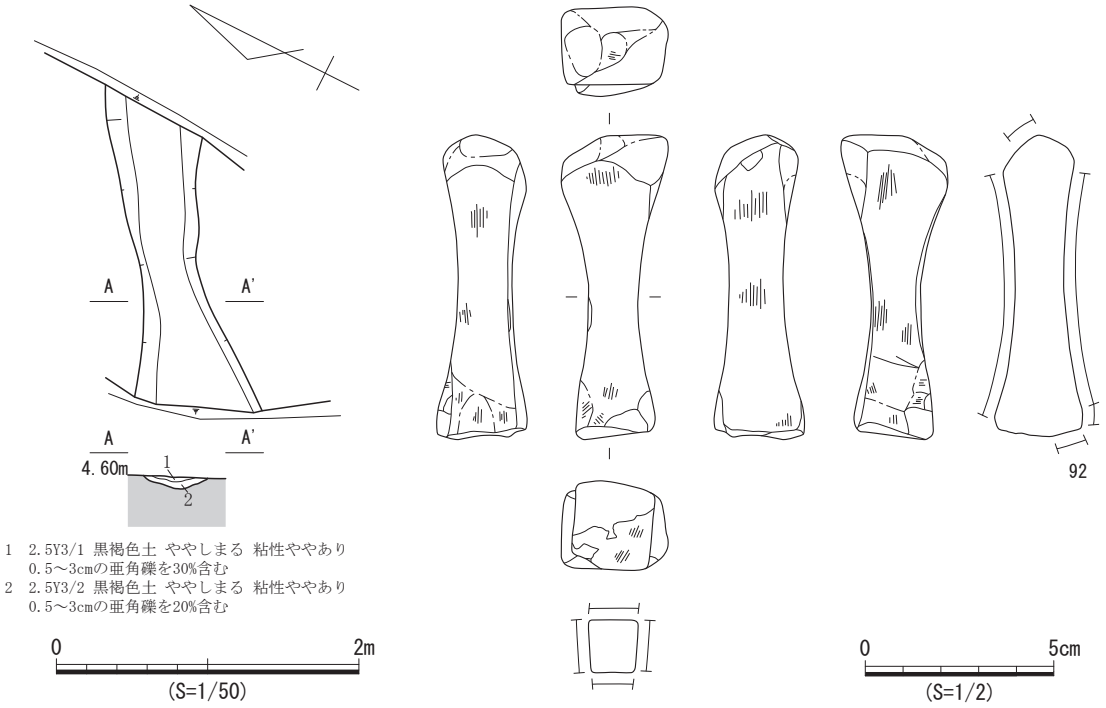


図 48　SD４遺構図・出土遺物実測図

遺物出土状況　１層から土師器10点（88）、２層から土師器５点（89）、層位不明の埋土から土師器55点(90、91)が散在して出土した。

出土遺物　土師器４点を図示した。88は廻間Ⅰ式２段階のＳ字甕０類である。89は廻間Ⅱ式１段階の加飾壺である。90は廻間Ⅰ式３段階の広口壺である。91は台付甕の台部である。

時期　SK30との重複関係と図示した89から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SD４（図48）

検出状況　Ａ区AG５・AG６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　北東から南西方向に延び、北東側、南西側は発掘区外に続く。溝の北東側、南西側が発掘区外となり、全容は不明である。溝の平面形は、検出した範囲の中央ではやや窄まるが、発掘区の東端及び西橋ではやや開く。底面の標高は、北東端で4.37ｍ、南西端で4.35ｍを測り、概ね水平である。底面は丸みを帯びる。壁面は緩やかに開く。

埋土　２層に分層した。流水の痕跡は確認できなかった。中央が窪む堆積である。

遺物出土状況　１層から土師器３点、砥石１点（92）、層位不明の埋土から土師器22点が散在して出土した。

出土遺物　砥石１点を図示した。92は凝灰岩製の仕上砥である。

時期　遺物や重複遺構からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SD５（図49）

検出状況　Ａ区AG５～AH６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。南側に位置するSD６、SD７とは、埋土が酷似していることから、同一の溝である可能性がある。また、出土遺物からSD５～SD７及びSU１はほぼ同時期と考えられることから、関連性の強い遺構群をなすと考えられる。

規模・形状　北東から南西方向に延び、北東側、南西側は発掘区外に続く。溝の北東側、南西側が発掘区外となり、全容は不明である。溝の平面形は、北辺はやや屈曲するが、南辺は断面図（Ａ－Ａ’）作成部分では確認できたものの、それ以外の部分は確認できなかったため上端及び下端の推定ラインを破線で表記した（第49図）。底面の標高は、北東端、南西端とも4.26ｍを測り、概ね水平である。底面は概ね平坦である。壁面は緩やかに開くが、北側の壁面は屈曲部が２段となり、平坦面が確認できる。

埋土　単層である。流水の痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況　埋土から土師器24点(93)が散在して出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。93は廻間Ⅱ式１段階の器台である。脚部は欠損しており、台部の脚部との境界付近に、「中」若しくは「甲」の文字若しくは記号が確認できる。文字とすると器台として正位の状態では上下が逆になる（図49）ことから、器台の脚部を折った後に書かれた可能性がある。

時期　図示した93から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SD６・SD７（図49～57）

検出状況　Ａ区AH６・AI６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。SD６、SD７ともに平面形は不明瞭であっ

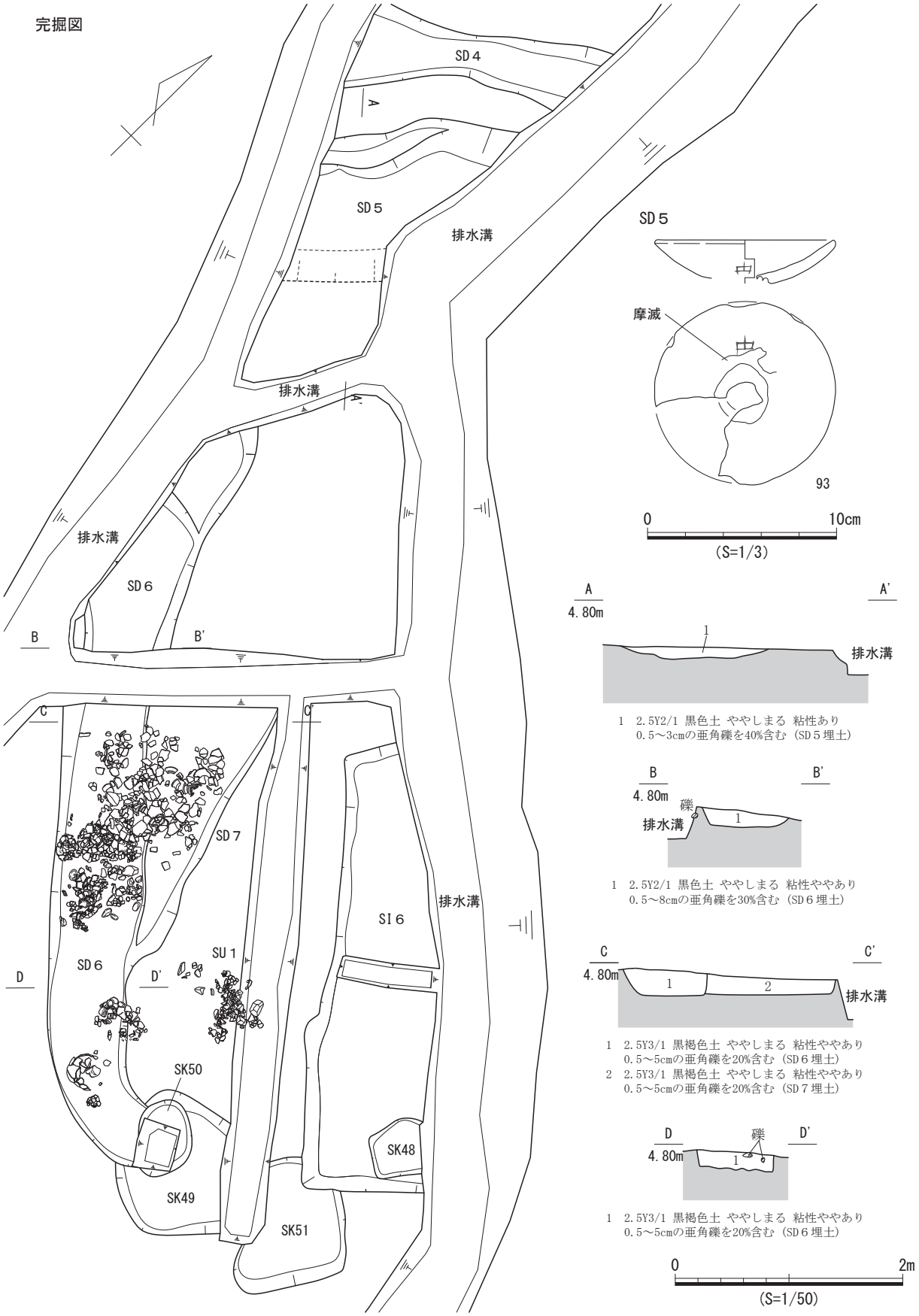


図 49　SD５～SD７遺構図・SD５出土遺物実測図

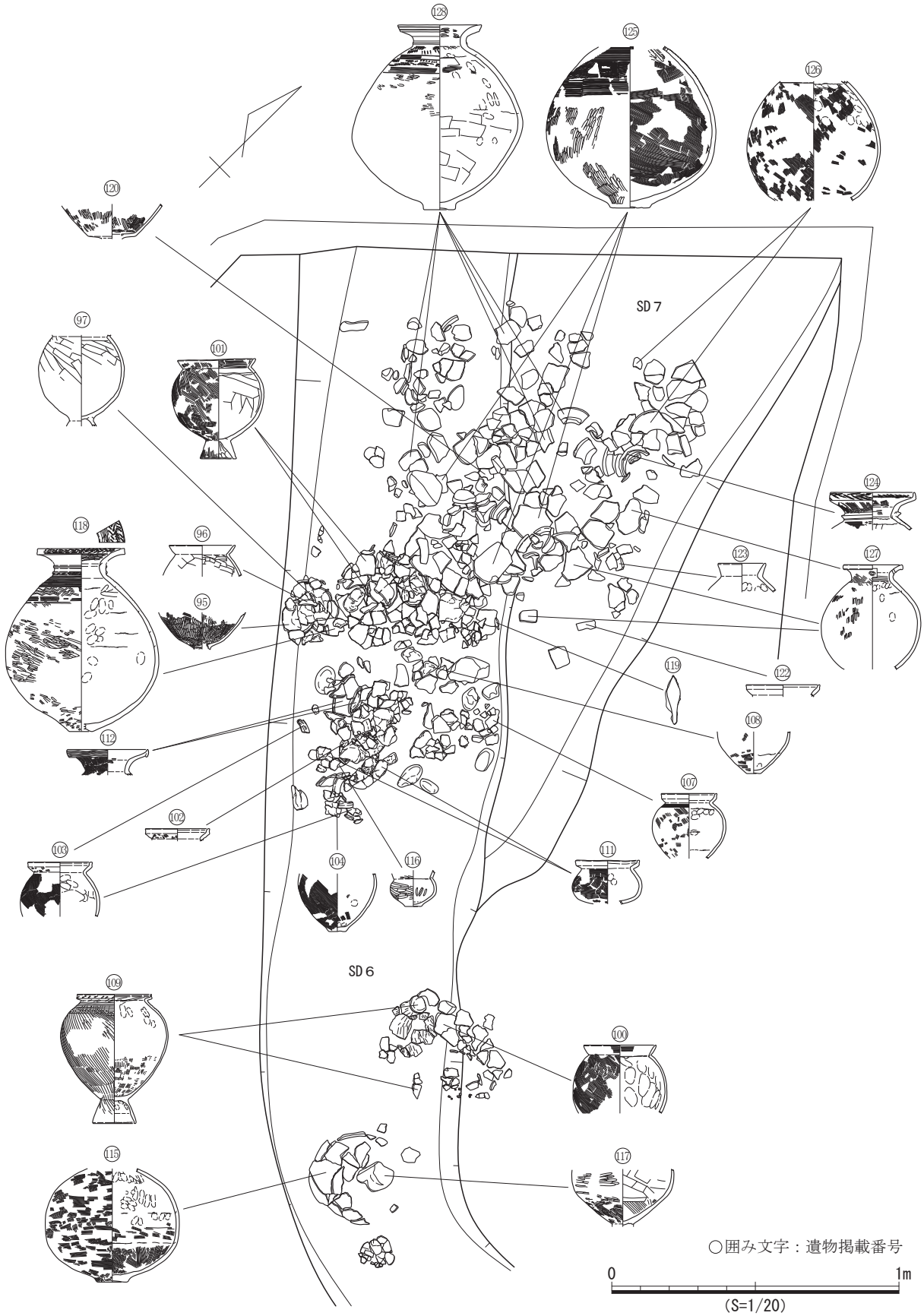


図 50　SD６・SD７出土状況図

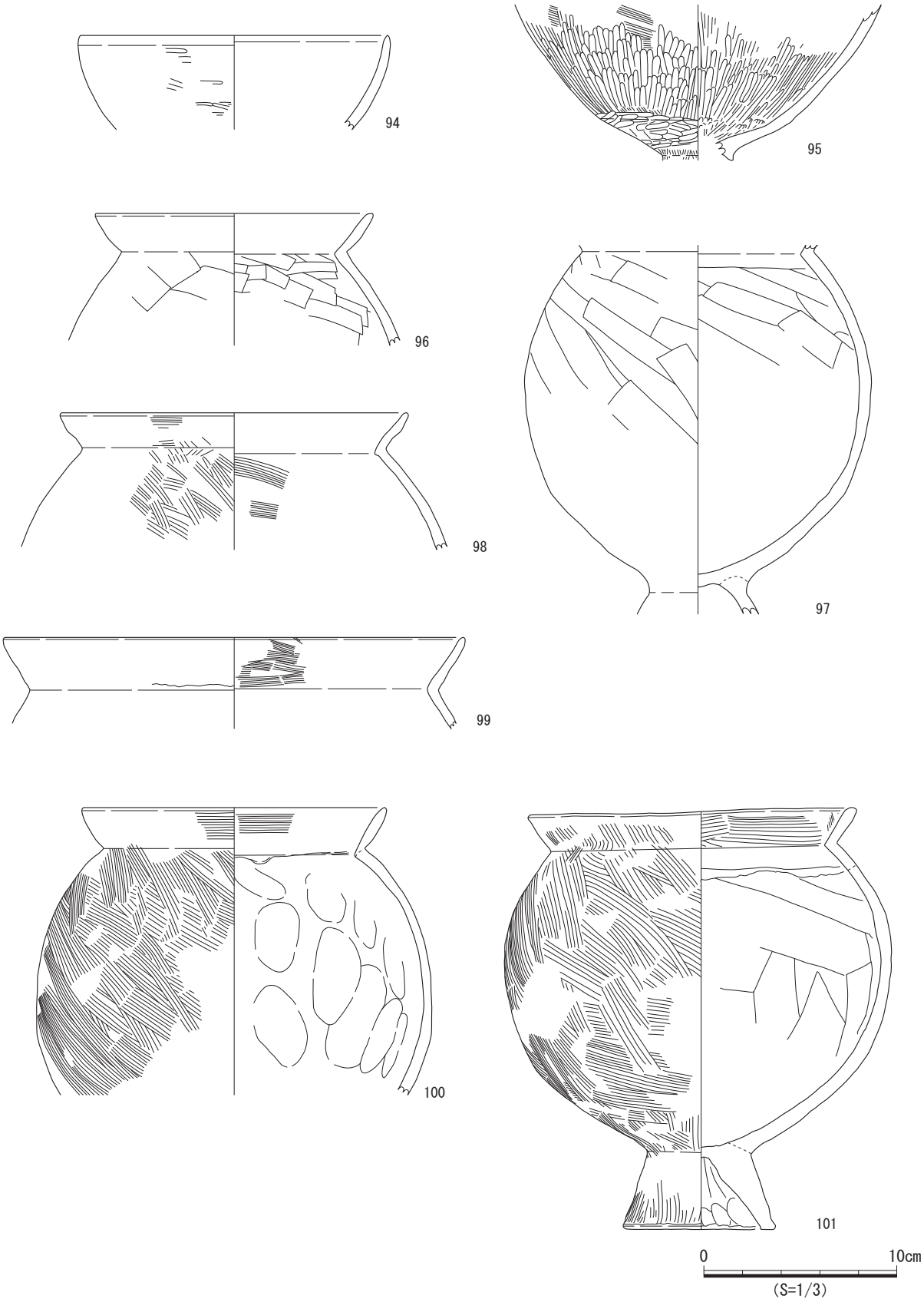


図 51　SD６出土遺物実測図（１）

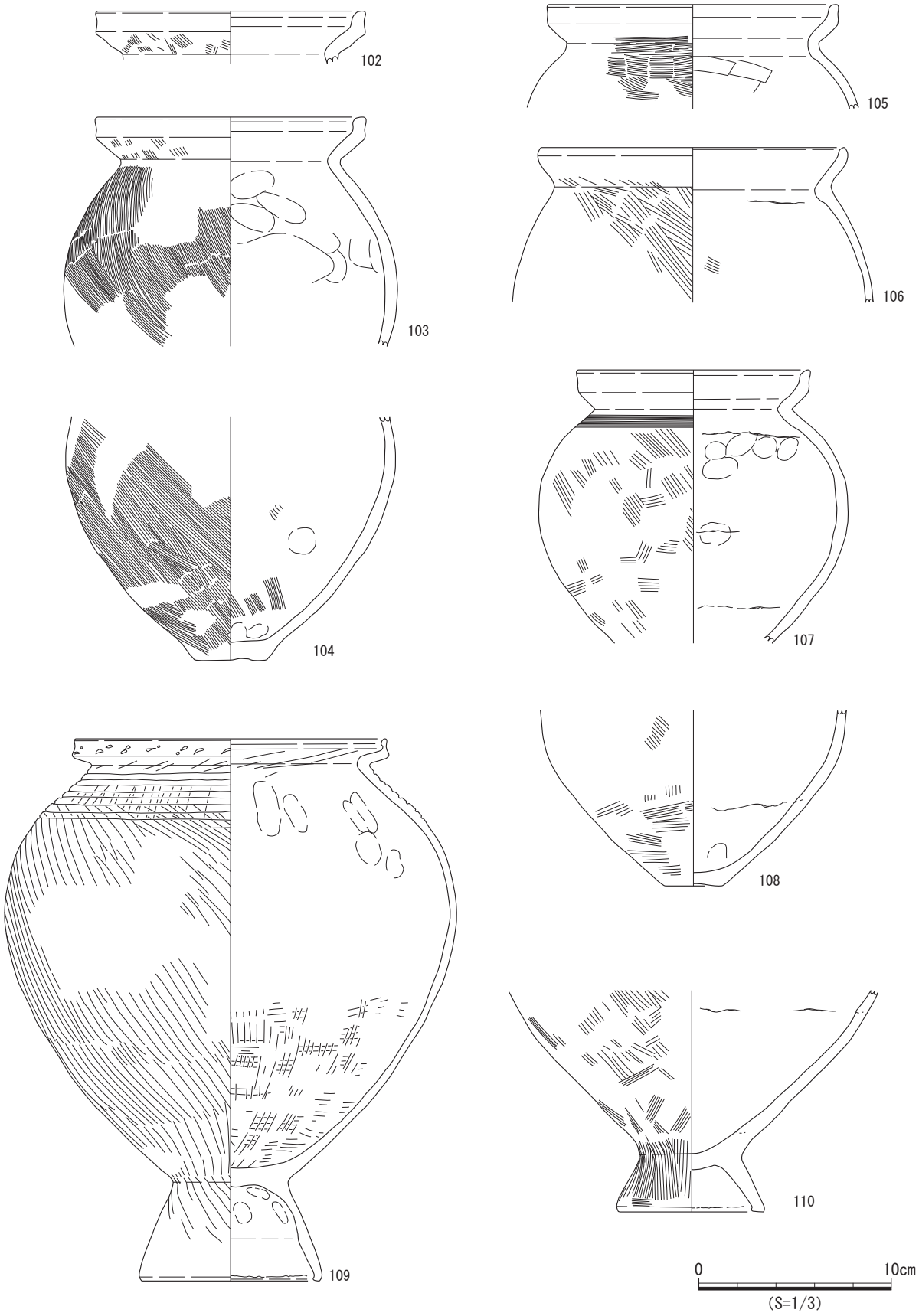


図 52　SD６出土遺物実測図（２）

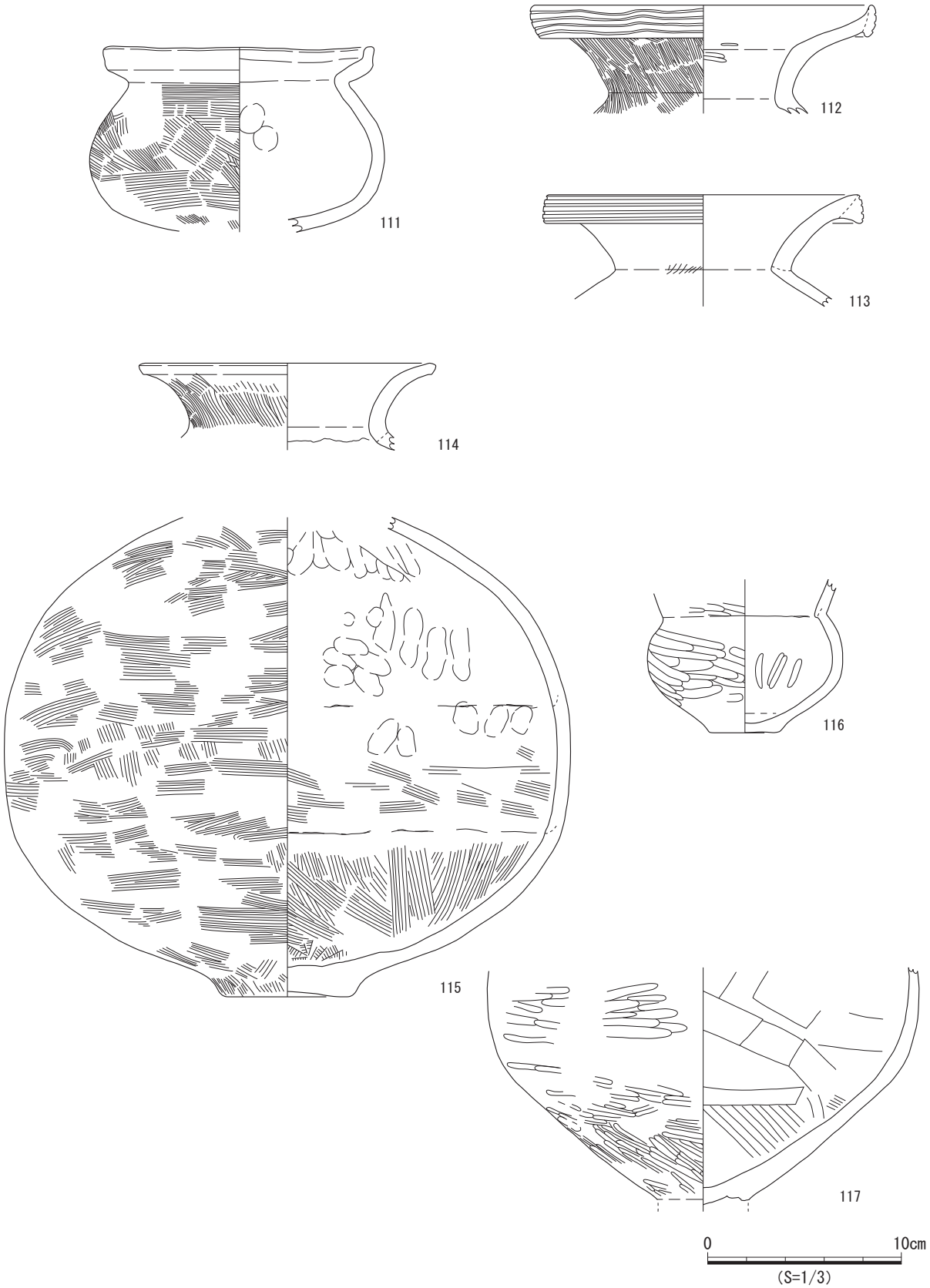


図 53　SD６出土遺物実測図（３）

た。SD６とSD７の重複関係について、断面図（Ｃ－Ｃ’）からはSD７が古く、SD６が新しいとの所見が得られるが、SD６とSD７の互いの出土破片が接合関係を持つ土師器(125、128)も存在することや、土器の出土状況(図50)で、重複する境界部分に土器の空白部分が存在せず、SD６、SD７にまたがる位置で出土した土器片も多数存在することから、SD６とSD７は互いに関連性の深い遺構としてまとめて報告する。本遺構（SD６・SD７）はSK49、 SK50と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。北側に隣接するSD５とは、検出した位置や埋土が酷似していることから、同一の溝である可能性がある。また、出土遺物からSD５～SD７、SU１は同時期であることから、関連性が強いと考えられる。

規模・形状　北西から南東方向に延び、北西側は発掘区外に続く。溝の北西側は発掘区外となり、南東側はSK49、SK50との重複により消失し、全容は不明である。なお、発掘区外でSD５と繋がる可能性がある。溝の平面形は、概ね直線的に延びるが、南東端で東に屈曲する。屈曲部でSK49、SK50と重複し、重複部分で溝は収束すると考えられる。底面の標高は、SD６の北西端で4.40m、南東端で4.50m、

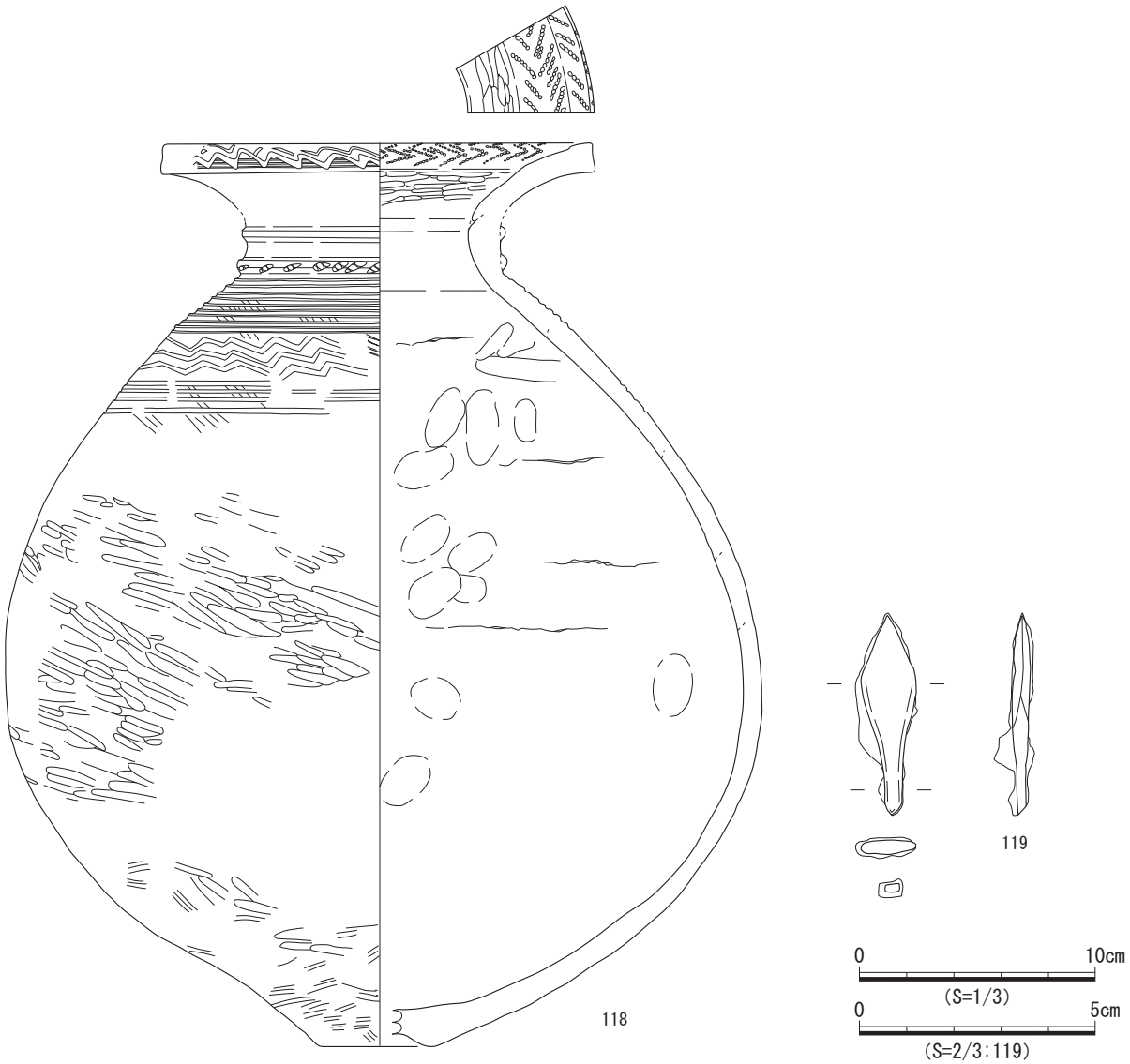


図 54　SD６出土遺物実測図（４）

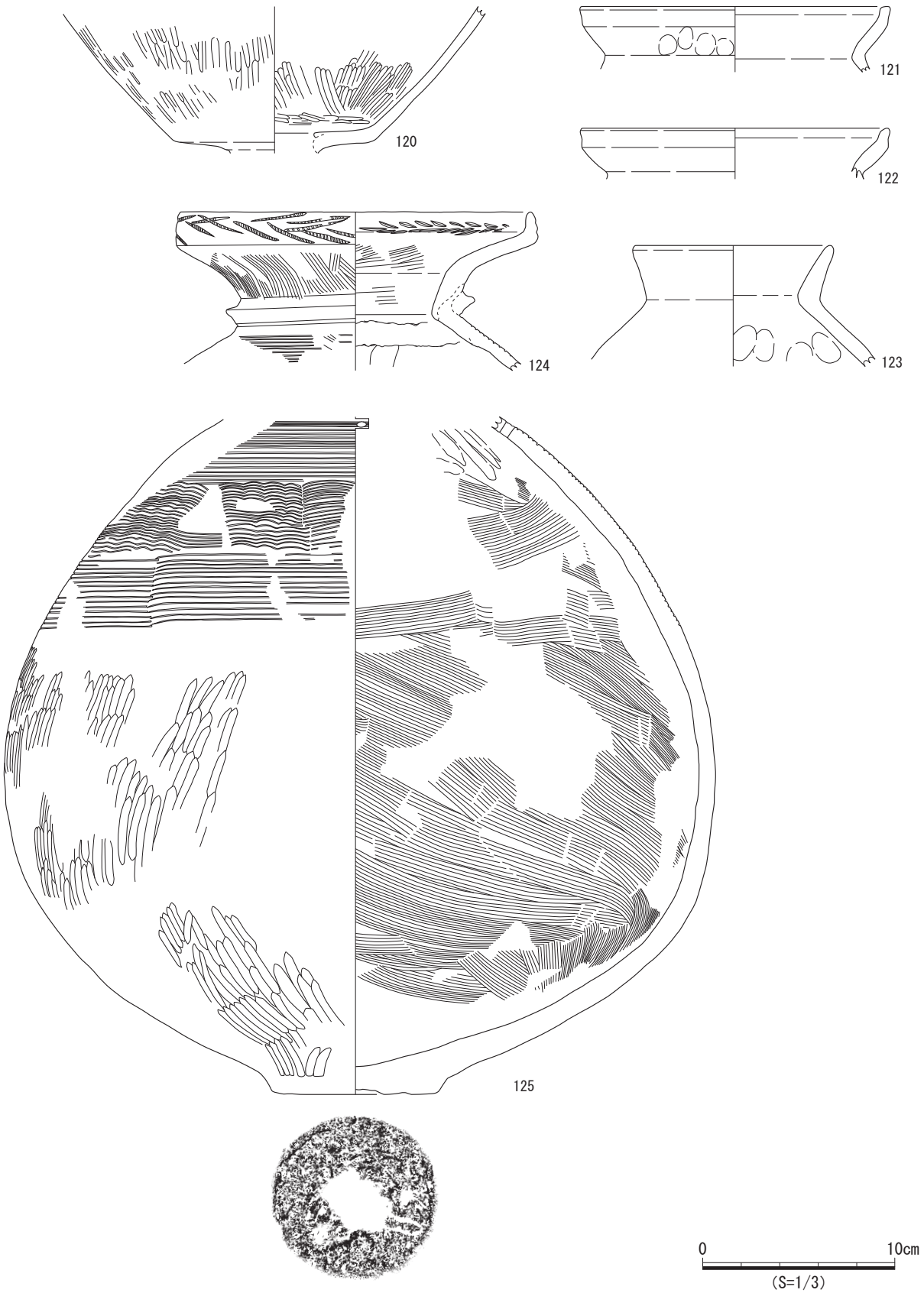
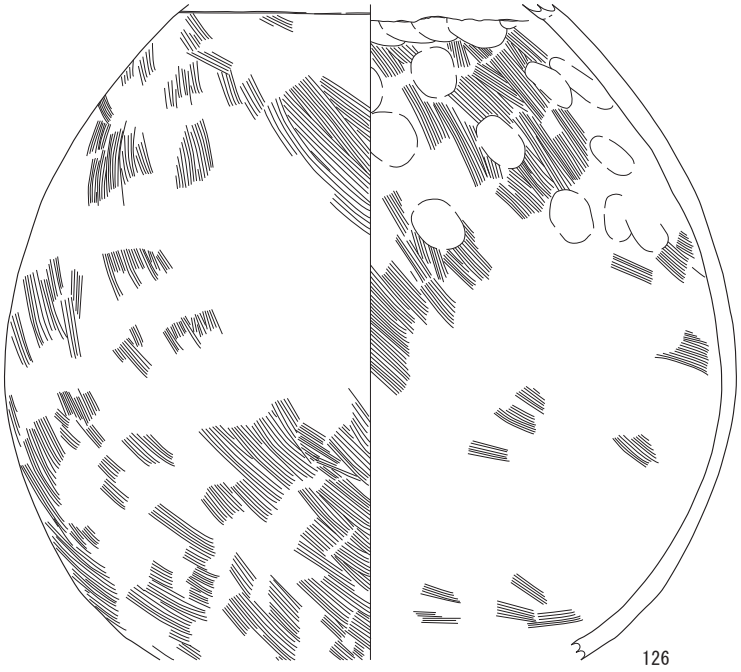
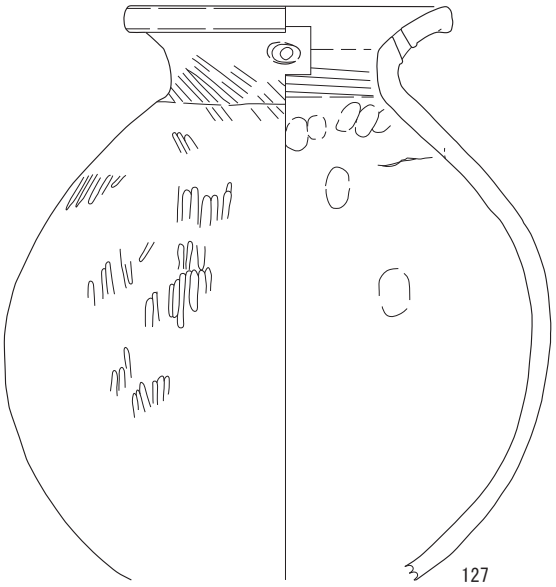


図 55　SD７出土遺物実測図（１）





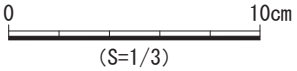


図 56　SD７出土遺物実測図（２）

SD７の北端で4.50m、南端で4.56mを測り、北西に向かって緩やかに下がる。SD６、SD７とも底面は概ね平坦で、壁面は緩やかに開く。SD６の北東側の壁面は２段となり、平坦面が確認できる。

埋土　SD６、SD７とも単層である。流水の痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況　SD６の埋土から土師器1,969点(94～118)、鉄鏃１点(119)が集中して出土した。SD７の埋土から土師器352点（120～128）が集中して出土した。出土状況図における各土器片は複数の土器をまとめて取り上げているため、実測遺物の各破片が出土状況図と突合できるものが少なく、詳細な出土状況は不明である。突合できた接合状況（図50）からは、離れた出土地点の接合関係も確認でき、小破片も多いことから、人為的に土器を割って遺構内に廃棄した可能性がある。

出土遺物　発掘調査段階で別遺構として遺物を取り上げているため、SD６とSD７の出土遺物を分けて記載するが、これらの土器は一括性が高いと考えられる。SD６出土遺物は土師器25点、鉄鏃１点を図示した。SD７出土遺物は土師器９点を図示した。いずれも廻間Ⅱ式１段階で、94は椀形高坏、95は有段高坏である。96～101はく字甕で、このうち96、97は同一個体と考えられる。102～104、107～108は受口系平底甕で、それぞれ同一個体と考えられる。105、106は受口系甕、109はＳ字甕Ａ類、110は台

図 57　SD７出土遺物実測図（３）

付甕、111は受口系鉢、112、113は加飾壺、114～116は広口壺、117は台付壺、118は柳ケ坪型壺の祖型と考えられる加飾壺、119は鉄鏃である。120は有段高坏、121、122は受口系甕、126は甕、123、127は広口壺である。127は頸部に穿孔が確認できる。124、125、128は加飾壺で、このうち124、125は同一個体で、柳ケ坪型壺の祖型と考えられる。125の体部上部、頸部近くに穿孔が確認できる。

時期　図示した94～118、120～128から、SD６、SD７とも３世紀中葉と考えられる。

６　土坑

SK１（図58）

検出状況　Ａ区AC４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の北側及び西側が発掘区外となり、全容は不明である。検出部分で長軸長1.07m、短軸長0.88m、深さ0.37mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。ほぼ水平に堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器７点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK２（図58）

検出状況　Ａ区AC４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.77m、短軸長0.54m、深さ0.20mを測る。平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。１層は土坑の東側に偏って堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK６（図58）

検出状況　Ａ区AC４・AD４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK７と重複する。本遺構はSK７より新しい。

規模・形状　土坑の西側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分で長軸長0.87m、短軸長0.40m、深さ0.10mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　３層に分層した。層界が波状に乱れることから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK９（図58）

検出状況　Ａ区AD４グリッド、SI２埋土上面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SI２と重複する。本遺構はSI２より新しい。

規模・形状　長軸長1.18m、短軸長0.89m、深さ0.05mを測る。平面形は円形である。掘方が浅く、壁面の傾斜は、南側ではほぼ角度なく立ち上がるが、北側は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器19点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI２との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK11（図58）

検出状況　Ａ区AC５・AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK12と重複する。本遺構はSK12より新しい。

規模・形状　長軸長0.78m、短軸長0.52m、深さ0.05mを測る。平面形は円形である。掘方が浅く、壁面の傾斜は、南側は緩やかに立ち上がるが、北側は２段の掘り込みで、下段は垂直に立ち上がり、上段はほぼ角度なく立ち上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器５点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK12（図58）

検出状況　Ａ区AC５・AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK11と重複する。本遺構はSK11より古い。

規模・形状　土坑の北側がSK11により消失する。検出部分で長軸長0.50m、短軸長0.44m、深さ0.08mを測る。平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器３点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

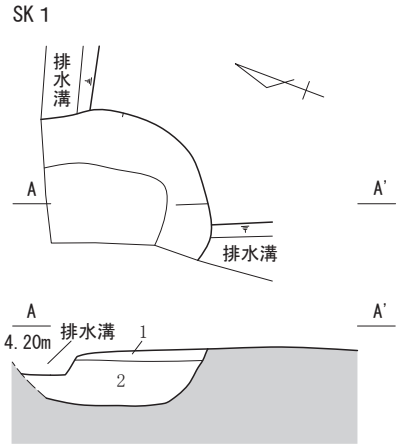
時期　出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK13（図58）

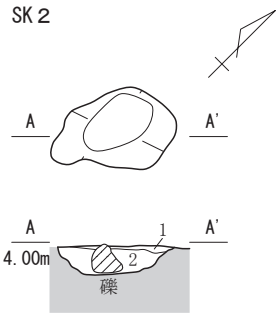
検出状況　Ａ区AC５・AD５グリッド、SI２埋土上面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SI２、SK20と重複する。本遺構はSI２、SK20より新しい。

規模・形状　長軸長2.18m、短軸長2.04m、深さ0.06mを測る。平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

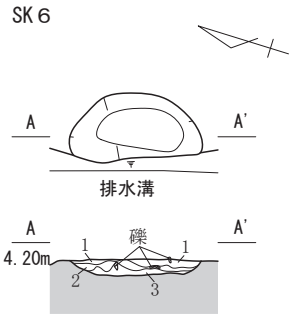
埋土　単層である。



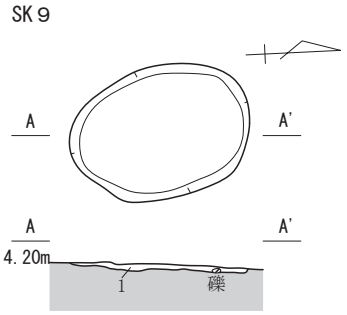
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を30%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を20%含む



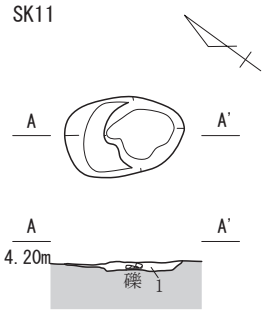
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を15%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を10%含む



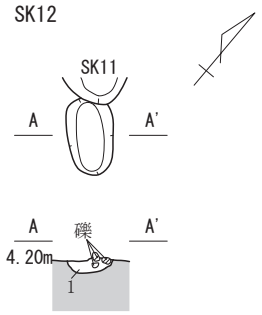
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～1cmの亜角礫を10%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を10%含む
3　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
　0.5～3cmの亜角礫を20%含む



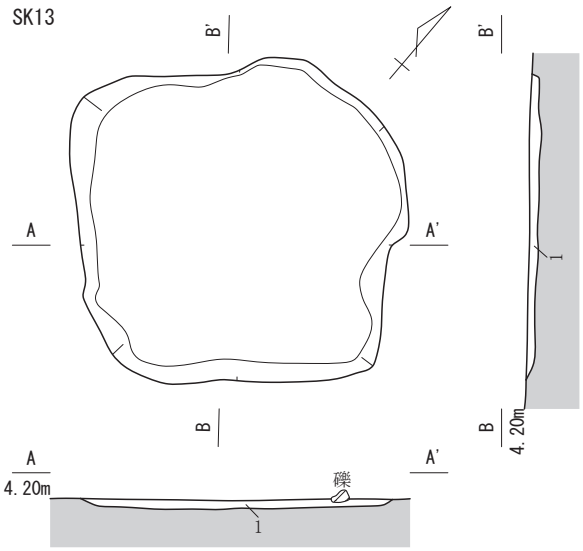
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～3cmの亜角礫を30%含む



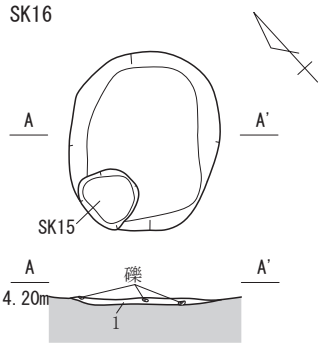
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を30%含む



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～10cmの亜角礫を10%含む



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～8cmの亜角礫を30%含む



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　0.5～5cmの亜角礫を20%含む

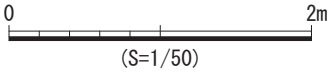


図 58　SK１・SK２・SK６・SK９・SK11 ～ SK13・SK16 遺構図

遺物出土状況　埋土から土師器３点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI２、SK20との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK16（図58）

検出状況　Ａ区AD４・AD５グリッド、SI２埋土上面（Ⅳ層上面）及びⅣ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SI２、SK15と重複する。本遺構はSK15より古く、SI２より新しい。

規模・形状　土坑の南西側がSK15により消失する。検出部分で長軸長1.18m、短軸長0.98m、深さ0.05mを測る。平面形は楕円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器４点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI２、SK15との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK19（図59）

検出状況　Ａ区AD５グリッド、SI２底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SI２、SK18と重複する。本遺構はSI２より古く、SK18より新しい。

規模・形状　長軸長0.61m、短軸長0.49m、深さ0.24mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。ほぼ水平に堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SI２、SK18との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK20（図59）

検出状況　Ａ区AD５グリッド、SI２埋土上面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭で、SK13との重複部分は検出できなかった。SI２、SK13と重複する。本遺構はSK13より古く、SI２より新しい。

規模・形状　土坑西側のSK13との重複部分を検出できなかったため、全容は不明である。検出部分で長軸長2.62m、短軸長2.27m、深さ0.06mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器13点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI２、SK13との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK21（図59）

検出状況　Ａ区AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.34m、短軸長0.33m、深さ0.22mを測る。平面形は円形である。西側が２段に掘り込まれる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　２層に分層した。ほぼ水平に堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK27（図59）

検出状況　Ａ区AF５・AF６グリッド、SD３底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SD３、SK28と重複する。本遺構はSD３より古く、SK28より新しい。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となり、南側が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.38m、短軸長0.96m、深さ0.05mを測る。平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SD３との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK30（図59）

検出状況　Ａ区AG５グリッド、SD３底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SD３と重複する。本遺構はSD３より古い。

規模・形状　土坑の西側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分で長軸長0.42m、短軸長0.39m、深さ0.16mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は、北側はほぼ垂直に立ち上がるが、南側は攪乱坑により消失し、不明である。底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は壁面から底面にかけて、Ｕ字状に堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器１点(129)が出土した。129は１層の上部で確認したことから、重複するSD３に帰属する可能性もある。

出土遺物　土師器１点を図示した。129は山中Ⅱ式３段階の高坏である。

時期　SD３との重複関係と図示した129から、本遺構は２世紀中葉と考えられる。

SK31（図59）

検出状況　Ｂ区AG２グリッド、SI４底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SI４、SK33と重複する。本遺構はSI４より古く、SK33より新しい。

規模・形状　長軸長0.58m、短軸長0.49m、深さ0.11mを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器２点(130)が散在して出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。130は廻間Ⅰ式１段階から２段階の台付甕である。

時期　図示した130から、本遺構は２世紀中葉と考えられる。

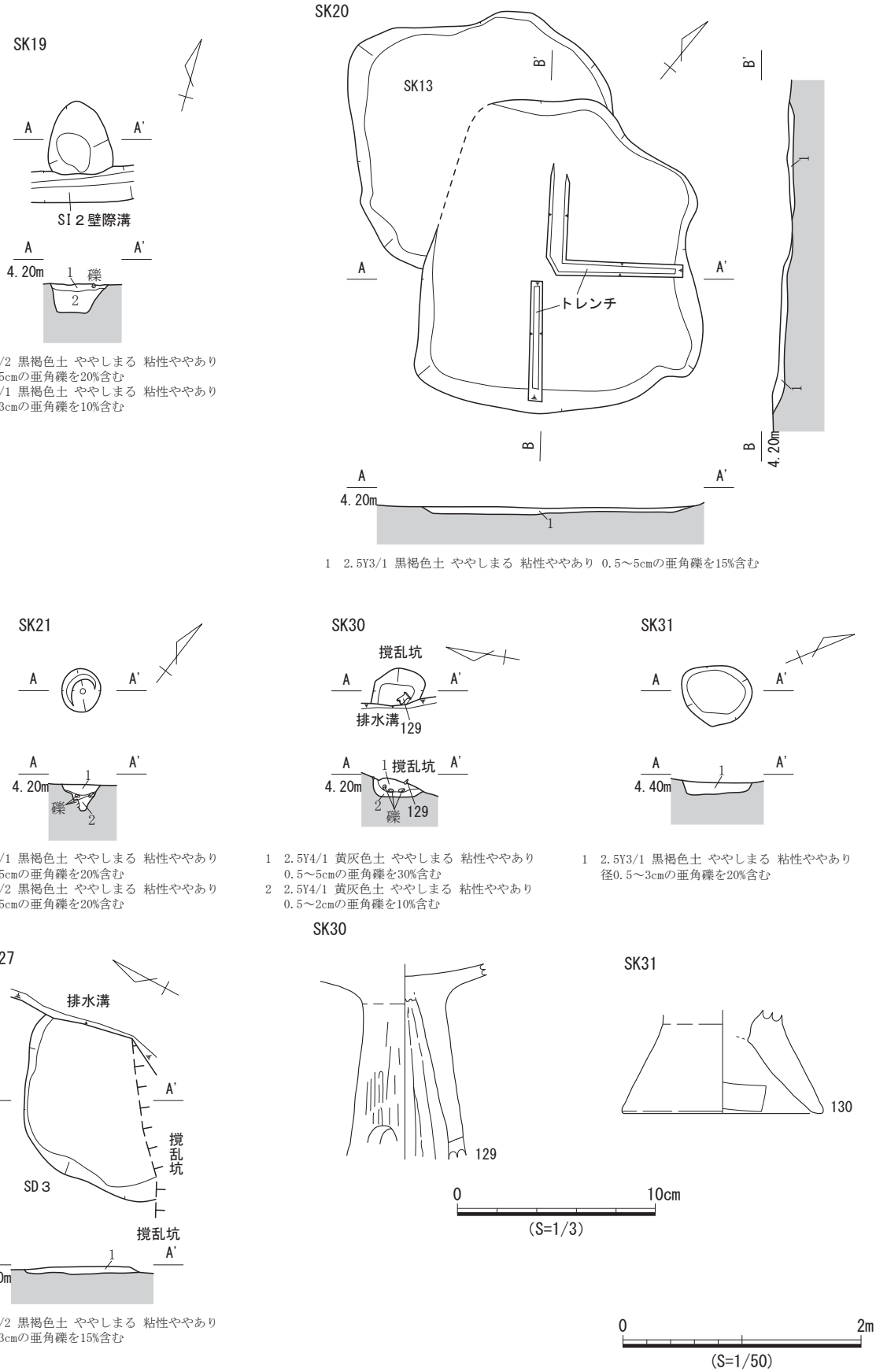


図 59　SK19 ～ SK21・SK27・SK30・SK31 遺構図・SK30・SK31 出土遺物実測図

SK35（図60）

検出状況　Ｂ区AG３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.39ｍ、短軸長0.35ｍ、深さ0.15ｍを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK37（図60）

検出状況　Ｂ区AG３・AH３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SI５、SK36と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となり、西側がSK36、南側がSI５により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.62ｍ、短軸長1.30ｍ、深さ0.19ｍを測る。平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　土坑北側の埋土から土師器24点(131)がまとまって出土した。このほかに土師器55点(132～134)が散在して出土した。このうち、131は高坏の坏部が、横位で潰れた状態で出土した。また、131の北側で大型の亜角礫を確認したが、131との関連は不明である。131の出土状況から、132～134は混入と判断した。

出土遺物　土師器４点を図示した。131は山中Ⅱ式２段階の高坏である。132、133は廻間Ⅲ式１段階の壺である。134は廻間Ⅰ式３段階の壺である。

時期　SI５との重複関係と図示した131から、本遺構は２世紀後葉と考えられる。

SK38（図60）

検出状況　Ｂ区AH２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SP１と重複する。本遺構はSP１より新しい。

規模・形状　長軸長0.43ｍ、短軸長0.33ｍ、深さ0.21ｍを測る。平面形は楕円形である。壁面の傾斜は緩やかで、２段の掘り込みとなっている。底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。掘り込みの段を層界とし、１層は上段、２層は下段にほぼ水平に堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SP１との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK40（図60）

検出状況　Ｂ区AH２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK43、SK195と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　長軸長1.56ｍ、短軸長1.25ｍ、深さ0.66ｍを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、２段の掘り込みとなっている。底面は円形である。

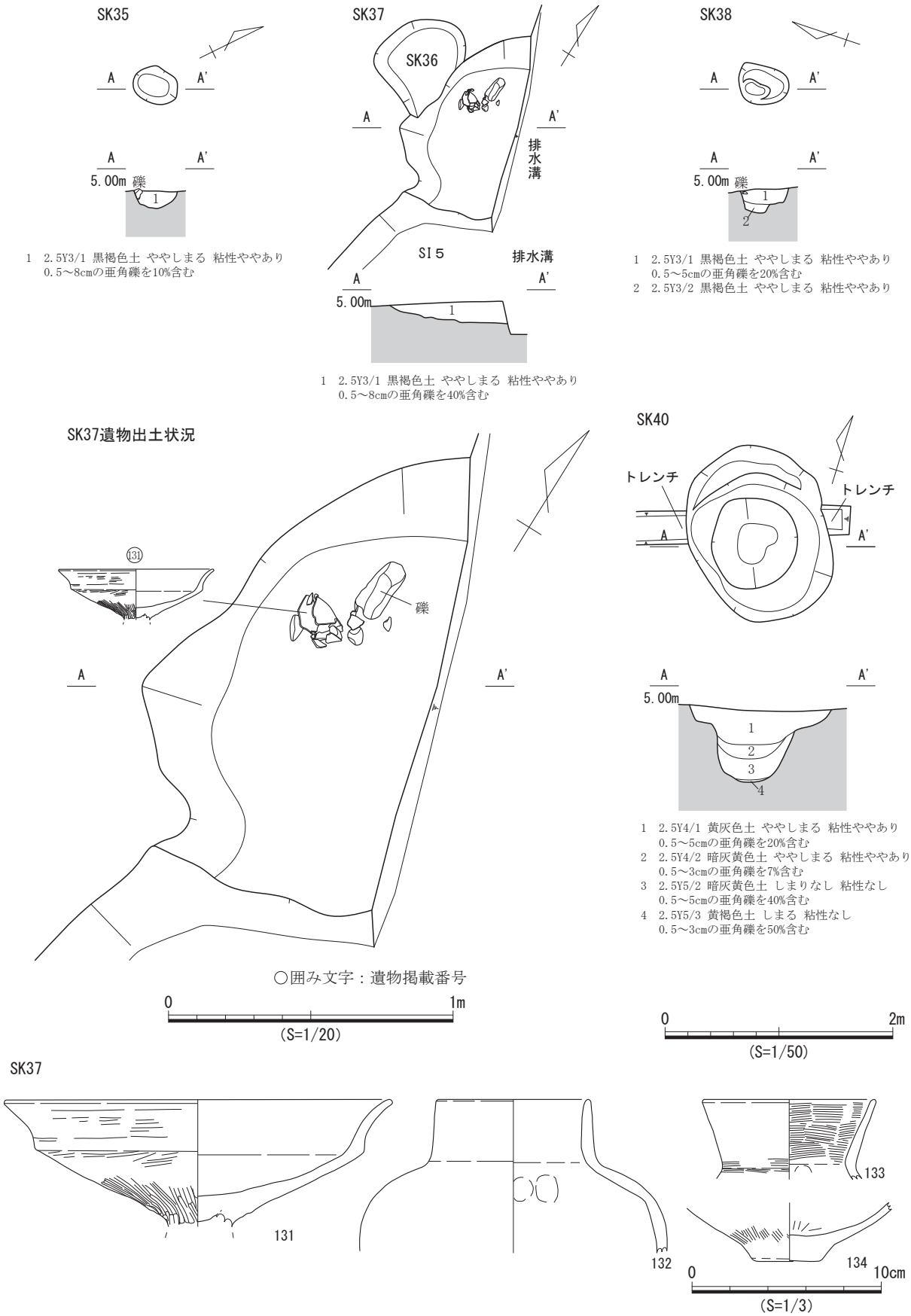


図 60　SK35・SK37・SK38・SK40 遺構図・SK37 出土遺物実測図

埋土　４層に分層した。中央が窪んで堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器20点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK43、SK195との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK41（図61）

検出状況　Ｂ区AI２グリッド、SK43埋土上面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SK43と重複する。本遺構はSK43より新しい。

規模・形状　長軸長0.33m、短軸長0.32m、深さ0.08mを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器13点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK43との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK42（図61）

検出状況　Ｂ区AH２・AI２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK43と重複する。本遺構はSK43より新しい。

規模・形状　土坑の南側が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.84m、短軸長0.75m、深さ0.08mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、北側に偏った２段の掘り込みとなっている。上段の底面は円形、下段の底面は不明である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器４点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK43との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK43（図61）

検出状況　Ｂ区AH２・AI２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK40～SK42と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

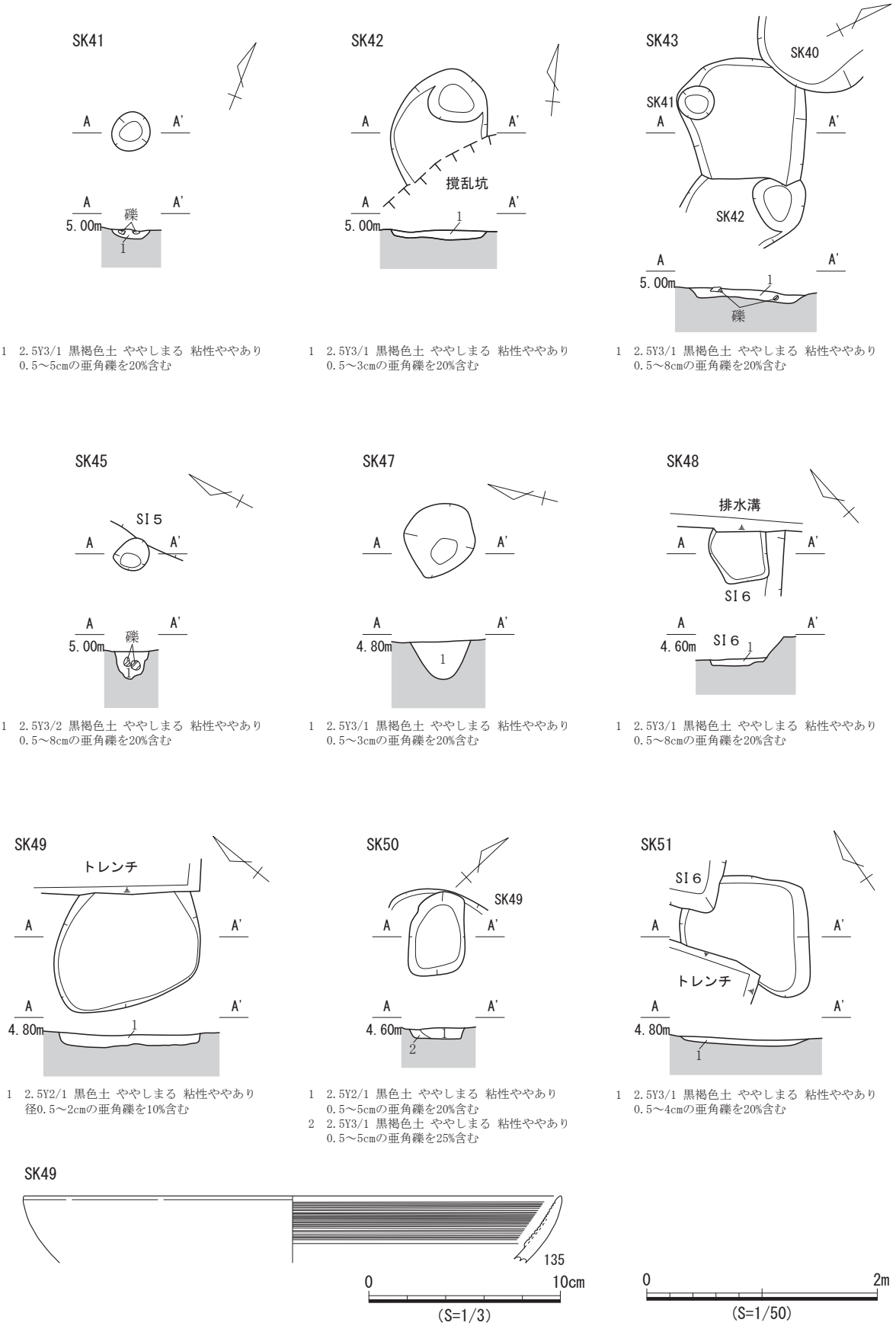
規模・形状　土坑の北西側がSK40、南東側がSK42により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.12m、短軸長1.01m、深さ0.08mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦であるが、中央部が盛り上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK40～SK42との重複関係や出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～5cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～2cmの亜角礫を10%含む

1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～5cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～5cmの亜角礫を25%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～4cmの亜角礫を20%含む

図 61　SK41 ～ SK43・SK45・SK47 ～ SK51 遺構図・SK49 出土遺物実測図

SK45（図61）

検出状況　Ｂ区AH３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SI５と重複する。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.31ｍ、短軸長0.27ｍ、深さ0.24ｍを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK47（図61）

検出状況　Ａ区AI６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.62ｍ、短軸長0.60ｍ、深さ0.13ｍを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK48（図61）

検出状況　Ａ区AH７・AI７グリッド、SI６底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SI６と重複する。本遺構はSI６より古い。

規模・形状　土坑の北側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.50ｍ、短軸長0.46ｍ、深さ0.06ｍを測る。平面形は不定形である。壁面の傾斜は緩やかで、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI６との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK49（図61）

検出状況　Ａ区AI６・AI７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SD６、SK50と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　土坑の北側がトレンチにより消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.27ｍ、短軸長0.99ｍ、深さ0.05ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面の傾斜はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器53点(135)が散在して出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。135は廻間Ⅱ式１段階の西濃型高坏である。

時期　SD６との重複関係と図示した135から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SK50（図61）

検出状況　Ａ区AI６グリッド、SK49底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD６、SK49と重複する。本遺構はSK49より古く、SD６より新しい。

規模・形状　長軸長0.73m、短軸長0.47m、深さ0.09mを測る。平面形は楕円形である。壁面の傾斜はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は西側に偏って堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器35点が散在して出土したが、いずれも小片であった。しかし、遺構の規模からすると出土点数が多いため、大量の土師器が出土したSD６と関連する可能性がある。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SK49との重複関係と隣接するSD６と関連する可能性から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SK51（図61）

検出状況　Ａ区AI７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SI６と重複する。本遺構はSI６より古い。

規模・形状　土坑の北西側がSI６、南西側がトレンチにより消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.12m、短軸長0.98m、深さ0.05mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器11点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　SI６との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK52（図62）

検出状況　Ｂ区AI２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

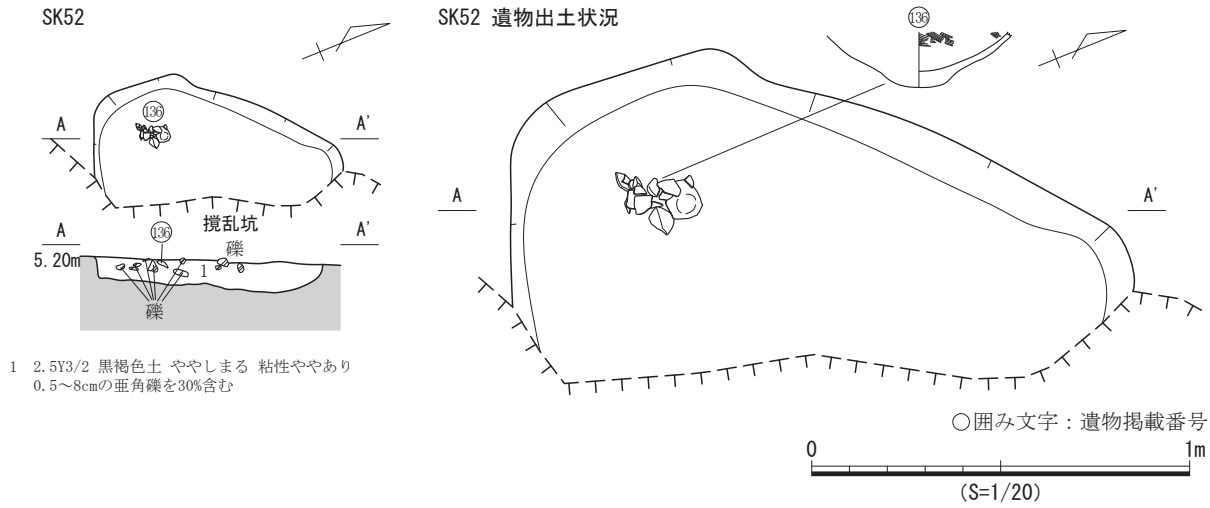
規模・形状　土坑の南側及び東側が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.63m、短軸長0.84m、深さ0.20mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は、南側ではほぼ垂直に立ち上がるが、北側では緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

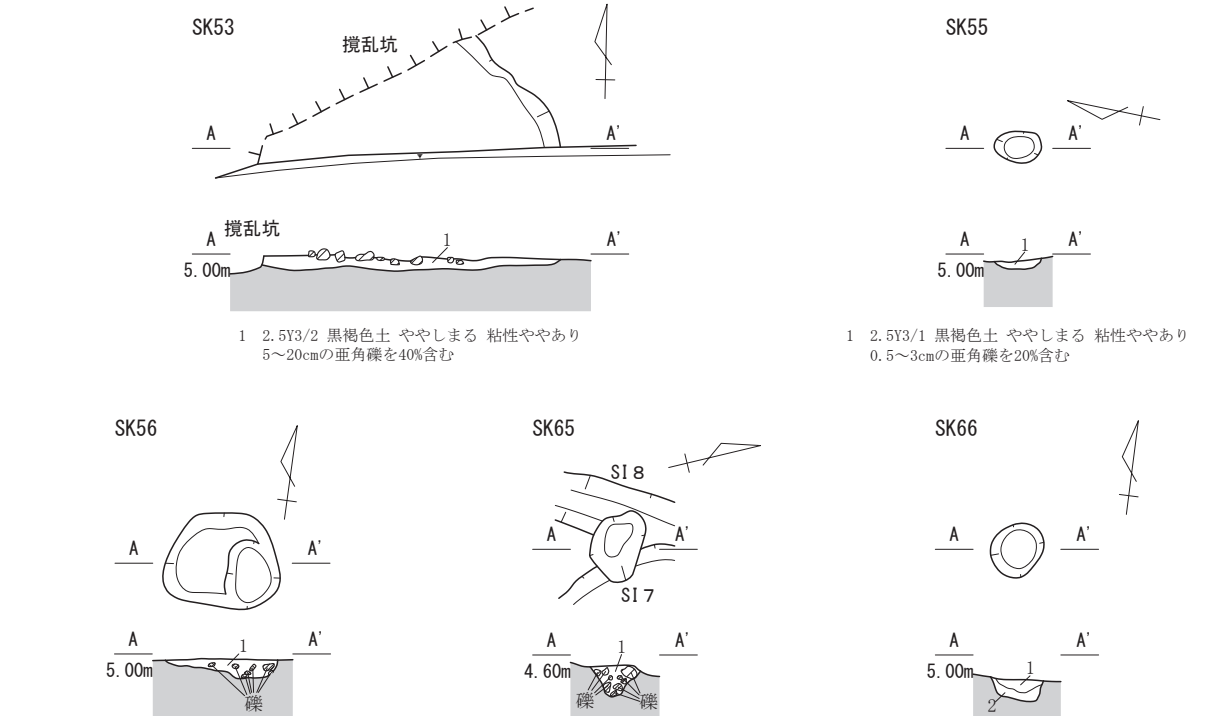
遺物出土状況　土坑南側の埋土から土師器15点(136)がまとまって出土した。このほかに土師器38点(137、138)が散在して出土した。このうち、136は埋土上層から、逆位で底部を上に向けた状態で出土した。また、136の下層でまとまった亜角礫を確認したが、136との関連は不明である。

出土遺物　土師器３点を図示した。136は廻間Ⅰ式３段階から４段階の広口壺、137は廻間Ⅰ式４段階のＳ字甕Ａ類、138は廻間Ⅰ式３段階から４段階の台付甕である。

時期　図示した137から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～8cmの亜角礫を30%含む



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
5～20cmの亜角礫を40%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～3cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～10cmの亜角礫を60%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0.5～2cmの亜角礫を10%含む
2　2.5Y4/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性なし
0.5～3cmの亜角礫を40%含む

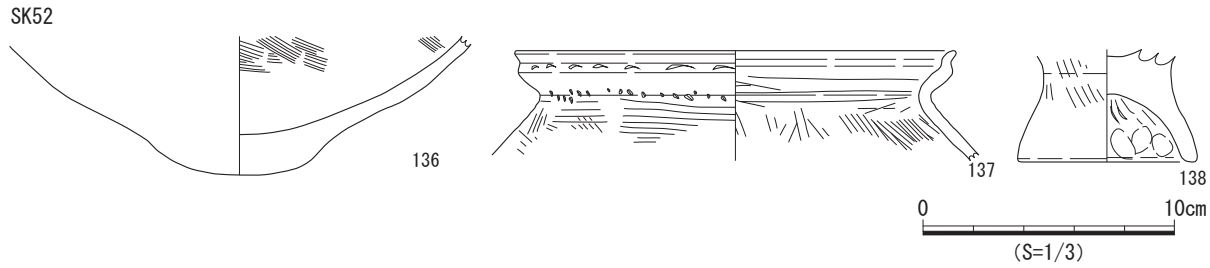


図 62　SK52・SK53・SK55・SK56・SK65・SK66 遺構図・SK52 出土遺物実測図

SK53（図62）

検出状況　Ｂ区AI２グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の北側及び西側が攪乱坑、南側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長2.02m、短軸長0.92m、深さ0.1mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面の傾斜は、東側では緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器16点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK55（図62）

検出状況　Ｂ区AI３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.31m、短軸長0.21m、深さ0.66mを測る。平面形は円形である。壁面の傾斜は緩やかに立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器２点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK56（図62）

検出状況　Ｂ区AI３グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.77m、短軸長0.62m、深さ0.12mを測る。平面形は円形である。壁面は西側では２段に掘り込まれ、東側は開いて立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器５点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK65（図62）

検出状況　Ｂ区AI３グリッド、SI７及びSI８底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SI７、SI８と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　土坑の東側がSI７により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.42m、短軸長0.34m、深さ0.12mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面は開き、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、SI８との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀初頭と考えられる。

SK66（図62）

検出状況　Ａ区AJ６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.36m、短軸長0.35m、深さ0.14mを測る。平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。１層は中央が窪む堆積である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK68（図63）

検出状況　Ａ区AJ６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.61m、短軸長0.50m、深さ0.15mを測る。平面形は円形である。壁面は２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　２層に分層した。１層は中央が窪む堆積である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK69（図63）

検出状況　Ａ区AK６、AK７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SI10床面で検出したが、土層断面の観察により、SK69がSI10の壁際溝を掘り込んでいることを確認した。SI10と重複する。本遺構はSI10より新しい。

規模・形状　長軸長1.22m、短軸長0.54m、深さ0.23mを測る。平面形は長方形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　土坑南側の埋土から土師器46点(139)がまとまって出土した。このほかに土師器２点が散在して出土した。このうち、139は埋土の上層から、逆位で坏部を伏せた状態で出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。139は廻間Ⅰ式０段階の有段高坏である。

時期　SI10との重複関係と図示した139から、本遺構は２世紀中葉と考えられる。

SK80（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.74m、短軸長0.55m、深さ0.25mを測る。平面形は不定形である。壁面は西側では開いて立ち上がり、東側では３段に掘り込まれる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK81（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となり、全容は不明である。検出部分では長軸長0.60m、短軸長0.34m、深さ0.14mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は北側では開いて立ち上がり、南側では２段に掘り込まれる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK82（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.33m、短軸長0.30m、深さ0.10mを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK83（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.54m、短軸長0.37m、深さ0.14mを測る。平面形は楕円形である。壁面は南側ではほぼ垂直に立ち上がり、北側では開いて立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は北側に偏って堆積する。

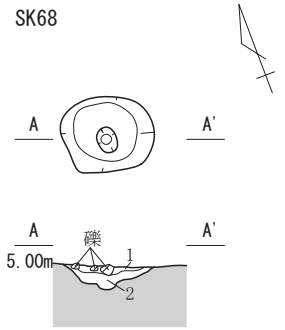
遺物出土状況　埋土から土師器２点が出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

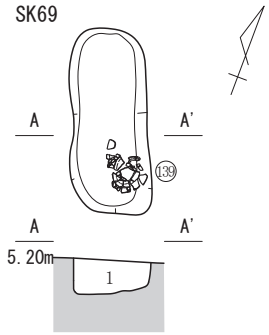
時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK84（図63）

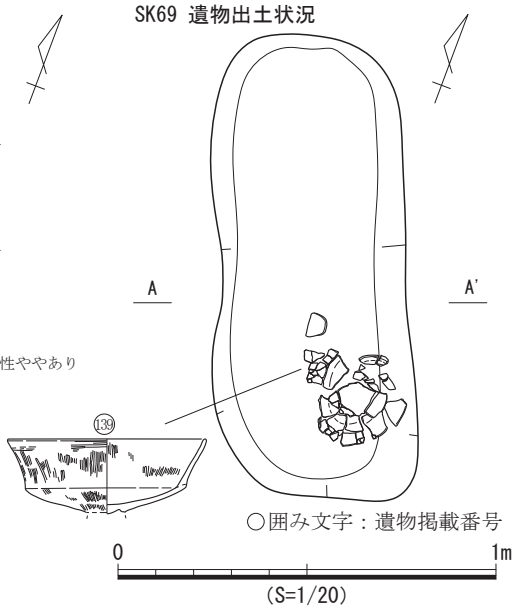
検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK86と重複する。本遺構はSK86より新しい。

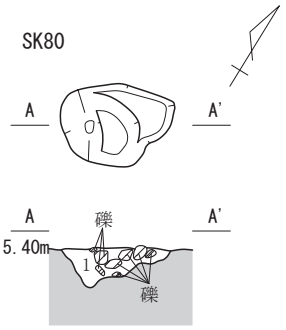


1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～5cmの亜角礫を15%含む
2　2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～5cmの亜角礫を30%含む

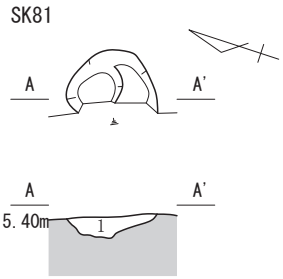


1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　径0.5～3cmの亜角礫を20%含む

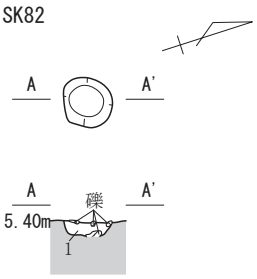




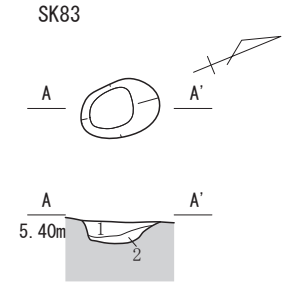
1　2.5Y2/1 黒色土 ややしまる 粘性ややあり
　　8～10cmの亜角礫を5%含む



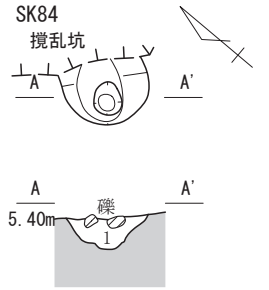
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　1～5cmの亜角礫を20%含む



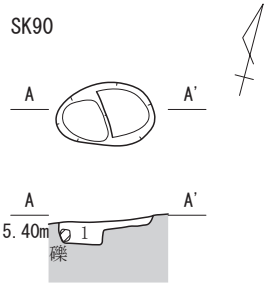
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～3cmの亜角礫を30%含む



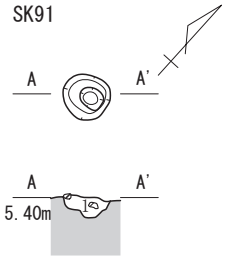
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　1～5cmの亜角礫を25%含む
2　2.5Y5/3 黄褐色砂礫土 しまりなし 粘性なし
　　0.5～2cmの亜円礫を含む



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～3cmの亜角礫20%含む



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～3cmの亜角礫を40%含む



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～5cmの亜角礫を10%含む

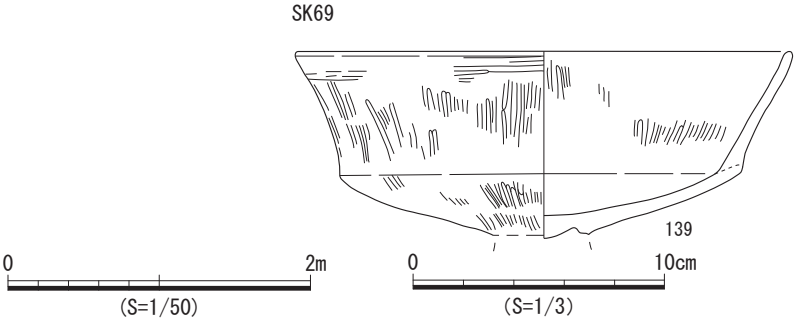


図 63　SK68・SK69・SK80 ～ SK84・SK90・SK91 遺構図・SK69 出土遺物実測図

規模・形状　土坑の北東側が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.60ｍ、短軸長0.42ｍ、深さ0.20ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK90（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.66ｍ、短軸長0.42ｍ、深さ0.15ｍを測る。平面形は楕円形である。壁面は西側ではほぼ垂直に立ち上がり、東側では２段に掘り込まれる。底面は平坦である。壁面の形状から、２つの遺構が重複する可能性がある。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK91（図63）

検出状況　Ａ区AL７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.32ｍ、短軸長0.30ｍ、深さ0.13ｍを測る。平面形は円形である。壁面は２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK92（図64～66）

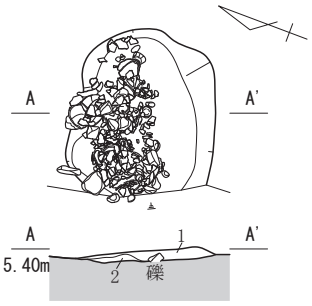
検出状況　Ａ区AM７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK93、SK94と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.09ｍ、短軸長0.98ｍ、深さ0.08ｍを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面は緩やかに開いて立ち上がり、底面は平坦である。遺物の出土状況から、同様の遺物出土状況を呈するSD６、SD７と同じく溝である可能性がある。

埋土　２層に分層した。２層は北側に偏って堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器1,521点(140～173)が集中して出土した。出土状況図における各土器片は複数の土器をまとめて取り上げているため、実測遺物の各破片が出土状況図と突合できるものが

SK92



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～3cmの亜角礫を25%含む
2　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
　　0.5～2cmの亜角礫を20%含む

0　2m
(S=1/50)

SK92 遺物出土状況

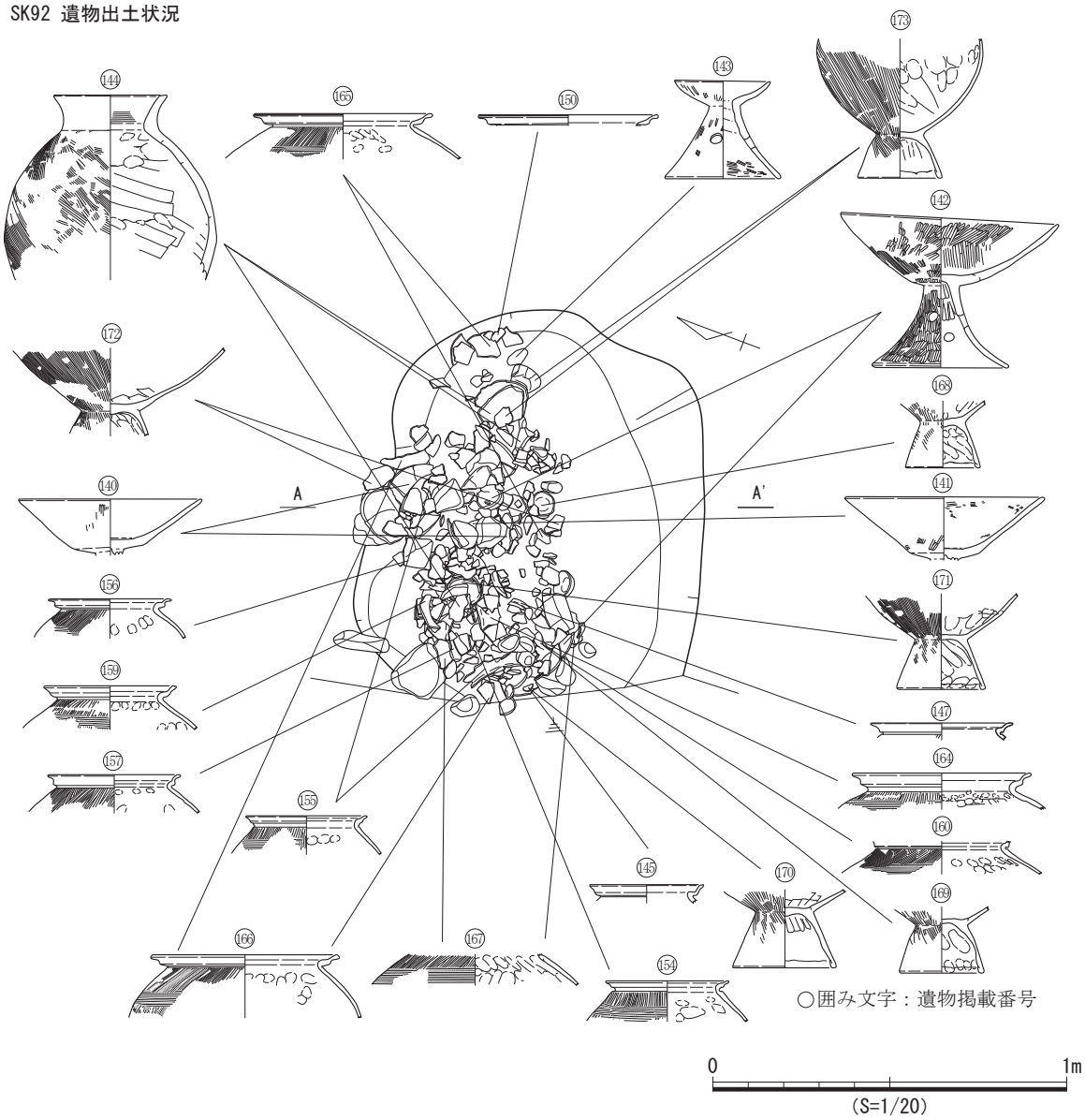


図 64　SK92 遺構図

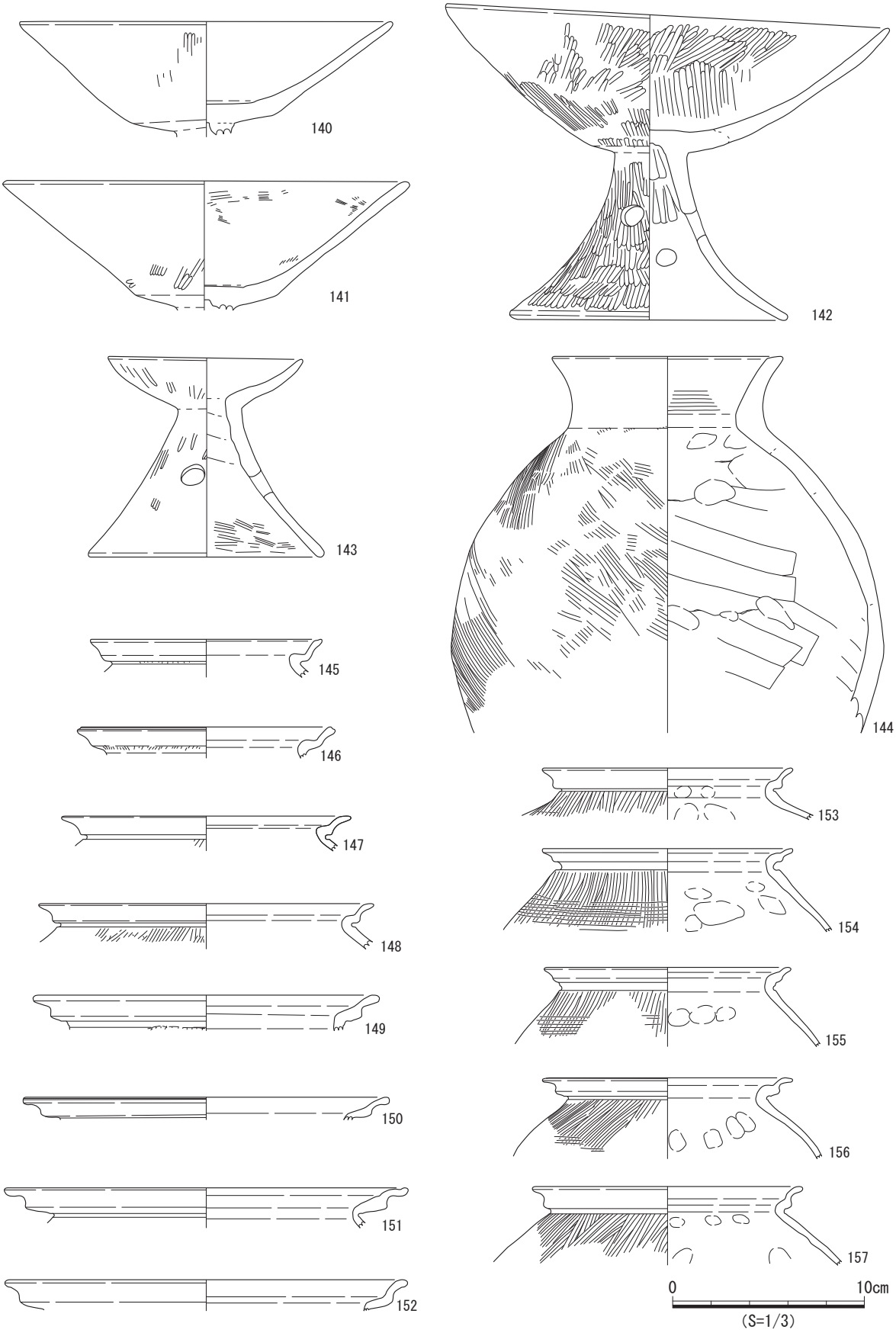


図 65　SK92 出土遺物実測図（１）

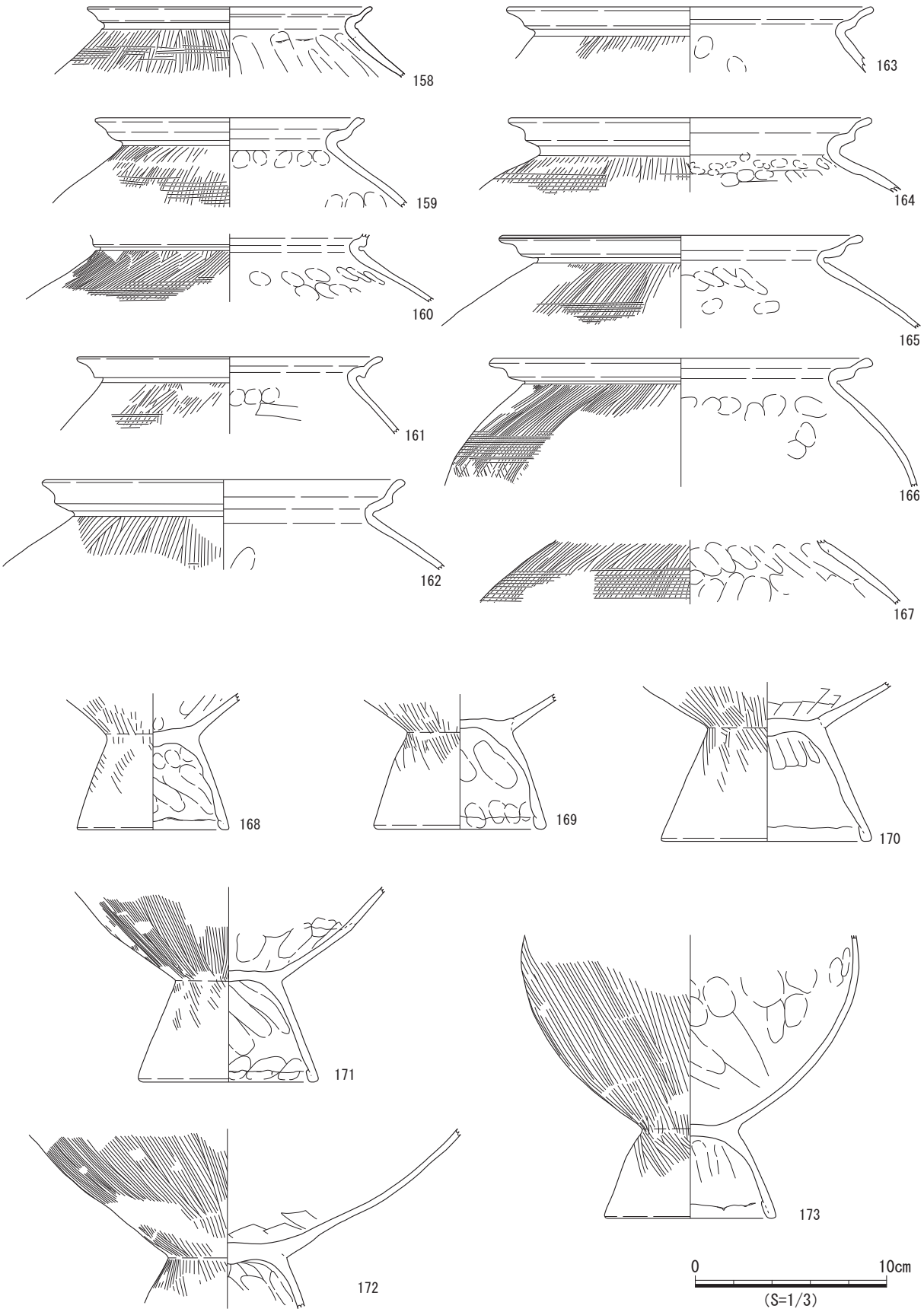


図 66　SK92 出土遺物実測図（２）

少なく、詳細な出土状況は不明である。突合できた接合状況（図64）からは、離れた出土地点の接合関係も確認でき、小破片も多いことから、人為的に土器を割って遺構内に廃棄した可能性がある。

出土遺物　土師器34点を図示した。いずれも廻間Ⅲ式１段階である。140～142は有段高坏、143は器台、144は広口壺である。145～173はＳ字甕Ｃ類である。このうち150と165は同一個体と考えられる。

時期　図示した140～173から、本遺構は３世紀末と考えられる。

SK93（図67）

検出状況　Ａ区AM７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK92と重複する。本遺構はSK92より古い。

規模・形状　長軸長0.34m、短軸長0.30m、深さ0.11mを測る。平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、SK92との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK96（図67）

検出状況　Ｃ区AL４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK175と重複する。本遺構はSK175より古い。

規模・形状　土坑の北東側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.82m、短軸長0.58m、深さ0.16mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は開いて立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器２点が出土したが、小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK100（図67）

検出状況　Ｃ区AM４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK102と重複する。本遺構はSK102より新しい。

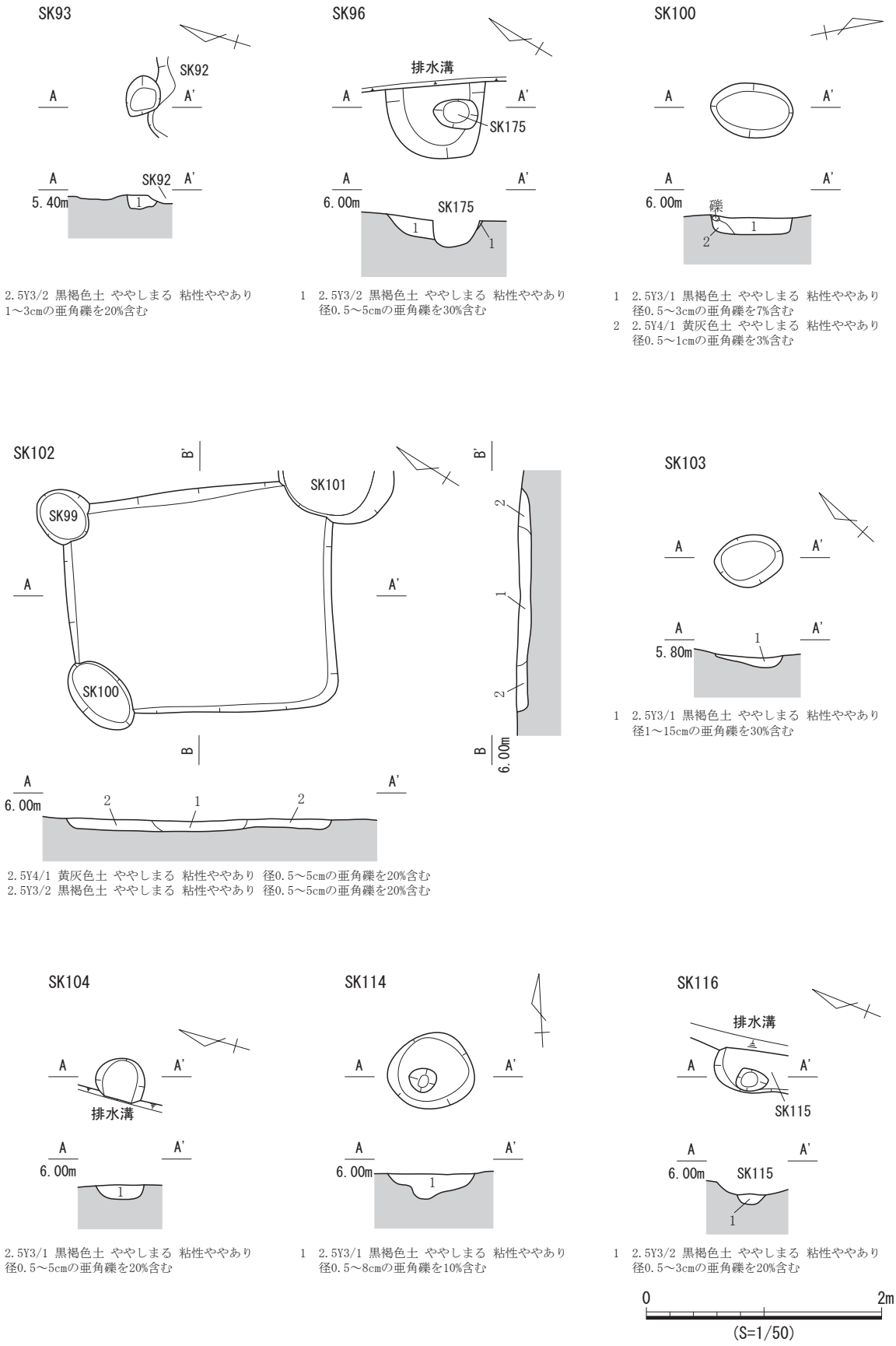
規模・形状　長軸長0.70m、短軸長0.46m、深さ0.14mを測る。平面形は楕円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は南側に偏って堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器４点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 1～3cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を30%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を7%含む
2　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～1cmの亜角礫を3%含む

1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径1～15cmの亜角礫を30%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～5cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～8cmの亜角礫を10%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり 径0.5～3cmの亜角礫を20%含む

図 67　SK93・SK96・SK100・SK102 ～ SK104・SK114・SK116 遺構図

SK102（図67）

検出状況　Ｃ区AM４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK99～SK101、SK103と重複する。本遺構はSK103より新しく、SK99～SK101より古い。

規模・形状　長軸長2.27ｍ、短軸長1.91ｍ、深さ0.08ｍを測る。平面形は方形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。１層は中央に堆積し、２層は１層の周縁に堆積する。堆積状況から１層は重複する別の遺構の埋土である可能性がある。

遺物出土状況　埋土から土師器21点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK103（図67）

検出状況　Ｃ区AM４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK102と重複する。本遺構はSK102より古い。

規模・形状　長軸長0.58ｍ、短軸長0.44ｍ、深さ0.08ｍを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK102との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK104（図67）

検出状況　Ｃ区AM４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の西側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.42ｍ、短軸長0.34ｍ、深さ0.12ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK114（図67）

検出状況　Ｃ区AN４、A0４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.74ｍ、短軸長0.64ｍ、深さ0.21ｍを測る。平面形は円形である。壁面は２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK116（図67）

検出状況　Ｃ区AN５グリッド、SK115底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SK115と重複する。本遺構はSK115より古い。

規模・形状　長軸長0.27ｍ、短軸長0.19ｍ、深さ0.09ｍを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK117（図68）

検出状況　Ｃ区AN４、AN５、A0４、A0５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の東側が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.62ｍ、短軸長0.54ｍ、深さ0.16ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は緩やかに開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器20点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK118（図68）

検出状況　Ｃ区A0４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.56ｍ、短軸長0.44ｍ、深さ0.07ｍを測る。平面形は方形と考えられる。壁面は緩やかに開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は北側に偏って堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器７点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK122（図68）

検出状況　Ｃ区A0４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.50ｍ、短軸長0.41ｍ、深さ0.14ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は

２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK124（図68）

検出状況　Ｄ区AS５グリッド、SK123底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SK123と重複する。本遺構はSK123より古い。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.32m、短軸長0.30m、深さ0.12mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は南側では２段に掘り込まれ、北側では開いて立ち上がる。底面は円形である。壁面の形状は、他の遺構との重複による可能性がある。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK128（図68）

検出状況　Ｄ区AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.51m、短軸長0.24m、深さ0.31mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は北側では２段に掘り込まれ、南側では開いて立ち上がる。底面は円形である。壁面の形状は、他の遺構との重複による可能性がある。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器６点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物から時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK129（図68）

検出状況　Ｄ区AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.41m、短軸長0.40m、深さ0.08mを測る。平面形は円形である。壁面は西側ではほぼ垂直に立ち上がり、東側では緩やかに開いて立ち上がる。底面は平坦である。

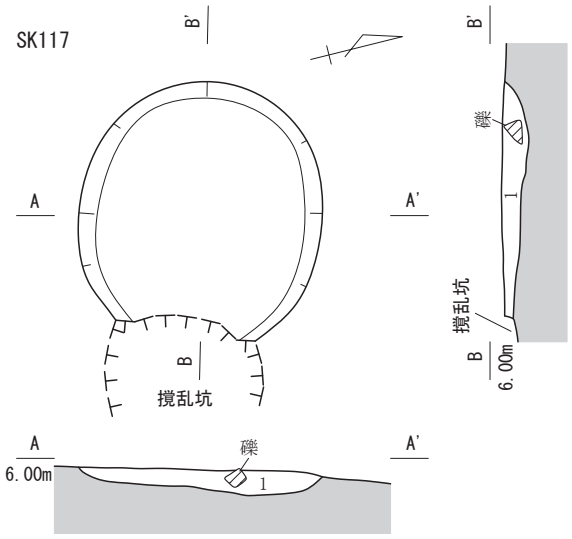
埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

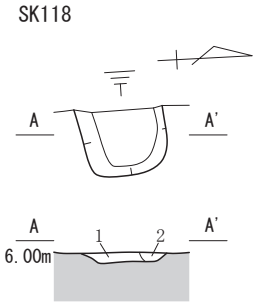
時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK130（図68）

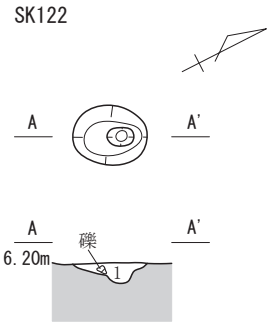
検出状況　Ｄ区AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しな



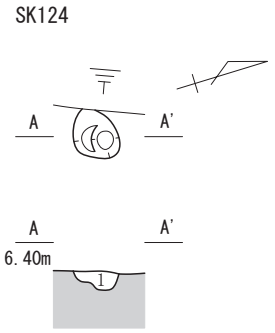
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
径2～8cmの亜角礫を30%含む



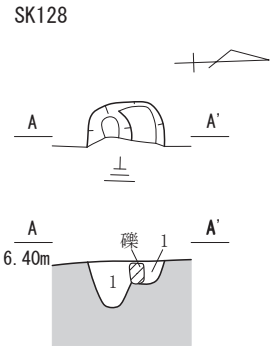
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を30%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む



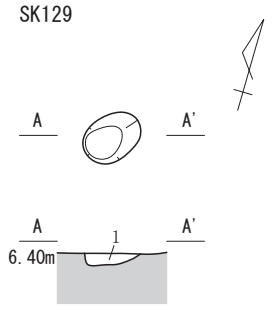
1　2.5Y4/1 黄灰色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を30%含む



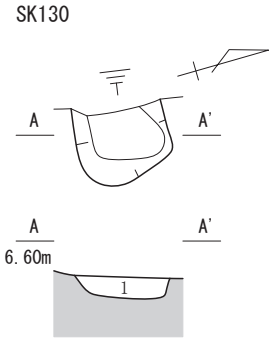
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～1cmの亜角礫を10%含む



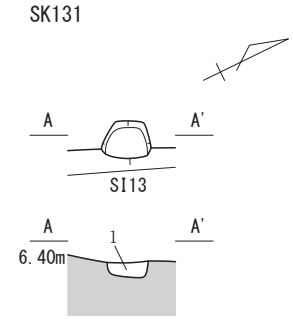
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を20%含む



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～10cmの亜角礫を40%含む



1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を10%含む



1　2.5Y3/2　黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を15%含む

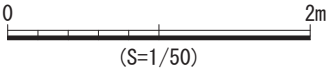


図 68　SK117・SK118・SK122・SK124・SK128 ～ SK131 遺構図

い。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.61m、短軸長0.32m、深さ0.14mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がり、南側では開いて立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK131（図68）

検出状況　Ｄ区AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SI13と重複する。本遺構はSI13より古い。

規模・形状　土坑の東側がSI13により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.32m、短軸長0.24m、深さ0.10mを測る。平面形は方形と考えられる。壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK132（図69）

検出状況　Ｄ区AT５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SD11と重複する。本遺構はSD11より古い。

規模・形状　土坑の西側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.94m、短軸長0.36m、深さ0.22mを測る。平面形は楕円形と考えられる。壁面は２段に掘り込まれ、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK134（図69）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SB３-Ｐ２と重複する。本遺構はSB３-Ｐ２より新しい。

規模・形状　長軸長0.30m、短軸長0.29m、深さ0.09mを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SB３との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK135（図69）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK136と重複する。本遺構はSK136より新しい。

規模・形状　長軸長1.17m、短軸長1.11m、深さ0.28mを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は不定形に凹凸する。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK136との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK136（図69）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK135と重複する。本遺構はSK135より古い。

規模・形状　土坑の東側がSK135により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.62m、短軸長0.40m、深さ0.13mを測る。平面形は楕円形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。２層は北側に偏って堆積する。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK135との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK138（図69）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK137と重複する。本遺構はSK137より古い。

規模・形状　長軸長0.34m、短軸長0.29m、深さ0.15mを測る。平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK137との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

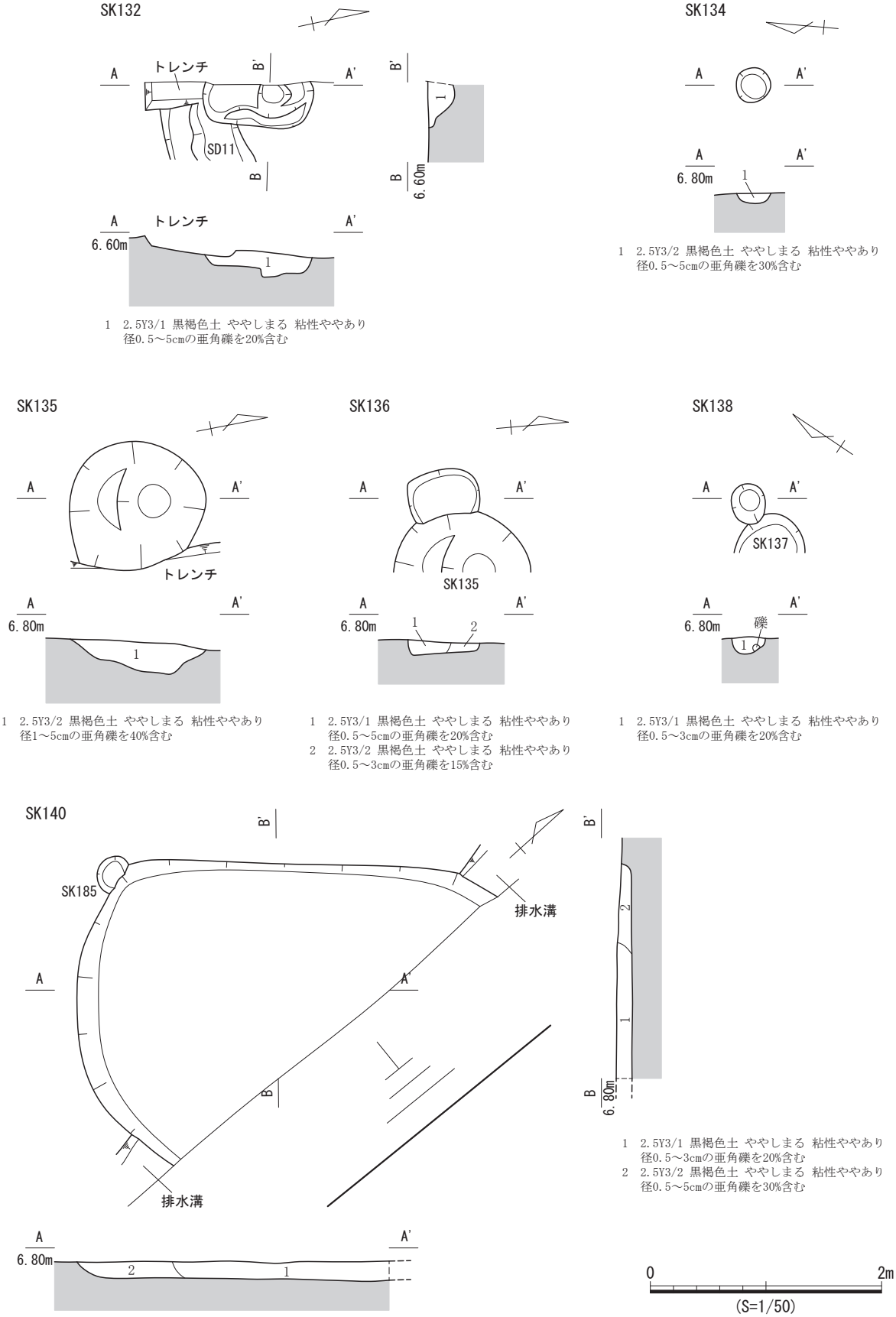
SK140（図69・70）

検出状況　Ｄ区BA５・BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SB３-P５、SB３-P６、SA６-P１、SK141～SK143、SK185と重複する。本遺構はSB３-P５、SB３-P６、SA６-P１、SK141～SK143より新しく、SK185より古い。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長3.18m、短軸長2.64m、深さ0.16mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　２層に分層した。１層は中央部に堆積し、２層は１層の周縁部に堆積する。

遺物出土状況　埋土から土師器216点(174～180)が散在して出土した。



SK132
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む

SK134
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を30%含む

SK135
1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1～5cmの亜角礫を40%含む

SK136
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を15%含む

SK138
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む

SK140
1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を30%含む

図 69　SK132・SK134 ～ SK136・SK138・SK140 遺構図

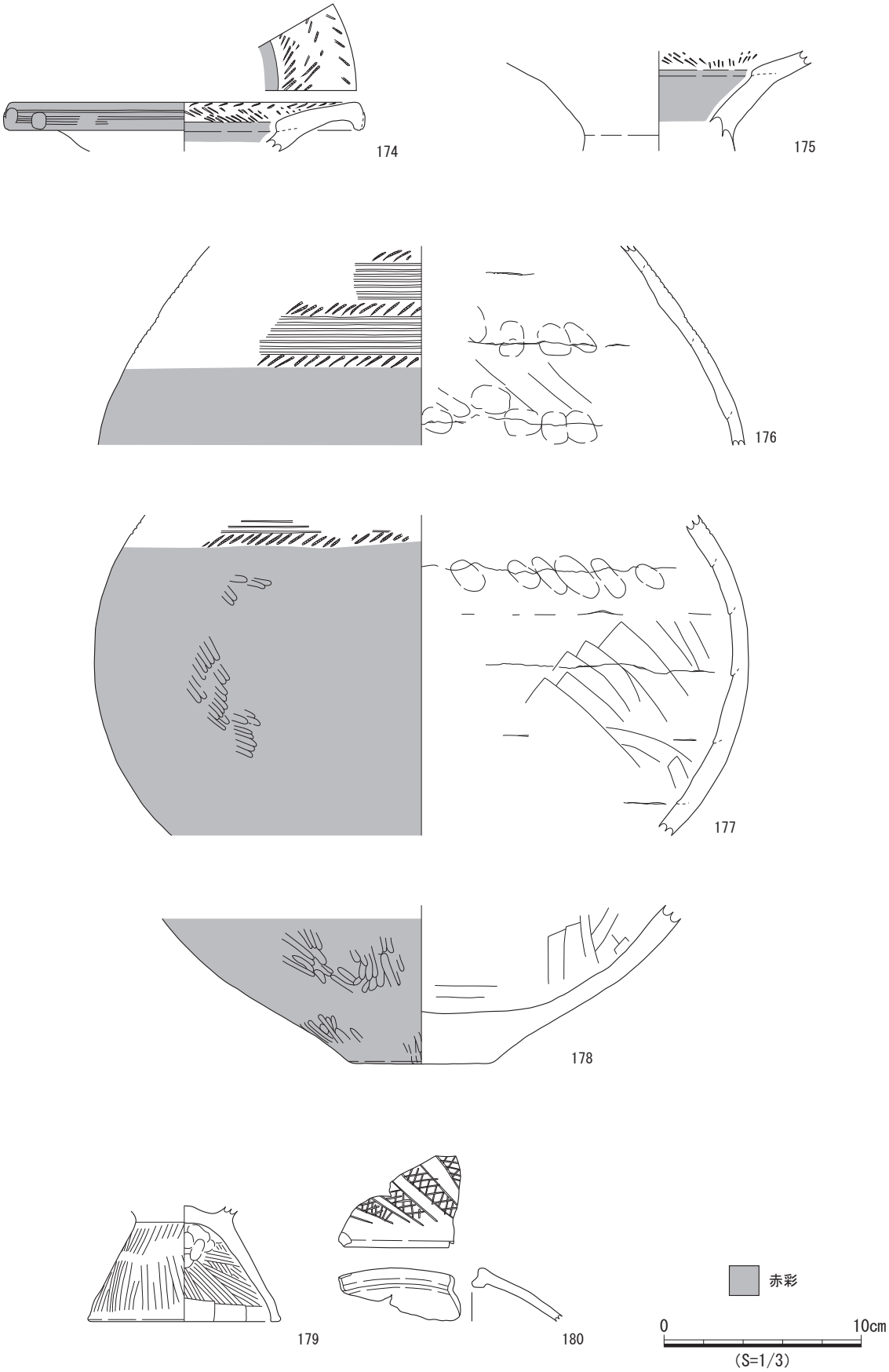


図 70　SK140 出土遺物実測図

出土遺物　土師器７点を図示した。いずれも廻間Ⅰ式４段階である。174～178はパレス壺である。このうち174と175、176～178はそれぞれ同一個体と考えられる。179はＳ字甕Ａ類、180は手焙型土器の覆部である。

時期　SB３、SA６との重複関係と図示した174～180から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SK142（図71）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、SK140底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SK140と重複する。本遺構はSK140より古い。

規模・形状　長軸長0.40m、短軸長0.34m、深さ0.09mを測る。平面形は円形である。壁面は北側ではほぼ垂直に立ち上がり、南側では緩やかに開いて立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK140との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK143（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK140と重複する。本遺構はSK140より古い。

規模・形状　長軸長1.20m、短軸長1.03m、深さ0.14mを測る。平面形は不定形である。壁面は南側では２段に掘り込まれるが、北側はSK140との重複により壁面が消失するため不明である。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK140との重複関係と当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式以降に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀中葉と考えられる。

SK146（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.68m、短軸長0.53m、深さ0.16mを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK147（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.41m、短軸長0.31m、深さ0.14mを測る。平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK150（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.46ｍ、短軸長0.38ｍ、深さ0.22ｍを測る。平面形は円形である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK151（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK152、SK153と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　長軸長0.78ｍ、短軸長0.75ｍ、深さ0.29ｍを測る。平面形は円形である。壁面は北側では２段に掘り込まれ、南側では開いて立ち上がる。底面は円形である。壁面の形状は、他の遺構との重複による可能性がある。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK152、SK153との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK152（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK151と重複する。本遺構はSK151より古い。

規模・形状　土坑の北側がSK151、東側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.68ｍ、短軸長0.42ｍ、深さ0.18ｍを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は南側では２段に掘り込まれるが、北側はSK151との重複により壁面が消失するため不明である。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK151との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK153（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、排水溝底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は明瞭であった。SK151と重複する。本遺構はSK151より古い。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.51ｍ、短

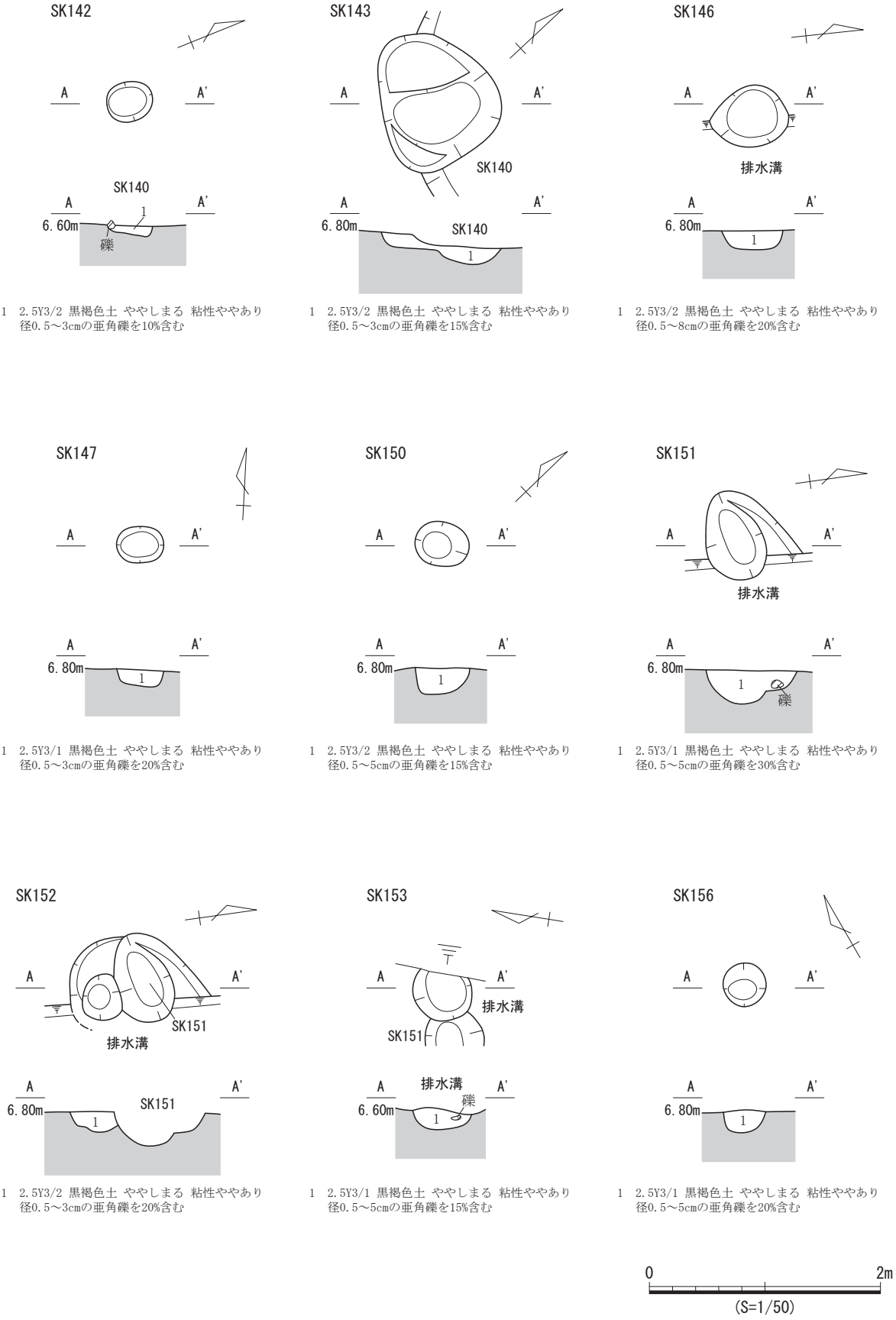


図 71　SK142・SK143・SK146・SK147・SK150 ～ SK153・SK156 遺構図

軸長0.42m、深さ0.19mを測る。平面形は円形と考えられる。壁面は開いて立ち上がり、底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK151との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK156（図71）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.38m、短軸長0.36m、深さ0.20mを測る。平面形は円形である。壁面は西側ではほぼ垂直に立ち上がり、東側では開いて立ち上がる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK158（図72）

検出状況　Ｄ区BB５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長1.00m、短軸長0.56m、深さ0.21mを測る。平面形は方形である。壁面は西側ではほぼ垂直に立ち上がり、東側では開いて立ち上がる。底面は凹凸し、中央が盛り上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK159（図72）

検出状況　Ｄ区BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK160～SK162、SK189と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　土坑の東側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.70m、短軸長0.99m、深さ0.17mを測る。平面形は方形と考えられる。壁面は西側では開いて立ち上がるが、東側は発掘区外となるため不明である。底面は平坦であるが、１層の西端に段を持つ。

埋土　２層に分層した。２層は西側に偏って堆積する。１層の堆積状況と底面の形状は、他の遺構との重複による可能性がある。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK160～SK162、SK189との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK160（図72）

検出状況　Ｄ区BB５・BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK159、SK163

と重複する。本遺構はSK159より古く、SK163より新しい。

規模・形状　長軸長0.59m、短軸長0.48m、深さ0.20mを測る。平面形は円形である。壁面は西側では開いて立ち上がる。東側は排水溝により上部が消失するが、開いて立ち上がると考えられる。底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK159、SK163との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK161（図72）

検出状況　Ｄ区BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SK151、SK191と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　長軸長0.57m、短軸長0.33m、深さ0.20mを測る。平面形は楕円形である。壁面は東側では２段に掘り込まれるが、西側ではほぼ垂直に立ち上がる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　SK151、SK191との重複関係からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK164（図72）

検出状況　Ｄ区BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の東側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長1.01m、短軸長0.66m、深さ0.26mを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面は北側では２段に掘り込まれるが、南側では開いて立ち上がる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器５点が散在して出土したが、いずれも小片であった。

出土遺物　小片のため図示できる遺物はなかった。

時期　出土遺物からは時期を推定できないが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK166（図72）

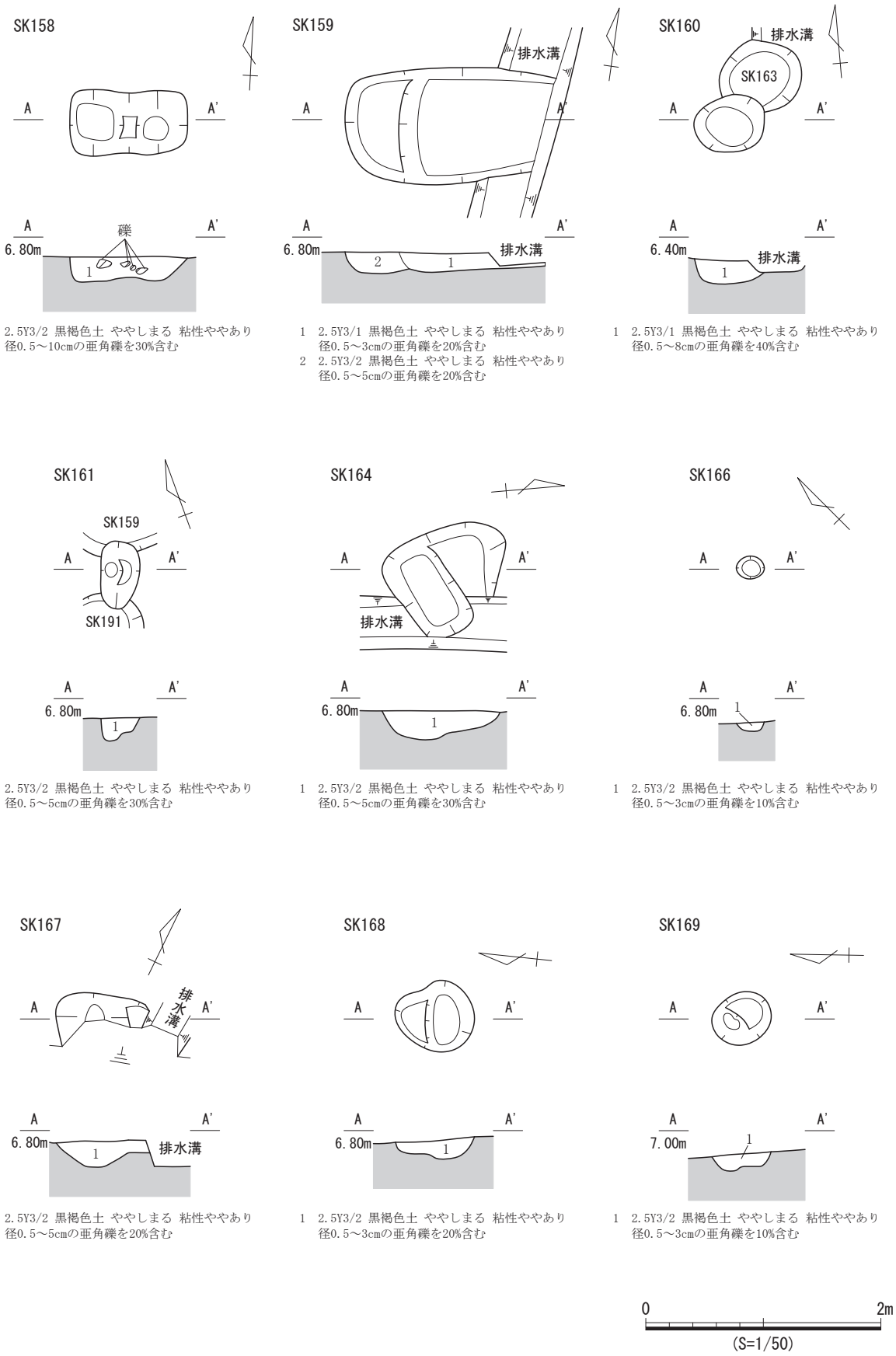
検出状況　Ｄ区BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.24m、短軸長0.20m、深さ0.08mを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。



1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～10cmの亜角礫を30%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む
2　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～8cmの亜角礫を40%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を30%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を30%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～5cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を20%含む

1　2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径0.5～3cmの亜角礫を10%含む

図 72　SK158 ～ SK161・SK164・SK166 ～ SK169 遺構図

SK167（図72）

検出状況　Ｄ区BC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　土坑の東側が排水溝により消失するため、全容は不明である。検出部分では長軸長0.24ｍ、短軸長0.20ｍ、深さ0.08ｍを測る。平面形は円形である。壁面は西側では開いて立ち上がるが、東側は排水溝により上部が消失するが、２段に掘り込まれると考えられる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK168（図72）

検出状況　Ｄ区BD４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.68ｍ、短軸長0.62ｍ、深さ0.16ｍを測る。平面形は不定形である。壁面は北側では２段に掘り込まれ、南側では開いて立ち上がる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK169（図72）

検出状況　Ｄ区BD４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.50ｍ、短軸長0.45ｍ、深さ0.14ｍを測る。平面形は円形である。壁面は北側では開いて立ち上がり、南側では２段に掘り込まれる。底面は円形である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　遺物は出土しなかったが、当遺跡出土の土師器が山中Ⅰ式から廻間Ⅲ式１段階に限られることから、本遺構は１世紀後葉から３世紀末と考えられる。

SK177（図73）

検出状況　Ｃ区AM４グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構とは重複しない。

規模・形状　長軸長0.45ｍ、短軸長0.36ｍ、深さ0.11ｍを測る。平面形は円形である。壁面は開いて立ち上がり、底面は平坦である。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器３点(181)が散在して出土した。

出土遺物　土師器１点を図示した。181は廻間Ⅰ式４段階の受口系甕である。

時期　図示した181から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

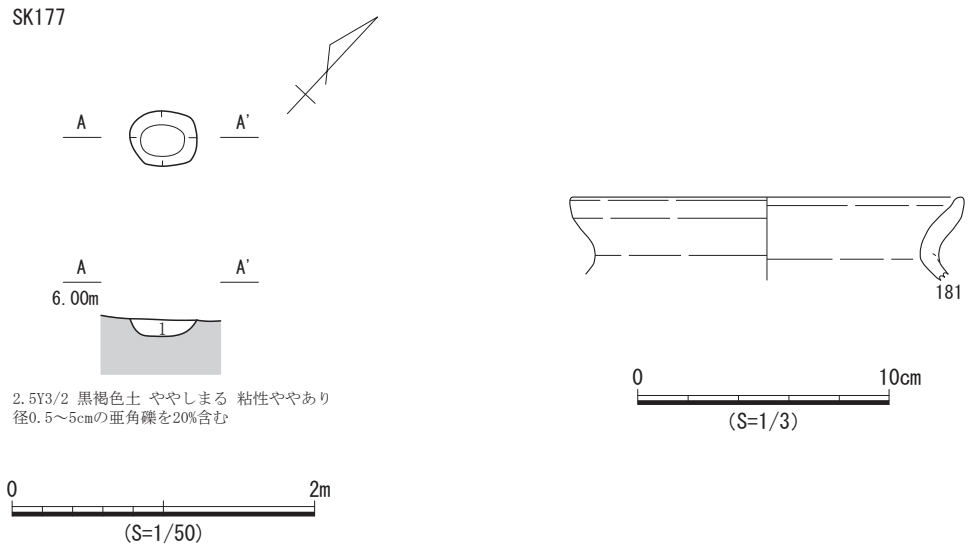


図 73　SK177 遺構図・出土遺物実測図

SK196（図74～76）

検出状況　Ａ区AB４～AC５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SI１と重複する。本遺構はSI１より新しい。

規模・形状　土坑の東側及び北側が発掘区外となるため、全容は不明である。検出部分では長軸長4.94ｍ、短軸長3.08ｍ、深さ0.32ｍを測る。平面形は不定形と考えられる。壁面は南側では開いて立ち上がるが、北側は発掘区外となるため不明である。底面は概ね平坦であるが、複数の段を持ち、北側に向かって下がる。遺物の出土状況が、SD６、SD７と似ているため、溝の可能性もある。

埋土　３層に分層した。１層は北側、２層は南側に堆積する。３層は上段平坦面の直上に薄く堆積する。

遺物出土状況　１層から土師器66点(182～192)が北東隅部で集中して出土した。出土状況図における各土器片は複数の土器をまとめて取り上げているため、実測遺物の各破片が出土状況図と突合できるものが少なく、詳細な出土状況は不明である。このほかに２層から土師器３点(193)、層位不明の埋土から土師器1,890点(194～210)が散在して出土した。

出土遺物　土師器29点を図示した。いずれも廻間Ⅱ式1段階である。182～186は有段高坏で、186は西濃型高坏である。187はＳ字甕Ａ類、188、189、192はく字甕、190、191は器台である。193はく字甕で、204と同一個体と考えられる。194は椀形高坏、195～198は有段高坏、199、200は器台、201、202は壺、203～207はく字甕、208はＳ字甕Ａ類、209は受口系甕、210は受口系口縁をもつ鉢である。

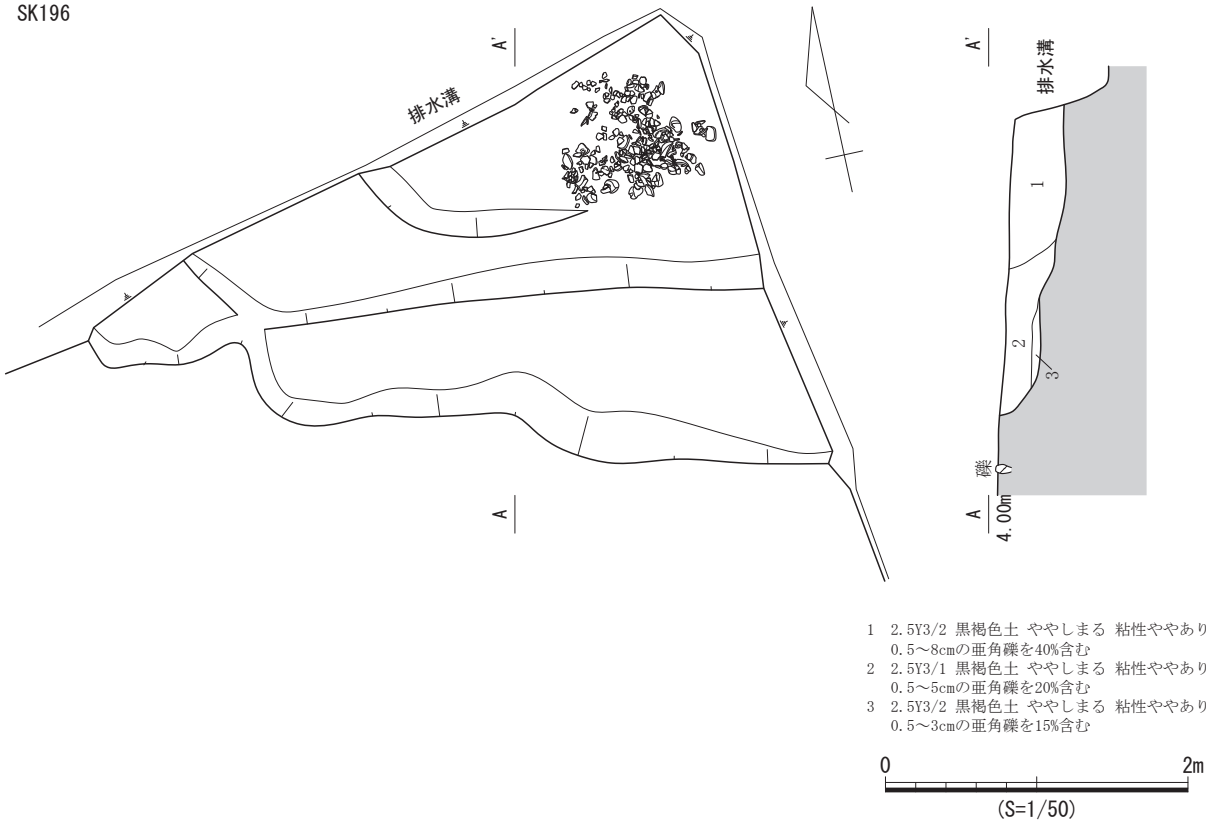
時期　SI１との重複関係と図示した182～210から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

７　遺物集積

SU１（図77）

検出状況　Ａ区AH６・AI６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。SD５～SD７、SI６が隣接しており、遺物の出土状況や時期から、本遺構はこれらの遺構と非常に関連が強いと考えられる。

SK196



SK196 遺物出土状況

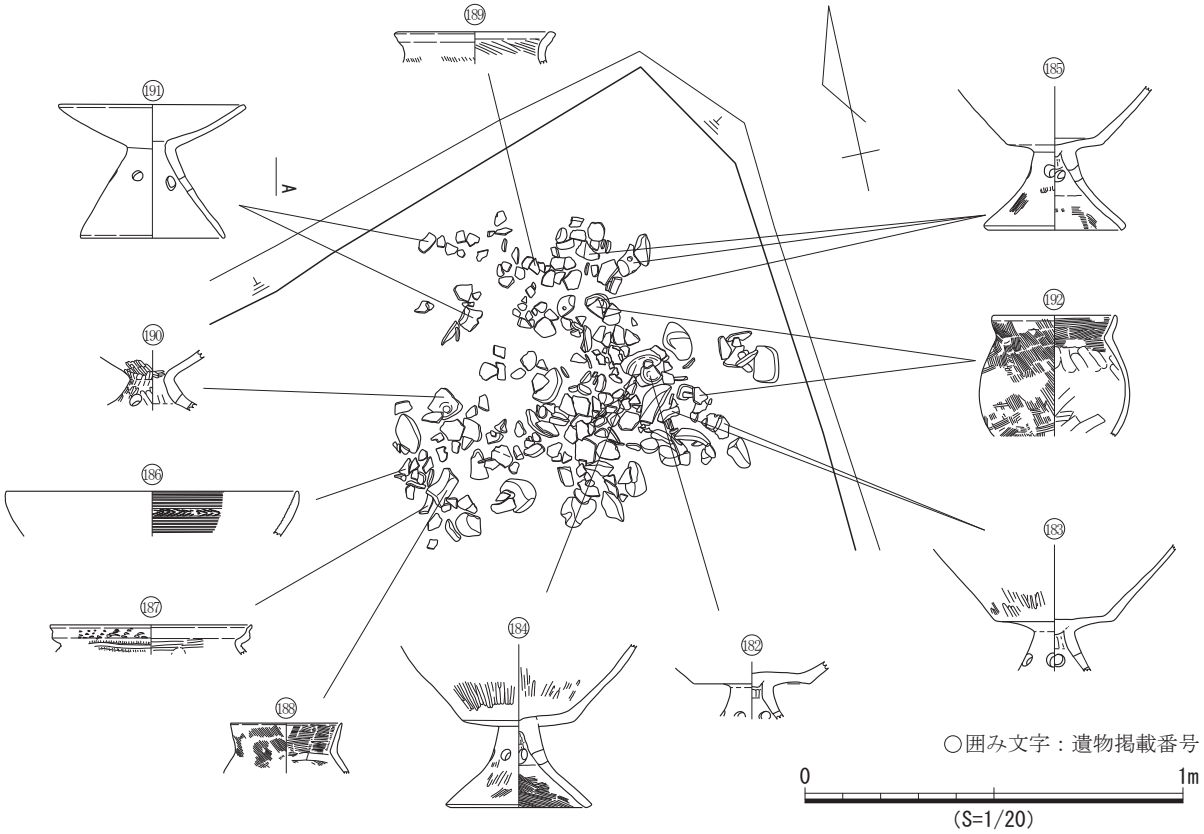
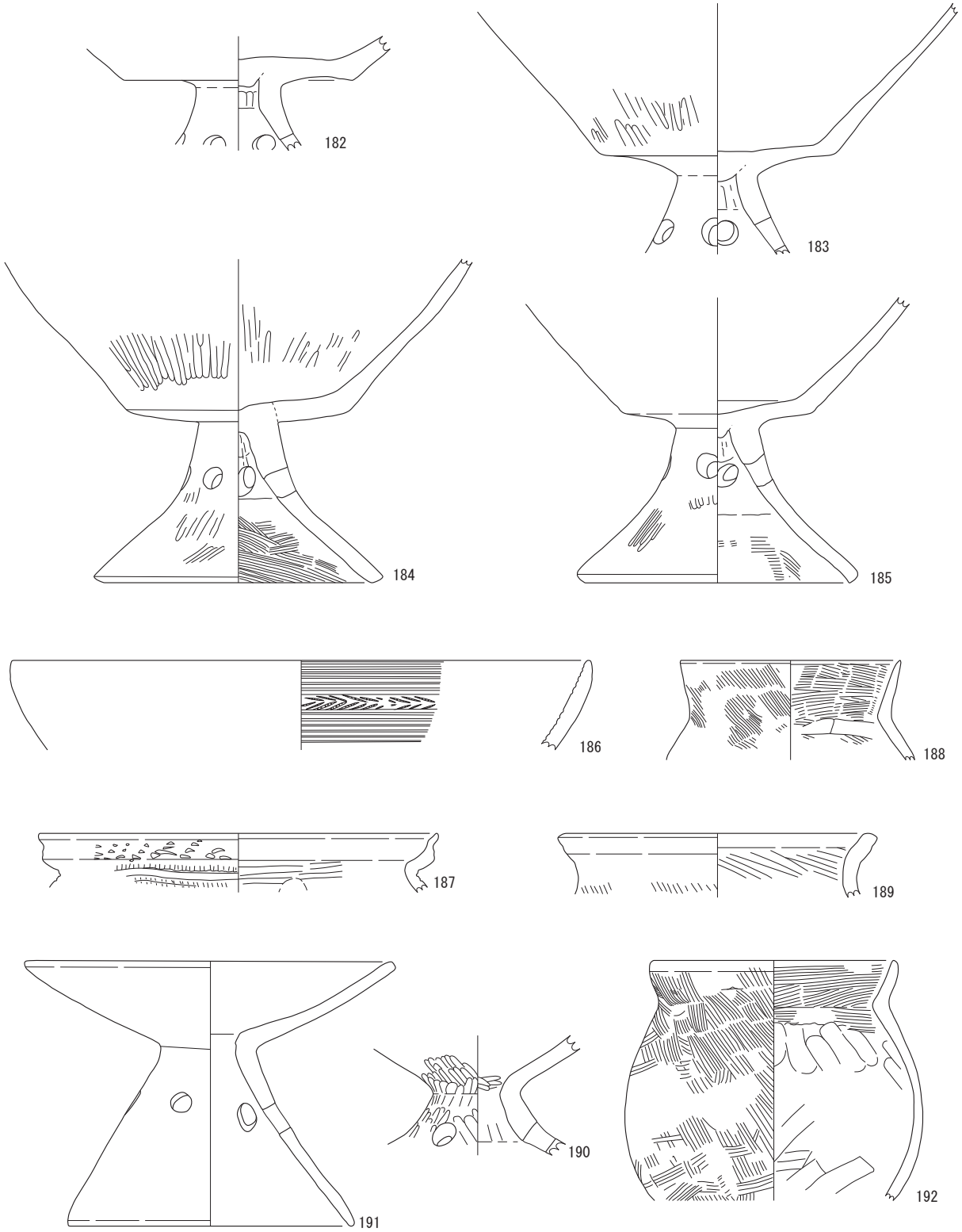


図 74　SK196 遺構図

１層(182～192)



２層(193)

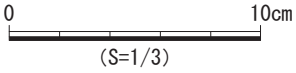


図 75　SK196 出土遺物実測図（１）

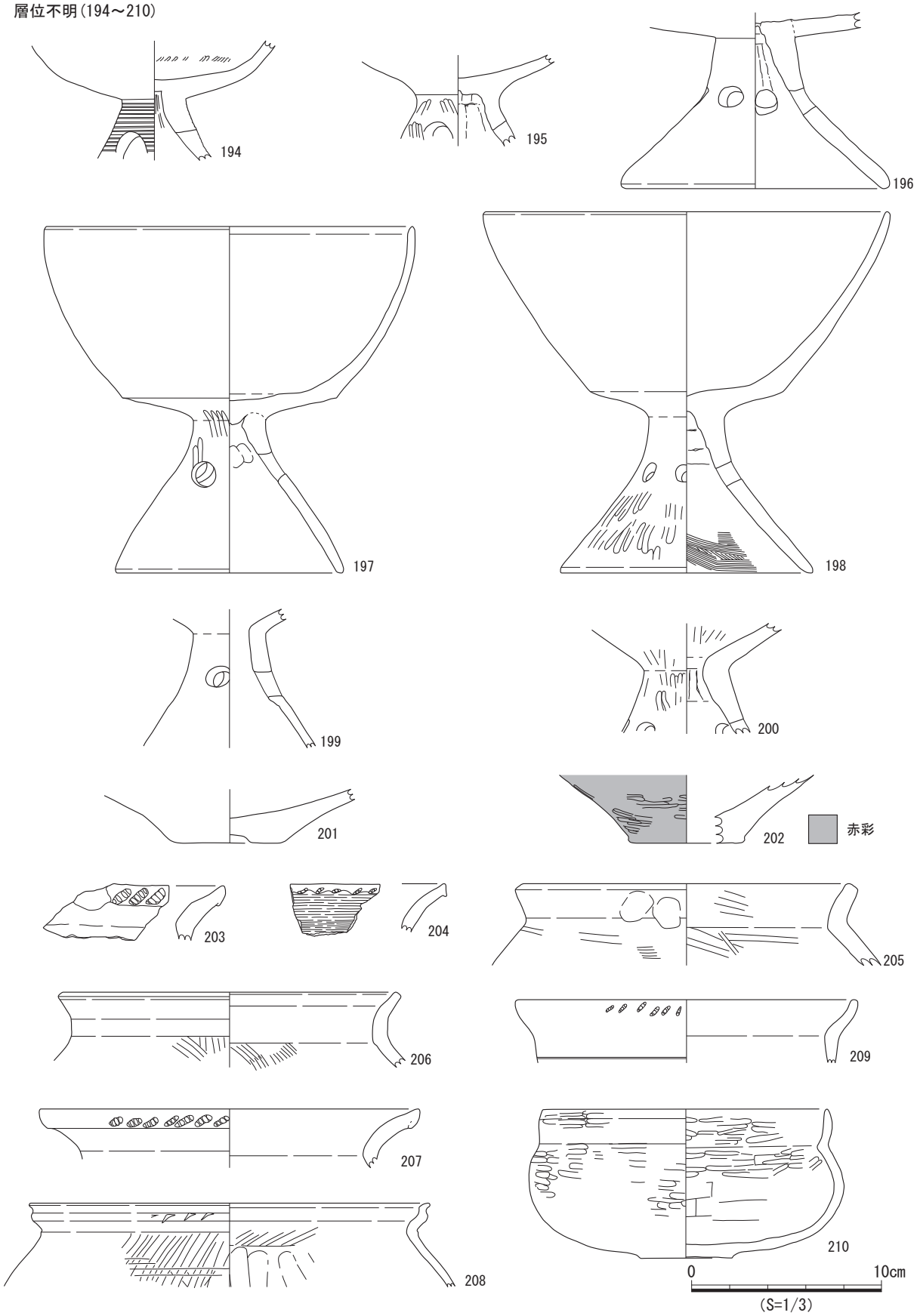
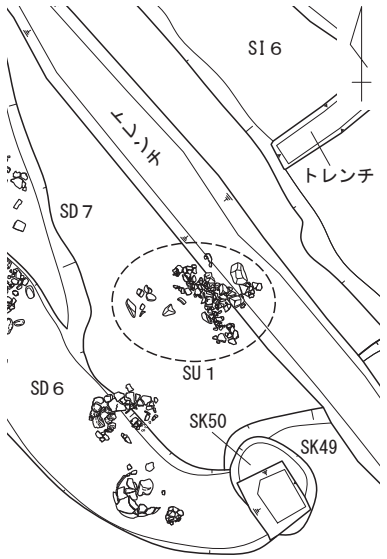
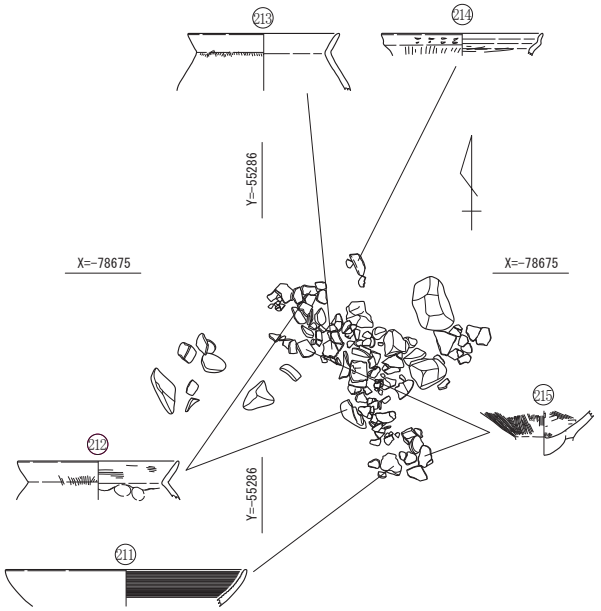


図 76　SK196 出土遺物実測図（２）

SU１



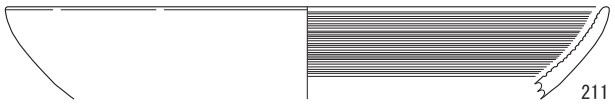
SU１遺物出土状況

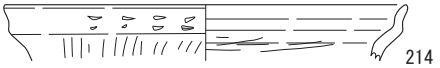


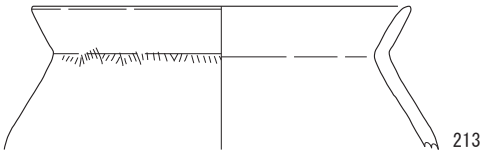
○囲み文字：遺物掲載番号

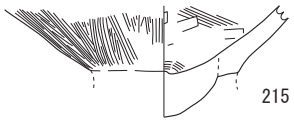
0　2m
(S=1/50)

0　1m
(S=1/20)









0　10cm
(S=1/3)

図 77　SU１遺構図・出土遺物実測図

規模・形状　東西0.90m、南北0.60mの範囲に土師器が集積する。

遺物出土状況　土師器299点(211～215)が集中して出土した。出土状況図における各土器片は複数の土器をまとめて取り上げているため、実測遺物の各破片が出土状況図と突合できるものが少なく、詳細な出土状況は不明である。

出土遺物　土師器５点を図示した。いずれも廻間Ⅱ式1段階である。211は西濃型高坏、212、213はく字甕、214はＳ字甕Ａ類、215は台付甕である。

時期　図示した211～215から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SU２（図78・79）

検出状況　Ｂ区AI１グリッド、Ⅳ層上面で検出した。

規模・形状　東西0.90m、南北1.60mの範囲に土師器が集積する。周縁部の土器は必ずしも集中しないが同一の遺物集積と考えSU２とした。

遺物出土状況　土師器367点(216～222)がまとまって出土した。出土状況図における各土器片は複数の土器をまとめて取り上げているため、実測遺物の各破片が出土状況図と突合できるものが少なく、詳細な出土状況は不明である。また、218はSU２の出土遺物として取り上げているが、出土状況図と突合できず、出土座標の記録もなかった。遺物の出土状況や時期から、SD５～SD７、SK196、SU１との関連が考えられる。

出土遺物　土師器７点を図示した。いずれも廻間Ⅱ式1段階である。216は有段高坏、217～219は広口壺、220は壺、221、222は台付甕である。

時期　図示した216～222から、本遺構は３世紀中葉と考えられる。

SU３（図80）

検出状況　Ｃ区AL４グリッド、遺物包含層（Ⅲ層）中で検出した。

規模・形状　出土状況図に示した範囲の包含層中に、東西0.35m、南北0.50mの範囲に土師器が散在して集積する。また、出土状況図の範囲から南に約1.5m離れた地点にも包含層中に土器が散在して集積する箇所が確認できる。

遺物出土状況　出土状況図に示した範囲では、土師器41点(223)が散在して出土した。223は横位で、上部を東に向けた状態で出土した。また、SU3出土状況図の範囲から南に約1.5m離れた地点から土師器51点(224、225)が散在して出土している。これらは出土地点が離れており、別の遺物集積の可能性が高い。224、225が出土した遺物集積地点は、出土状況等を記録していないため詳細は不明であるが、遺物はSU３の出土遺物として取り上げている。別の遺物集積出土と考えられる224、225はSU３とは区別し、SU３関連遺物として報告する。

出土遺物　SU３出土の土師器１点、SU３関連遺物２点を図示した。223、224は廻間Ⅰ式２段階の器台、225は廻間Ⅰ式０段階の有段高坏である。

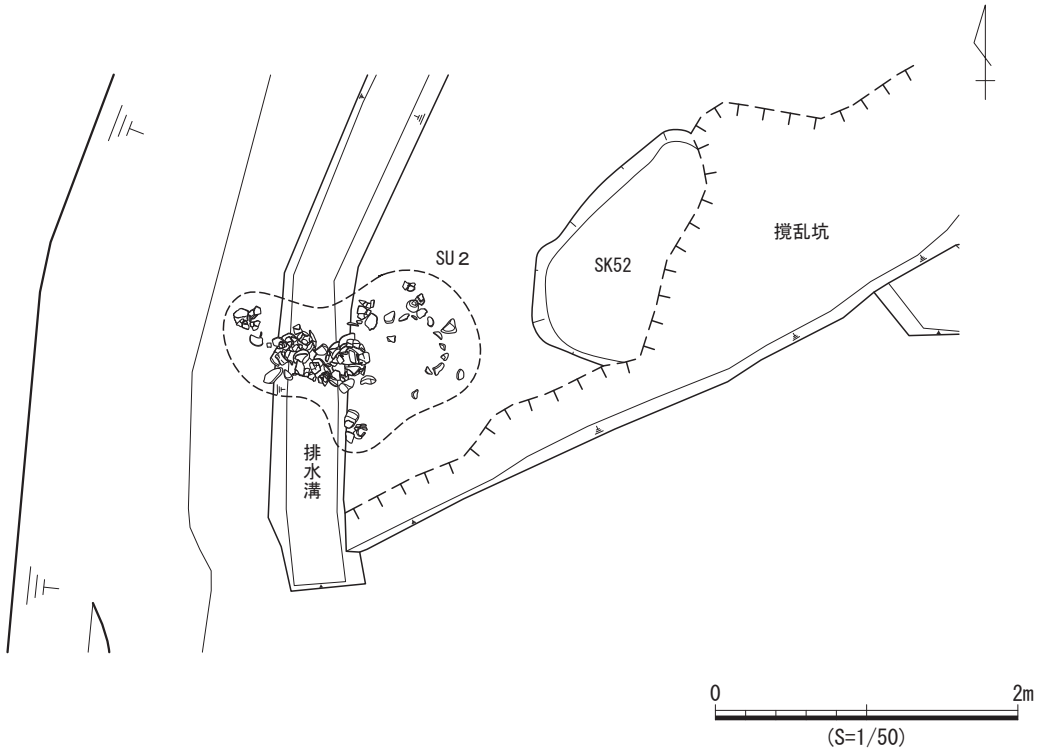
時期　図示した223から、本遺構は２世紀後葉と考えられる。

SU４（図81・82）

検出状況　Ｄ区BA５グリッド、遺物包含層中（Ⅲ層）で検出した。

規模・形状　東西1.1m、南北1.1mの範囲の包含層中に土師器が散在して集積する。

SU２



SU２遺物出土状況

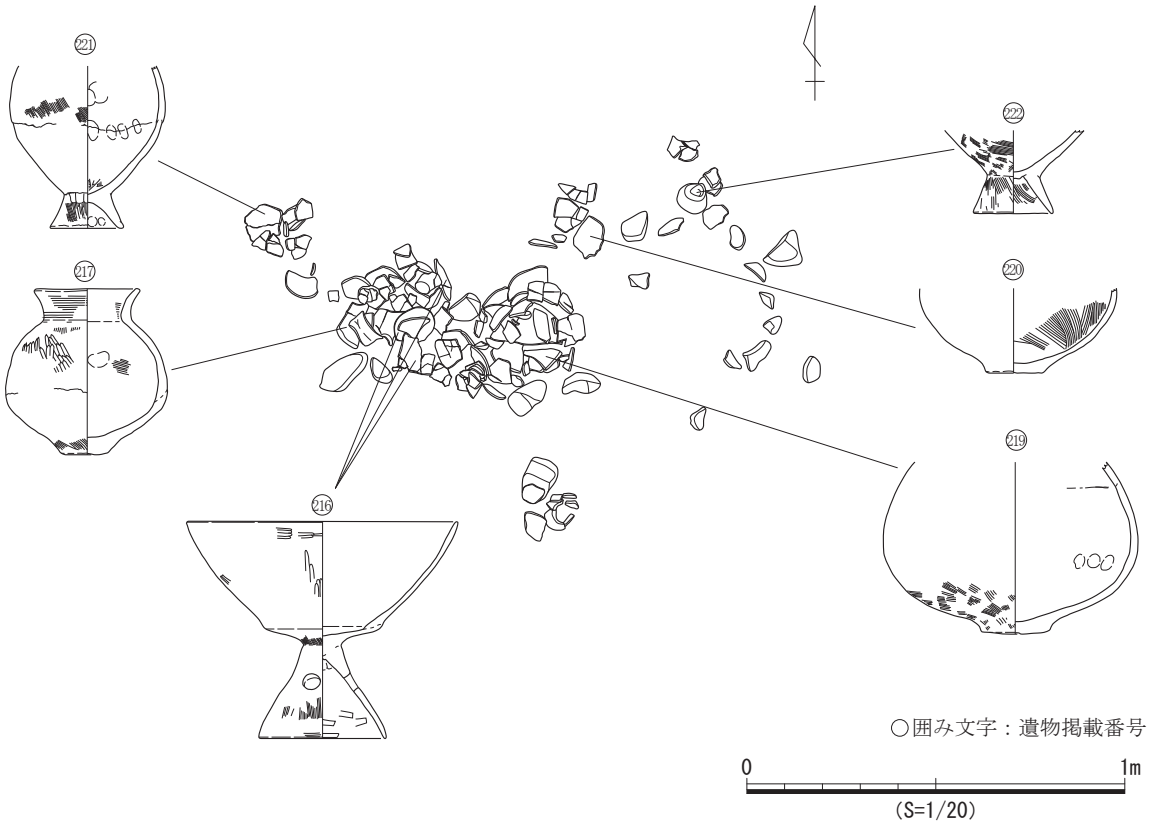


図 78　SU２遺構図

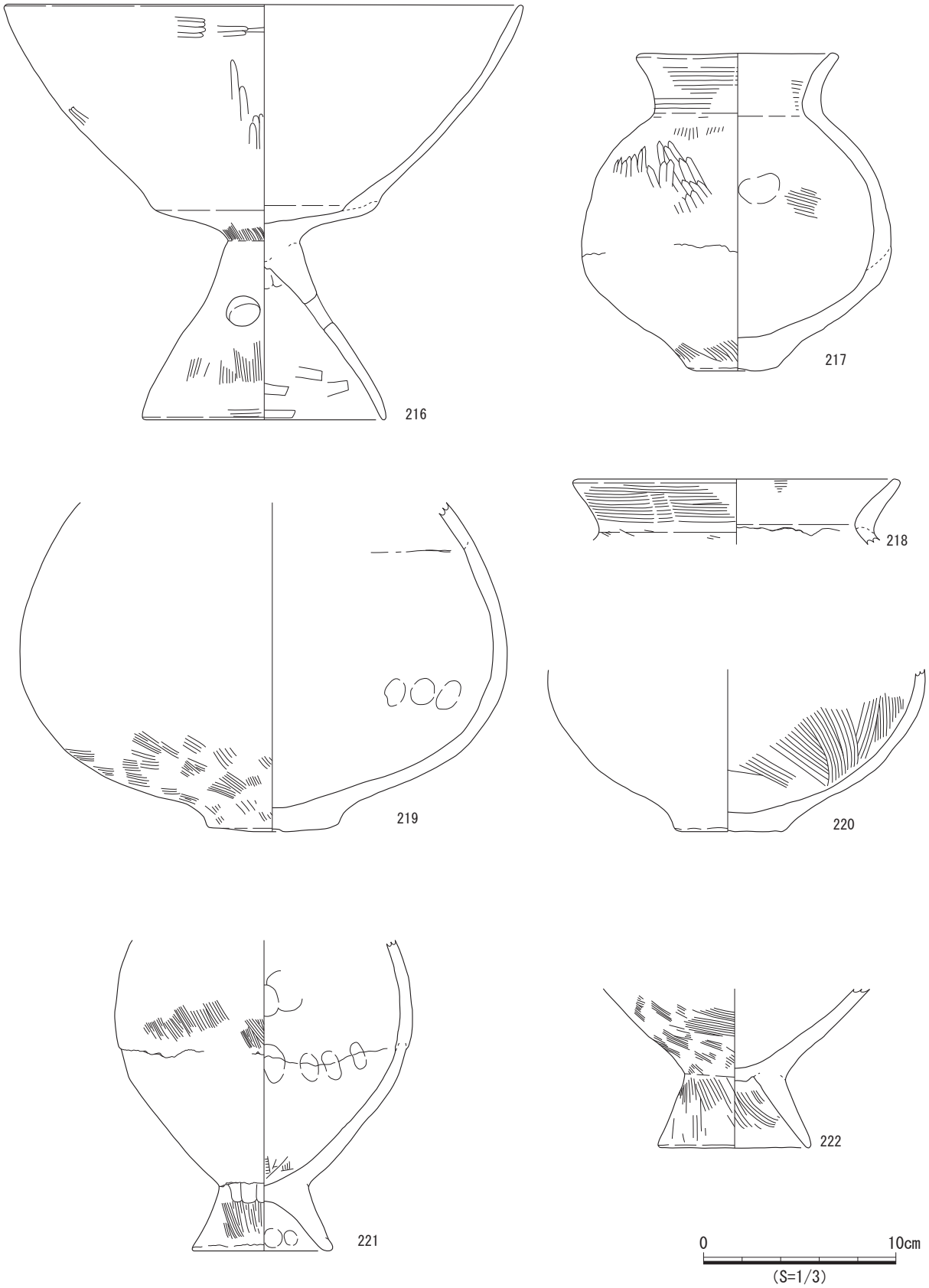


図 79　SU２出土遺物実測図

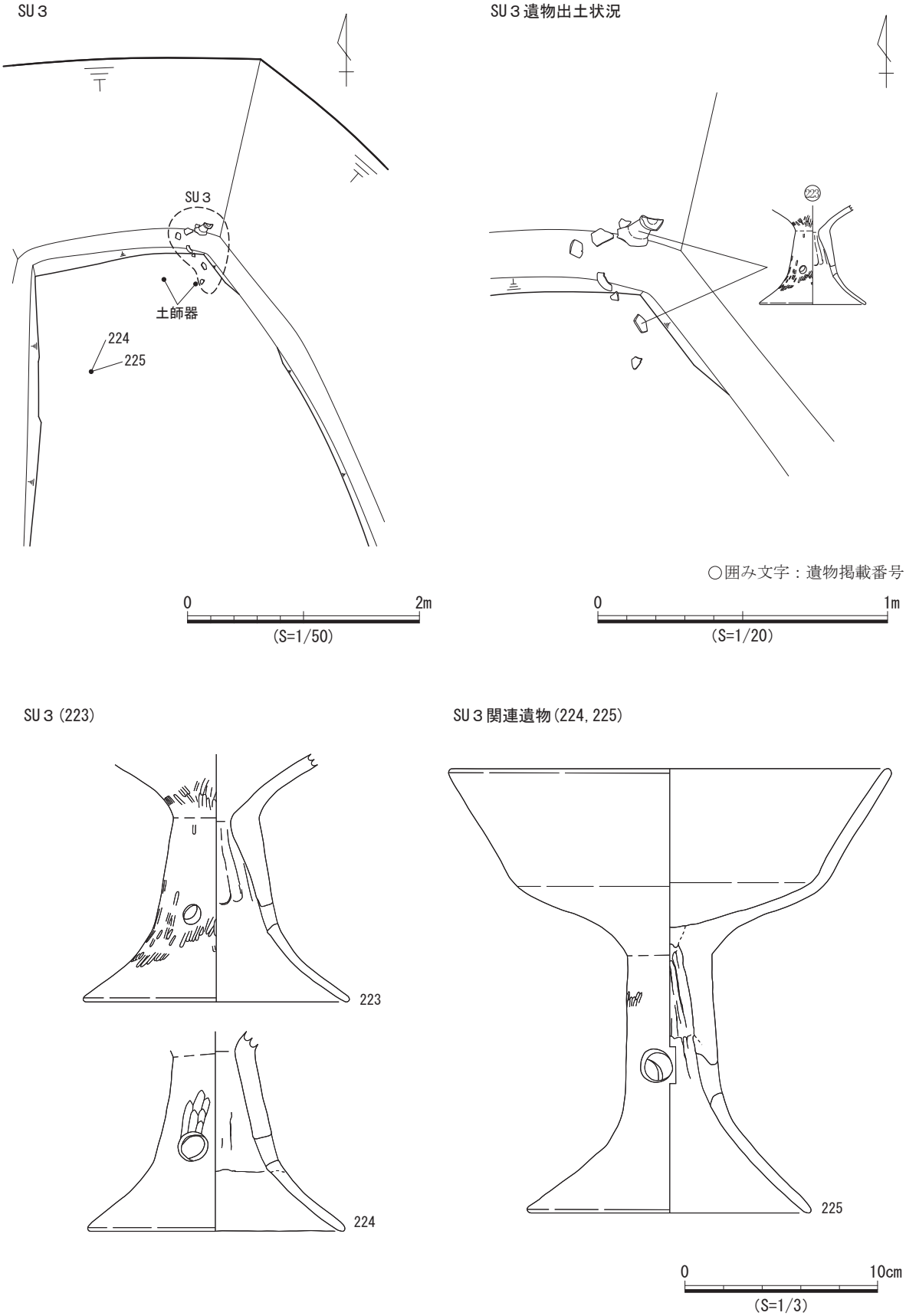
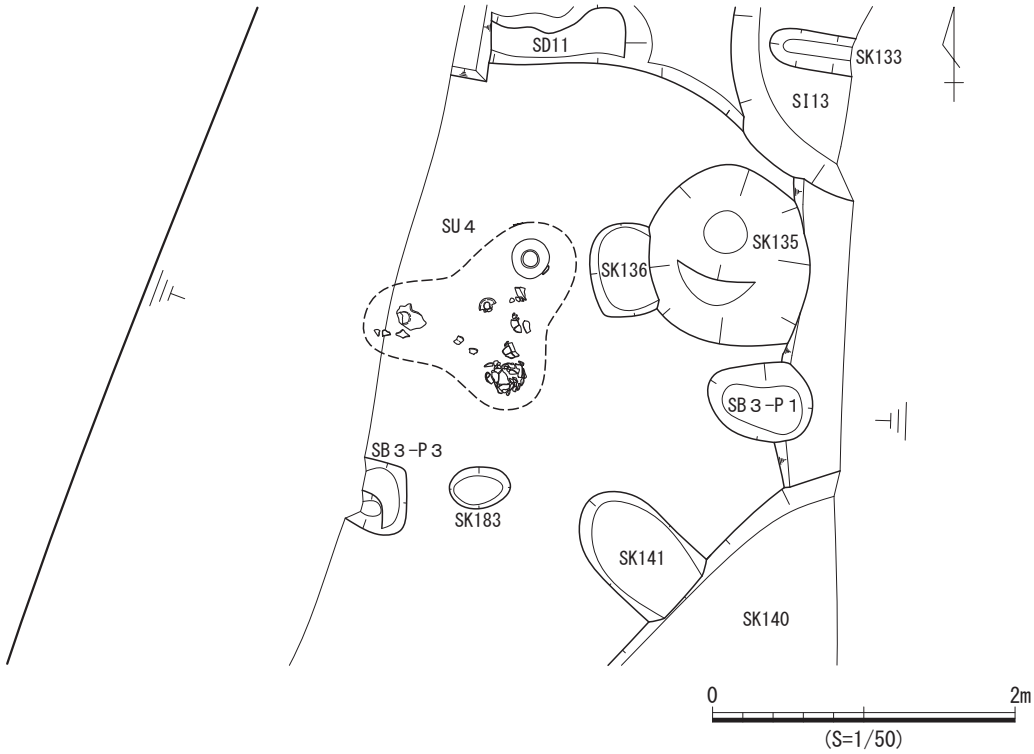


図 80　SU３遺構図・出土遺物・関連遺物実測図

SU４



SU４遺物出土状況

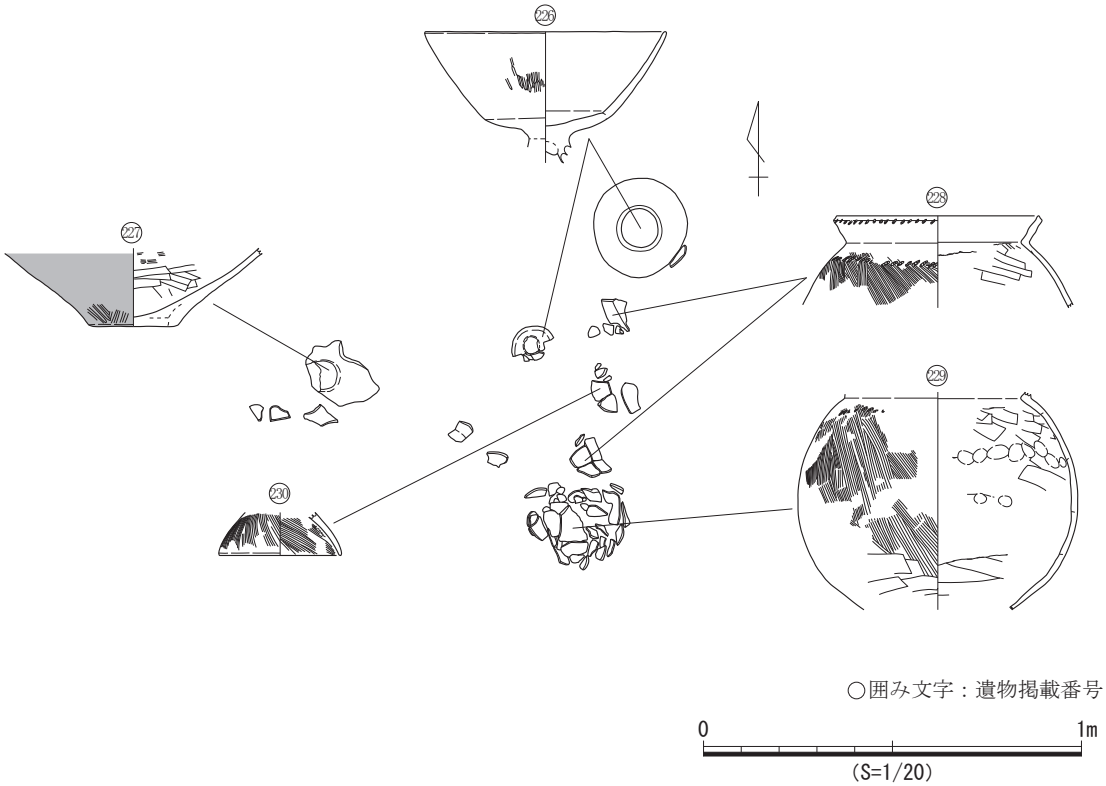


図 81　SU４遺構図

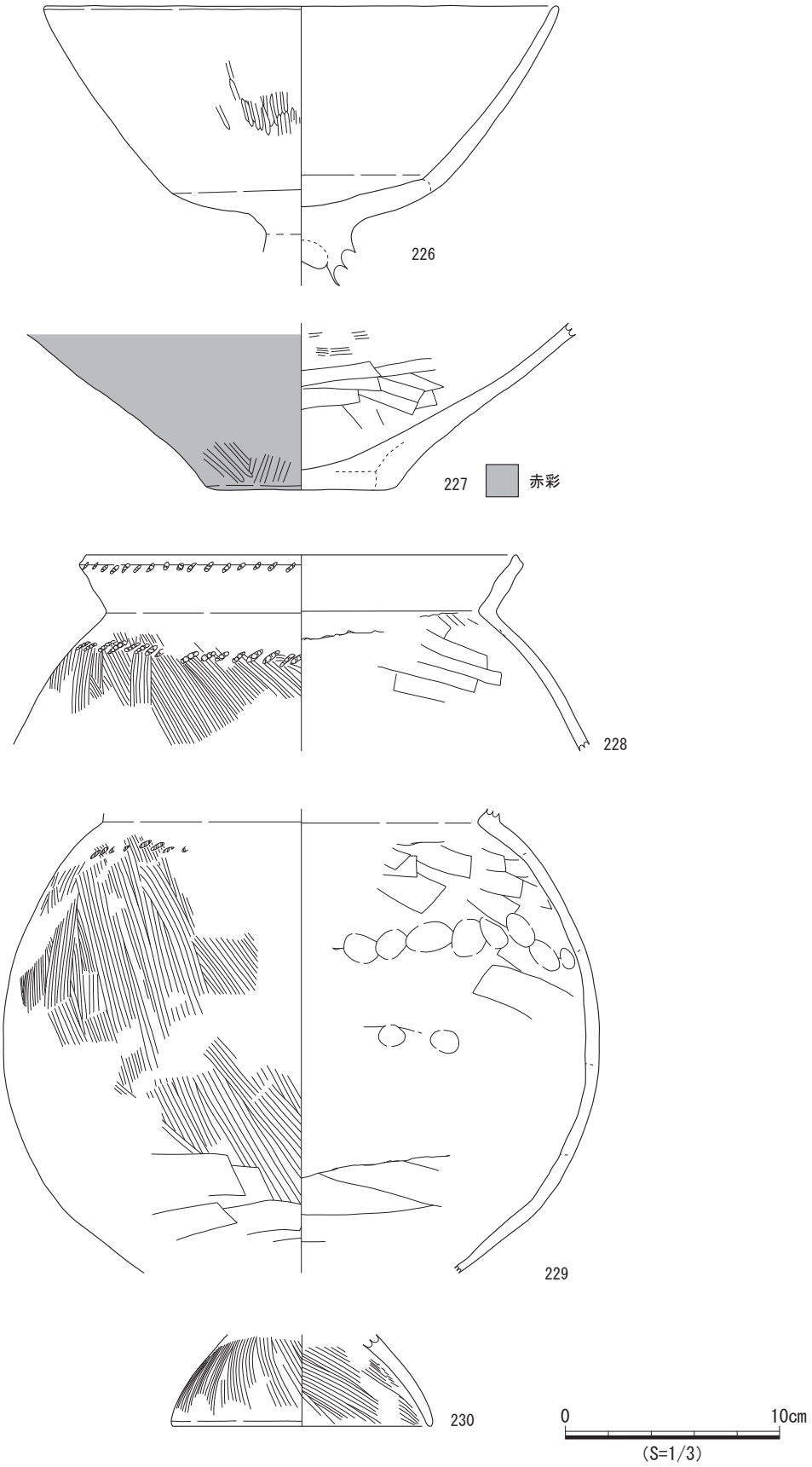


図 82　SU４出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器291点(226～230)が散在して出土した。このうち226、227は逆位で出土した。また、228～230は同一個体と考えられ、胴部の大半は南側に集中し、口縁部と台部はその北側から出土した。口縁部と台部が隣接し、胴部はその南側に集中する。

出土遺物　土師器５点を図示した。226は廻間Ⅰ式３段階の有段高坏である。227はパレス壺である。228～230は廻間Ⅰ式０段階のく字甕である。

時期　図示した226、228～230から、本遺構は２世紀中葉から３世紀初頭と考えられる。

第５節　遺物包含層等出土遺物

明徳遺跡では遺物包含層（Ⅲ層）が良好に残存しており、土師器（弥生土器含む）17,989点(231～379)、灰釉陶器４点、石器・石製品２点(381)、金属製品１点(380)が出土した。このうち、土師器は山中Ⅰ式期から廻間Ⅲ式１段階の時期に限定される。また、灰釉陶器４点は上層の遺物が混入したものと考えられる。遺物包含層（Ⅲ層）の上層には土石流堆積土（Ⅱ層、Ⅰｂ層）が堆積し、Ⅱ層から土師器620点(382～387)、須恵器３点(388)、灰釉陶器１点、山茶碗４点が出土し、Ⅰｂ層から土師器425点(389～409)、須恵器43点(410～412)、灰釉陶器25点(413～416)、山茶碗１点(417)、大窯製品１点(418)、石製品１点(419)が出土した。現代耕作土（Ⅰａ層）から土師器５点、須恵器１点、近世陶器１点が出土した。このほかにトレンチ、攪乱坑、出土層位等が特定できなかった堆積土から土師器5,990点(420～476)、須恵器23点(477)、灰釉陶器20点(478、479)、山茶碗３点(480)、大窯製品３点、常滑産陶器２点、近世陶器３点、石器・石製品３点(481～483)、金属製品１点が出土した。

１　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物（図83～91）

弥生土器６点、土師器143点、石器・石製品２点、金属製品１点を図示した。231～234は山中式の高坏で、231は山中Ⅰ式３段階、232は山中Ⅰ式２段階、233、234は山中Ⅱ式１段階である。235は山中Ⅱ式１段階のワイングラス形高坏である。236～241は有段高坏で、236、237は廻間Ⅰ式４段階、238は廻間Ⅰ式、239は廻間Ⅰ式１段階、240、241は廻間Ⅱ式１段階である。242～248は西濃型高坏で、242は廻間Ⅰ式３段階、243は廻間Ⅰ式３段階から４段階、244は廻間Ⅱ式２段階、245は廻間Ⅰ式からⅡ式、246～248は廻間Ⅱ式である。249は廻間Ⅰ式３段階から４段階の有稜高坏である。250～252は低脚高坏で、250、251は廻間Ⅰ式３段階から４段階、252は廻間Ⅰ式４段階である。253は廻間Ⅱ式３段階から４段階の西濃型の低脚高坏である。254、255、257、258は高坏で、254、255は廻間Ⅰ式３段階、257は廻間Ⅱ式３段階から４段階、258は廻間Ⅱ式４段階である。256は北陸系で、白江式（廻間Ⅰ式４段階併行）の高坏である。259～262、264～268は器台で、259は廻間Ⅰ式２段階、260、261は廻間Ⅰ式４段階、262、264～267は廻間Ⅱ式２段階、268は廻間Ⅲ式である。このうち266、267は同一個体と考えられる。263は廻間Ⅱ式１段階から２段階の高坏若しくは器台である。269～284はく字甕で、269、270は廻間Ⅰ式１段階、271は廻間Ⅰ式２段階、272～276、281は廻間Ⅰ式３段階、277は廻間Ⅰ式３段階から４段階、278～280は廻間Ⅰ式４段階、282は廻間Ⅱ式２段階、283は廻間Ⅱ式３段階、284は廻間Ⅱ式である。このうち273、274、281は同一個体と考えられる。285～305、320は受口系甕で、285～294は廻間Ⅰ式２段階、320は廻間Ⅰ式２段階から３段階、295～302は廻間Ⅰ式３段階、303～305は廻間Ⅰ式４段階である。このうち286、288は同一個体と考えられる。306～317はＳ字甕Ａ類で、306は廻間Ⅰ式２段階、307、311～317は廻間Ⅰ式３段階、308、309は廻間Ⅰ式４段階、310は廻間Ⅱ式１段階である。318、319は廻間Ⅲ式１段階のＳ字甕Ｃ類である。321～323は北陸系で、月影式（廻間Ⅰ式併行）の甕である。このうち、323はSD２出土の84と同一個体と考えられる。324～327はいずれも廻間Ⅰ式３段階の台付甕である。328はＳ字甕の台部である。329は伊勢系の土器で、廻間Ⅰ式併行の鉢の把手である。330は山中Ⅰ式３段階のパレス壺である。331～344、346はパレス壺で、331は廻間Ⅰ式、332～337、346は廻間Ⅰ式２段階、338～341、344は廻間Ⅰ式３段階、342は廻間Ⅰ式４段階、343は廻間Ⅱ式２段階で

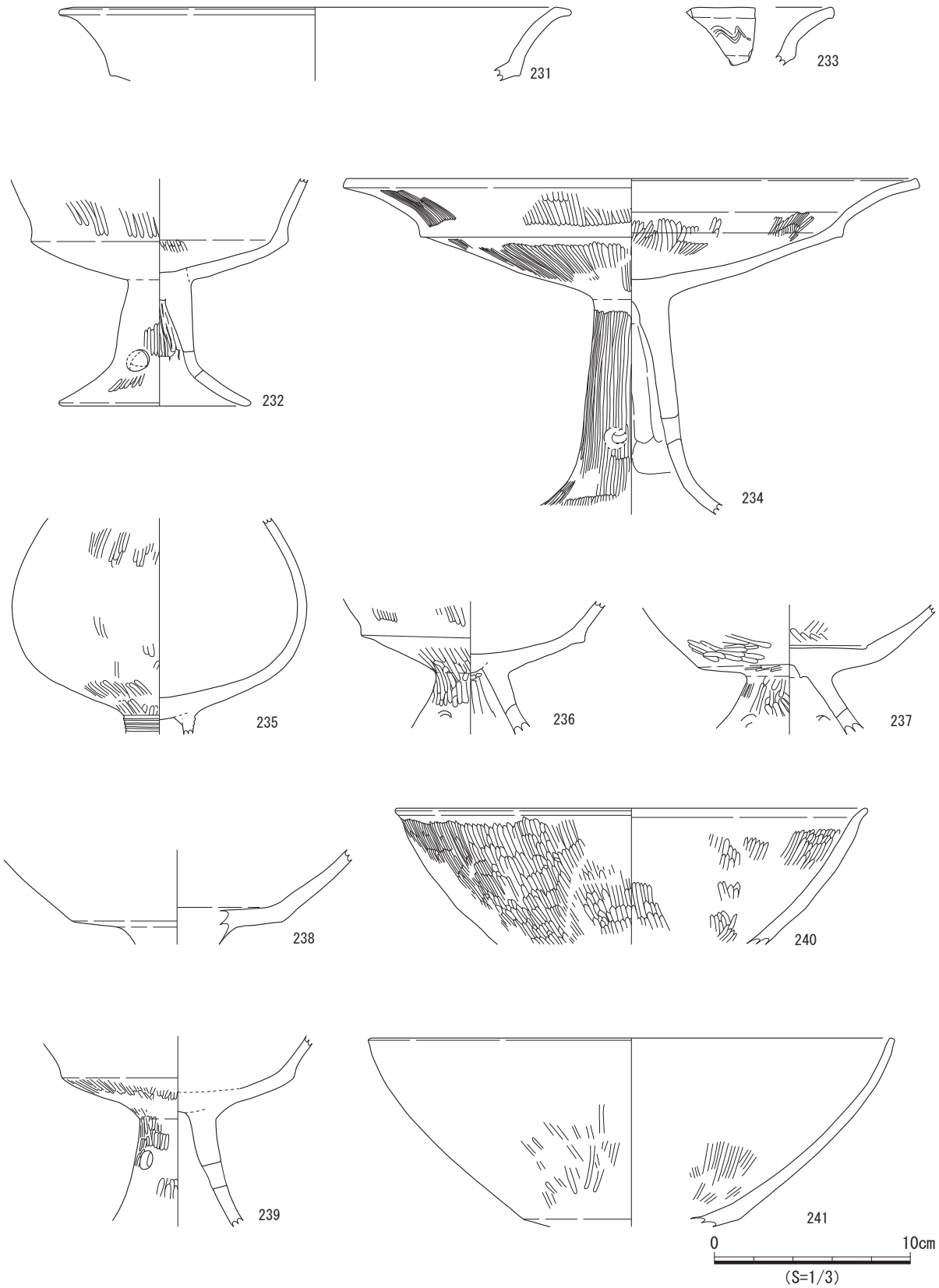


図 83　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（１）

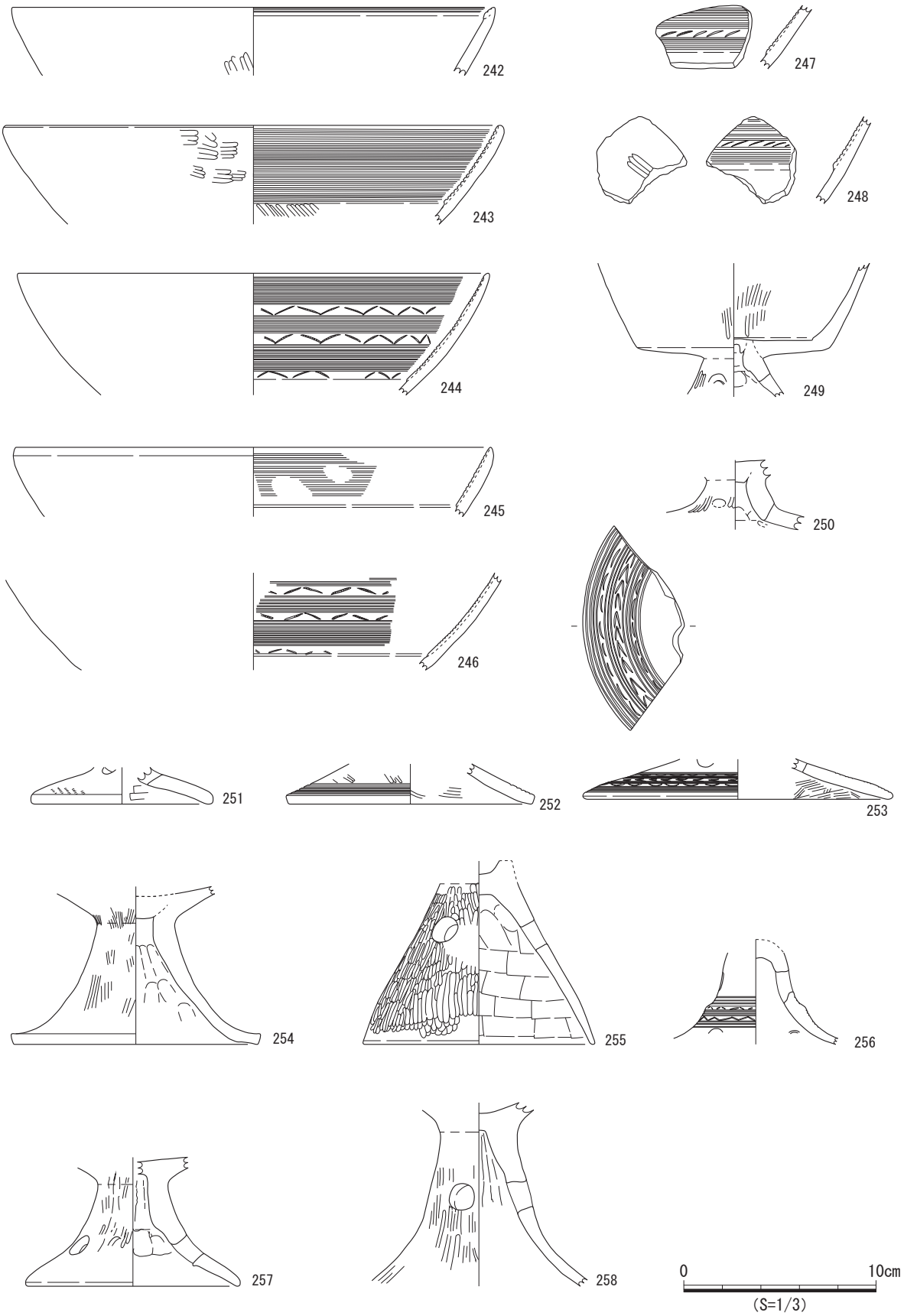


図 84　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（２）

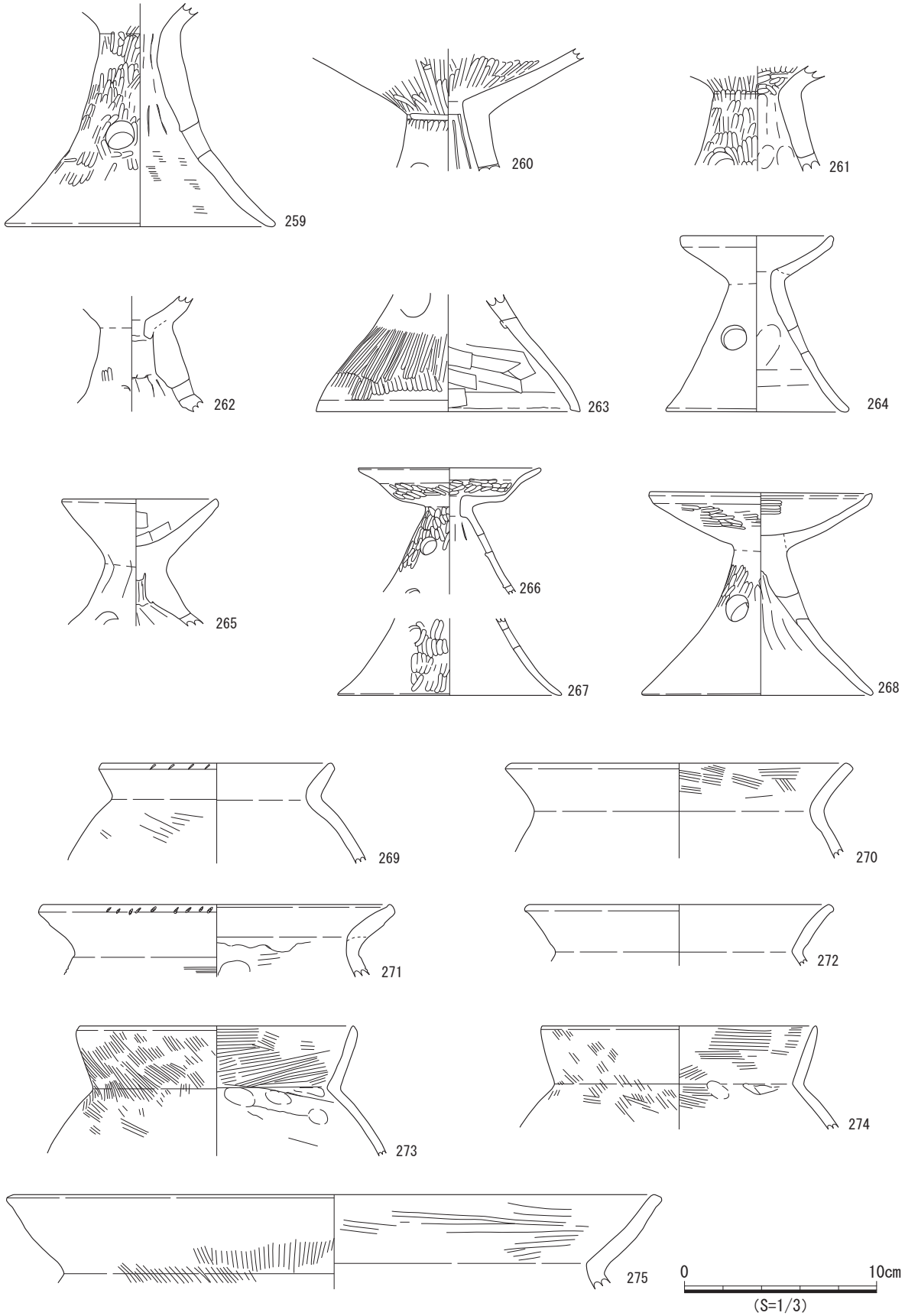


図 85　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（３）

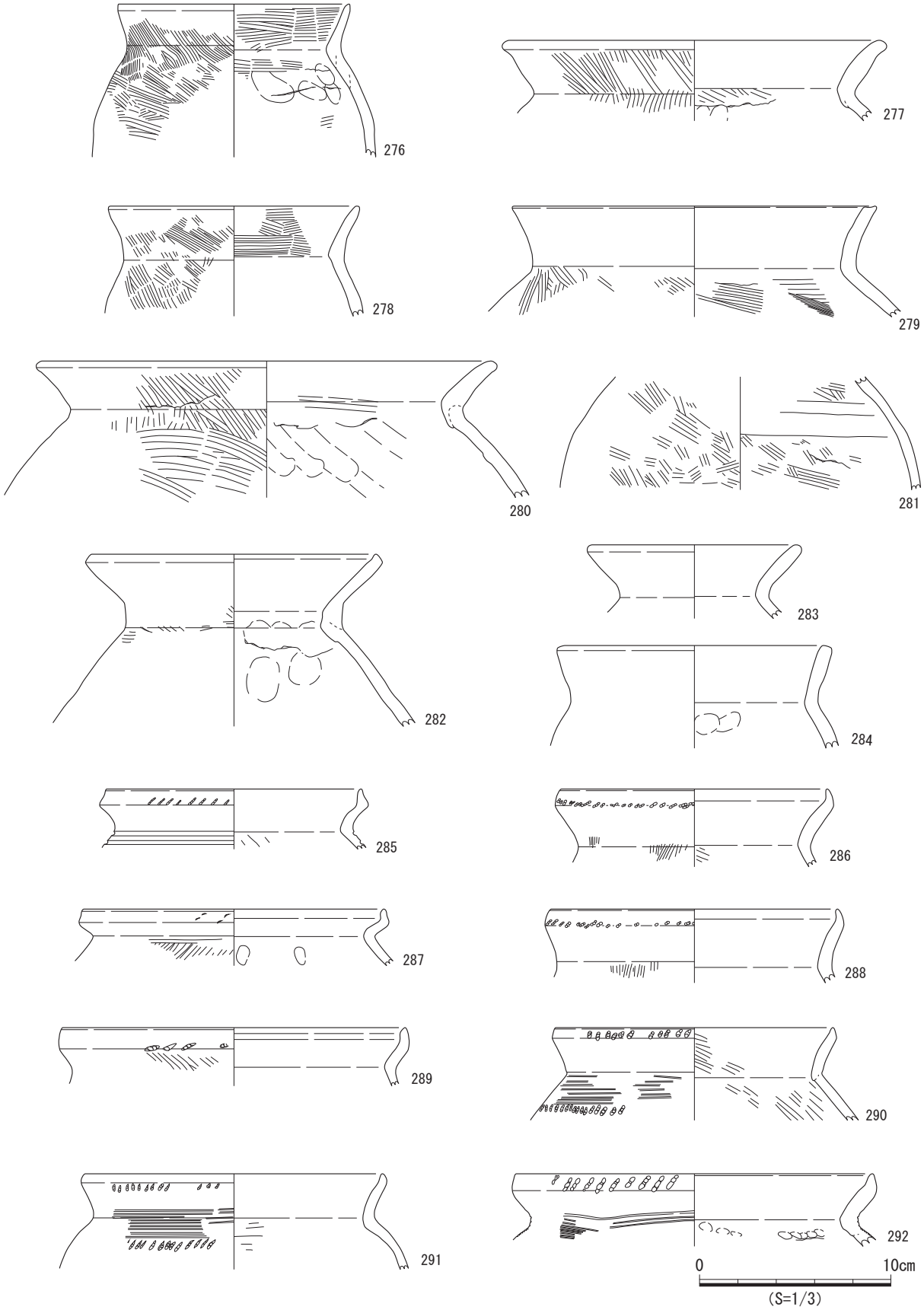


図 86　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（４）

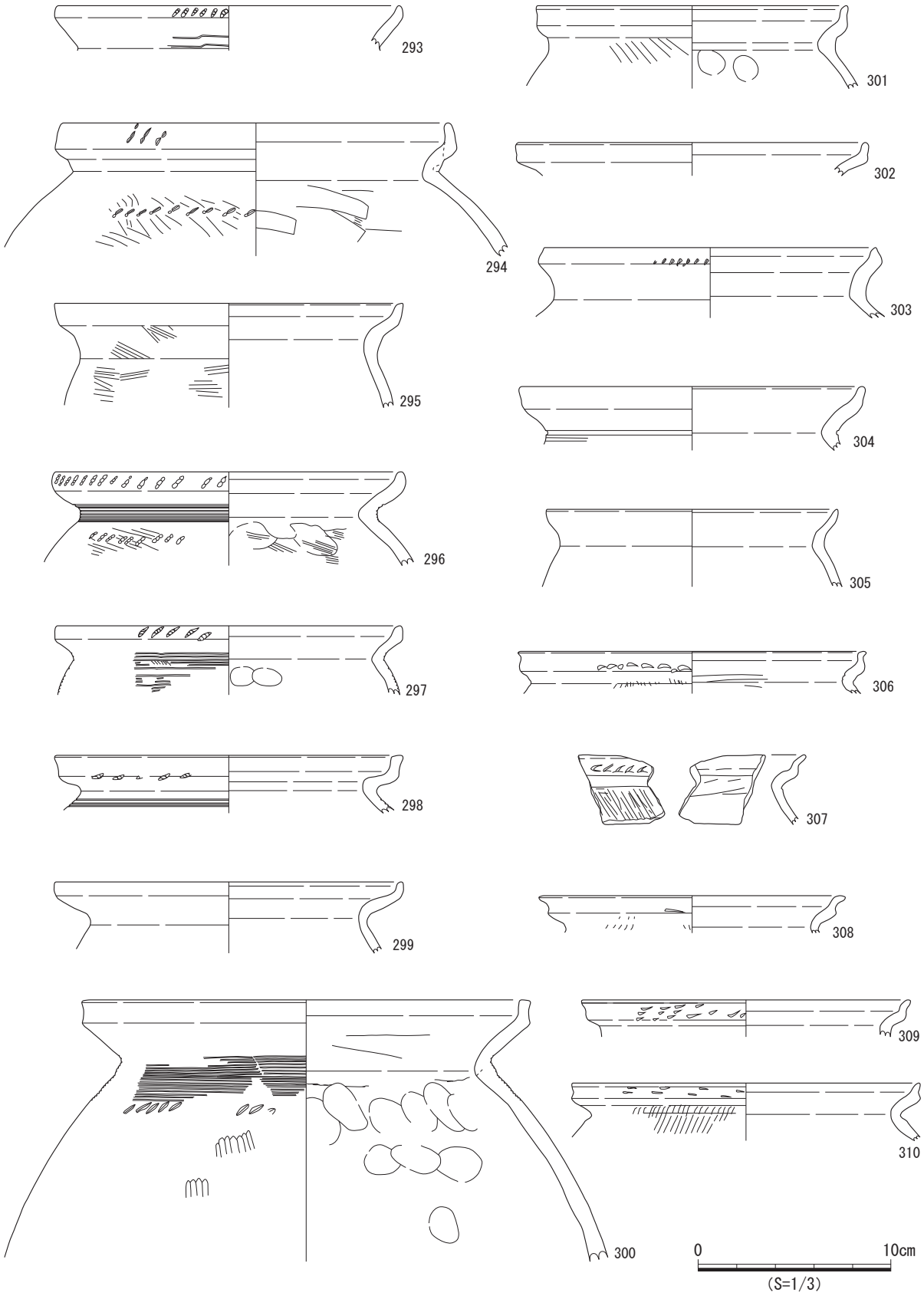


図 87　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（５）

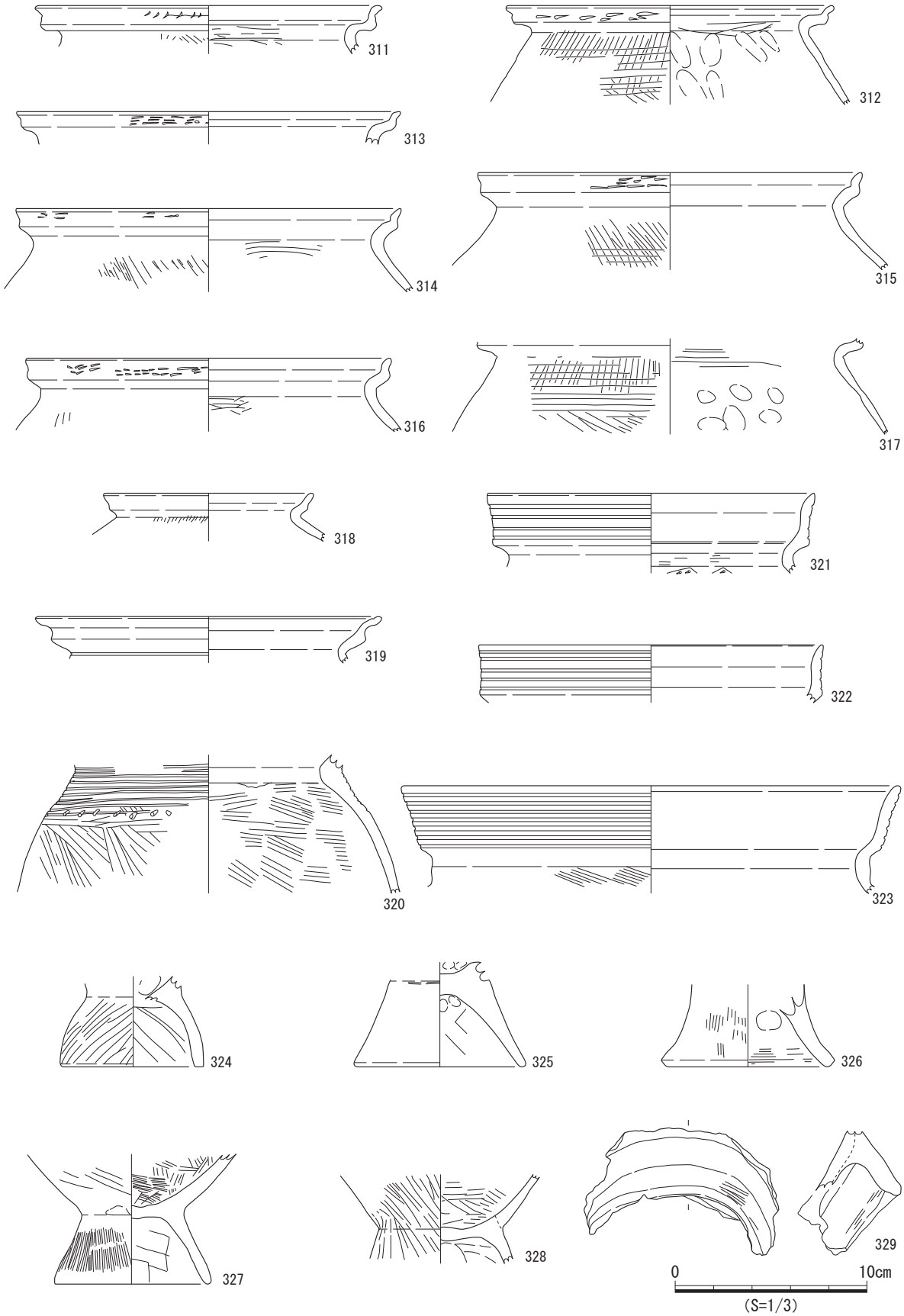


図 88　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（６）

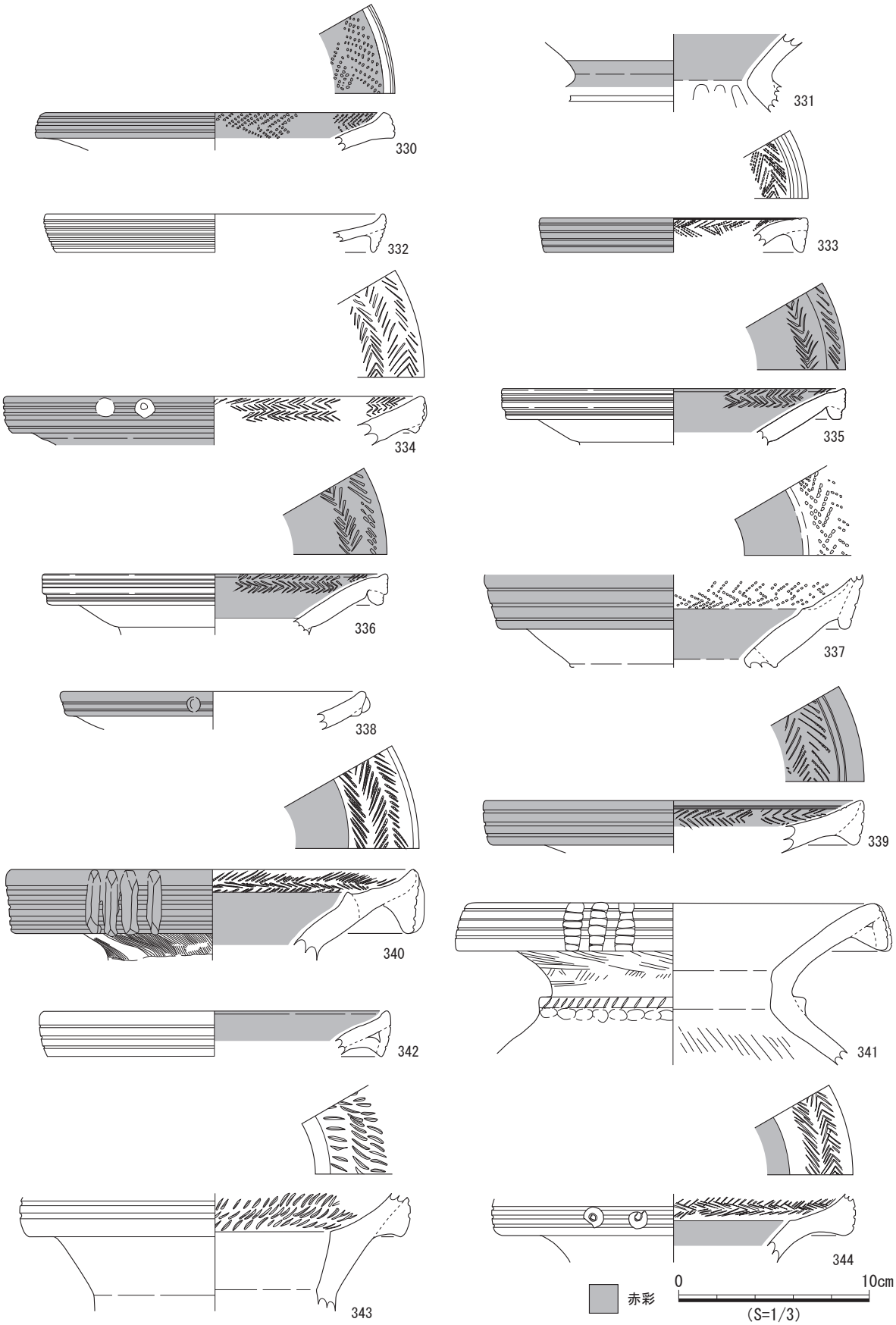


図 89　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（７）

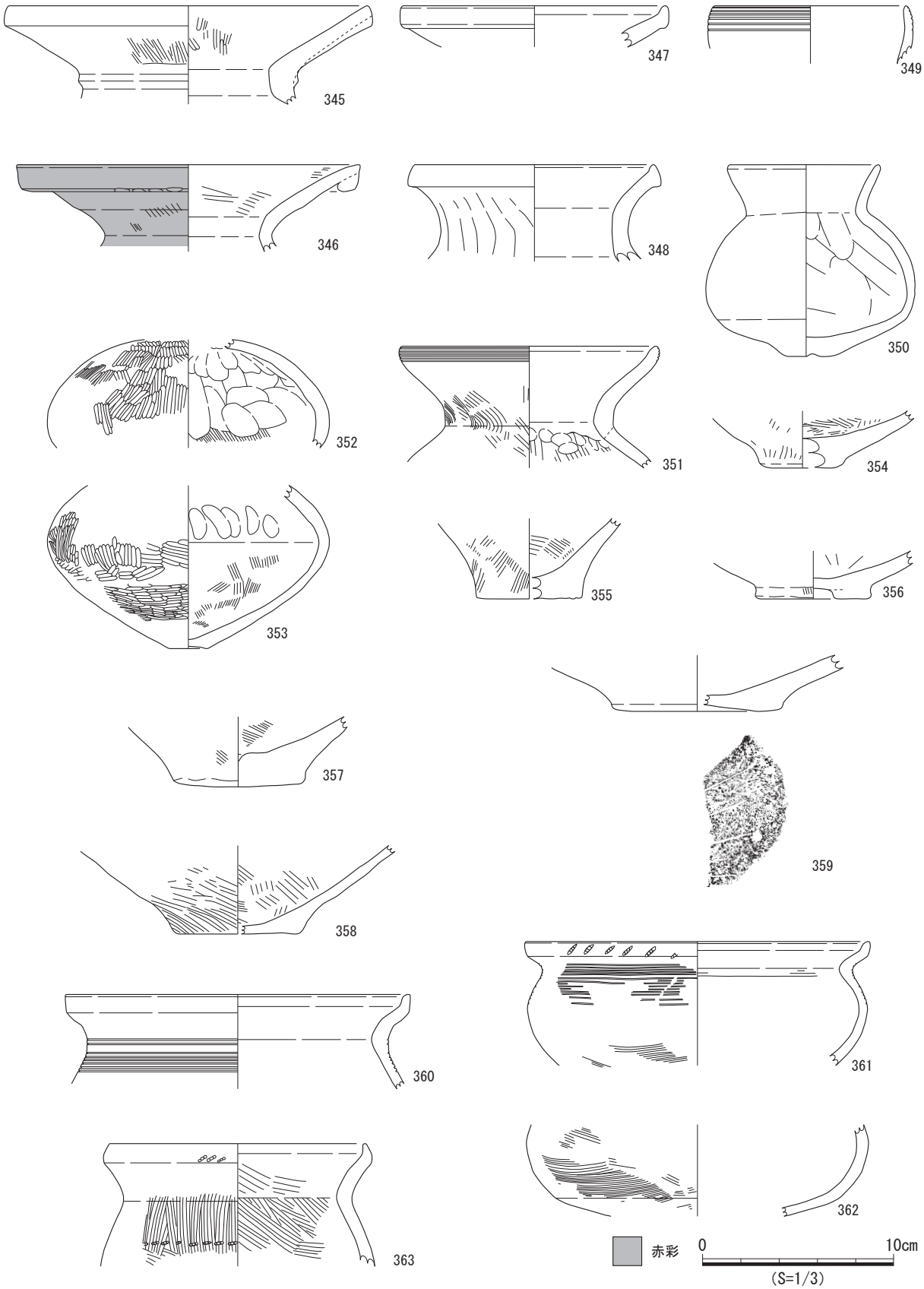


図 90　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（８）

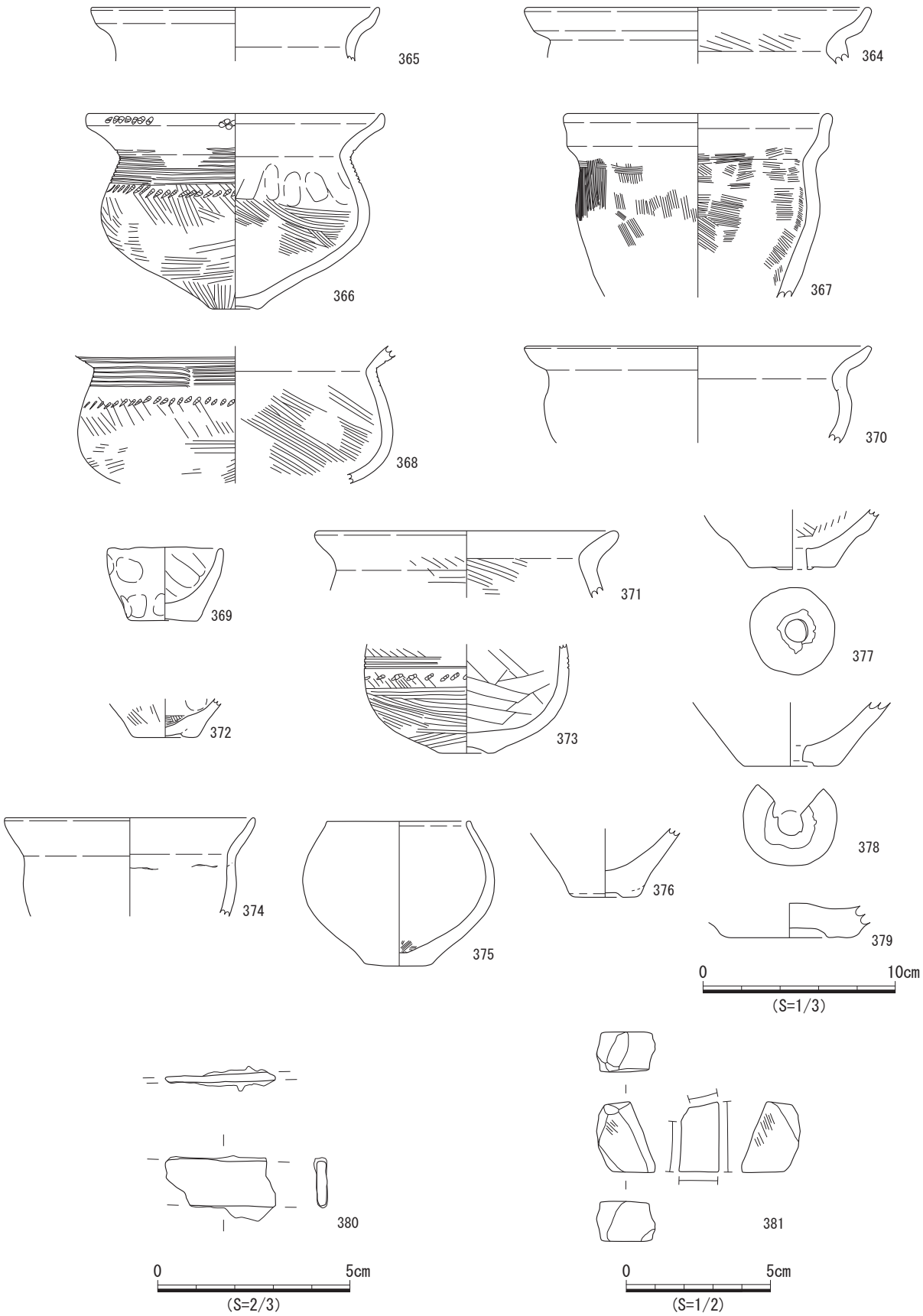


図 91　遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物実測図（９）

ある。345、347、348は広口壺で、345は廻間Ⅰ式１段階、347は廻間Ⅰ式３段階から４段階、348は廻間Ⅰ式４段階である。349、350は内湾壺で、349は廻間Ⅰ式、350は廻間Ⅰ式３段階である。351は廻間Ⅰ式０段階から１段階の袋状口縁壺である。352～359は壺で、いずれも時期不明である。このうち352、353は同一個体と考えられる。また、359の底部外面には木葉痕が確認できる。360～366は受口系口縁をもつ鉢で、366は廻間Ⅰ式０段階、360～362は廻間Ⅰ式２段階、363、364は廻間Ⅰ式３段階、365は廻間Ⅰ式４段階である。このうち361、362は同一個体と考えられる。367は北陸系で、月影式（廻間Ⅰ式併行）の鉢である。368～376は鉢で、368は廻間Ⅰ式１段階、369は廻間Ⅰ式２段階、370、371は廻間Ⅰ式３段階、372は廻間Ⅰ式４段階、373は廻間Ⅰ式、374、375は廻間Ⅱ式３段階、376は時期不明である。377、378は廻間Ⅰ式４段階の有孔鉢である。379は時期不明の壺若しくは鉢である。380は刀子である。381は砥石（仕上げ砥）である。

２　土石流堆積土（Ⅱ層）出土遺物

土師器６点、須恵器１点を図示した。382は廻間Ⅰ式３段階の西濃型高坏、383は廻間Ⅰ式０段階の器台、384は廻間Ⅱ式の高坏若しくは器台、385は廻間Ⅰ式の内湾壺、386は廻間Ⅰ式１段階の台付甕、387は廻間Ⅱ式４段階のＳ字甕Ｂ類である。388は猿投窯産の須恵器で、黒笹90号窯式期の甕である。

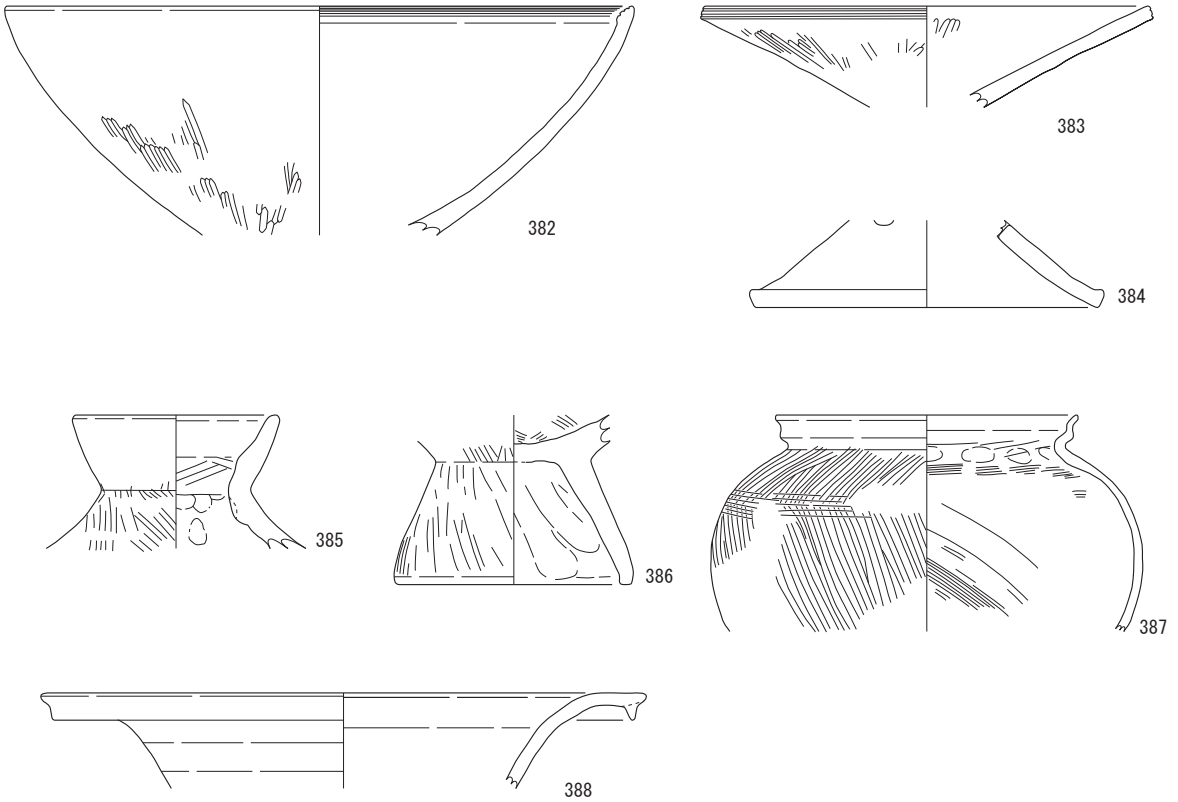
３　土石流堆積土（Ⅰｂ層）出土遺物

土師器21点、須恵器３点、灰釉陶器４点、山茶碗１点、大窯製品１点、石製品１点を図示した。389は廻間Ⅰ式３段階から４段階の有段高坏、390，391は廻間Ⅰ式４段階の西濃型高坏である。392、393は廻間Ⅰ式３段階の器台である。394～398は受口系甕で、394、396は廻間Ⅰ式１段階、395は廻間Ⅰ式２段階、397、398は廻間Ⅰ式４段階である。394と396は同一個体と考えられる。399は廻間Ⅰ式２段階のＳ字甕０類である。400～402はＳ字甕Ａ類で、400、401は廻間Ⅰ式２段階、402は廻間Ⅰ式３段階である。403は廻間Ⅱ式４段階のＳ字甕Ｂ類である。404は廻間Ⅰ式の台付甕である。405は時期不明の台付壺である。406は廻間Ⅰ式３段階の受口系口縁をもつ鉢である。407は廻間Ⅰ式３段階の鉢である。408、409は有孔鉢で、408は時期不明、409は廻間Ⅰ式０段階である。410は猿投窯産の須恵器で、時期不明の甕である。411、412は美濃須衛窯産の須恵器で、411はⅣ期第１小期の坏蓋、412はⅤ期第１小期の坏身である。413～416は猿投窯産の灰釉陶器で、413、414は折戸53号窯式期の皿、415は黒笹90号窯式期の小瓶、416は黒笹90号窯式期の耳皿である。417は第５型式の尾張型山茶碗である。418は大窯製品で、第２段階前半の擂鉢である。419は五輪塔（水輪）である。

４　トレンチ・攪乱坑・層位不明堆積土出土遺物

弥生土器６点、土師器51点、須恵器１点、灰釉陶器２点、山茶碗１点、石器・石製品３点を図示した。420、421は高坏で、420は山中Ⅰ式２段階、421は山中Ⅱ式３段階である。422～424は有段高坏で、422は廻間Ⅰ式２段階から３段階、423は廻間Ⅰ式４段階、424は廻間Ⅲ式１段階である。425～428は西濃型高坏で、425～427は廻間Ⅰ式３段階、428は廻間Ⅱ式２段階である。429は廻間Ⅰ式４段階の有稜高坏である。430～432は高坏で、430は廻間Ⅰ式からⅢ式、431は廻間Ⅰ式１段階、432は廻間Ⅰ式３段階である。433は廻間Ⅰ式３段階の低脚高坏である。434、435は器台で、434は廻間Ⅰ式１段階、435は

Ⅱ層(382～388)



Ⅰｂ層(389～393)

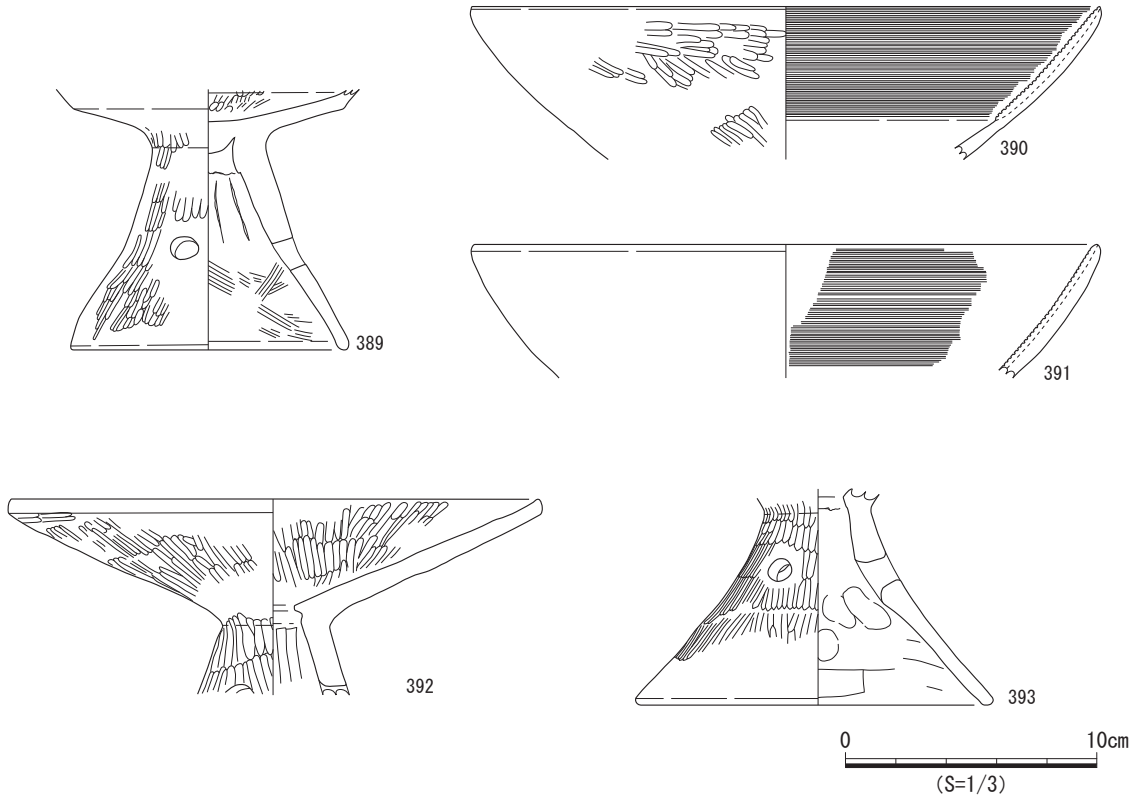


図 92　土石流堆積土（Ⅱ層）出土遺物実測図・土石流堆積土（Ⅰｂ層）出土遺物実測図（１）

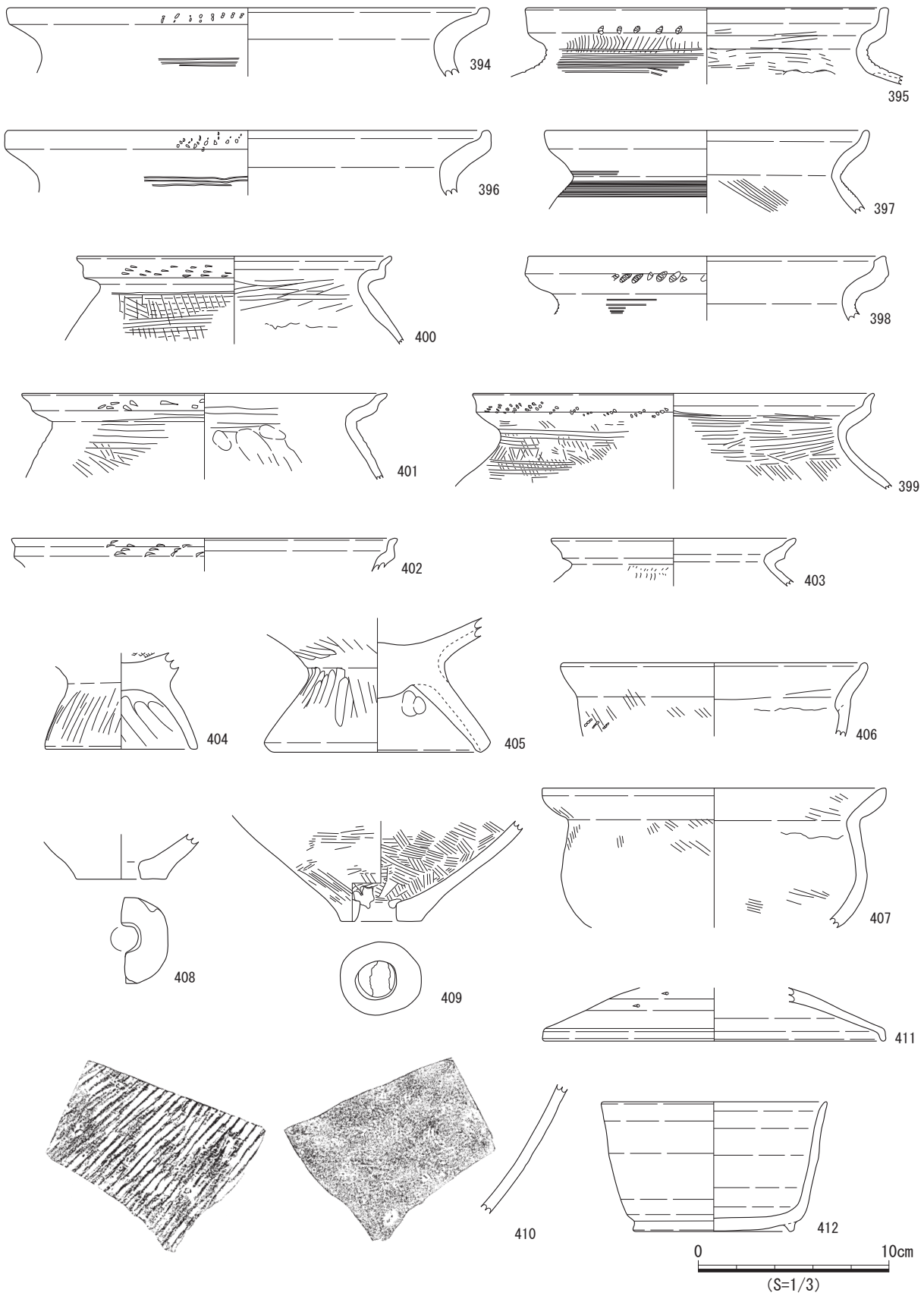


図 93　土石流堆積土（Ｉｂ層）出土遺物実測図（２）

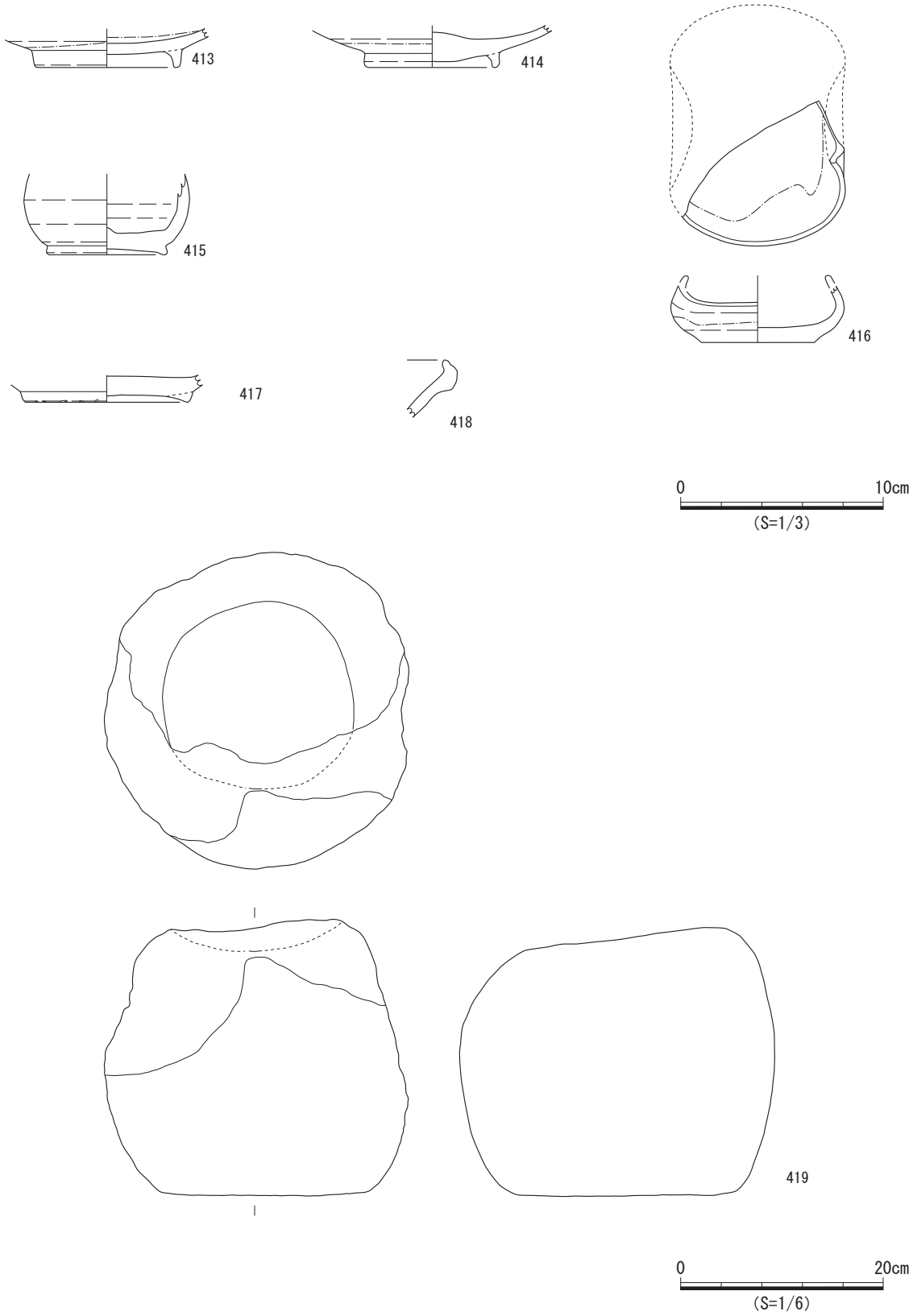


図 94　土石流堆積土（Ｉｂ層）出土遺物実測図（３）

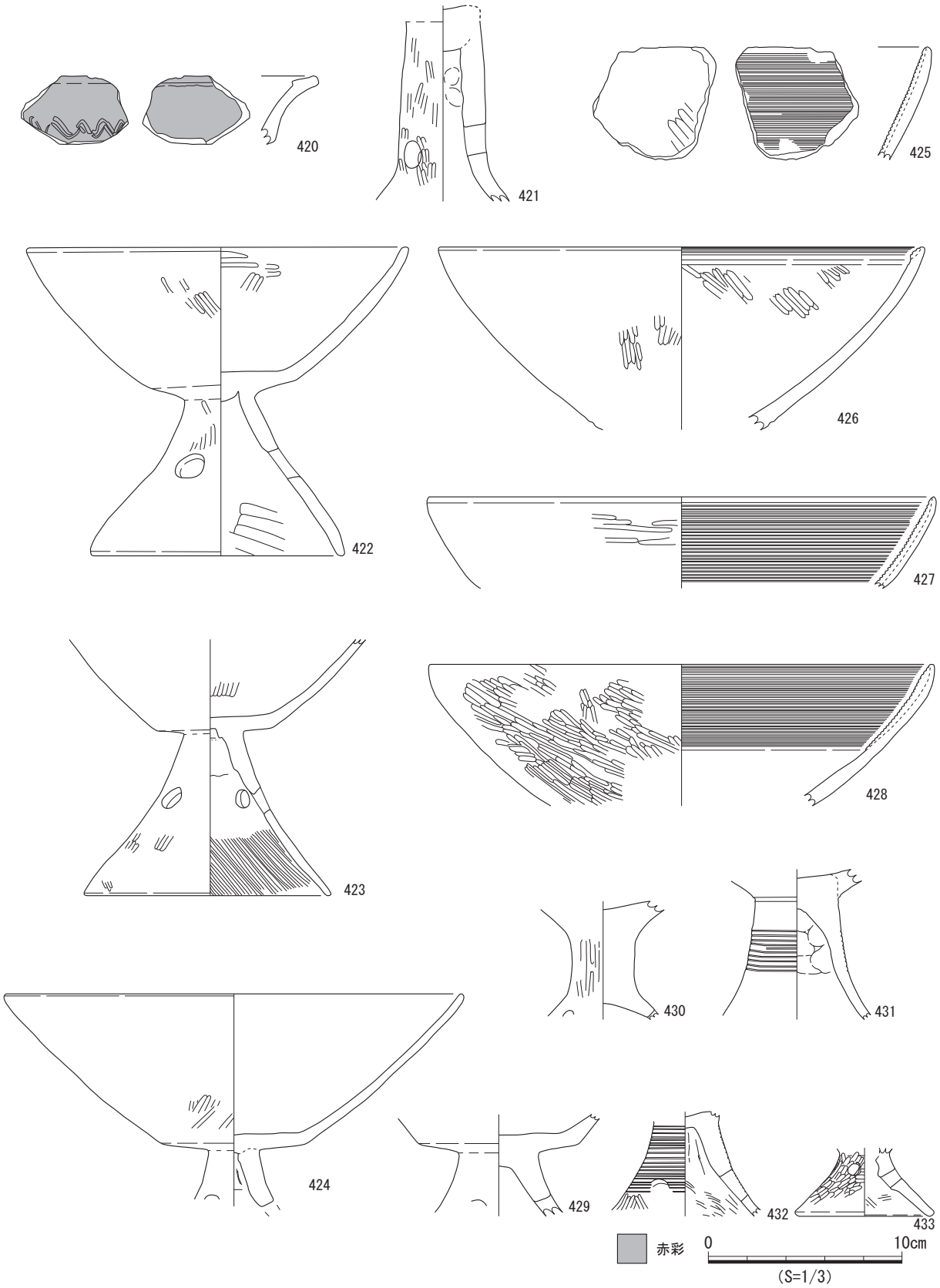


図 95　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土出土遺物実測図（１）

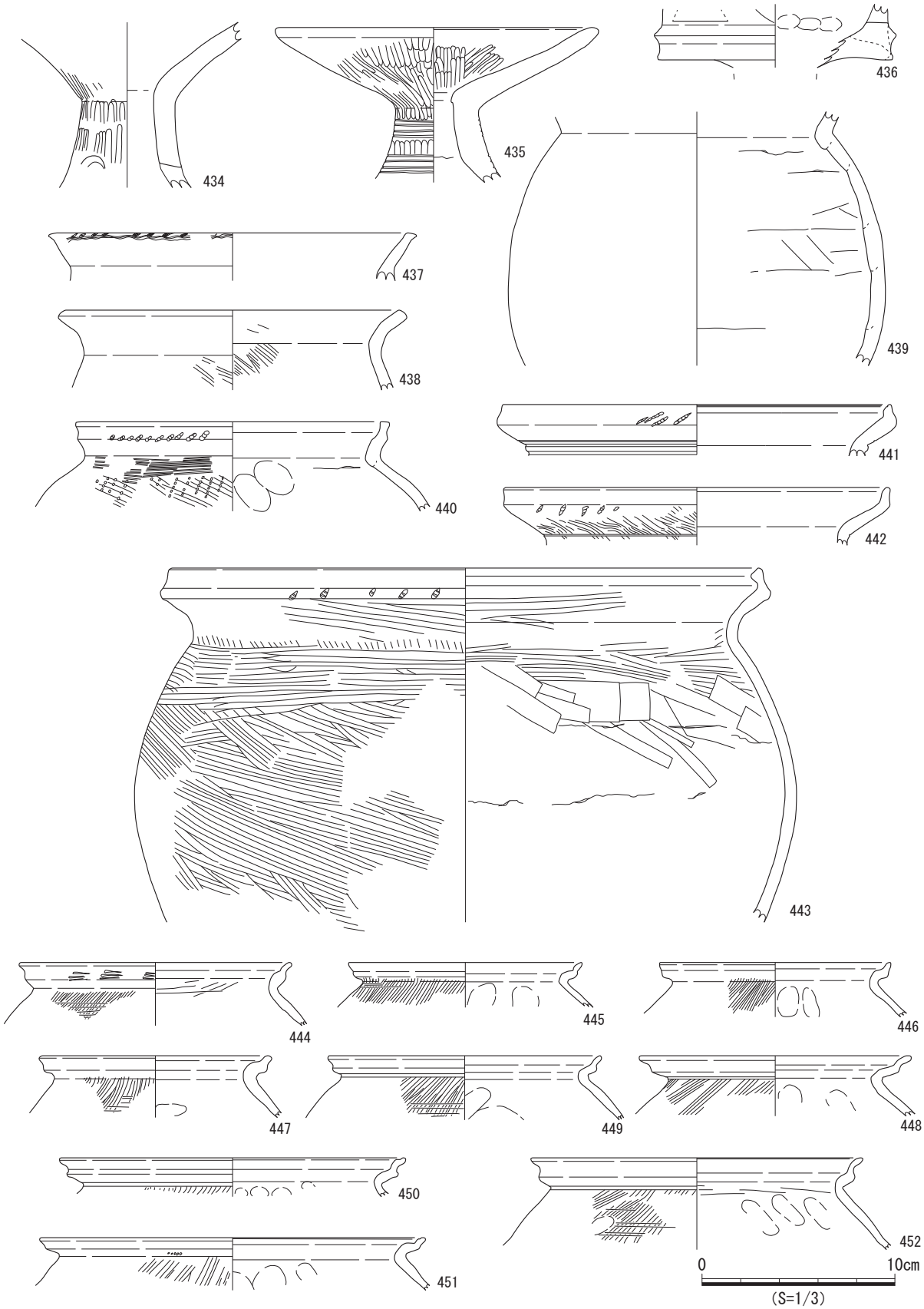


図 96　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土出土遺物実測図（２）

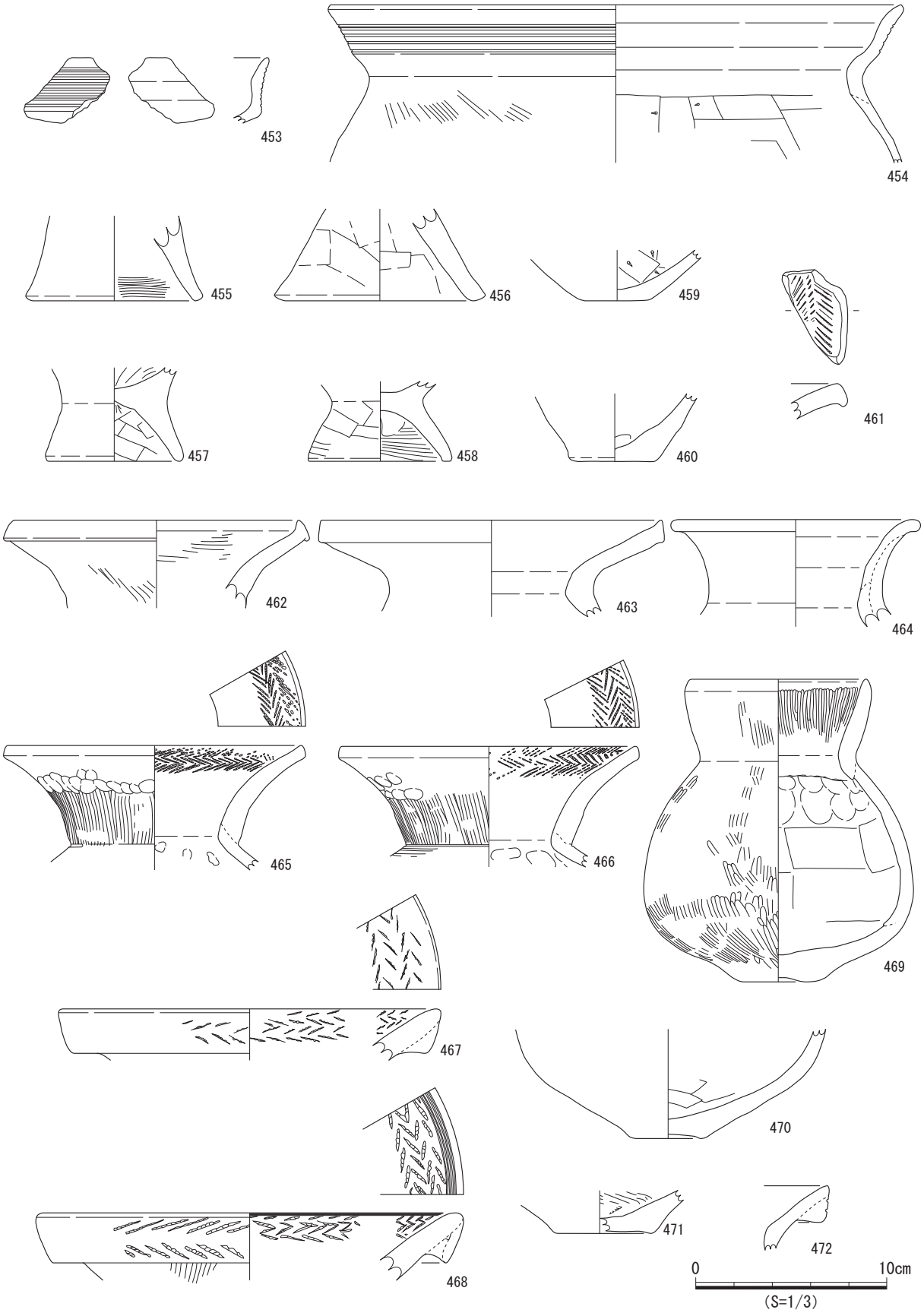


図 97　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土出土遺物実測図（３）

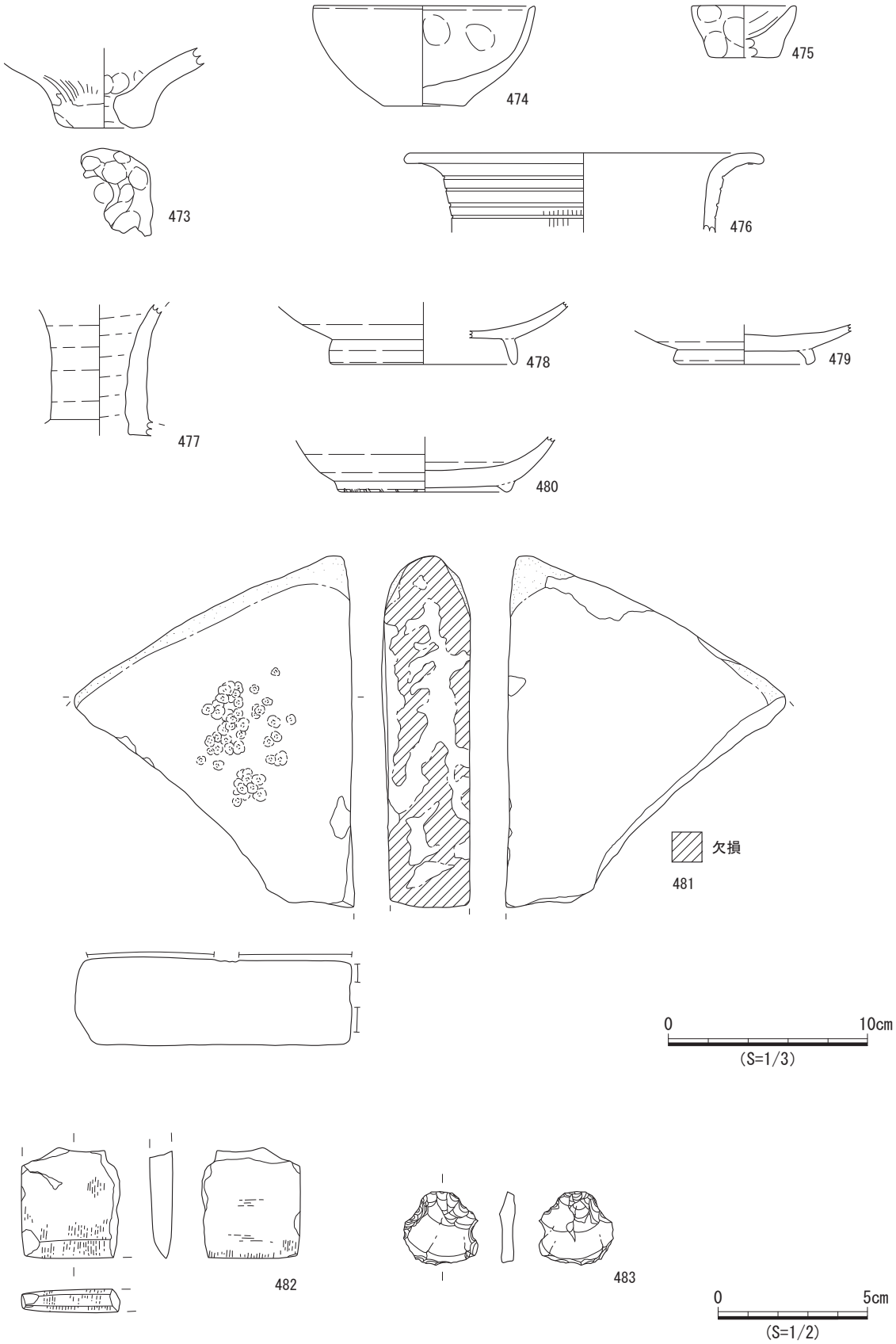


図 98　トレンチ・撹乱坑・層位不明堆積土出土遺物実測図（４）

廻間Ⅰ式３段階である。436は北陸系で、月影式（廻間Ⅰ式併行）の装飾器台である。三角形と心葉形の透かしが交互に施される。437～439はく字甕で、437は廻間Ⅰ式１段階、438は廻間Ⅰ式４段階、439は廻間Ⅱ式である。440～443は受口系甕で、440、441は廻間Ⅰ式２段階、442は廻間Ⅰ式３段階、443廻間Ⅱ式１段階である。このうち443は43、44（いずれもSI６出土）と同一個体と考えられる。444は廻間Ⅱ式１段階のＳ字甕Ａ類である。445～447はＳ字甕Ｂ類で、446廻間Ⅱ式２段階、445、447が廻間Ⅱ式４段階である。448～452はＳ字甕Ｃ類で、いずれも廻間Ⅲ式１段階である。453、454は北陸系の甕で、453は月影式（廻間Ⅰ式併行）、454は白江式（廻間Ⅱ式併行）である。455、456は山中Ⅰ式３段階の台付甕である。457～460は甕で、457は廻間Ⅰ式、458は廻間Ⅰ式３段階、459、460は時期不明である。461は山中Ⅰ式３段階のパレス壺である。462～464は広口壺で、462は廻間Ⅰ式２段階、463、464は廻間Ⅰ式３段階である。465～468は加飾壺で、465～468は廻間Ⅰ式３段階である。このうち465、466は同一個体と考えられる。また、465～468は柳ケ坪型壺の祖型と考えられる。469は廻間Ⅰ式２段階の内湾壺である。470～472は壺で、472は廻間Ⅰ式からⅡ式、470、471は時期不明である。473は廻間Ⅰ式４段階の有孔鉢である。474は廻間Ⅱ式２段階の鉢である。475は時期不明のミニチュア鉢である。476は器種も時期も不明であるが、胎土から弥生土器と考えられる。477は美濃須衛窯産の須恵器で、Ⅳ期第３小期の長頸瓶である。478、479は猿投窯産の灰釉陶器で、478は黒笹90号窯式期の碗、479は折戸53号窯式期の皿である。480は第４型式の尾張型山茶碗である。481は砥石（荒砥）、482は磨製石斧、483はＲＦである。

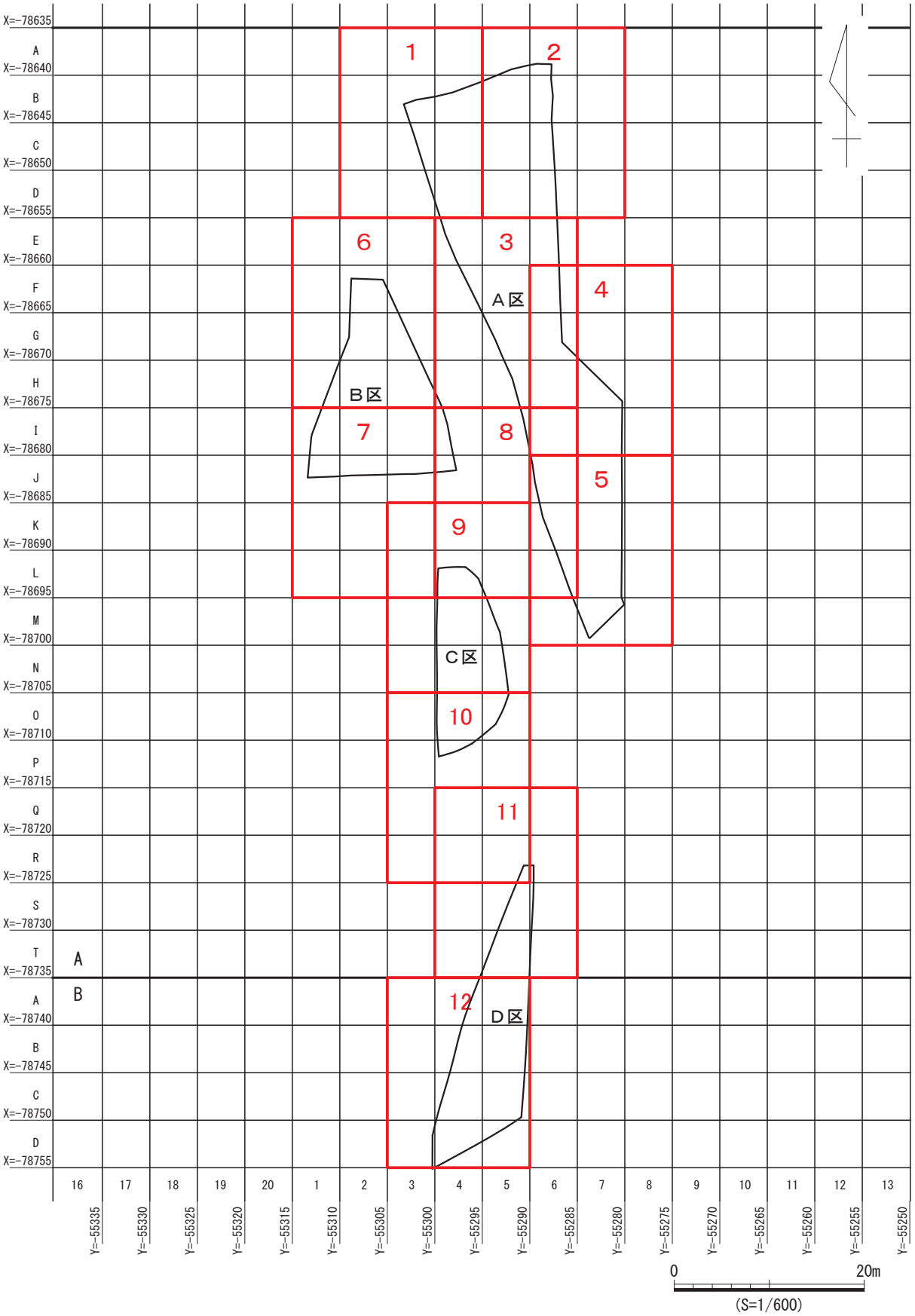


図 99　発掘区全域図　割付図

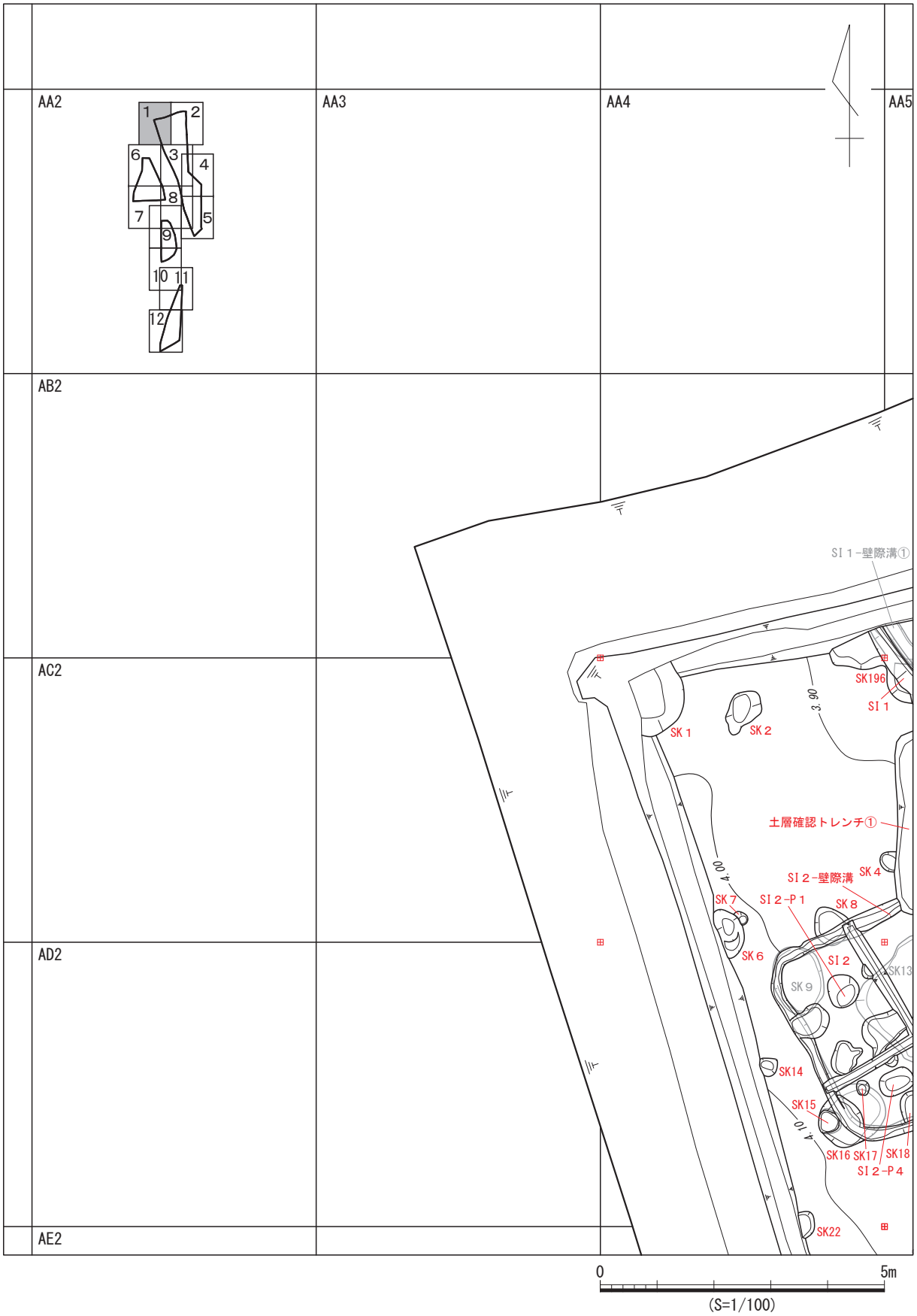


図 100　発掘区全域図　分割図（１）

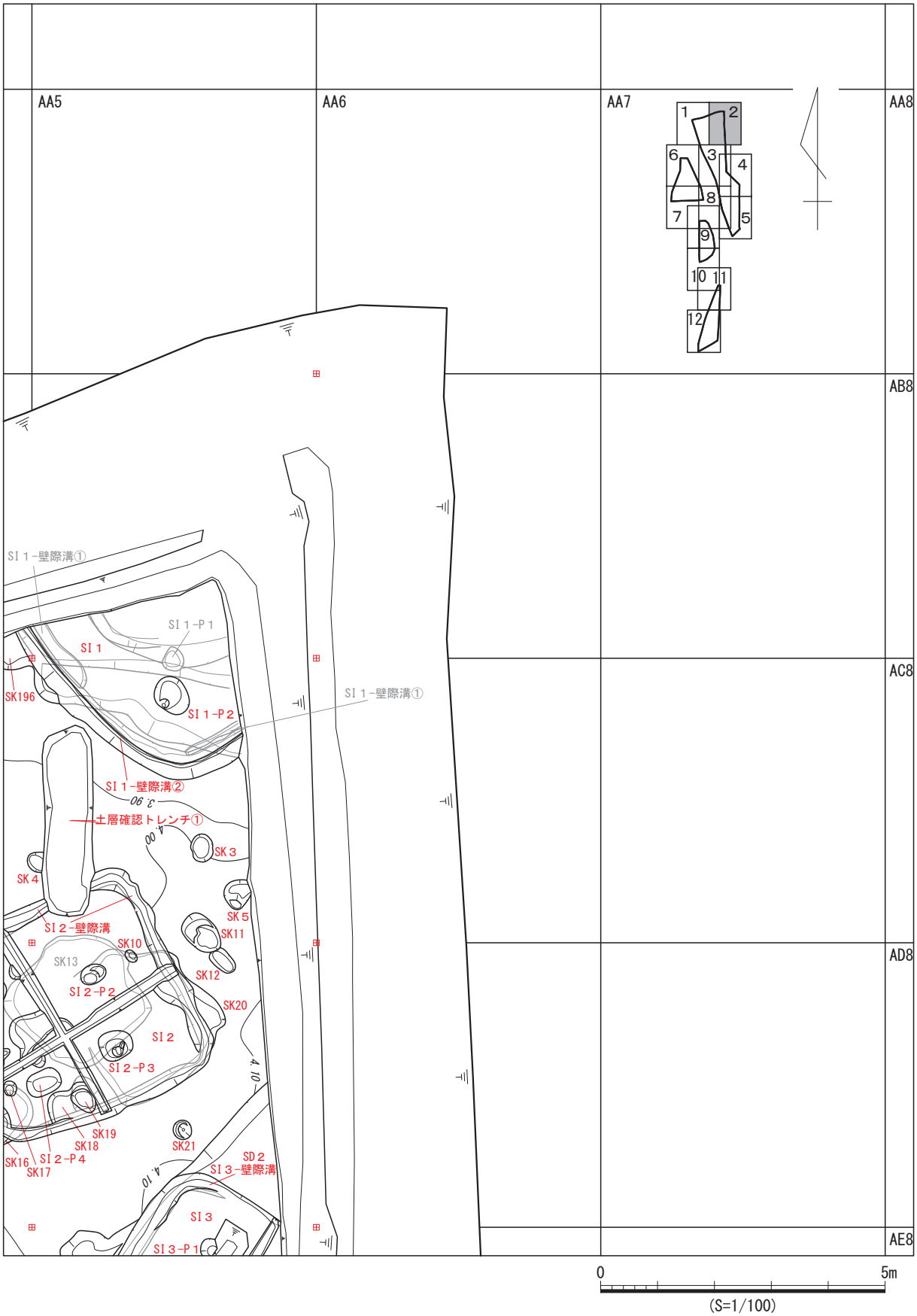


図 101　発掘区全域図　分割図（２）

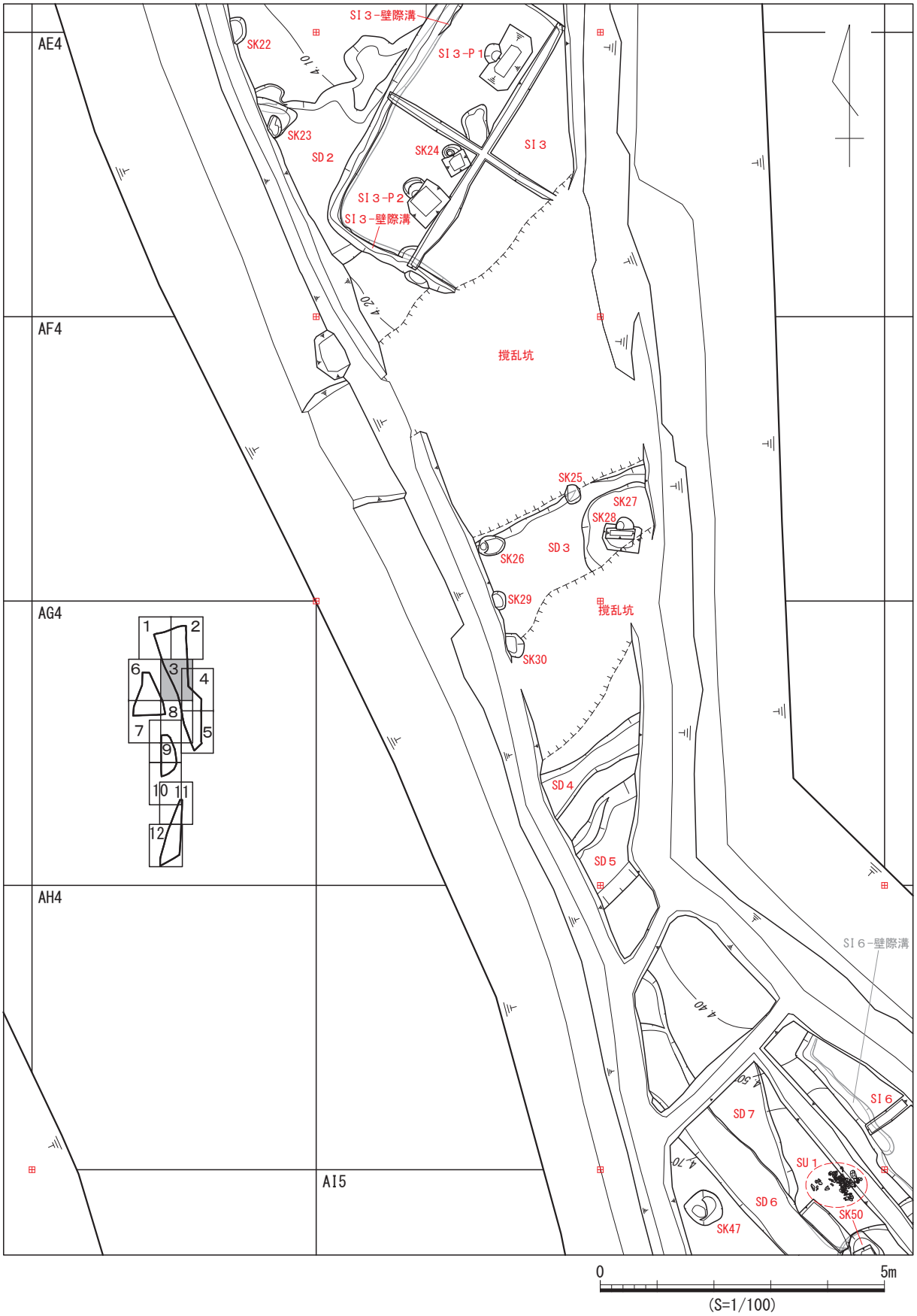


図 102　発掘区全域図　分割図（３）

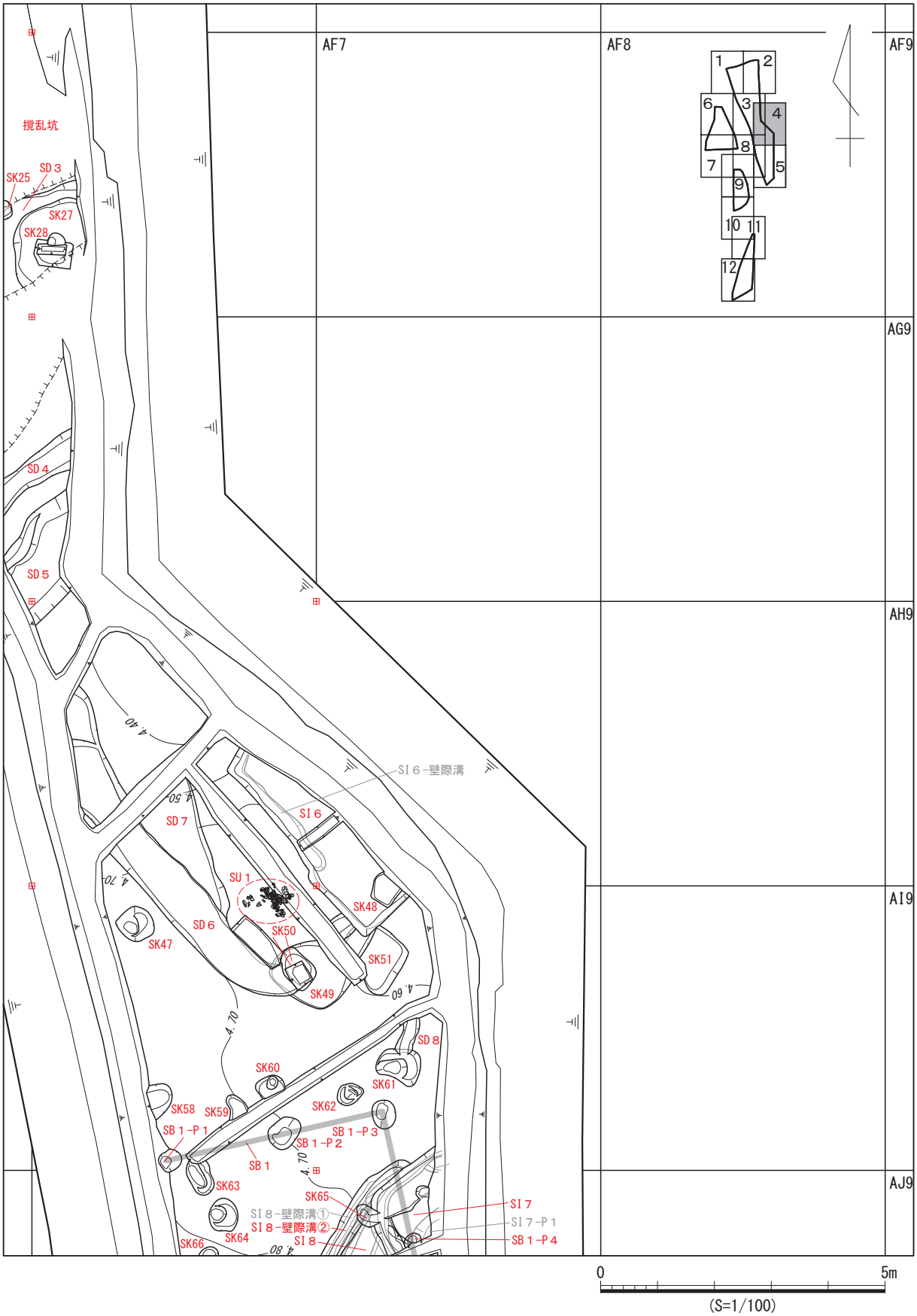


図 103　発掘区全域図　分割図（４）

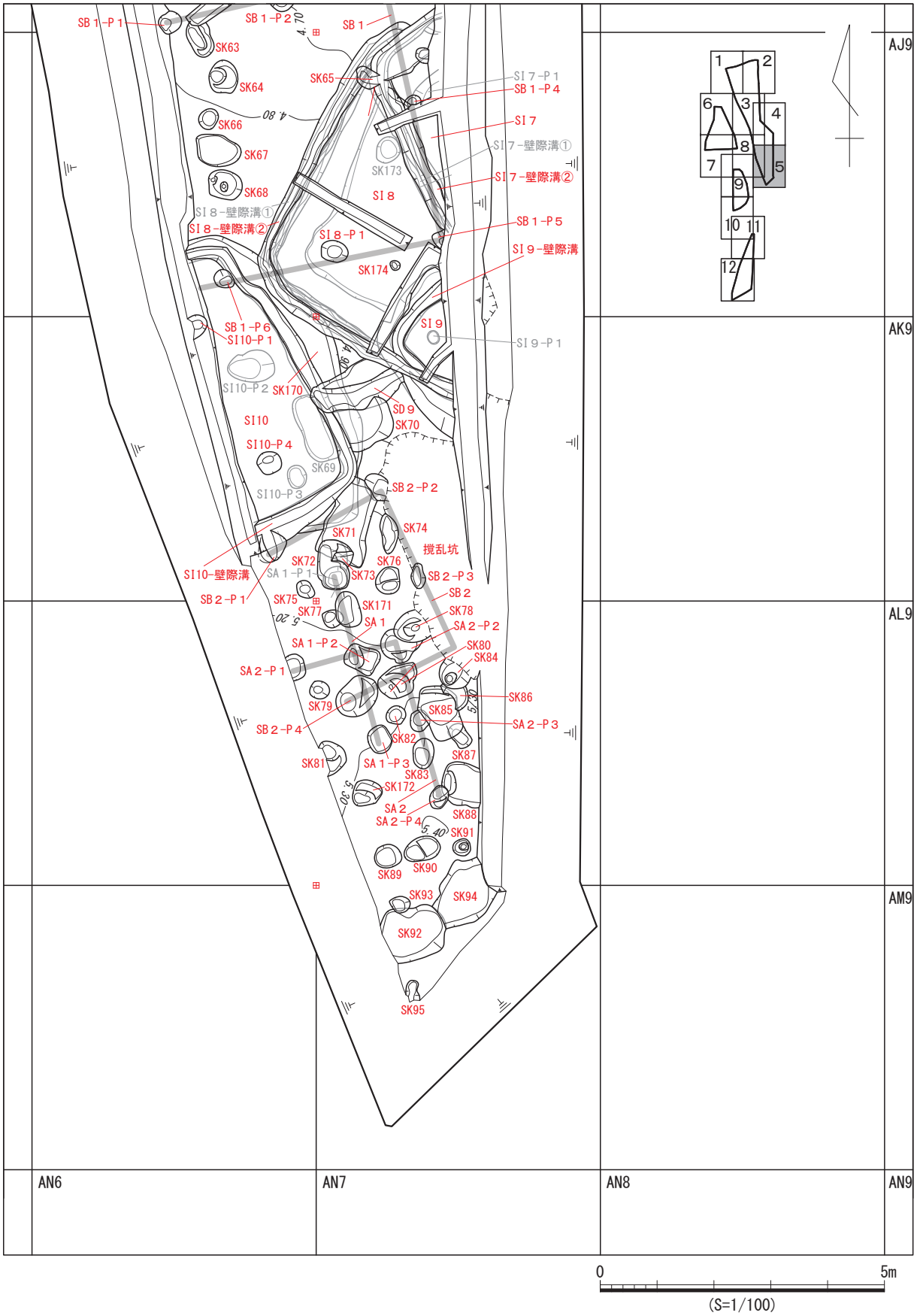


図 104　発掘区全域図　分割図（５）

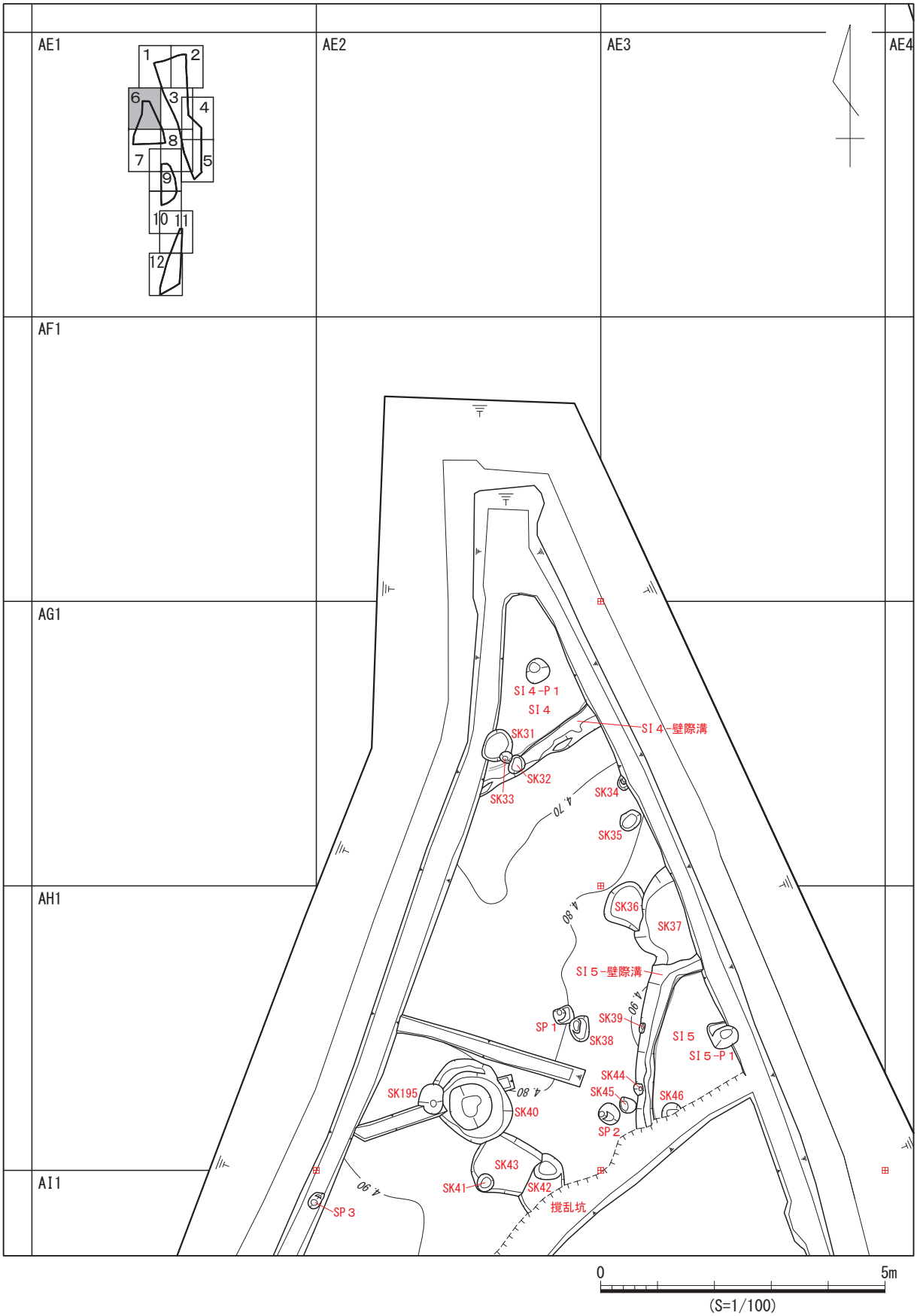


図 105　発掘区全域図　分割図（６）

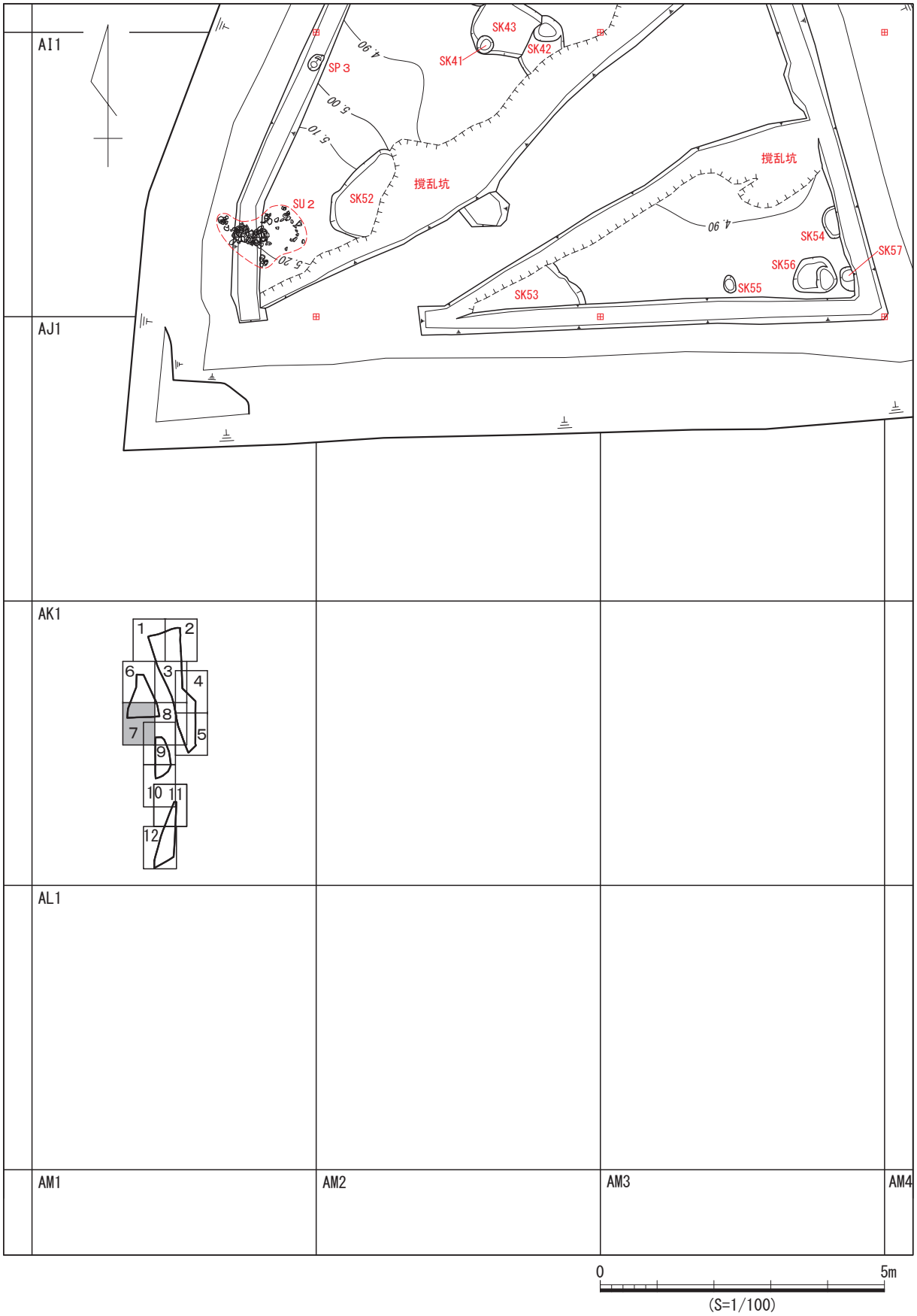


図 106　発掘区全域図　分割図（7）

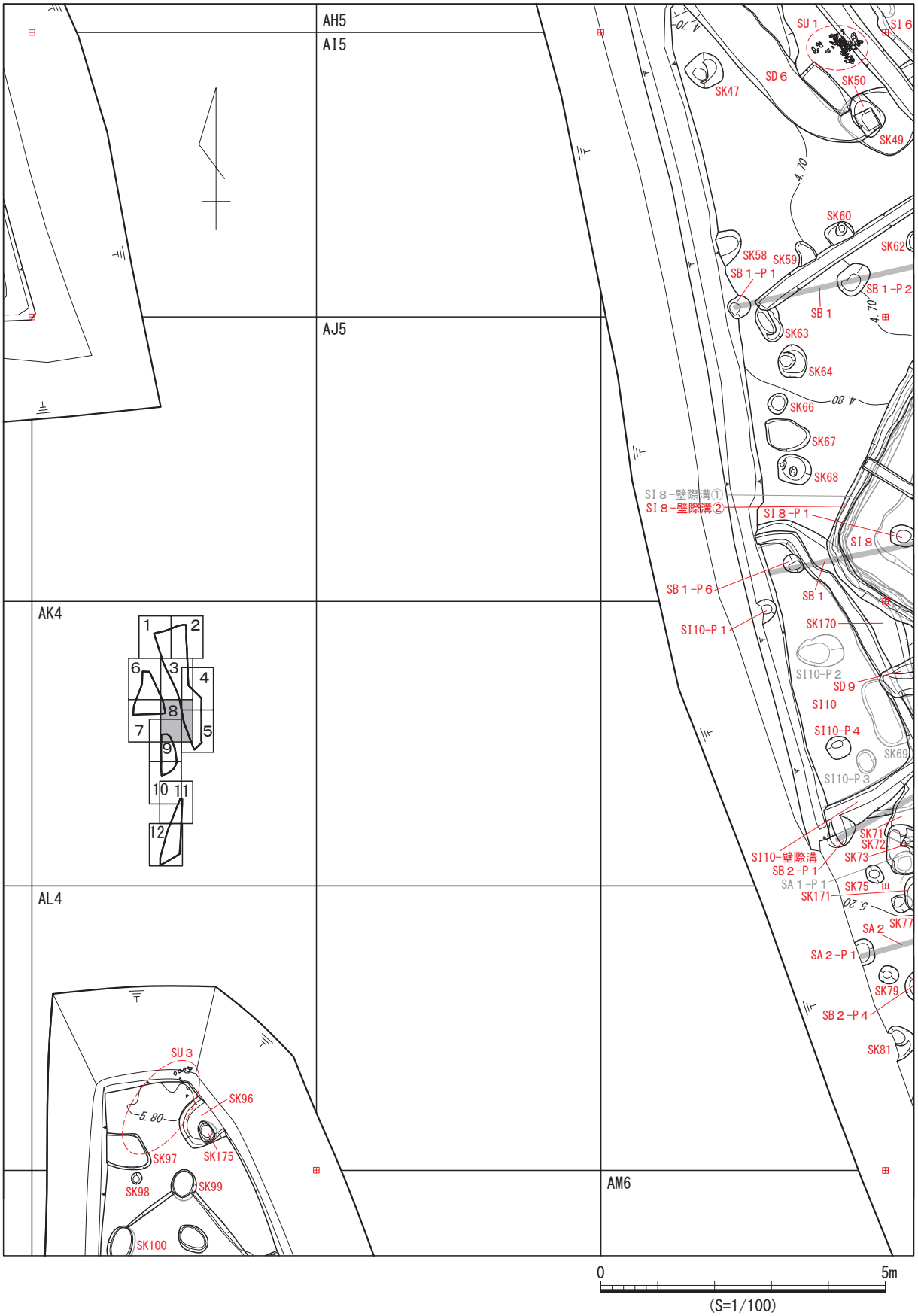


図 107　発掘区全域図　分割図（８）

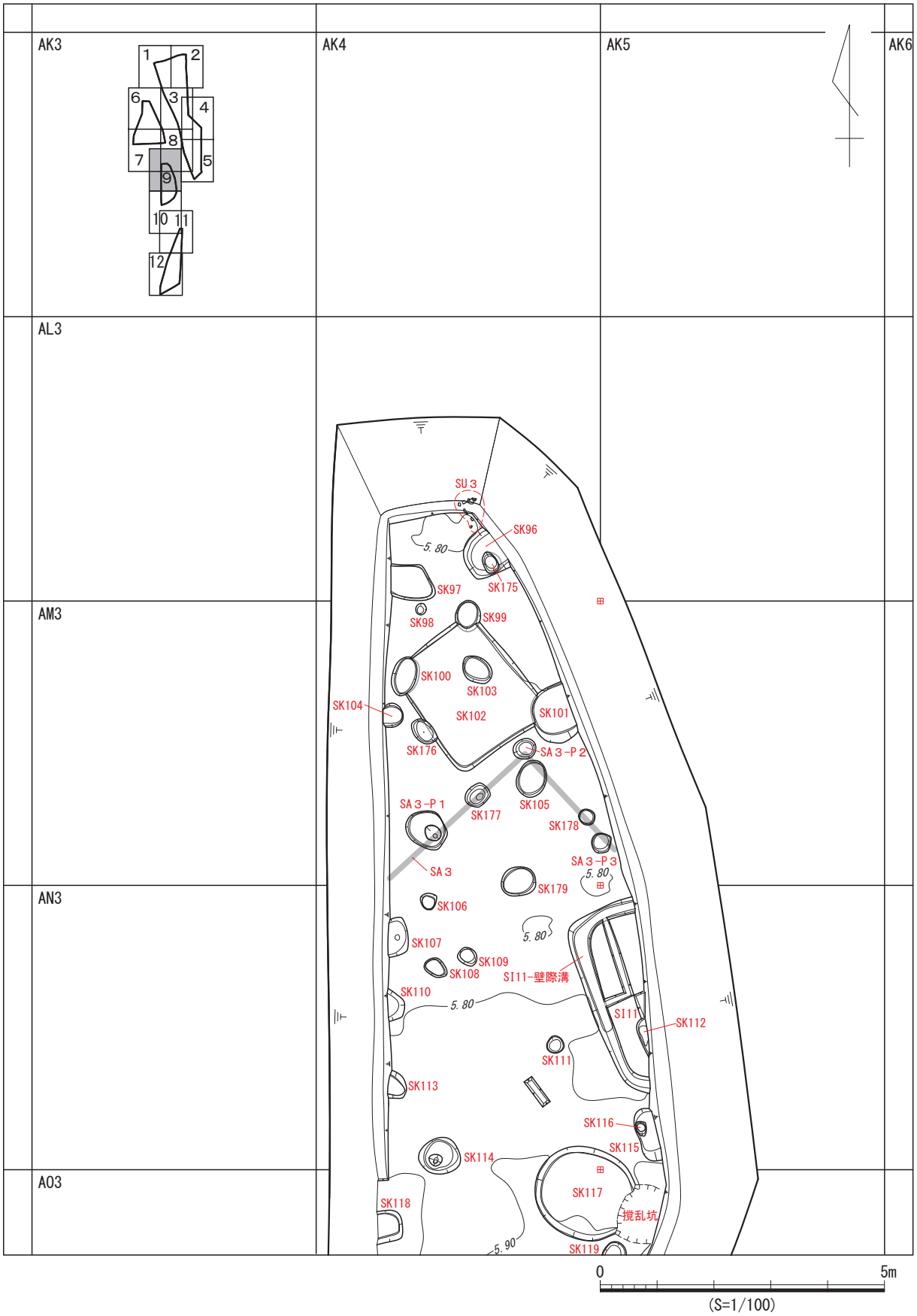


図 108　発掘区全域図　分割図（９）

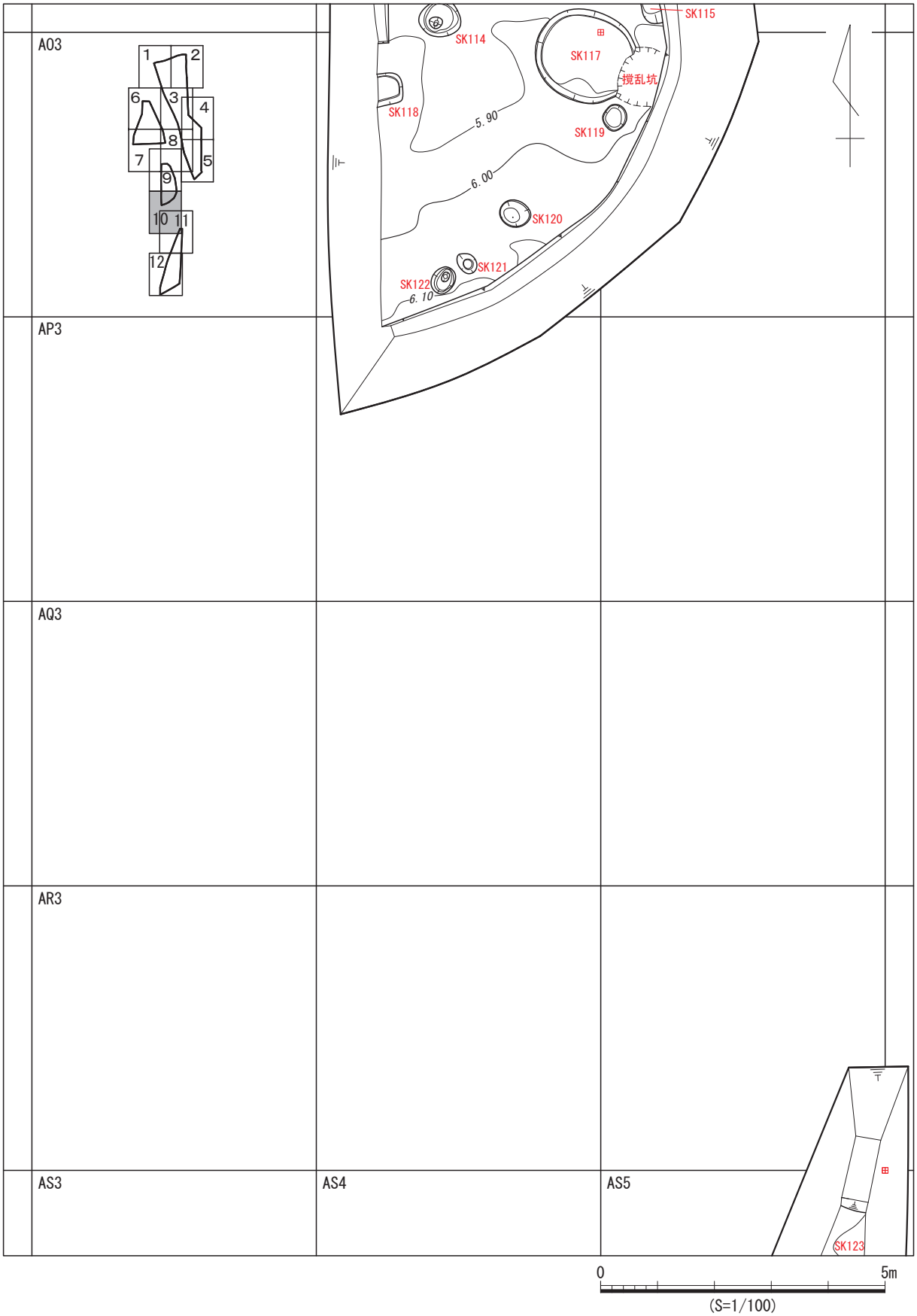


図 109　発掘区全域図　分割図 (10)

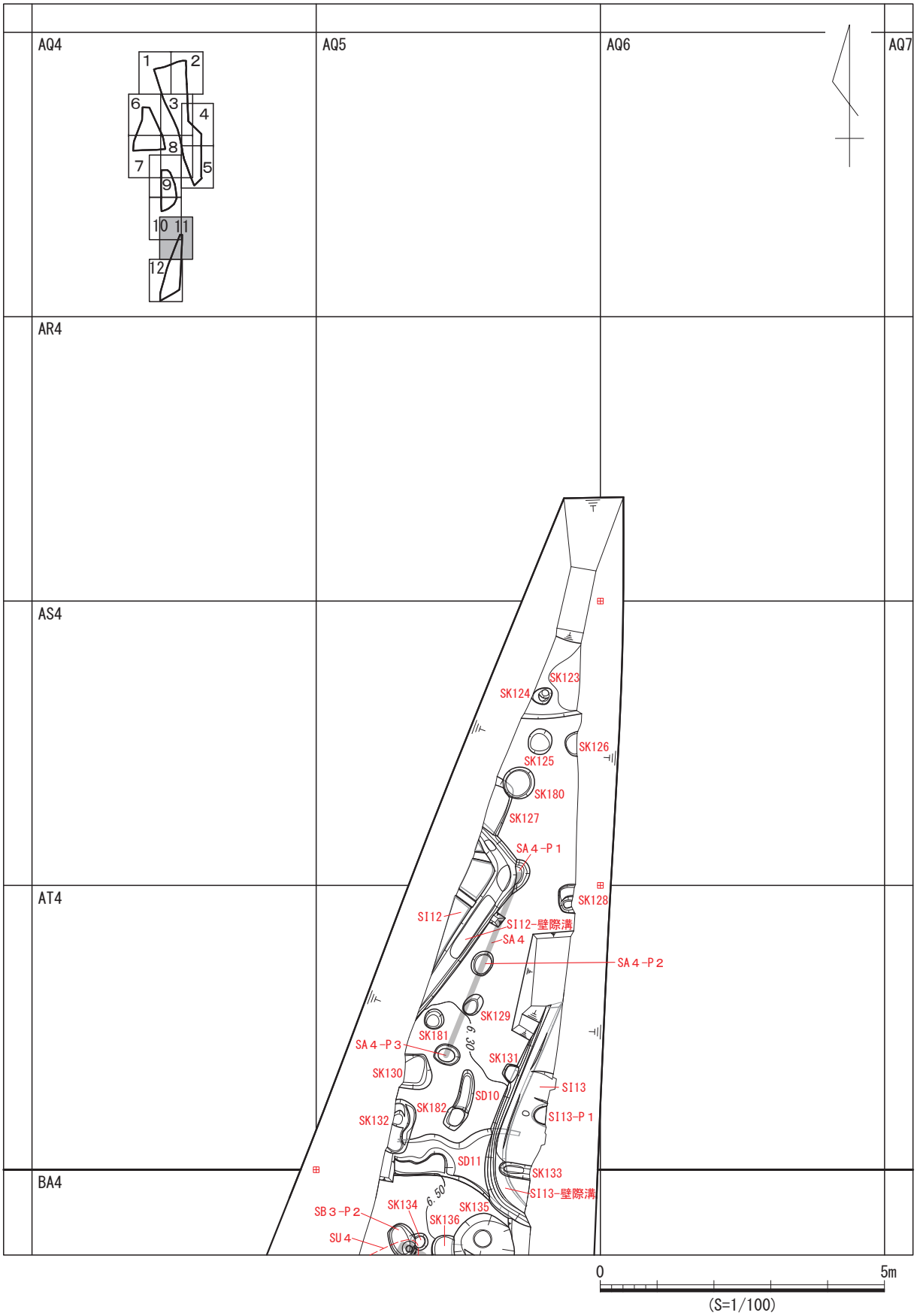


図 110　発掘区全域図　分割図（11）

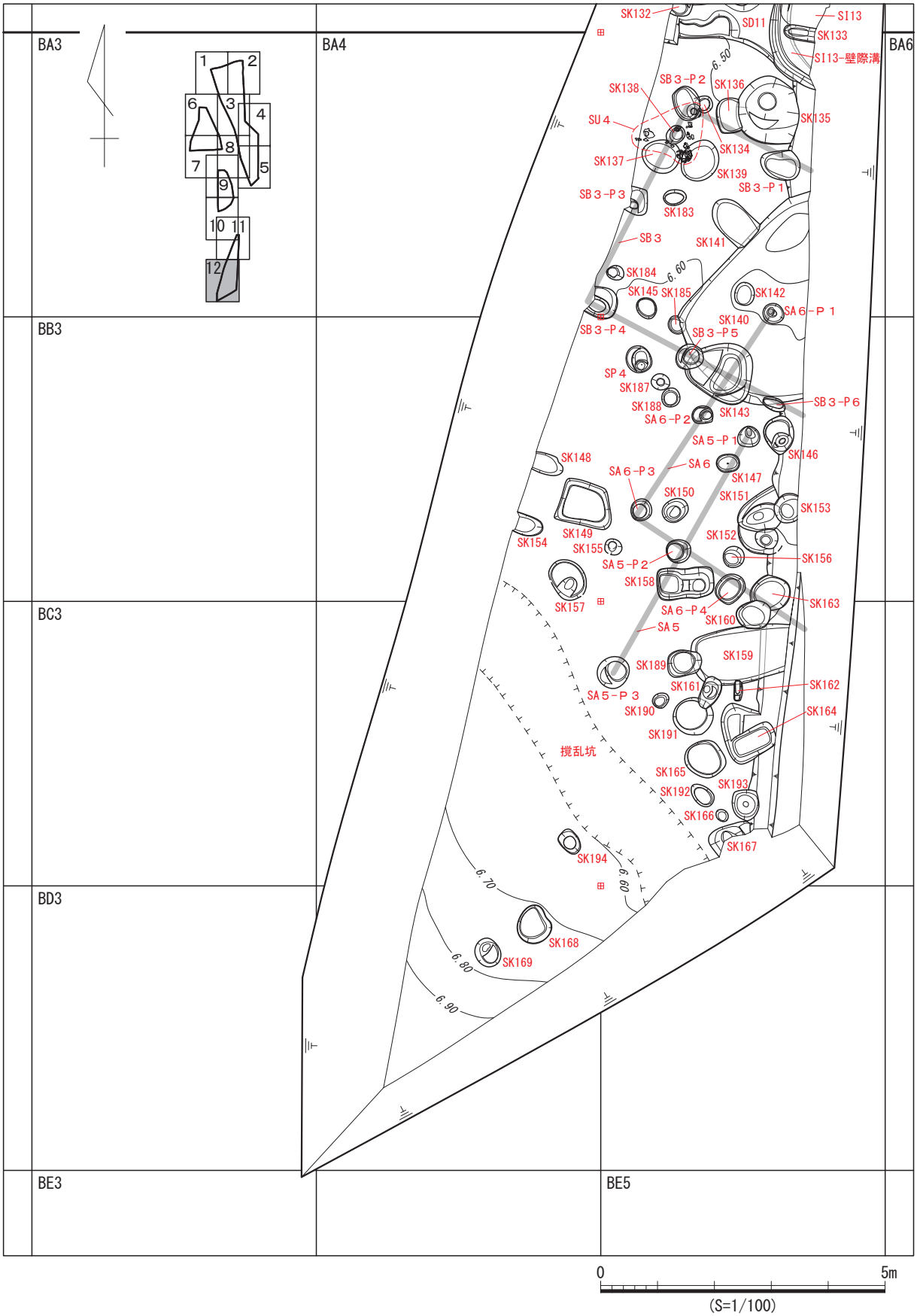


図 111　発掘区全域図　分割図（12）

表６　竪穴建物一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	長軸方位	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西		上端		下端		深さ	新	旧			
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SI1	A	B-C	4-5	Ⅳ上	N-45°-W	(3.89)	(3.46)	(3.7)	(3.2)	0.32	SK196	－	H204	8 9	6
SI2	A	C-D	4-5	Ⅳ上	N-66°-W	4.23	3.76	4.13	3.62	0.18	SK8, SK9, SK13, SK15, SK16, SK20	SK10, SK17, SK18, SK19	H73, S1	11 12	3
SI3	A	D-E	5	Ⅳ上	N-30°-E	5.17	(3.16)	4.88	(3.06)	0.26	SD2	SK24	H360	13 14	7
SI4	A	F-G	2-3	Ⅳ上	N-28°-W	(2.76)	(2.42)	(2.62)	(2.42)	0.20	－	SK31, SK32, SK33	H34	15	6
SI5	A	H	3	Ⅳ上	N-4°-E	(2.98)	(1.89)	(2.58)	(1.72)	0.30	－	SK37, SK39, SK44, SK46	H66	16	6
SI6	A	H-I	6-7	Ⅳ上	N-43°-W	3.96	(1.1)	3.85	(0.98)	0.20	－	SK48, SK51	H611	18	6
SI7	A	J	7	Ⅳ上	N-26°-W	(3.42)	(1.63)	(2.38)	(1.20)	0.23	－	SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝② SB1-P4, SB1-P5, SK65	H271	20	7
SI8	A	J-K	6-7	Ⅳ上	N-30°-E	5.28	(4.22)	5.09	(4.15)	0.32	SI7, SI7-P1, SI7-壁際溝①, SI7-壁際溝②, SI9, SI9-P1, SI9-壁際溝, SD9, SK170	SB1-P5, SK65, SK173, SK174	H596	22 23 24	4
SI9	A	J-K	7	Ⅳ上	N-50°-W	(1.82)	(1.69)	(1.35)	(1.08)	0.41	－	SD9, SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	H84	26	7
SI10	A	J-K	6-7	Ⅳ上	N-35°-W	4.76	(2.02)	4.50	(1.90)	0.18	SK69	SK70, SK71, SK170, SD9, SB1-P6 SB2-P1	H164	28 29	7
SI11	A	N	4-5	Ⅳ上	N-20°-W	3.31	(1.26)	3.02	(1.15)	0.10	－	SK112	H22	31	7
SI12	A	S-T	5	Ⅳ上	N-36°-E	(2.82)	(1.05)	(2.62)	(0.90)	0.30	－	SK127, SA4-P1	H24	32	7
SI13	A-B	T-A	5	Ⅳ上	N-22°-E	(3.46)	(0.92)	(2.98)	(0.76)	0.42	SD11	SK131, SK133	H278	33 34	5

表７　竪穴建物付属遺構一覧表（１）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SI1-P1	A	C	5	SI1床面	G	ア	a	a	0.46	0.38	0.28	0.26	0.12	SK196	－	H1	9	
SI1-P2	A	C	5	SI1掘方底面	G	ウ	a	a	0.71	0.57	0.06	0.05	0.24	SK196	－	－	9	
SI1-壁際溝	A	B-C	4-5	SI1床面	d	Ⅲ	b	b	(5.00)	0.42	(5.00)	0.04	0.22	SK196	－	H5	8	
SI2-P1	A	D	4	SI2掘方底面	A	ア	a	a	0.54	0.43	0.45	0.15	0.26	－	－	－	12	
SI2-P2	A	D	5	SI2掘方底面	G	イ	a	a	0.47	0.32	0.21	0.18	0.21	SK13, SK20	－	H1	12	
SI2-P3	A	D	5	SI2掘方底面	F	ウ	a	a	0.59	0.38	0.09	0.08	0.24	SK13, SK20	－	－	12	
SI2-P4	A	D	4	SI2掘方底面	A	ア	a	a	0.62	0.42	0.42	0.24	0.26	－	－	－	12	
SI2-壁際溝	A	B-C	4-5	SI2床面	A	Ⅰ	b	b	13.52	0.28	13.52	0.13	0.08	SK8, SK9, SK15, SK16, SK20	SK18, SK19	H5	11	
SI3-P1	A	E	5	SI3床面	A	ア	a	a	0.46	0.43	0.18	0.13	0.49	SD2	－	－	14	
SI3-P2	A	E	5	SI3床面	－	ア	a	a	0.46	0.44	0.16	0.06	0.44	SD2	－	－	14	
SI3-壁際溝	A	D-E	5	SI3床面	a	Ⅲ	b	b	(9.05)	0.30	(9.05)	0.10	0.16	SD2	－	－	13	
SI4-P1	A	G	2	SI4掘方底面	A	イ	a	a	0.43	0.40	0.18	0.17	0.30	－	－	－	15	
SI4-壁際溝	A	G	2	SI4床面	d	Ⅰ	b	b	(2.30)	0.30	(2.30)	0.20	0.13	－	SK32, SK33	－	15	
SI5-P1	A	H	3	SI5床面	G	ア	c	c	0.48	0.47	0.21	0.14	0.26	－	－	－	16	
SI5-壁際溝	A	H	3	SI5床面	A	Ⅲ	b	b	(3.32)	0.40	(3.32)	0.40	0.20	－	SK37, SK39, SK44	－	16	

表８　竪穴建物付属遺構一覧表（２）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SI6-壁際溝	A	H-I	6-7	SI6床面	a	Ⅰ	b	b	(2.65)	0.27	(2.58)	0.14	0.10	－	－	H85	18	
SI7-P1	A	J	7	SI7床面	G	ウ	c	c	0.54	0.44	0.36	0.25	0.12	－	SI8	H1	20	
SI7-壁際溝①	A	I-J	7	SI7上面床面	a	Ⅰ	b	b	(4.50)	0.23	(4.50)	0.10	0.10	－	SK65, SB1-P5, SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	H10	20	
SI7-壁際溝②	A	I-J	7	SI7下面床面	a	Ⅰ	b	b	(4.50)	0.38	(4.50)	0.18	0.18	－	SK65, SB1-P4, SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	H28	20	
SI8-P1	A	J	7	SI8掘方底面	G	ア	a	a	0.49	0.48	0.24	0.22	0.17	－	－	－	24	
SI8-壁際溝①	A	I-K	6-7	SI8床面	d	Ⅶ	b	b	(8.70)	0.30	(8.70)	0.18	0.16	SK170,SD9 SI7, SI7-壁際溝①, SI7-壁際溝②, SI9, SI9-壁際溝	SK65	H57	24	
SI8-壁際溝②	A	I-K	6-7	SI8床面	b	Ⅵ	b	b	(8.70)	0.40	(8.70)	0.10	0.21	SK170,SD9 SI7, SI7-壁際溝①, SI7-壁際溝②, SI9, SI9-壁際溝	SK65	H31	24	
SI9-P1	A	K	7	SI9床面	G	イ	a	a	0.24	0.20	0.18	0.12	0.04	－	SI8	－	26	
SI9-壁際溝	A	J-K	7	SI9床面	b	Ⅰ	b	b	(3.15)	0.50	(3.15)	0.14	0.16	－	SD9,SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	H8	26	
SI10-P1	A	K	6	SI10床面	－	イ	a	a	0.61	0.42	0.17	0.16	0.44	－	SK170	－	28	
SI10-P2	A	K	6	SI10床面	－	ア	a	a	0.83	0.56	0.54	0.36	0.06	－	SK170	－	28	
SI10-P3	A	K	6	SI10床面	－	ア	a	a	0.40	0.33	0.32	0.22	0.05	－	SK170	H2	28	
SI10-P4	A	K	6	SI10掘方底面	－	イ	a	a	0.42	0.39	0.20	0.11	0.15	－	SK170	－	29	
SI10-壁際溝	A	J-K	6-7	SI10床面	a	Ⅲ	b	b	(7.10)	0.30	(7.10)	0.18	0.24	SK69	SK70,SK71, SK170,SD9, SB1-P6 SB2-P1	H26	29	
SI11-壁際溝	A	N	4-5	SI11床面	a	Ⅳ	b	b	(4.17)	0.28	(4.17)	0.13	0.13	－	－	－	31	
SI12-壁際溝	A	S-T	5	SI12床面	a	Ⅳ	b	b	(3.36)	0.40	(3.36)	0.24	0.18	－	SK127, SA４-P1	H1	32	
SI13-P1	A	T	5	SI13床面	－	ア	a	a	0.40	(0.24)	0.31	(0.19)	0.08	－	－	H1	33	
SI13-壁際溝	A-B	T-A	5	SI13床面	a	Ⅳ	b	b	(3.94)	0.33	(3.94)	0.10	0.12	SD11	SK131,SK133	H1	33	

表９　掘立柱建物一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	長軸方位	柱間	規模（m）		重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西									
							桁行	梁行	新	旧			
SB1	A	I-J	6-7	Ⅳ上 SI7・8・10底面	N-15°-W	2間以上×2間以上	4.6m以上	3.8m以上	SI7, SI7-壁際溝②, SI8,’SK170,SI10, SI10-壁際溝	－	H3	36	
SB2	A	K-L	6-7	Ⅳ上	N-25°-W	1間以上×2間以上	2.2m以上	3.1m以上	SI10, SI10-壁際溝	SK71	－	37	
SB3	B	A-B	4-5	Ⅳ上	N-62°-W	2間以上×2間以上	3.8m以上	3.9m以上	SK134,SK140, SK143	－	－	38	

表10　掘立柱建物付属遺構一覧表（１）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SB1-P1	A	I-J	6	Ⅳ上	－	イ	a	a	0.42	0.38	0.22	0.18	0.18	－	－	H3	36	

表11　掘立柱建物付属遺構一覧表（２）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SB1-P2	A	I	6	Ⅳ上	G	ア	a	a	0.60	0.47	0.32	0.21	0.32	－	－	－	36	
SB1-P3	A	I	7	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.51	0.42	0.29	0.18	0.24	－	－	－	36	
SB1-P4	A	J	7	SI7底面	－	イ	a	a	0.32	(0.17)	0.18	(0.14)	0.19	SI7, SI7-壁際溝②	－	－	36	
SB1-P5	A	J	7	SI8底面	－	イ	a	a	(0.32)	(0.21)	(0.12)	(0.07)	0.13	SI7, SI7-壁際溝①, SI8	－	－	36	
SB1-P6	A	J	6	SI10底面	－	イ	a	a	0.37	0.32	0.20	0.14	0.08	SK170, SI10, SI10-壁際溝	－	－	36	
SB2-P1	A	K	6	Ⅳ上	－	ウ	c	c	0.56	0.38	0.46	0.31	0.29	SI10, SI10-壁際溝	－	－	37	
SB2-P2	A	K	7	Ⅳ上	－	イ	c	c	(0.46)	0.40	(0.26)	0.24	0.12	－	SK71	－	37	
SB2-P3	A	K	7	Ⅳ上	－	イ	a	a	0.45	0.25	0.40	0.14	0.15	－	－	－	37	
SB2-P4	A	L	7	Ⅳ上	－	イ	c	c	0.72	0.70	0.33	0.27	0.21	－	－	－	37	
SB3-P1	B	A	5	Ⅳ上	－	イ	a	a	0.68	0.50	0.54	0.24	0.16	－	－	－	38	
SB3-P2	B	A	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.61	0.46	0.48	0.29	0.09	SK134	－	－	38	
SB3-P3	B	A	5	Ⅳ上	－	ア	c	c	0.48	(0.46)	(0.13)	0.10	0.07	－	－	－	38	
SB3-P4	B	A	4-5	Ⅳ上	－	ウ	a	a	0.55	(0.46)	(0.24)	0.19	0.29	－	－	－	38	
SB3-P5	B	B	5	Ⅳ上	－	イ	a	a	0.47	0.46	0.27	0.24	0.25	SK140, SK143	－	－	38	
SB3-P6	B	B	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.42	0.22	0.34	0.12	0.14	SK140	－	－	38	

表12　柵一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	長軸方位	柱間	規模（m）	重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西				新	旧			
SA1	A	K-L	7	Ⅳ上	N-15°-W	2間	3m	－	SK72	－	39	
SA2	A	L	6-7	Ⅳ上	N-17°-W	1間×2間	1.8m×2.8m	SK78, SK88	SK85	H1	40	
SA3	A	M	4-5	Ⅳ上	N-45°-E	1間×1間	2.3m×2.1m	－	－	－	41	
SA4	A	S-T	5	Ⅳ上	N-22°-E	2間	3.4m	SI12, SI12-壁際溝	－	－	42	
SA5	B	B-C	4-5	Ⅳ上	N-30°-E	2間	4.8m	－	－	－	43	
SA6	B	A-B	5	SK140底面Ⅳ上	N-34°-E	2間×1間	4.3m×2.1m	SK140	－	H1	44	

表13　柵付属遺構一覧表（１）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SA1-P1	A	K	7	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.43	0.40	0.24	0.23	0.32	－	SK72	－	39	
SA1-P2	A	L	7	Ⅳ上	－	ア	b	b	0.61	0.46	0.39	0.16	0.14	－	－	－	39	
SA1-P3	A	L	7	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.50	0.44	0.46	0.43	0.06	－	－	－	39	
SA2-P1	A	L	6	Ⅳ上	－	イ	a	a	0.46	(0.28)	0.32	(0.20)	0.14	－	－	H1	40	
SA2-P2	A	L	7	Ⅳ上	－	ア	c	c	0.63	0.62	0.52	0.27	0.15	SK78	－	－	40	
SA2-P3	A	L	7	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.38	0.36	0.24	0.22	0.16	－	SK85	－	40	
SA2-P4	A	L	7	Ⅳ上	G	ア	a	a	0.39	0.33	0.37	0.17	0.13	SK88	－	－	40	
SA3-P1	A	M	4	Ⅳ上	G	イ	c	c	0.74	0.64	0.08	0.06	0.21	－	－	－	41	
SA3-P2	A	M	4	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.41	0.36	0.24	0.22	0.11	－	－	－	41	

表14　柵付属遺構一覧表（２）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	大グリッド	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SA3-P3	A	M	4-5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.35	0.34	0.27	0.25	0.06	－	－	－	41	
SA4-P1	A	S-T	5	Ⅳ上	G	－	a	a	(0.48)	(0.26)	(0.28)	(0.10)	0.21	SI12, SI12-壁際溝	－	－	42	
SA4-P2	A	T	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.46	0.35	0.34	0.28	0.11	－	－	－	42	
SA4-P3	A	T	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.46	0.36	0.29	0.21	0.12	－	－	－	42	
SA5-P1	B	B	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.39	0.36	0.13	0.08	0.19	－	－	－	43	
SA5-P2	B	B	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.43	0.40	0.27	0.26	0.22	－	－	－	43	
SA5-P3	B	C	4-5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.57	0.54	0.33	0.29	0.11	－	－	－	43	
SA6-P1	B	A-B	5	SK140 底面	－	イ	a	a	0.38	0.35	0.10	0.08	0.20	SK140	－	H1	44	
SA6-P2	B	B	5	Ⅳ上	－	ウ	a	a	0.36	0.30	0.15	0.12	0.20	－	－	－	44	
SA6-P3	B	B	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.40	0.37	0.23	0.22	0.20	－	－	－	44	
SA6-P4	B	B	5	Ⅳ上	－	ア	a	a	0.54	0.46	0.39	0.28	0.21	－	－	－	44	

表15　柱穴一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	大グリッド	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SP1	A	H	2	Ⅳ上	G	イ	c	c	0.36	0.30	0.10	0.09	0.19	SK38	－	－	45	
SP2	A	H	3	Ⅳ上	G	イ	a	a	0.38	0.37	0.10	0.09	0.31	－	－	－	45	
SP3	A	I	1-2	排水溝底面	G	ア	a	a	0.30	0.20	0.11	0.10	0.32	－	－	－	45	
SP4	B	B	5	Ⅳ上	G	イ	a	a	0.47	0.45	0.14	0.13	0.26	－	－	－	45	

表16　溝一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	大グリッド	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SD1	欠番																	
SD2	A	D-E	5	Ⅳ上	b	Ⅳ	c	c	(5.95)	3.02	(5.95)	2.64	0.17	－	SK23, SK24, SI3, SI3-P1, SI3-P2, SI3-壁際溝	H445	46	8
SD3	A	F-G	5	Ⅳ上	b	Ⅶ	c	c	(3.30)	(1.90)	(3.26)	(1.75)	0.27	－	SK25, SK26, SK27, SK28, SK29, SK30	H70	47	8
SD4	A	G	5-6	Ⅳ上	c	Ⅲ	c	c	(2.07)	0.37	(2.04)	0.24	0.08	－	－	H25, S1	48	8
SD5	A	G-H	5-6	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	(1.93)	(1.73)	(1.63)	(1.50)	0.10	－	－	H24	49	8
SD6	A	H-I	6-7	Ⅳ上	a	Ⅱ	c	c	(6.30)	0.83	(6.30)	0.70	0.15	SK49, SK50	SD7	H1969, I1	49	8 9
SD7	A	H-I	6	Ⅳ上	e	Ⅶ	c	c	(2.23)	(1.01)	(2.23)	(0.97)	0.12	SD6	－	H352	49	8
SD8	A	I	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(0.65)	0.29	(0.65)	0.14	0.06	SK61	－	－		
SD9	A	K	7	Ⅳ上	c	Ⅵ	c	c	(1.56)	0.85	(1.48)	0.22	0.13	SK170, SI9, SI9-壁際溝 SI10, SI10-壁際溝	SK69, SK70, SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	－		
SD10	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅲ	c	c	(0.68)	0.25	(0.58)	0.14	0.12	SK182	－	－		
SD11	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	(2.08)	(0.72)	(2.08)	(0.56)	0.12	－	SK132, SK133, SI13, SI13-壁際溝	H5		

表17　土坑一覧表（１）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK1	A	C	4	Ⅳ上	b	Ⅳ	c	c	(1.07)	(0.88)	(0.79)	(0.52)	0.37	－	－	H7	58	
SK2	A	C	4	Ⅳ上	b	Ⅳ	c	c	0.77	0.54	0.50	0.32	0.20	－	－	－	58	
SK3	A	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.50	0.39	0.37	0.28	0.06	－	－	－		
SK4	A	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	0.36	(0.28)	0.23	(0.22)	0.10	－	－	－		
SK5	A	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	0.52	0.46	0.36	0.24	0.06	－	－	－		
SK6	A	C-D	4	Ⅳ上	e	Ⅳ	c	c	0.87	(0.40)	0.30	(0.18)	0.10	－	SK7	－	58	
SK7	A	C	4	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.28	(0.15)	0.14	(0.12)	0.13	SK6	－	－		
SK8	A	C	4	SI2埋土上面	a	Ⅲ	a	a	0.69	0.56	0.50	0.44	0.07	－	SI2, SI2-壁際溝	－		
SK9	A	D	4	SI2埋土上面	a	Ⅱ	a	a	1.18	0.89	1.07	0.78	0.05	－	SI2, SI2-壁際溝	H19	58	
SK10	A	D	5	SI2底面	a	Ⅳ	a	a	0.24	0.17	0.13	0.09	0.07	SK13, SI2	－	－		
SK11	A	C-D	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.78	0.52	0.43	0.33	0.05	－	SK12	H5	58	
SK12	A	C-D	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	0.50	0.44	0.46	0.18	0.08	SK11	－	H3	58	
SK13	A	C-D	5	SI2埋土上面	a	Ⅳ	b	b	2.18	2.04	1.86	1.84	0.06	－	SK20, SI2, SI2-P2, SI2-P3	H3	58	
SK14	A	D	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	c	a	0.33	(0.30)	0.22	0.14	0.08	－	－	－		
SK15	A	D	4	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	0.44	0.40	0.34	0.32	0.12	－	SK16, SI2, SI2-壁際溝	－		
SK16	A	D	4-5	SI2埋土上面	a	Ⅳ	a	a	1.18	0.98	1.02	0.73	0.05	SK15	SI2, SI2-壁際溝	H4	58	
SK17	A	D	4	SI2底面	a	Ⅳ	a	a	0.28	0.23	0.16	0.13	0.13	SI2	－	－		
SK18	A	D	5	SI2底面	a	Ⅳ	c	c	(0.85)	(0.46)	(0.79)	(0.39)	0.09	SI2, SK19, SI2-壁際溝	－	－		
SK19	A	D	5	SI2底面	b	Ⅳ	c	c	(0.61)	0.49	0.31	0.29	0.24	SI2, SI2-壁際溝	SK18	－	59	
SK20	A	D	5	SI2埋土上面	a	Ⅳ	c	c	2.62	2.27	2.36	2.02	0.06	SK13	SI2, SI2-P2, SI2-P3, SI2-壁際溝	H13	59	
SK21	A	D	5	Ⅳ上	c	Ⅵ	a	a	0.34	0.33	0.05	0.04	0.22	－	－	－	59	
SK22	A	D-E	4	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.47	(0.25)	0.38	(0.19)	0.08	－	－	－		
SK23	A	E	4	Ⅳ上	c	Ⅶ	c	a	0.78	(0.57)	0.30	0.10	0.16	SD2	－	－		
SK24	A	E	5	SI3底面	c	Ⅵ	a	a	0.34	(0.18)	0.07	0.06	0.40	SD2, SI3	－	－		
SK25	A	F	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	a	(0.34)	0.27	(0.26)	0.22	0.08	SD3	－	－		
SK26	A	F	5	Ⅳ上	c	Ⅳ	a	a	0.49	0.45	0.12	0.10	0.16	SD3	－	－		
SK27	A	F	5-6	SD3底面	a	Ⅳ	c	a	(1.38)	(0.96)	(1.20)	(0.92)	0.05	SD3	SK28	H1	59	
SK28	A	F	6	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.34	(0.24)	(0.14)	0.13	0.34	SK27, SD3	－	－		
SK29	A	F-G	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	a	0.36	(0.22)	0.24	(0.15)	0.06	SD3	－	－		
SK30	A	G	5	SD3底面	c	Ⅳ	c	c	0.42	(0.39)	0.28	(0.19)	0.16	SD3	－	H1	59	15
SK31	A	G	2	SI4底面	a	Ⅳ	a	a	0.58	0.49	0.48	0.46	0.11	SI4	SK33	H2	59	15
SK32	A	G	2	SI4底面	a	Ⅰ	a	a	0.31	0.30	0.23	0.19	0.08	SI4, SI4-壁際溝	SK33	－		
SK33	A	G	2	SI4底面	a	Ⅲ	a	a	0.21	0.20	0.09	0.07	0.16	SK31, SK32, SI4, SI4-壁際溝	－	－		
SK34	A	G	3	Ⅳ上	a	Ⅵ	c	c	0.26	(0.16)	0.07	(0.05)	0.18	－	－	－		
SK35	A	G	3	Ⅳ上	a	Ⅰ	a	a	0.39	0.35	0.26	0.18	0.15	－	－	H1	60	
SK36	A	H	3	Ⅳ上	a	Ⅱ	c	c	0.78	(0.69)	0.61	(0.56)	0.09	SK37	－	－		

表18　土坑一覧表（２）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	大グリッド	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK37	A	G-H	3	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(1.62)	(1.30)	(1.32)	(0.71)	0.19	SI5, SI5-壁際溝	SK36	H77	60	10
SK38	A	H	2	Ⅳ上	b	Ⅵ	a	a	0.43	0.33	0.17	0.11	0.21	－	SP1	－	60	
SK39	A	H	3	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.19	0.10	0.09	0.02	0.21	SI5, SI5-壁際溝	－	－		
SK40	A	H	2	Ⅳ上	c	Ⅰ	a	a	1.56	1.25	0.35	0.34	0.66	－	SK43,SK195	H20	60	
SK41	A	I	2	SK43埋土上面	a	Ⅰ	a	a	0.33	0.32	0.19	0.17	0.08	－	SK43	H13	61	
SK42	A	H-I	2	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	0.84	(0.75)	0.30	0.24	0.08	－	SK43	H4	61	
SK43	A	H-I	2	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	1.12	(1.01)	0.97	(0.81)	0.08	SK40,SK41, SK42	－	H1	61	
SK44	A	H	3	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.19	(0.17)	0.07	0.02	0.19	SI5, SI5-壁際溝	－	－		
SK45	A	H	3	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.31	0.27	0.18	0.12	0.24	－	－	－	61	
SK46	A	H	3	SI5整地土下	b	Ⅰ	c	c	0.37	(0.21)	0.20	(0.10)	0.14	SI5	－	－		
SK47	A	I	6	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.62	0.60	0.21	0.20	0.13	－	－	－	61	
SK48	A	H-I	7	SI6底面	a	Ⅵ	c	c	0.50	(0.46)	0.43	(0.41)	0.06	SI6	－	H1	61	
SK49	A	I	6-7	Ⅳ上	a	Ⅱ	c	c	1.27	(0.99)	1.15	(0.92)	0.05	－	SK50,SD6	H53	61	15
SK50	A	I	6	SK49底面	d	Ⅳ	a	a	0.73	0.47	0.54	0.38	0.09	SK49	SD6	H35	61	
SK51	A	I	7	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	1.12	0.98	0.94	0.91	0.05	SI6	－	H11	61	
SK52	A	I	2	Ⅳ上	a	Ⅱ	c	c	1.63	(0.84)	1.46	(0.74)	0.20	－	－	H53	62	11
SK53	A	I	2	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(2.02)	(0.92)	(1.88)	(0.90)	0.10	－	－	H16	62	
SK54	A	I	3	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.55	(0.26)	0.45	(0.22)	0.06	－	－	－		
SK55	A	I	3	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.31	0.21	0.20	0.14	0.06	－	－	H2	62	
SK56	A	I	3	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.77	0.62	0.36	0.23	0.12	－	－	H5	62	
SK57	A	I	3	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.44	(0.34)	0.20	(0.18)	0.09	－	－	－		
SK58	A	I	6	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	0.52	(0.43)	(0.36)	0.28	0.09	－	－	－		
SK59	A	I	6	Ⅳ上	a	Ⅳ	c	c	(0.38)	0.34	(0.34)	0.21	0.07	－	－	－		
SK60	A	I	6	Ⅳ上	a	Ⅱ	c	c	0.47	(0.33)	0.41	(0.40)	0.07	－	－	－		
SK61	A	I	7	Ⅳ上	a	Ⅲ	c	c	0.80	0.64	0.30	0.18	0.16	－	SD8	H5		
SK62	A	I	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	0.47	0.36	0.18	0.04	0.14	－	－	－		
SK63	A	I-J	6	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	(0.68)	0.42	(0.42)	0.16	0.09	－	－	－		
SK64	A	J	6	Ⅳ上	c	Ⅵ	a	a	0.58	0.50	0.22	0.21	0.13	－	－	－		
SK65	A	J	7	SI7・ SI8底面	a	Ⅶ	c	c	(0.42)	0.34	(0.34)	0.12	0.21	SI7, SI7-壁際溝①, SI7-壁際溝②' SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	－	－	62	
SK66	A	J	6	Ⅳ上	c	Ⅱ	a	a	0.36	0.35	0.26	0.24	0.14	－	－	－	62	
SK67	A	J	6	Ⅳ上	c	Ⅳa	a	a	0.78	0.56	0.66	0.50	0.10	－	－	－		
SK68	A	J	6	Ⅳ上	b	Ⅱa	a	a	0.61	0.50	0.07	0.06	0.15	－	－	－	63	
SK69	A	K	6-7	SI10床面	a	Ⅱ	a	a	1.22	0.54	1.14	0.38	0.23	－	SI10, SI10-壁際溝	H48	63	12
SK70	A	K	7	Ⅳ上	b	Ⅶ	c	c	(0.89)	(0.71)	(0.74)	(0.57)	0.16	SK170, SD9,SI10, SI10-壁際溝	－	－		

表19　土坑一覧表（３）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
									上端		下端		深さ	新	旧			
	リッド	大グ	南北	東西					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK71	A		K	7	Ⅳ上	a	Ⅵ	c	c	1.47	0.76	1.28	0.62	0.08	SK170, SB2-P2, SI10, SI10-壁際溝	SK72, SK73	－		
SK72	A		K	6-7	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.76	0.52	0.55	0.36	0.30	SK71, SA1-P1	SK73	－		
SK73	A		K	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(0.40)	(0.28)	(0.11)	(0.08)	0.27	SK71, SK72	－	－		
SK74	A		K	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	0.72	0.30	0.61	0.19	0.18	－	－	－		
SK75	A		K	6	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.34	0.26	0.17	0.15	0.08	－	－	－		
SK76	A		K	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	0.47	0.44	0.28	0.14	0.10	－	－	－		
SK77	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.34	0.32	0.22	0.20	0.12	－	SK171	－		
SK78	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅲ	c	c	(0.62)	0.56	0.14	0.12	0.17	－	SA2-P2	H1		
SK79	A		L	6-7	Ⅳ上	a	Ⅳa	a	a	0.35	0.31	0.16	0.13	0.06	－	－	－		
SK80	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	0.74	0.55	0.08	0.06	0.25	－	－	－	63	
SK81	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.60	(0.34)	0.24	(0.20)	0.14	－	－	H1	63	
SK82	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.33	0.30	0.23	0.20	0.10	－	－	－	63	
SK83	A		L	7	Ⅳ上	d	Ⅳ	a	a	0.54	0.37	0.28	0.24	0.14	－	－	H2	63	
SK84	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅵ	c	c	0.60	(0.42)	0.11	0.10	0.20	－	SK86	－	63	
SK85	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	0.97	0.72	0.64	0.36	0.29	SK87, SA2-P3	SK86	－		
SK86	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.56	0.40	(0.45)	(0.40)	0.14	SK84, SK85	－	－		
SK87	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅳa	b	b	0.46	0.30	0.30	0.17	0.06	－	SK85	－		
SK88	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅳa	c	c	0.78	(0.70)	0.31	0.12	0.08	－	SA2-P4	－		
SK89	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅳa	a	a	0.48	0.42	0.38	0.31	0.08	－	－	－		
SK90	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	0.66	0.42	0.28	0.26	0.15	－	－	－	63	
SK91	A		L	7	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	0.32	0.30	0.10	0.08	0.13	－	－	H1	63	
SK92	A		M	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	a	a	(1.09)	0.98	(1.01)	0.81	0.08	－	SK93, SK94	H1521	64	13
SK93	A		M	7	Ⅳ上	a	Ⅵ	c	c	0.34	0.30	0.21	0.19	0.11	SK92	－	H1	67	
SK94	A		L-M	7	Ⅳ上	a	Ⅳa	c	c	(1.16)	0.94	(1.02)	0.82	0.15	SK92	－	H1		
SK95	A		M	7	Ⅳ上	b	Ⅱ	c	c	(0.36)	0.21	(0.34)	0.13	0.16	－	－	－		
SK96	A		L	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.82	(0.58)	0.56	(0.51)	0.16	SK175	－	H2	67	
SK97	A		L-M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	(0.78)	0.63	(0.72)	0.54	0.05	－	－	－		
SK98	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.20	0.18	0.12	0.10	0.06	－	－	－		
SK99	A		L-M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.55	0.44	0.43	0.34	0.08	－	SK102	－		
SK100	A		M	4	Ⅳ上	d	Ⅱ	a	a	0.70	0.46	0.61	0.32	0.14	－	SK102	H4	67	
SK101	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	1.02	(0.70)	0.76	(0.64)	0.07	－	SK102	H1		
SK102	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅱ	a	a	2.27	1.91	2.12	1.75	0.08	SK99, SK100, SK101	SK103	H21	67	15
SK103	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.58	0.44	0.46	0.31	0.08	SK102	－	－	67	
SK104	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.42	(0.37)	(0.34)	0.28	0.12	－	－	－	67	
SK105	A		M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.64	0.51	0.54	0.42	0.08	－	－	－		
SK106	A		N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.30	0.28	0.21	0.19	0.06	－	－	－		

表20　土坑一覧表（４）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
									上端		下端		深さ	新	旧			
	リッド	大グ	南北	東西					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK107	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.68	(0.36)	0.56	(0.31)	0.11	－	－	－		
SK108	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.43	0.31	0.34	0.22	0.07	－	－	－		
SK109	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.34	0.30	0.28	0.22	0.10	－	－	－		
SK110	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.56	(0.39)	0.40	(0.20)	0.12	－	－	－		
SK111	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.30	0.29	0.21	0.19	0.08	－	－	－		
SK112	A	N	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	0.54	(0.18)	0.49	(0.14)	0.06	SI11	－	－		
SK113	A	N	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.48	(0.33)	(0.32)	0.28	0.11	－	－	－		
SK114	A	N-O	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.74	0.64	0.11	0.08	0.21	－	－	－	67	
SK115	A	N	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.95	(0.36)	0.68	(0.34)	0.10	－	SK116	－		
SK116	A	N	5	SK115底面	a	Ⅳ	a	a	0.27	0.19	0.14	0.11	0.09	SK115	－	－	67	
SK117	A	N-O	4-5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	(1.62)	1.54	(1.46)	1.37	0.16	－	－	H20	68	
SK118	A	O	4	Ⅳ上	d	Ⅳ	b	b	0.56	(0.44)	0.39	(0.37)	0.07	－	－	H7	68	
SK119	A	O	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.45	0.42	0.38	0.34	0.06	－	－	－		
SK120	A	O	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.54	0.47	0.40	0.23	0.06	－	－	－		
SK121	A	O	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.40	0.30	0.20	0.18	0.07	－	－	－		
SK122	A	O	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.50	0.41	0.06	0.05	0.14	－	－	－	68	
SK123	A	S	5	Ⅳ上	a	Ⅱ	b	b	1.44	(0.85)	1.38	(0.85)	0.13	－	SK124	－		
SK124	A	S	5	SK123底面	a	Ⅵ	a	a	(0.32)	0.30	0.15	0.12	0.12	SK123	－	－	68	
SK125	A	S	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.45	0.42	0.33	0.31	0.06	－	－	－		
SK126	A	S	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.44	(0.21)	0.35	(0.18)	0.07	－	－	－		
SK127	A	S	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	(0.92)	(0.36)	(0.76)	(0.32)	0.16	SI12, SI12-壁際溝	SK180	－		
SK128	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	b	b	0.51	(0.24)	(0.13)	0.10	0.31	－	－	H6	68	
SK129	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.41	0.40	0.26	0.21	0.08	－	－	－	68	
SK130	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.61	(0.32)	0.46	(0.32)	0.14	－	－	－	68	
SK131	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅱ	b	b	0.32	(0.24)	0.26	(0.18)	0.10	SI13, SI13-壁際溝	－	－	68	
SK132	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	0.94	(0.36)	0.18	(0.15)	0.22	SD11	－	－	69	
SK133	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅰ	b	b	(0.54)	0.25	(0.46)	0.09	0.14	SD11, SI13, SI13-壁際溝	－	－		
SK134	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.30	0.29	0.22	0.21	0.09	－	SB3-P2	－	69	
SK135	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	1.17	1.11	0.30	0.28	0.28	－	SK136	－	69	
SK136	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅱ	b	b	0.62	(0.40)	0.52	(0.34)	0.13	SK135	－	－	69	
SK137	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	b	0.66	0.58	0.54	0.42	0.08	－	SK138	H2		
SK138	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅲ	b	b	0.34	0.29	0.18	0.16	0.15	SK137	－	－	69	
SK139	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.75	0.64	0.60	0.50	0.10	－	－	－		
SK140	B	A-B	5	Ⅳ上	c	Ⅳ	b	b	(3.18)	(2.64)	(2.98)	(2.48)	0.16	SK185	SK141, SK142, SK143, SB3-P5, SB3-P6, SA6-P1	H216	69	15
SK141	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	(0.88)	0.56	(0.80)	0.50	0.10	SK140	－	－		

表21　土坑一覧表（５）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK142	B	A	5	SK140底面	a	Ⅳ	a	a	0.40	0.34	0.32	0.24	0.09	SK140	－	－	71	
SK143	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	b	b	1.20	1.03	0.74	0.44	0.14	SK140	－	－	71	
SK144	欠番																	
SK145	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.39	0.33	0.32	0.26	0.06	－	－	－		
SK146	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.68	0.53	0.14	0.09	0.16	－	－	－	71	
SK147	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.41	0.31	0.32	0.22	0.14	－	－	－	71	
SK148	B	B	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	(0.52)	0.36	(0.42)	0.28	0.09	－	－	－		
SK149	B	B	4-5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.96	0.78	0.72	0.56	0.21	－	－	－		
SK150	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.46	0.38	0.25	0.22	0.22	－	－	－	71	
SK151	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	b	b	(0.78)	0.75	0.50	0.22	0.29	－	SK152,SK153	－	71	
SK152	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	0.68	0.42	0.22	0.18	0.18	SK151	－	－	71	
SK153	B	B	5	排水溝底面	a	Ⅰ	a	a	0.51	(0.42)	(0.34)	0.32	0.19	SK151	－	－	71	
SK154	B	B	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	(0.46)	0.36	(0.30)	0.24	0.12	－	－	－		
SK155	B	B	4-5	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.31	(0.26)	0.12	(0.10)	0.14	－	－	－		
SK156	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	0.38	0.36	0.24	0.18	0.20	－	－	－	71	
SK157	B	B	4	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	0.70	0.64	0.20	0.12	0.15	－	－	－		
SK158	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅱ	a	a	1.00	0.56	0.30	0.28	0.21	－	－	－	72	
SK159	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	(1.70)	0.99	(1.58)	0.81	0.17	－	SK160,SK161, SK162,SK189	－	72	
SK160	B	B-C	5	Ⅳ上	a	Ⅱ	b	b	0.59	0.48	0.39	0.32	0.20	SK159	SK163	－	72	
SK161	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	b	b	0.57	0.33	0.13	0.10	0.20	SK159,SK191	－	－	72	
SK162	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅲ	b	b	(0.34)	0.15	0.22	0.08	0.09	SK159	－	－		
SK163	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.71	0.62	(0.52)	0.42	0.15	SK160	－	－		
SK164	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅵ	b	b	1.01	0.66	0.62	0.28	0.26	－	－	H5	72	
SK165	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.68	0.63	0.59	0.50	0.07	－	－	－		
SK166	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.24	0.20	0.16	0.14	0.08	－	－	－	72	
SK167	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	(0.77)	(0.31)	(0.16)	(0.14)	0.22	－	－	－	72	
SK168	B	D	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.68	0.62	0.49	42.00	0.16	－	－	－	72	
SK169	B	D	4	Ⅳ上	a	Ⅵ	a	a	0.50	0.45	0.16	0.08	0.14	－	－	－	72	
SK170	A	J-K	6-7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(5.46)	(1.13)	(5.27)	(0.52)	0.13	SI10, SI10-P1, SI10-P2, SI10-P3, SI10-P4, SI10-壁際溝	SK70,SK71, SB1-P6 SD9,SI8, SI8-壁際溝①, SI8-壁際溝②	H1		
SK171	A	K-L	7	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	0.66	0.40	0.46	0.24	0.14	SK77	－	－		
SK172	A	L	7	Ⅳ上	a	Ⅳa	a	a	0.51	0.46	0.18	0.17	0.07	－	－	－		
SK173	A	J	7	SI8床面	a	Ⅳ	a	a	0.43	0.42	0.32	0.27	0.10	SI8	－	H1		
SK174	A	C-D	5	SI8整地土下	a	Ⅳ	a	a	0.17	0.16	0.12	0.08	0.13	SI8	－	－		
SK175	A	L	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.41	0.30	0.22	0.18	0.22	－	SK96	H1		
SK176	A	M	4	Ⅳ上	a	Ⅶ	b	b	0.48	0.36	0.36	0.23	0.17	－	－	－		

表22　土坑一覧表（６）

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK177	A	M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.45	0.36	0.29	0.20	0.11	－	－	H3	73	15
SK178	A	M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.30	0.27	0.23	0.22	0.10	－	－	－		
SK179	A	N-M	4	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.62	0.54	0.54	0.40	0.08	－	－	－		
SK180	A	S	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.58	0.55	0.43	0.41	0.12	SK127	－	－		
SK181	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.36	0.34	0.21	0.20	0.13	－	－	－		
SK182	A	T	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.45	0.34	0.32	0.25	0.10	－	SD10	－		
SK183	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.41	0.28	0.32	0.19	0.10	－	－	－		
SK184	B	A	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.31	0.25	0.16	0.15	0.16	－	－	－		
SK185	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.32	0.30	0.21	0.20	0.10	－	SK140	－		
SK186	欠番																	
SK187	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.33	0.28	0.12	0.10	0.11	－	－	－		
SK188	B	B	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.34	0.32	0.22	0.21	0.12	－	－	－		
SK189	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.60	0.46	0.36	0.33	0.16	SK159	－	－		
SK190	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.28	0.25	0.18	0.14	0.12	－	－	－		
SK191	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.68	0.66	0.51	0.49	0.11	－	SK161	－		
SK192	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	a	a	0.47	0.31	0.34	0.20	0.12	－	－	－		
SK193	B	C	5	Ⅳ上	a	Ⅳ	b	b	0.54	(0.47)	0.33	0.31	0.22	－	－	－		
SK194	B	C	4	Ⅳ上	a	Ⅲ	a	a	0.44	0.32	0.20	0.19	0.17	－	－	－		
SK195	A	H	2	Ⅳ上	b	Ⅲ	a	a	(0.52)	(0.43)	0.12	0.10	0.61	SK40	－	H3		
SK196	A	B-C	4-5	Ⅳ上	a	Ⅶ	c	c	(4.94)	(3.08)	(4.86)	(3.02)	0.32	－	SI1, SI1-P1, SI1-P2, SI1-壁際溝	H1959	74	14

表23　遺物集積一覧表

遺構番号	地区割り			検出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	リッド	大グ	南北	東西					上端		下端		深さ	新	旧			
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SU1	A	H-I	6	Ⅳ上	－	－	－	－	0.90	0.60	－	－	－	－	－	H299	77	16
SU2	A	I	1	Ⅳ上	－	－	－	－	1.60	0.90	－	－	－	－	－	H367	78	16
SU3	A	L	4	Ⅲ層中	－	－	－	－	0.50	0.35	－	－	－	－	－	H92	80	
SU4	B	A	5	Ⅲ層中	－	－	－	－	1.10	1.10	－	－	－	－	－	H291	81	

表24　土器類観察表（１）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整内面/外面	文様内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
1	土師器	S字甕B類	SI1 壁際溝②	3-4	(19.5) － (3.0)	1	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-2	－	10	
2	弥生土器	高坏	SI1	2	(20.4) － (2.8)	1	密（φ2mm以下の長石、チャートを多く含む）	良好	7.5YR 5/4 7.5YR 4/2 5YR 6/6	ヨコナデ/ヨコナデ	－	山中Ⅱ	－	10	
3	土師器	高坏か器台	SI1	5	(13.7) － (2.6)	1.4	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/2 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	時期不明	－	10	
4	弥生土器	高坏	SI1	5 e	(20.9) － (14.7)	5.1	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ミガキ、ヨコナデ/指ナデ	－/沈線文、波状文、横線文	山中Ⅰ-2	1穿孔3方向	10	17
5	土師器	有孔鉢	SI1	5	－ (3.6) (3.3)	－	密（φ6mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 4/1 5YR 6/6 7.5YR 4/2	ナデ/ナデ	－	時期不明	－	10	
6	土師器	く字甕	SI1	5	(17.4) － (17.1)	1	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	削り/ハケ、ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅰ	－	10	
8	土師器	高坏	SI3	d	－ － (8.6)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	不明/ミガキ	－	廻間Ⅰ	1穿孔3方向	14	
9	土師器	壺	SI3	e	－ － (4.1)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 8/2 2.5YR 6/6 7.5YR 5/1	ナデ/ナデ	－/列点文、横線文	廻間Ⅰ～Ⅱ		14	
10	土師器	広口壺	SI3	e	－ － (5.4)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 6/1 7.5YR 7/3 7.5YR 7/3	指オサエ/不明	－/横線文、波状文	廻間Ⅱ-1	－	14	
11	土師器	受口系甕	SI3	e	－ － (4.7)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 6/3 7.5YR 6/3 7.5YR 6/3	指オサエ/ハケ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ	－	14	
12	土師器	受口系甕	SI3	d	－ － (5.7)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ハケ、指オサエ/ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ	－	14	
13	土師器	S字甕B類	SI3	b	－ － (2.1)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/2 10YR 7/2 N 3/	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-3	－	14	
14	土師器	S字甕B類	SI3	b	(13.4) － (3.3)	2	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 2.5Y 5/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-3	－	14	
15	土師器	S字甕B類	SI3	b	(15.0) － (3.7)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/2 10YR 7/2 N 3/	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅱ-3	－	14	
16	土師器	S字甕B類	SI3	b	(17.6) － (2.9)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 4/1 5Y 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅱ-3	－	14	
17	土師器	S字甕B類	SI3	d	(18.4) － (3.6)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 5/3 10YR 7/3 N 3/	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-3	－	14	
18	土師器	高坏	SI3	1	－ － (5.9)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	2.5YR 6/6 2.5YR 6/6 10YR 5/2	ミガキ/ミガキ	－	時期不明	－	14	
19	土師器	西濃型高坏	SI3	1	－ － (5.6)	1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 5YR 7/6 7.5YR 7/6	不明/不明	多条沈線文/－	廻間Ⅰ～Ⅱ	－	14	
20	土師器	内湾壺	SI3	1	(12.7) － (2.7)	1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ミガキ/ミガキ	－/多条沈線文	廻間Ⅰ	－	14	

表25　土器類観察表（２）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整内面/外面	文様内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
21	土師器	有段高坏	SI3	6	－ － (3.0)	－	密（φ2mm以下の石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 5YR 6/6 10YR 7/6	ミガキ/ミガキ	－	時期不明	－	14	
22	弥生土器	高坏か器台	SI3	5 e	－ 11.0 (4.0)	－	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ナデ/ミガキ	－	山中Ⅰ～Ⅱ	1穿孔3方向	14	17
23	土師器	く字甕	SI3	6	(13.6) － (16.3)	2	やや粗（φ2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 7/4	指オサエ、指ナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ	内外面煤付着	14	17
24	土師器	受口系甕	SI5	c	－ － (3.0)	1	粗（φ2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	5YR 6/8 5YR 6/8 5YR 6/6	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	山中Ⅱ～廻間Ⅰ-2	－	17	
25	弥生土器	受口系甕	SI5	7 8	(18.8) － (3.5)	2	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 8/4 10YR 8/4	ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	山中Ⅱ	尾張型	17	
26	弥生土器	高坏	SI5	6 7 8	(26.0) － (2.5)	1	密（φ3mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 5/1	ミガキ/ミガキ	－/沈線文	山中Ⅱ-1	－	17	
27	土師器	有段高坏	SI6	1 b	－ － (3.2)	－	やや粗（φ4mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 4/3 N 4/	ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	－	19	
28	土師器	有段高坏	SI6	1	－ － (4.5)	－	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 6/8	ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	19	
29	土師器	有段高坏	SI6	1	－ － (5.5)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 4/3 5YR 6/6 2.5YR 6/6	ナデ、ヘラナデ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	19	
30	土師器	有稜高坏	SI6-壁際溝	2-3	(14.0) (11.8) 10.4	1.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/6 10YR 7/6 10YR 7/4	ナデ/ミガキ	－/多条沈線文	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	19	
31	土師器	有稜高坏	SI6-壁際溝	3	(13.4) (10.2) 9.6	1.8	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 10YR 8/4 10YR 8/4	ハケ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	内面摩耗、2穿孔1組2方向	19	17
32	土師器	椀形高坏	SI6-壁際溝	2-3	13.3 － (5.7)	9.5	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 2.5YR 7/4 7.5YR 8/3	ミガキ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3		19	
33	土師器	有稜高坏	SI6-壁際溝	2-3	－ － (4.8)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 5YR 7/6 10YR 7/3	ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	2穿孔1組2方向	19	17
34	土師器	広口壺	SI6-壁際溝	2-3	(12.8) － (9.1)	7.5	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 4/1 10YR 8/3 10YR 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ	－	19	
35	土師器	受口系甕	SI6	c	－ － (2.8)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 8/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-4	－	19	
36	土師器	Ｓ字甕Ａ類	SI6	1	－ － (2.1)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母を多く含む）	良好	10YR 6/2 10YR 7/3 N 2/	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	外面煤付着	19	
37	土師器	Ｓ字甕Ａ類	SI6	1	－ － (1.8)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 8/3 N 4/	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-2	－	19	

表26　土器類観察表（３）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
38	土師器	S字甕A類	SI6	1	― ― (1.9)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 N 4/	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	―/押引刺突文	廻間Ⅰ-2	―	19	
39	土師器	S字甕A類	SI6	c	(20.2) ― (4.2)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/2 N 3/	ヨコナデ、ハケ、指ナデ/ヨコナデ、ハケ	―/刺突文	廻間Ⅰ-2	―	19	
40	土師器	ミニチュア台付甕	SI6	1	― 4.4 (3.1)	―	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ナデ、板ナデ/ナデ	―	時期不明	―	19	17
41	土師器	内湾壺	SI6-壁際溝	3	(5.5) ― (11.2)	6	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	不良	7.5YR 8/4 10YR 8/4 10YR 8/4	ミガキ、指ナデ/ミガキ	―	廻間Ⅰ-4	―	19	
42	土師器	内湾壺	SI6-壁際溝	2 3	― (4.4) 6.5	―	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	不良	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ハケ/ミガキ	―	廻間Ⅰ	―	19	
43	土師器	受口系甕	SI6	4	(30.6) ― (4.0)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 3/1 10YR 3/1 10YR 5/2	ヨコナデ、ハケ/ハケ	―/刺突文	廻間Ⅱ-1	44・443と同一	19	
44	土師器	受口系甕	SI6	1	(30.6) ― (21.3)	1	やや粗（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/2 10YR 3/1 10YR 6/4	ヨコナデ、ハケ、板ナデ/ハケ	―/刺突文	廻間Ⅱ-1	43・443と同一	19	17
45	土師器	内湾壺	SI7	2	(8.0) ― (2.9)	1.2	密（φ0.5mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ミガキ/―	―/多条沈線	廻間Ⅱ-2	―	21	
46	弥生土器	受口系甕	SI7	b	(11.8) ― (1.6)	1.5	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	―/刺突文、横線文	山中Ⅰ	―	21	
47	土師器	S字甕A類	SI7	d	(15.2) ― (2.6)	1	やや粗（φ1mm以下の雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 6/3 10YR 2/3	ヨコナデ、指ナデ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	―/押引刺突文	廻間Ⅰ-4	―	21	
48	土師器	S字甕B類	SI7	6	(14.8) ― (3.4)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 4/3 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線	廻間Ⅱ-3～Ⅲ-1	―	21	
49	土師器	S字甕A類	SI7-壁際溝①	4	(18.0) ― (1.5)	1.0	粗（φ0.5mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 2/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	―/押引刺突文	廻間Ⅰ-4	―	21	
50	土師器	器台	SI7-壁際溝②	7	(9.6) ― (2.6)	1	密（φ2mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ミガキ/ミガキ、ハケ	―	廻間Ⅲ-1	―	21	
51	土師器	有段高坏	SI7	6	(21.0) ― (6.4)	1.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	不明/不明	―	廻間Ⅲ-1	―	21	
52	土師器	器台	SI7	6	― ― (6.5)	―	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 8/3	ミガキ/ミガキ	―	廻間Ⅰ-3	53と同一、1穿孔3方向	21	
53	土師器	器台	SI7	6	― (12.0) (2.8)	―	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 8/3	ナデ/ミガキ	―	廻間Ⅰ-3	52と同一	21	
54	土師器	樽形土器	SI7	トレンチ	― ― (2.2)	―	やや粗（φ6mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 7/4 10YR 6/4	ナデ/ミガキ	―/羽状文	廻間Ⅱ-4～Ⅲ-1	外面赤彩	21	17
55	土師器	月影式甕	SI7	トレンチ	(19.0) ― (3.4)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 8/4 7.5YR 8/4 7.5YR 8/3	ヨコナデ/ナデ	―/擬凹線文	廻間Ⅰ式併行	―	21	

表27　土器類観察表（４）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
56	弥生土器	受口系甕	SI8	c	(12.0) － (1.9)	1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 6/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	山中Ⅰ	－	25	
57	土師器	受口系甕	SI8	c	(19.0) － (4.5)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5YR 8/3 2.5YR 8/3 2.5YR 6/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	25	
58	土師器	く字甕	SI8	a	(19.8) － (5.8)	4.5	密（φ3mm以下の長石をわずかに含む）	良好	5YR 6/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅰ	－	25	
59	土師器	有段高坏	SI8	5	－ － (6.8)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/8 5YR 6/8 7.5YR 7/8	絞り込み/不明	－/横線文	廻間Ⅰ～Ⅱ	1穿孔3方向	25	
60	土師器	加飾壺	SI8	5	－ － (2.7)	1	やや粗（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 7.5YR 6/6 5Y 4/1	不明/不明	羽状文/擬凹線文	廻間Ⅱ	－	25	
61	土師器	壺	SI8	5 14	(9.2) － (4.7)	4.8	密（φ2mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-4～Ⅲ-1	－	25	
62	土師器	内湾壺	SI8	5 12	(10.0) － (4.7)	3.5	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	－/列点文	廻間Ⅰ-3	－	25	
63	土師器	受口系甕	SI8	5	(19.9) － (2.7)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5YR 8/3 2.5YR 8/3 2.5YR 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-3	－	25	
64	土師器	鉢	SI8-壁際溝①	8	7.6 3.0 5.5	7.5	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 6/6 7.5YR 7/6	ナデ、ミガキ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	－	25	18
65	弥生土器	高坏	SI9	c	－ － (4.5)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 7.5YR 4/4 10YR 7/4	ナデ/不明	－/横線文、刺突文	山中	外面赤彩、1穿孔3方向	27	18
66	土師器	内湾壺	SI9	e	(9.8) － (3.5)	1	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	－	27	
67	土師器	受口系甕	SI9	b	(17.0) － (8.0)	2.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	27	
68	土師器	受口系甕	SI9	c	(22.2) － (3.0)	1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅰ-3	－	27	
69	土師器	受口系甕	SI9	2	(15.2) － (6.2)	1	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	27	
70	土師器	広口壺	SI10	b	(15.6) － (3.6)	1.8	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 6/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ	－	30	
71	土師器	受口系甕	SI10	b c	(16.0) － (5.4)	1.8	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	ヨコナデ、板ナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	30	
72	土師器	受口系甕	SI10	2	(15.8) － (3.5)	1	密（φ2mm以下の長石、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	30	
73	土師器	壺	SI10	トレンチ	－ 3.8 (3.1)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 10YR 7/3	ナデ/ナデ	－	時期不明	－	30	

表28　土器類観察表（５）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
74	土師器	く字甕	SI11	1	(17.4) － (2.5)	1	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	31	
75	土師器	広口壺	SI12	a	14.4 － (5.5)	9.2	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 10YR 7/3	ヨコナデ、ミガキ、指ナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3～4	－	32	18
76	土師器	器台	SI13	3 c	19.3 12.5 13.1	6.2	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	1穿孔2段1組3方向	35	18
77	土師器	受口系甕	SI13	a b c	17.8 7.3 30.4	6.2	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 3/4 10YR 2/3 10YR 4/4	ヨコナデ、指ナデ、板ナデ/ヨコナデ、ハケ、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	35	18
78	土師器	受口系鉢	SI13	2	(20.8) － (9.0)	2.3	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 5/8 7.5YR 4/6 7.5YR 4/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ミガキ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅱ-1	煤付着	35	
79	土師器	加飾壺	SI13	3 c	－ 4.8 (17.6)	－	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 7.5YR 6/4 10YR 7/3	指ナデ、ハケ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	外面赤彩	35	18
80	土師器	受口系甕	SD2	1	(18.0) － (3.4)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-4	－	46	
81	土師器	高坏	SD2	a b	－ (14.5) (5.0)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/6 10YR 7/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	46	
82	土師器	有段高坏	SD2	a b	－ － (13.7)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 6/8	不明/ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組2方向	46	
83	土師器	加飾壺	SD2	d	(12.5) － (3.7)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 2.5Y 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	羽状文/擬凹線文	廻間Ⅱ-1	－	46	
84	土師器	月影式甕	SD2	d a c	(25.8) － (8.9)	2.5	密（φ2mm以下の長石、雲母を多く含む）	普通	7.5YR 5/8 7.5YR 5/8 7.5YR 5/8	ヨコナデ、ケズリ/ハケ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ-4併行	323と同一	46	18
85	土師器	Ｓ字甕台部	SD2	c	－ (9.8) (3.3)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/2 10YR 5/1 10YR 4/1	指オサエ、ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ	－	46	
86	土師器	受口系甕	SD2	b	(14.4) － (3.6)	1.0	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 7/6 7.5YR 8/2	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	内湾する受口系口縁	46	
87	土師器	受口系甕	SD2	b	(16.0) － (2.8)	1.0	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 8/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	46	
88	土師器	Ｓ字甕０類	SD3	1	(20.4) － (4.0)	1.7	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ,ハケ/ヨコナデ,ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	399と同一	47	
89	土師器	加飾壺	SD3	2	－ － (13.6)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/2 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	指オサエ,輪積痕/不明	－/波状文、横線文	廻間Ⅱ-1	－	47	
90	土師器	広口壺	SD3	b	(22.0) － (4.3)	1.1	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/8 7.5YR 6/4 7.5YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	47	

表29　土器類観察表（６）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
91	土師器	台付甕台部	SD3	b	－ (8.9) (6.1)	－	密（φ8mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 10YR 6/4	指オサエ、ヨコナデ/ハケ、ヨコナデ	－	時期不明	－	47	
93	土師器	器台	SD5	a	9.4 － (2.3)	9.7	密（φ0.5mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 10YR 7/6 10YR 7/4	不明/不明	－	廻間Ⅱ-1	文字若しくは記号	49	18
94	土師器	椀形高坏	SD6	b	(15.8) － (4.8)	1.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 7.5YR 5/4 10YR 6/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	
95	土師器	有段高坏	SD6	c	－ － (8.1)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 5/3 5YR 5/4 5YR 5/3	ナデ、ミガキ、ハケ/ナデ、ミガキ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	
96	土師器	く字甕	SD6	c	(14.3) － (6.8)	1.0	やや粗（φ4mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 3/2 5YR 5/4 5YR 5/4	ヨコナデ、板ナデ/ヨコナデ、板ナデ	－	廻間Ⅱ-1	97と同一	51	
97	土師器	く字甕	SD6	c	(14.3) － (20.7)	0.8	やや粗（φ5mm以下の長石、石英を多く含む）	普通	10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	ヨコナデ、板ナデ/ヨコナデ、板ナデ	－	廻間Ⅱ-1	96と同一、最大径(17.9)	51	19
98	土師器	く字甕	SD6	d	(17.8) － (7.0)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 6/3 10YR 7/4 10YR 7/2	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	
99	土師器	く字甕	SD6	b	(23.7) － (4.7)	1.0	密（φ4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	普通	5YR 5/6 5YR 4/6 7.5YR 4/1	ハケ、ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	
100	土師器	く字甕	SD6	a	(15.6) － (14.9)	1.0	密（φ4mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	10YR 5/4 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ハケ、ヨコナデ、輪積痕、指オサエ/ハケ、ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	19
101	土師器	く字甕	SD6	d b c	16.5 7.4 21.8	10.4	密（φ6mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	7.5YR 5/4 5YR 5/4 5YR 5/4	ヨコナデ、ハケ、板ナデ、シボリ痕、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	51	19
102	土師器	受口系平底甕	SD6	d	(14.0) － (2.7)	2.0	やや粗（φ1mm以下の長石、石英をわずかに含む）	良好	10YR 4/1 10YR 5/1 10YR 6/2	ヨコナデ、/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	103,104と同一	52	
103	土師器	受口系平底甕	SD6	c d	(13.8) － (11.9)	3.1	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 4/1 10YR 5/1 10YR 5/1	ヨコナデ、、指オサエ、板ナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	102,104と同一	52	19
104	土師器	受口系平底甕	SD6	c	－ 3.8 (12.6)	－	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 4/1 10YR 6/2 10YR 5/2	ナデ、指オサエ、ハケ/ハケ	－	廻間Ⅱ-1	102,103と同一	52	19
105	土師器	受口系甕	SD6	b	－ － (5.4)	1.1	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 5/2 10YR 6/2 10YR 5/2	ヨコナデ、/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	52	
106	土師器	受口系甕	SD6	b	(15.6) － (8.0)	1.1	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 5/4 7.5YR 6/6 7.5YR 6/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	52	
107	土師器	受口系平底甕	SD6	c	(12.0) － (14.2)	2.0	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/3 10YR 7/3	ヨコナデ、輪積痕、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/横線文	廻間Ⅱ-1	108と同一	52	

表30　土器類観察表（７）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
108	土師器	受口系平底甕	SD6	c	― (3.0) (9.1)	―	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/3 10YR 7/3	ナデ、輪積痕,指オサエ/ナデ、ハケ	―	廻間Ⅱ-1	107と同一	52	
109	土師器	Ｓ字甕Ａ類	SD6	d a b	(16.2) (9.2) 28.1	7.0	やや粗（φ1mm以下の雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	―	52	19
110	土師器	台付甕	SD6	d	― 7.4 (11.5)	―	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 7.5YR 6/6 10YR 6/4	ナデ、輪積痕/ハケ、ナデ	―	廻間Ⅱ-1	―	52	
111	土師器	受口系鉢	SD6	c d	13.7 ― (9.5)	6.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/2 10YR 6/2 10YR 6/2	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅱ-1	―	53	20
112	土師器	加飾壺	SD6	c d	17.4 ― (5.6)	12.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 5/1	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ハケ	―/擬凹線文	廻間Ⅱ-1	―	53	
113	土師器	加飾壺	SD6	c	(16.0) ― (5.8)	1.2	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 6/2 10YR 4/1 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	―/擬凹線文	廻間Ⅱ-1	―	53	
114	土師器	広口壺	SD6	d	(14.7) ― (4.5)	1.0	やや粗（φ4mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	輪積痕/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅱ-1	―	53	
115	土師器	広口壺	SD6	d b c	― ― (24.7)	―	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 4/1 10YR 7/3 10YR 7/3	油オサエ、ナデ、ハケ、輪積痕/ハケ、ナデ	―	廻間Ⅱ-1	―	53	20
116	土師器	広口壺	SD6	d	― 3.6 (7.9)	―	密（φ1mm以下の長石、石英、をわずかに含む）	良好	10YR 5/2 10YR 6/3 10YR 6/3	ヨコナデ、輪積痕、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	―	53	20
117	土師器	台付壺	SD6	c d	― ― (11.8)	―	やや粗（φ6mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	2.5Y 6/3 7.5YR 6/6 7.5YR 8/2	板ナデ、ハケ/ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	―	53	20
118	土師器	加飾壺	SD6	c d	(18.1) 4.9 38.2	4.0	やや粗（φ3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 5/1 10YR 7/3 10YR 7/3	ミガキ、ヨコナデ、指オサエ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ、ミガキ	羽状文/波状文、凸帯、刺突文、横線文、破線文	廻間Ⅱ-1	柳ケ坪型壺祖型	54	20
120	土師器	有段高坏	SD7 SD6	d c d	― ― (7.6)	―	密（φ1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ナデ、ミガキ/ナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	―	55	
121	土師器	受口系甕	SD7	a	(16.0) ― (3.3)	1.2	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/4 10YR 6/1	ヨコナデ/ヨコナデ、指オサエ	―	廻間Ⅱ-1	―	55	
122	土師器	受口系甕	SD7	d	(15.8) ― (2.6)	1.6	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ヨコナデ/ヨコナデ	―	廻間Ⅱ-1	―	55	
123	土師器	広口壺	SD7	d	(10.2) ― (6.3)	2.3	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 7.5YR 7/4 10YR 7/3	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ	―	廻間Ⅱ-1	―	55	
124	土師器	広口壺	SD7	d	18.2 ― (8.2)	7.5	密（φ4mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 6/3	ヨコナデ、ハケ、輪積痕、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	刺突文/刺突文、凸帯、横線文	廻間Ⅱ-1	125と同じ、柳ケ坪型壺祖型	55	21

表31　土器類観察表（８）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整内面/外面	文様内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
125	土師器	加飾壺	SD7	b d	— 5.3 (35.2)	—	密（φ4mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	10YR 5/2 7.5YR 6/4 10YR 6/3	指ナデ、ハケ/ナデ、ミガキ	—/横線文、波状文	廻間Ⅱ-1	124と同一、穿孔あり、柳ケ坪型壺祖型	55	21
126	土師器	甕	SD7	c d	— — (25.9)	—	密（φ3mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 5/3 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	輪積痕、指オサエ、ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	—	廻間Ⅱ-1	—	56	21
127	土師器	広口壺	SD7	b d	12.6 — (22.8)	11.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 6/1 10YR 8/3 5Y 4/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ、ミガキ	—	廻間Ⅱ-1	1穿孔	56	21
128	土師器	加飾壺	SD7	c d	18.2 7.0 40.2	12.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 3/1 10YR 7/4 10YR 7/2	ヨコナデ、ミガキ、指オサエ、輪積痕、ハケ、板ナデ/ヨコナデ、ミガキ	—/擬凹線文、横線文、羽状文、刺突文、波状文	廻間Ⅱ-1	—	57	21
129	弥生土器	高坏	SK30	1	— — (9.8)	—	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/2	絞り込み/ミガキ	—	山中Ⅱ-3	1穿孔3方向	59	
130	土師器	台付甕	SK31	a	— (10.0) (5.2)	—	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	—	廻間Ⅰ-1～2	—	59	
131	弥生土器	高坏	SK37	a a-b	(20.4) — (6.7)	8.0	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 7/3 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	—	山中Ⅱ-2	—	60	22
132	土師器	壺	SK37	1	(8.0) — (8.1)	1.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/3	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ	—	廻間Ⅲ-1	—	60	
133	土師器	壺	SK37	a-b d	(9.1) — (4.2)	4.0	密（φ2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 7.5YR 8/3 10YR 8/3	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	—	廻間Ⅲ-1	—	60	
134	土師器	壺	SK37	b a-b	— 3.4 (3.1)	—	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/2 7.5YR 7/4 2.5Y 7/2	ナデ、板ナデ/ハケ、ナデ	—	廻間Ⅰ-3	—	60	
135	土師器	西濃型高坏	SK49	a	(28.0) — (3.5)	1.0	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 7.5YR 7/6 10YR 5/1	ヨコナデ/不明	多条沈線文/—	廻間Ⅱ-1	—	61	
136	土師器	広口壺	SK52	1	— 5.6 (5.5)	—	密（φ1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 5/1 7.5YR 6/4 10YR 7/4	ハケ、ナデ/ナデ	—	廻間Ⅰ-3～4	—	62	
137	土師器	Ｓ字甕Ａ類	SK52	a	(17.4) — (4.4)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	—/押引刺突文	廻間Ⅰ-4	—	62	
138	土師器	台付甕	SK52	1	— 6.9 (4.5)	—	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 7/3	ナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	—	廻間Ⅰ-3～4	—	62	22
139	土師器	有段高坏	SK69	1	19.6 — (7.3)	4.0	やや粗（φ2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 6/4 10YR 7/4	ミガキ/ミガキ	—	廻間Ⅰ-0	—	63	22
140	土師器	有段高坏	SK92	b a	19.4 — (6.0)	8.8	密（φ1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/4 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	—	廻間Ⅲ-1	—	65	22
141	土師器	有段高坏	SK92	b a	(20.7) — (6.7)	2.2	密（φ3mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ミガキ	—	廻間Ⅲ-1	—	65	

表32　土器類観察表（９）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整内面/外面	文様内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
142	土師器	有段高坏	SK92	a	23.0 14.5 15.9	5.0	密（φ1mm以下の長石、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、ミガキ、指ナデ/ヨコナデ、ミガキ	―	廻間Ⅲ-1	1穿孔2段3方向	65	22
143	土師器	器台	SK92	a	10.0 (11.9) 10.4	9.2	密（φ1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ミガキ	―	廻間Ⅲ-1	1穿孔3方向	65	22
144	土師器	広口壺	SK92	a	(11.8) ― (19.6)	1.5	密（φ2mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/3 7.5YR 7/4 10YR 7/3	ハケ、ヨコナデ、指オサエ、輪積痕、板ナデ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅲ-1	―	65	22
145	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(12.0) ― (2.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 5/3 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	口縁端部沈線文	65	
146	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(12.9) ― (1.6)	2.7	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅲ-1	口縁端部沈線文	65	
147	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	(15.0) ― (1.9)	2.8	密（φ1mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
148	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(17.2) ― (2.4)	1.0	密（φ0.5mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 8/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
149	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(17.0) ― (1.9)	1.0	密（φ0.5mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
150	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(18.8) ― (1.1)	2.4	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 2/1	ヨコナデ/ヨコナデ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	165と同一	65	
151	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	(20.7) ― (2.1)	1.0	密（φ2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 6/3 10YR 8/4 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
152	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(20.5) ― (1.6)	1.4	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 5/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	―	廻間Ⅲ-1	―	65	
153	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(13.0) ― (2.7)	1.2	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
154	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	(13.0) ― (4.4)	1.0	密（φ0.5mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 7.5YR 6/3 10YR 6/4	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
155	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(12.8) ― (4.1)	1.0	密（φ1mm以下の赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/6 10YR 7/6 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
156	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(12.3) ― (4.2)	2.0	やや粗（φ2mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母を多く含む）	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	口縁端部沈線文	65	
157	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	(14.0) ― (4.1)	2.8	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/3 2.5Y 7/3 2.5Y 3/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	65	
158	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(14.8) ― (3.7)	1.0	密（φ3mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 6/4 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	―/沈線文	廻間Ⅲ-1	―	66	

表33　土器類観察表（10）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
159	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(13.2) － (4.7)	2.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 5/3 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	口縁端部沈線文	66	
160	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	－ － (3.6)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 8/4 2.5Y 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
161	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(16.0) － (4.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/4 10YR 8/4 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
162	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(18.8) － (4.7)	1.1	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 5/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
163	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	(18.8) － (3.4)	1.5	密（φ1mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 3/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
164	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(18.6) － (3.9)	3.1	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/3 10YR 2/1	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
165	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(18.8) － (4.8)	3.5	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 7/3 10YR 2/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	150と同一	66	
166	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	(19.5) － (6.7)	1.7	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	66	
167	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b a	－ － (3.3)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 5/1	指ナデ/ハケ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
168	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	－ (7.8) (7.1)	－	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 5/3 10YR 6/4 5YR 6/4	ナデ、指オサエ、折り返し/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
169	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	－ (8.7) (7.0)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 5/4 7.5YR 5/4 7.5YR 6/4	ナデ、指オサエ、折り返し/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
170	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	－ (10.8) (8.3)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	5YR 5/4 5YR 5/4 10YR 3/1	板ナデ、指ナデ、折り返し/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
171	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	b	－ 8.9 (10.1)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 6/3 10YR 5/2 10YR 4/1	ナデ、指オサエ、輪積痕、板ナデ、折り返し/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
172	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a b	－ － (9.4)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 4/2 7.5YR 6/3 7.5YR 6/3	ナデ、板ナデ、指オサエ/ハケ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	
173	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	SK92	a	－ (8.7) (14.7)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	指オサエ、指ナデ、折り返し/ハケ	－	廻間Ⅲ-1	－	66	22
174	土師器	パレス壺	SK140	a	(17.4) － (2.5)	2.2	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ナデ/不明	羽状文/擬凹線文、円形浮文	廻間Ⅰ-4	175と同一、頸部内面・口縁端部赤彩	70	
175	土師器	パレス壺	SK140	a	－ － (5.1)	－	密（φ3mm以下の長石、石英をわずかに含む）	普通	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ナデ/不明	羽状文/－	廻間Ⅰ-4	174と同一、頸部内面赤彩	70	

表34　土器類観察表（11）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
176	土師器	パレス壺	SK140	a	― ― (10.1)	―	密（φ4mm以下のチャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 8/4 10YR 8/3	輪積痕、指オサエ、指ナデ/ナデ	―/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-4	177・178と同一、外面赤彩	70	
177	土師器	パレス壺	SK140	a	― ― (16.2)	―	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 5YR 5/4 10YR 7/4	輪積痕、指オサエ、板ナデ/ナデ、ミガキ	―/横線文、刺突文	廻間Ⅰ-4	176・178と同一、外面赤彩	70	
179	土師器	S字甕A類	SK140	a	― (9.7) (5.8)	―	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 5/1	ナデ、指オサエ、ハケ、板ナデ/ナデ、ハケ	―	廻間Ⅰ-4	―	70	
180	土師器	手焙形土器	SK140	a	― ― (2.7)	―	密（φ1mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 7/6 N 3/	ナデ/ナデ	―/線刻(斜格子文)	廻間Ⅰ-4	覆部	70	23
181	土師器	受口系甕	SK177	b	(15.5) ― (3.2)	1.6	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 5/3 10YR 6/3	ヨコナデ/ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-4	―	70	
182	土師器	有段高坏	SK196	c	― ― (5.7)	―	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 6/6 10YR 7/4 10YR 7/4	ナデ/ナデ	―	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	75	
183	土師器	有段高坏	SK196	b c d	― ― (12.6)	―	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 6/6 5Y 6/6 5Y 6/6	ナデ/ナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	75	
184	土師器	有段高坏	SK196	b c	― (13.4) (16.2)	―	やや粗（φ6mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 8/6	ミガキ、ハケ/ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	75	
185	土師器	有段高坏	SK196	c e	― (13.2) (14.3)	―	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 6/8	ハケ、絞り込み/ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	75	23
186	土師器	西濃型高坏	SK196	c	(29.0) ― (4.5)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 8/3	不明/不明	多条沈線文、羽状文/―	廻間Ⅱ-1	―	75	
187	土師器	S字甕A類	SK196	c d	(19.8) ― 3.0	1.3	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母を多く含む）	良好	10YR 6/3 2.5YR 6/4 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	―	75	
188	土師器	く字甕	SK196	c	(11.0) ― (5.0)	1.7	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/4 7.5YR 6/6 10YR 5/2	ハケ、指ナデ/ハケ	―	廻間Ⅱ-1	―	75	
189	土師器	く字甕	SK196	c	(15.6) ― (3.2)	3.2	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/8 7.5YR 7/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅱ-1	―	75	
190	土師器	器台	SK196	c	― ― (6.0)	―	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 8/3	ナデ/ナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	75	
191	土師器	器台	SK196	c d	18.3 (14.0) 13.3	3.5	やや粗（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 8/4	不明/不明	―	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	75	23
192	土師器	く字甕	SK196	c d	(12.0) ― (12.0)	2.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/6 10YR 7/6 10YR 4/1	ハケ、指ナデ、板ナデ/ハケ	―	廻間Ⅱ-1	―	75	

表35　土器類観察表（12）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
193	土師器	く字甕	SK196	2	(20.0) － (2.7)	1.3	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 8/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅱ-1	204と同一	75	
194	土師器	椀形高坏	SK196	a	－ － (6.3)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 6/8	ミガキ/不明	－/横線文	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	76	
195	土師器	有段高坏	SK196	e	－ － (4.8)	－	密（φ2mm以下の石英、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/8 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	指ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	76	
196	土師器	有段高坏	SK196	d e	－ (13.5) (9.2)	－	やや粗（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 7/4	不明/不明	－	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	76	23
197	土師器	有段高坏	SK196	c e	(19.2) (11.9) 18.2	1.0	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	2.5YR 6/6 5YR 7/6 7.5YR 7/6	ヨコナデ、指オサエ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	76	23
198	土師器	有段高坏	SK196	a-d	(21.0) (13.1) 19.0	1.5	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 6/6 5Y 6/4 5Y 6/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	76	23
199	土師器	器台	SK196	a	－ － (6.3)	－	密（φ4mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ナデ/ナデ	－	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	76	
200	土師器	器台	SK196	d	－ － (5.9)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 8/3 10YR 8/4 10YR 8/4	ナデ、ミガキ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	2穿孔1組 2方向	76	
201	土師器	壺	SK196	b	－ 5.5 (2.8)	－	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 5Y 6/6 10YR 5/2	ナデ/ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	76	
202	土師器	壺	SK196	d e	－ 5.8 (3.5)	－	密（φ1mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 5/3 10YR 7/3	ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	外面赤彩	76	
203	土師器	く字甕	SK196	c	－ － (2.9)	1	やや粗（φ2mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 10YR 6/6 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅱ-1	－	76	
204	土師器	く字甕	SK196	d	－ － (2.5)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/4 10YR 8/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅱ-1	193と同一	76	
205	土師器	く字甕	SK196	d	(17.0) － (4.4)	1.0	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 5/6 7.5YR 6/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、指オサエ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	76	
206	土師器	く字甕	SK196	d	(17.4) － (3.9)	1.2	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	76	
207	土師器	く字甕	SK196	a	(19.6) － (3.1)	1.5	密（φ1.5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 4/4 7.5YR 5/6 7.5YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅱ-1	－	76	
208	土師器	Ｓ字甕Ａ類	SK196	d	(21.0) － (4.4)	1.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	－	76	
209	土師器	受口系甕	SK196	a	(18.0) － (3.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅱ-1	－	76	
210	土師器	受口系鉢	SK196	e	(14.9) 4.8 7.8	5.8	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 4/1	ミガキ、板ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	－	76	23

表36　土器類観察表（13）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
211	土師器	西濃型高坏	SU1	－	(24.0) － (3.7)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/4 7.5YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	多条沈線文/－	廻間Ⅱ-1	－	77	
212	土師器	く字甕	SU1	－	(15.8) － (3.9)	3.1	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 6/3 10YR 7/4	ハケ、ヨコナデ、輪積痕、指オサエ/ハケ、ヨコナデ、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	77	
213	土師器	く字甕	SU1	－	(15.0) － (5.7)	1.4	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 7.5YR 6/6 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	77	
214	土師器	S字甕A類	SU1	－	(15.9) － (2.2)	1.1	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 5/3 10YR 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	－	77	
215	土師器	台付甕	SU1	－	－ － (4.4)	－	密（φ4mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 10YR 6/4 7.5YR 6/4	ハケ、ナデ/ハケ	－	廻間Ⅱ-1	－	77	
216	土師器	有段高坏	SU2	－	(26.6) 12.4 21.5	1.0	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/3	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ/ヨコナデ、ミガキ、ハケ	－	廻間Ⅱ-1	1穿孔3方向	79	23
217	土師器	広口壺	SU2	－	10.1 4.6 16.9	6.3	密（φ6mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ハケ、ヨコナデ、指オサエ/ハケ、ヨコナデ、ミガキ、輪積痕	－	廻間Ⅱ-1	－	79	24
218	土師器	広口壺	SU2	－	(16.4) － (3.4)	1.8	密（φ6mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	10YR 6/2 7.5YR 6/4 10YR 6/2	ハケ、ヨコナデ、輪積痕/ハケ、ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	79	
219	土師器	広口壺	SU2	－	－ 6.7 (17.0)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	10YR 8/3 7.5YR 7/4 10YR 8/3	輪積痕、指オサエ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	79	24
220	土師器	壺	SU2	－	－ 5.2 (8.4)	－	やや粗（φ6mm以下の長石、石英を多く含む）	普通	10YR 6/2 10YR 5/2 10YR 6/2	ハケ、ナデ/不明	－	廻間Ⅱ-1	－	79	
221	土師器	台付甕	SU2	－	－ 7.0 (16.1)	－	密（φ5mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/1 10YR 7/4 10YR 7/1	ナデ、指オサエ、ハケ、輪積痕/ハケ、輪積痕、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	79	24
222	土師器	台付甕	SU2	－	－ 7.7 (8.2)	－	やや粗（φ5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	10YR 7/3 10YR 5/2 10YR 7/3	ハケ、ヨコナデ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅱ-1	－	79	
223	土師器	器台	SU3	－	－ (13.4) (12.8)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 5/1	指ナデ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-2	1穿孔3方向	80	24
224	土師器	器台	SU3	－	－ (13.2) (10.3)	－	密（φ10mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	絞り込み、輪積痕/ミガキ	－	廻間Ⅰ-2	1穿孔3方向	80	24
225	土師器	有段高坏	SU3	－	(22.6) 14.4 23.0	2.2	密（φ5mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	絞り込み/ミガキ	－	廻間Ⅰ-0	1穿孔3方向	80	24
226	土師器	有段高坏	SU4	－	(23.8) － (13.0)	9.6	密（φ9mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	5YR 6/8 5YR 6/8 5YR 6/8	不明/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	－	82	24

表37　土器類観察表（14）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
227	土師器	パレス壺	SU4	－	－ 8.0 (7.8)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/3 10YR 8/3	ナデ、板ナデ/ミガキ	－	時期不明	外面赤彩	82	
228	土師器	く字甕	SU4	－	(20.0) － (9.1)	3.0	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかにに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、輪積痕、板ナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-0	229・230と同一	82	24
229	土師器	く字甕	SU4	－	－ － (21.6)	－	密（φ9mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、輪積痕、板ナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ、板ナデ	－/刺突文	廻間Ⅰ-0	228・230と同一	82	
230	土師器	く字甕	SU4	－	－ (12.0) (4.3)	－	密（φ4mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ハケ/ハケ	－	廻間Ⅰ-0	228・229と同一	82	
231	弥生土器	高坏	AI7	Ⅲ	(24.4) － (3.7)	1.0	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	山中Ⅰ-3	－	83	
232	弥生土器	高坏	AI6	Ⅲ	－ (9.3) (11.6)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 8/3 10YR 7/3 5Y 4/1	ミガキ、絞り込み/ミガキ	－	山中Ⅰ-2	1穿孔3方向	83	
233	弥生土器	高坏	AH6	Ⅲ	－ － (2.9)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 6/6 10YR 7/4 5Y 6/6	ヨコナデ/ヨコナデ	－/波状文	山中Ⅱ-1	－	83	
234	弥生土器	高坏	AO4	Ⅲ	(28.9) － (17.1)	2.1	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/4 7.5YR 5/4 7.5YR 5/4	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	－	山中Ⅱ-1	1穿孔3方向	83	25
235	弥生土器	ワイングラス形高坏	AC4	Ⅲ	－ － (10.9)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/2 7.5YR 6/4 10YR 6/2	ナデ/ナデ、ミガキ	－/横線文	山中Ⅱ-1	－	83	25
236	土師器	有段高坏	AK6	Ⅲ	－ － (6.8)	－	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/8 10YR 6/6 10YR 7/4	ナデ、絞り込み/ミガキ	－	廻間Ⅰ-4	1穿孔3方向	83	
237	土師器	有段高坏	AF5	Ⅲ	－ － (6.6)	－	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 10YR 6/6 10YR 8/3	ミガキ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-4	2穿孔1組2方向	83	
238	土師器	有段高坏	AC5	Ⅲ	－ － (4.8)	－	密（φ3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	2.5YR 6/6 7.5YR 7/6 10YR 8/4	不明/不明	－	廻間Ⅰ	－	83	
239	土師器	有段高坏	AN5	Ⅲ	(13.3) － (9.7)	1.0	密（φ5mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 5/4 5YR 5/4 5YR 5/4	ナデ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-1	1穿孔3方向	83	25
240	土師器	有段高坏	AI3	Ⅲ	(23.8) － (6.9)	1.8	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 10YR 7/4	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	－	83	
241	土師器	有段高坏	AF5	Ⅲ	(26.2) － (9.6)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 6/4	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅱ-1	－	83	
242	土師器	西濃型高坏	AF5	Ⅲ	(25.0) － (3.5)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3	－	84	
243	土師器	西濃型高坏	AH7	Ⅲ	(25.6) － (5.1)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 4/6 7.5YR 5/6 7.5YR 4/1	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3～4	－	84	
244	土師器	西濃型高坏	AD4	Ⅲ	(24.5) － (6.3)	1.9	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	不明/不明	多条沈線文、波線文/－	廻間Ⅱ-2	－	84	

表38　土器類観察表（15）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
245	土師器	西濃型高坏	AD5	Ⅲ	(24.6) － (3.6)	1.1	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	不良	10YR 8/3 5YR 6/4 10YR 5/1	不明/不明	多条沈線文/－	廻間Ⅰ～Ⅱ	－	84	
246	土師器	西濃型高坏	AC4	Ⅲ	－ － (5.0)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	不明/不明	多条沈線文、波線文/－	廻間Ⅱ	－	84	
247	土師器	西濃型高坏	AC4	Ⅲ	－ － (3.1)	－	密（φ2mm以下のチャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 7/6	ナデ/ナデ	多条沈線文、連弧文/－	廻間Ⅱ	－	84	
248	土師器	西濃型高坏	AC4	Ⅲ	－ － (4.5)	－	密（φ2mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ナデ/ミガキ	多条沈線文、連弧文/－	廻間Ⅱ	－	84	
249	土師器	有稜高坏	AC5	Ⅲ	－ － (6.9)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 5Y 5/1	ミガキ、指オサエ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3～4	1穿孔3方向	84	
250	土師器	低脚高坏	AD5	Ⅲ	－ － (3.6)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	5Y 6/4 5Y 6/4 10YR 8/2	指オサエ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-3～4	2穿孔1組2方向	84	
251	土師器	低脚高坏	AH7	Ⅲ	－ (9.2) (1.9)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 10YR 7/6 7.5YR 8/4	板ナデ/ハケ、ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-4	2穿孔1組2方向	84	
252	土師器	低脚高坏	AC5	Ⅲ	－ (12.8) (2.1)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/3 10YR 8/4 10YR 8/3	ハケ/ミガキ	－/横線文	廻間Ⅰ-4	－	84	
253	土師器	西濃型低脚高坏	AC4	Ⅲ	－ (16.0) (2.1)	－	密（φ1mm以下の長石、石英をわずかに含む）	良好	10YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/1	ハケ/ナデ	－/沈線文、連弧文、羽状文	廻間Ⅱ-3～4	－	84	25
254	土師器	高坏	AD4	Ⅲ	－ (12.7) (8.2)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 5/1 2.5Y 7/3 2.5Y 4/1	ヨコナデ、指ナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	穿孔なし	84	25
255	土師器	高坏	AI3	Ⅲ	－ (12.0) (9.5)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 4/6 7.5YR 5/4 7.5YR 6/4	指ナデ、板ナデ/ミガキ、ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	84	25
256	土師器	白江式高坏	AC5	Ⅲ	－ － (5.5)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 7/6 10YR 6/4	ナデ/ナデ	－/多条沈線文、波線文	廻間Ⅰ-4併行	3穿孔1組2方向	84	25
257	土師器	高坏	AD4	Ⅲ	－ (10.8) (6.7)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 8/3	絞り込み、指ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-3～4	2穿孔1組2方向	84	
258	土師器	高坏	AN4	Ⅲ	－ － (9.5)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 6/4 10YR 7/3	絞り込み、ヨコナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-4	1穿孔3方向	84	
259	土師器	器台	AJ6	Ⅲ	－ (13.8) (11.6)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ハケ、ナデ、指ナデ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-2	1穿孔3方向	85	
260	土師器	器台	AG2	Ⅲ	－ － (6.2)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 5YR 6/4	ナデ、ミガキ、板ナデ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-4	1穿孔	85	
261	土師器	器台	AD5	Ⅲ	－ － (5.5)	－	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ナデ、ミガキ、指オサエ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-4	1穿孔3方向	85	
262	土師器	器台	AI7	Ⅲ	－ － (6.0)	－	密（φ6mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	絞り込み、ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅱ-2	1穿孔3方向	85	
263	土師器	高坏か器台	AF6	Ⅲ	－ (13.8) (6.1)	－	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/4 10YR 7/6 10YR 8/7	板ナデ/ミガキ、ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-1～2	1穿孔	85	

表39　土器類観察表（16）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
264	土師器	器台	A区	Ⅲ	(8.0) 9.4 9.1	5.0	密（φ3mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	指ナデ、板ナデ/不明	―	廻間Ⅱ-2	1穿孔3方向	85	25
265	土師器	器台	AI7	Ⅲ	7.8 ― (6.6)	4.5	密（φ8mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 8/4 7.5YR 8/4 7.5YR 8/4	板ナデ/板ナデ	―	廻間Ⅱ-2	1穿孔3方向	85	
266	土師器	器台	AM7	Ⅲ	9.3 ― (6.6)	7.5	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ヨコナデ、ミガキ、板ナデ/ヨコナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-2	267と同一、1穿孔2段1組3方向	85	26
267	土師器	器台	AM7	Ⅲ	― (11.6) (4.0)	―	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ナデ/ナデ、ミガキ	―	廻間Ⅱ-2	266と同一、1穿孔2段1組3方向	85	
268	土師器	器台	AI7	Ⅲ	(11.5) (11.7) 10.5	2.7	密（φ6mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 5YR 6/4 5YR 6/4	ヨコナデ、ミガキ、絞り込み、指ナデ/ヨコナデ、ミガキ	―	廻間Ⅲ	1穿孔3方向	85	26
269	土師器	く字甕	AI6	Ⅲ	(12.0) ― (5.2)	1.7	やや粗（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/6 10YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	―/刺突文	廻間Ⅰ-1	―	85	
270	土師器	く字甕	AG2	Ⅲ	(17.3) ― (5.0)	1.8	やや粗（φ3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 7.5YR 7/4	ハケ、ヨコナデ/ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-1	―	85	
271	土師器	く字甕	AB5	Ⅲ	(18.0) ― (3.7)	1.5	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ヨコナデ、輪積痕、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	―	85	
272	土師器	く字甕	AL4	Ⅲ	(15.4) ― (3.2)	2.1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-3	―	85	
273	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	(14.2) ― (6.7)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 4/1 10YR 7/4 10YR 6/1	ハケ、ヨコナデ、指オサエ、輪積痕/ハケ、ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-3	274・281と同一	85	
274	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	(14.2) ― (5.4)	2.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 7.5YR 6/6 10YR 6/1	ハケ、ヨコナデ、指オサエ/ハケ、ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-3	273・281と同一	85	
275	土師器	く字甕	AK6	Ⅲ	(33.2) ― (4.9)	1.0	密（φ5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	5YR 4/6 5YR 5/6 7.5YR 6/4	ハケ、ヨコナデ/ハケ、ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-3	―	85	
276	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	(12.0) ― (8.0)	1.9	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/3 7.5YR 5/3 7.5YR 5/1	ハケ、ヨコナデ、指オサエ、輪積痕/ハケ、ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-3	―	86	
277	土師器	く字甕	AB5	Ⅲ	(19.3) ― (4.3)	1.5	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 10YR 8/2	ヨコナデ、ハケ、輪積痕、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅰ-3～4	―	86	
278	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	(12.7) ― (5.8)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 3/1 10YR 7/2 10YR 3/1	ハケ、ヨコナデ/ハケ、ヨコナデ	―	廻間Ⅰ-4	―	86	
279	土師器	く字甕	AF5	Ⅲ	(18.8) ― (5.8)	1.0	密（φ3mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 5/3 10YR 3/1 7.5YR 5/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	―	廻間Ⅰ-4	―	86	

表40　土器類観察表（17）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
280	土師器	く字甕	AB5	Ⅲ	(23.4) － (7.1)	1.1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/4 10YR 7/3	ヨコナデ、ハケ、輪積痕、指ナデ/ヨコナデ、ハケ、板ナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	86	
281	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	－ － (5.9)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/2 10YR 6/6 10YR 6/1	ハケ、ナデ、輪積痕/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅰ-3	273・274と同一	86	
282	土師器	く字甕	AC5	Ⅲ	(14.8) － (9.0)	2.6	密（φ4mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 8/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ、輪積痕、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-2	－	86	
283	土師器	く字甕	AK6	Ⅲ	(11.0) － (3.8)	3.9	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-3	－	86	
284	土師器	く字甕	AE5	Ⅲ	(13.4) － (5.4)	1.6	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 5/4 7.5YR 7/3	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ	－	86	
285	土師器	受口系甕	BA5	Ⅲ	(13.8) － (2.9)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ナデ、ハケ/ナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	86	
286	土師器	受口系甕	AK6	Ⅲ	(14.0) － (4.0)	3.5	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	288と同一	86	
287	土師器	受口系甕	AI6	Ⅲ	(15.6) － (2.9)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 5Y 5/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	－	86	
288	土師器	受口系甕	AK6	Ⅲ	(14.8) － (3.8)	2.7	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	286と同一	86	
289	土師器	受口系甕	AO4	Ⅲ	(17.8) － (3.0)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 5/3 7.5YR 5/3 7.5YR 5/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	－	86	
290	土師器	受口系甕	AO4	Ⅲ	(14.4) － (4.8)	1.5	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	86	
291	土師器	受口系甕	AO4	Ⅲ	(15.5) － (5.0)	1.3	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/2 10YR 7/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	86	
292	土師器	受口系甕	AF5	Ⅲ	(18.6) － (3.8)	1.5	密（φ7mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	ヨコナデ、指オサエ、輪積痕/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	86	
293	土師器	受口系甕	AO4	Ⅲ	(17.6) － (2.3)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	87	
294	土師器	受口系甕	AF5	Ⅲ	(20.2) － (6.9)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	－	87	
295	土師器	受口系甕	AB5	Ⅲ	(18.0) － (5.4)	1.2	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/2 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	87	
296	土師器	受口系甕	AF6	Ⅲ	(18.0) － (4.8)	4.1	やや粗（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 5YR 5/6 7.5YR 6/6	ヨコナデ、輪積痕、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	87	

表41　土器類観察表（18）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
297	土師器	受口系甕	AC5	Ⅲ	(17.7) － (3.6)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/4 7.5YR 6/6 10YR 6/4	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	87	
298	土師器	受口系甕	AD5	Ⅲ	(17.7) － (3.0)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒を多く含む）	普通	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	－	87	
299	土師器	受口系甕	AM4	Ⅲ	(18.0) － (3.7)	1.0	やや粗（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	87	
300	土師器	受口系甕	AF6	Ⅲ	(22.6) － (13.6)	1.0	密（φ4mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 7/3	ヨコナデ、板ナデ、輪積痕、指オサエ/ヨコナデ、ミガキ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ-3	－	87	
301	土師器	受口系甕	AO4	Ⅲ	(16.0) － (4.3)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	87	
302	土師器	受口系甕	AF6	Ⅲ	(18.0) － (1.7)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/3 7.5YR 6/4 7.5YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	87	
303	土師器	受口系甕	AH6	Ⅲ	(17.0) － (3.7)	1.0	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	2.5Y 7/3 10YR 7/4 10YR 6/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文	廻間Ⅰ-4	－	87	
304	土師器	受口系甕	AC5	Ⅲ	(17.8) － (3.3)	1.0	やや粗（φ5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 7/3 7.5YR 6/3 7.5YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/横線文	廻間Ⅰ-4	－	87	
305	土師器	受口系甕	AG6	Ⅲ	(15.0) － (4.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/2 7.5YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	87	
306	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AO4	Ⅲ	(17.8) － (2.2)	1.1	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 8/3 10YR 4/3 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-2	－	87	
307	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	－ － (3.5)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 5/2 2.5Y 7/3 2.5Y 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	87	
308	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	(15.4) － (1.9)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/3 10YR 5/2 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-4	－	87	
309	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	(17.0) － (1.9)	1.4	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-4	－	87	
310	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AH2	Ⅲ	(18.0) － (3.0)	1.2	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	2.5Y 8/2 10YR 6/3 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	－	87	
311	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AD5	Ⅲ	(17.8) － (2.5)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	
312	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	(17.0) － (5.1)	1.9	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/3 2.5Y 6/4 2.5Y 4/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	
313	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	(20.0) － (1.7)	1.0	やや粗（φ1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 2.5Y 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	
314	土師器	Ｓ字甕Ａ類	AC5	Ⅲ	(20.0) － (4.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 5/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	

表42　土器類観察表（19）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
315	土師器	S字甕A類	AC5	Ⅲ	(20.0) － (5.0)	1.0	やや粗（φ1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 8/2 2.5Y 8/3 2.5Y 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	
316	土師器	S字甕A類	AC5	Ⅲ	(19.0) － (3.8)	1.8	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 6/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	88	
317	土師器	S字甕A類	AC5	Ⅲ	－ － (5.0)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 4/1 10YR 7/2 10YR 7/2	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	88	
318	土師器	S字甕C類	AH7	Ⅲ	(10.5) － (2.5)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 2.5Y 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅲ-1	－	88	
319	土師器	S字甕C類	AK6	Ⅲ	(17.7) － (2.4)	1.3	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	沈線文/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	88	
320	土師器	受口系甕	AC4	Ⅲ	－ － (7.3)	－	やや粗（φ3mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 5/1 10YR 6/3	ヨコナデ、ハケ/ハケ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ-2～3	－	88	
321	土師器	月影式甕	AI7	Ⅲ	(16.8) － (4.2)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 8/4 2.5Y 7/4 2.5Y 7/4	ヨコナデ、ハケ、板ケズリ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ式併行	－	88	
322	土師器	月影式甕	AJ7	Ⅲ	(17.8) － (3.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 8/4 2.5Y 8/3 2.5Y 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ式併行	－	88	
323	土師器	月影式甕	AD5	Ⅲ	(26.0) － (5.6)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 5/8 7.5YR 5/8 7.5YR 5/8	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ式併行	84と同一	88	
324	土師器	台付甕	AC5	Ⅲ	－ (7.4) (4.6)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/3 10YR 7/3 10YR 7/2	指ナデ、指オサエ/ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	88	
325	土師器	台付甕	AM7	Ⅲ	－ (8.8) (5.5)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ナデ、板ナデ、指オサエ/ナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	88	
326	土師器	台付甕	AK6	Ⅲ	－ (8.3) (4.3)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 8/4 10YR 8/4	指オサエ、ナデ、ハケ/ナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	88	
327	土師器	台付甕	AI7	Ⅲ	－ (8.0) (6.7)	－	やや粗（φ1.5mm以下の長石をわずかに含む）	普通	2.5YR 5/6 7.5YR 5/4 7.5YR 7/4	ハケ、板ナデ/ハケ、指オサエ	－	廻間Ⅰ-3	－	88	
328	土師器	S字甕台部	AC5	Ⅲ	－ － (4.5)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ハケ、指ナデ/ハケ	－	時期不明	－	88	
329	土師器	鉢把手	AK6	Ⅲ	－ － (6.6)	－	密（φ9mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	5YR 5/6 5YR 5/6 7.5YR 6/4	ナデ、ハケ/ナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ式併行	－	88	26
330	弥生土器	パレス壺	AH6	Ⅲ	(17.6) － (2.0)	1.1	やや粗（φ1mm以下の長石、石英をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 6/6 7.5YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文	山中Ⅰ-3	口縁部内面・口縁端部赤彩	89	
331	土師器	パレス壺	AK6	Ⅲ	－ － (4.1)	－	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/凸帯	廻間Ⅰ	口縁部内面・頸部外面赤彩	89	
332	土師器	パレス壺	AD4	Ⅲ	(17.5) － (2.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 6/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ-2	－	89	

表43　土器類観察表（20）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
333	土師器	パレス壺	AD5	Ⅲ	(13.8) － (1.8)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	沈線文、羽状文/擬凹線文	廻間Ⅰ-2	口縁部外面・口縁端部赤彩	89	
334	土師器	パレス壺	AF6	Ⅲ	(21.6) － (2.5)	1.0	密（φ1mm以下の石英をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 10YR 8/2 7.5YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文、円形浮文	廻間Ⅰ-2	口縁部外面・口縁端部赤彩	89	
335	土師器	パレス壺	AB5	Ⅲ	(18.0) － (3.0)	1.8	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 7.5YR 7/6 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文	廻間Ⅰ-2	336と同一、口縁部内面赤彩	89	
336	土師器	パレス壺	AB5	Ⅲ	(18.0) － (3.1)	2.0	やや粗（φ2mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 7.5YR 7/6 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文、凸帯	廻間Ⅰ-2	335と同一、口縁部内面赤彩	89	
337	土師器	パレス壺	AB5	Ⅲ	(19.8) － (4.9)	2.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文	廻間Ⅰ-2	頸部内面・口縁端部赤彩	89	
338	土師器	パレス壺	AC4	Ⅲ	(15.8) － (2.0)	1.0	密（φ3mm以下の長石、石英をわずかに含む）	良好	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ-3	口縁端部赤彩	89	
339	土師器	パレス壺	AD5	Ⅲ	(19.7) － (2.7)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5YR 4/6 2.5YR 4/6 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文、沈線文/擬凹線文	廻間Ⅰ-3	口縁部内面・口縁端部赤彩	89	
340	土師器	パレス壺	AB5	Ⅲ	(21.0) － (4.8)	1.0	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/6 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ、指オサエ、ハケ	羽状文/擬凹線文、棒状浮文	廻間Ⅰ-3	口縁部内面・口縁端部赤彩	89	
341	土師器	パレス壺	AC4	Ⅲ	(21.0) － (8.5)	1.8	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 7/6 10YR 8/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ、指オサエ	－/擬凹線文、棒状浮文、凸帯、刺突文	廻間Ⅰ-3	－	89	26
342	土師器	パレス壺	AB5	Ⅲ	(18.0) － (2.4)	1.3	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/4 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ-4	口縁部内面赤彩	89	
343	土師器	パレス壺	AI5	Ⅲ	－ － (6.2)	－	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 7/2	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文	廻間Ⅱ-2	－	89	
344	土師器	パレス壺	AL4	Ⅲ	－ － (3.6)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 5/2 10YR 7/3 5Y 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文、円形浮文	廻間Ⅰ-3	頸部内面赤彩	89	
345	土師器	広口壺	AJ7	Ⅲ	(18.6) － (5.1)	2.4	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-1	－	90	
346	土師器	広口壺	AG2	Ⅲ	(18.0) － (4.5)	2.7	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/3 7.5YR 7/6 7.5YR 8/2	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、指オサエ、ハケ	－	廻間Ⅰ-2	口縁部外面・口縁端部赤彩	90	
347	土師器	広口壺	AC5	Ⅲ	(13.6) － (2.2)	1.0	やや粗（φ3mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3～4	－	90	
348	土師器	広口壺	BB5	Ⅲ	(12.4) － (5.5)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ、指ナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	90	
349	土師器	内湾壺	AC5	Ⅲ	(10.0) － (3.0)	1.1	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 10YR 8/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－/多条沈線文	廻間Ⅰ	－	90	
350	土師器	内湾壺	AD5	Ⅲ	(7.8) 2.5 10.0	3.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ヨコナデ、指ナデ/不明	－	廻間Ⅰ-3	－	90	26

表44　土器類観察表（21）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
351	土師器	袋状口縁壺	AT5	Ⅲ	(13.2) － (6.3)	6.3	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ヨコナデ、指オサエ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅰ-0～1	－	90	
352	土師器	壺	A04	Ⅲ	－ － (5.6)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/4 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	指ナデ、ハケ/ミガキ	－	時期不明	353と同一	90	
353	土師器	壺	A04	Ⅲ	－ 2.0 (8.5)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 7/3 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	指ナデ、ハケ/ミガキ	－	時期不明	352と同一	90	
354	土師器	壺	AK6	Ⅲ	－ (3.3) (4.9)	－	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ハケ/ハケ、ナデ	－	時期不明	－	90	
355	土師器	壺	AC5	Ⅲ	－ (4.7) (4.2)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 4/1 10YR 7/3 7.5YR 6/4	ナデ、ハケ/ナデ、ハケ	－	時期不明	－	90	
356	土師器	壺	AT5	Ⅲ	－ (5.7) (2.5)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/2 10YR 4/1 10YR 7/2	ナデ、板ナデ/ナデ、ハケ	－	時期不明	－	90	
357	土師器	壺	AC5	Ⅲ	－ 6.8 (3.6)	－	密（φ2mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/3 7.5YR 7/3 10YR 8/3	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	－	時期不明	－	90	
358	土師器	壺	AC5	Ⅲ	－ 6.4 (4.6)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	－	時期不明	－	90	
359	土師器	壺	AI6	Ⅲ	－ (8.7) (2.9)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/1 10YR 7/4 10YR 7/1	ナデ/ナデ	－	時期不明	木葉痕	90	
360	土師器	受口系鉢	AC5	Ⅲ	(18.0) － (4.9)	1.0	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	10YR 7/3 7.5YR 7/4 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	－/横線文	廻間Ⅰ-2	－	90	
361	土師器	受口系鉢	AC5	Ⅲ	－ (17.8) (6.4)	1.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	362と同一	90	
362	土師器	受口系鉢	AC5	Ⅲ	－ － (4.8)	－	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/3 10YR 4/2 10YR 4/1	ナデ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅰ-2	361と同一	90	
363	土師器	受口系鉢	AK6	Ⅲ	(13.4) － (6.4)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-3	－	90	
364	土師器	受口系鉢	AC4	Ⅲ	(18.0) － (2.9)	1.5	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 7/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	91	
365	土師器	受口系鉢	AF6	Ⅲ	(14.7) － (2.8)	1.1	密（φ3mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-4	－	91	
366	土師器	受口系鉢	A04	Ⅲ	(15.2) 2.4 10.2	3.5	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/6 10YR 6/8 10YR 6/8	ヨコナデ、指オサエ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-0	－	91	26
367	土師器	月影式鉢	AF5	Ⅲ	(13.5) － (9.5)	3.1	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 8/2	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ式併行	－	91	26
368	土師器	鉢	A04	Ⅲ	－ － (7.2)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/8 10YR 6/6 10YR 6/6	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ-1	－	91	
369	土師器	鉢	AC-AE4-6	Ⅲ	(6.0) 3.4 3.8	2.0	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 5/1 7.5YR 6/6 7.5YR 5/6	指ナデ/指オサエ	－	廻間Ⅰ-2	－	91	

表45　土器類観察表（22）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
370	土師器	鉢	AF5	Ⅲ	(17.6) － (5.0)	1.0	密（φ5mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	91	
371	土師器	鉢	AF6	Ⅲ	(15.5) － (3.5)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 7.5YR 6/3 10YR 6/3	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	91	
372	土師器	鉢	AF7	Ⅲ	－ (3.3) (2.0)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/1	ナデ、ハケ/ナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-4	－	91	
373	土師器	鉢	AF8	Ⅲ	－ 3.0 (5.7)	－	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 6/4 10YR 7/4 10YR 8/3	板ナデ/ハケ	－/横線文、刺突文	廻間Ⅰ	－	91	
374	土師器	鉢	AF9	Ⅲ	(12.8) － (5.2)	1.0	密（φ2mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 7/6 10YR 8/4	ヨコナデ、輪積痕/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ-3	－	91	
375	土師器	鉢	AG2	Ⅲ	(7.4) 3.4 7.5	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ナデ、ハケ/ナデ	－	廻間Ⅱ-3	－	91	26
376	土師器	鉢	BB5	Ⅲ	－ (3.3) (3.6)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 7/2	ナデ/ナデ	－	時期不明	－	91	
377	土師器	有孔鉢	AD5	Ⅲ	－ (4.4) (2.1)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 10YR 7/6 10YR 8/3	ハケ、ナデ/ナデ	－	廻間Ⅰ-4	焼成前穿孔	91	
378	土師器	有孔鉢	AH2	Ⅲ	－ (4.8) (3.3)	－	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 7/4 7.5YR 7/3	ナデ/ナデ	－	廻間Ⅰ-4	焼成前穿孔	91	
379	土師器	壺か鉢	AH2	Ⅲ	－ (6.6) (1.8)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 8/1 10YR 8/2 10YR 5/1	ナデ/ナデ	－	時期不明	－	91	
382	土師器	西濃型高坏	AB5	Ⅱ	(24.8) － (9.1)	1.9	密（φ3mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 6/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3	426と同一	92	
383	土師器	器台	AB5	Ⅱ	(17.5) － (4.0)	3.2	密（φ2mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	ヨコナデ、ミガキ/ヨコナデ、ミガキ	－/沈線文	廻間Ⅰ-0	－	92	
384	土師器	高坏か器台	AB5	Ⅱ	－ (13.5) (3.3)	－	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅱ	1穿孔	92	
385	土師器	内湾壺	AB5	Ⅱ	(8.0) － (5.3)	1.7	やや粗（φ7mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	10YR 6/4 10YR 6/3 10YR 8/3	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ	－	92	
386	土師器	台付甕	AB5	Ⅱ	－ (9.3) (6.7)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 6/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅰ-1	－	92	
387	土師器	Ｓ字甕Ｂ類	AI7	Ⅱ	(12.0) － (8.6)	3.3	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 8/3 10YR 8/3 N 3/	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-4	－	92	27
388	須恵器	甕	AF5	Ⅱ	(24.0) － (3.8)	1.8	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	10YR 7/1 10YR 2/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナデ	－	猿投K90	－	92	
389	土師器	有段高坏	AF5-AG6	Ⅰb	－ 10.8 (10.3)	－	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 5YR 6/6 10YR 6/3	ナデ、指ナデ、ハケ/ナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3～4	1穿孔3方向	92	27
390	土師器	西濃型高坏	AG6	Ⅰb	(25.0) － (6.1)	1.8	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/4 5YR 5/6 7.5YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-4	－	92	

表46　土器類観察表（23）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
391	土師器	西濃型高坏	AF6	Ⅰb	(24.5) － (5.3)	1.1	やや粗（φ3mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 6/4 7.5YR 7/6	不明/不明	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-4	－	92	
392	土師器	器台	AF5-AG6	Ⅰb	(21.0) － (7.9)	1.0	やや粗（φ8mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 7/3	ミガキ、絞り込み、板ナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	92	27
393	土師器	器台	AF5-AG6	Ⅰb	－ (13.9) (8.5)	－	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5Y 6/6 5Y 6/6 5Y 6/6	指オサエ、板ナデ/ミガキ、ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	92	27
394	土師器	受口系甕	AG5	Ⅰb	(25.2) － (3.5)	1.0	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-1	396と同一	93	
395	土師器	受口系甕	AF5	Ⅰb	(18.8) － (4.0)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/3 7.5YR 6/4 10YR 7/3	ヨコナデ、ハケ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	－	93	
396	土師器	受口系甕	AG5	Ⅰb	(25.2) － (3.4)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 10YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-1	394と同一	93	
397	土師器	受口系甕	AF5-AG6	Ⅰb	(17.0) － (4.3)	3.0	やや粗（φ5mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/8 5YR 6/6 7.5YR 7/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ	－/横線文	廻間Ⅰ-4	－	93	
398	土師器	受口系甕	AF5-AG6	Ⅰb	(18.5) － (3.3)	1.1	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	ヨコナデ/ヨコナデ	－/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-4	－	93	
399	土師器	S字甕０類	AF5-AG6	Ⅰb	(21.0) － (5.0)	2.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-2	88と同一	93	
400	土師器	S字甕A類	AG6	Ⅰb	(16.4) － (4.6)	1.0	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 6/4 10YR 4/1	ヨコナデ、ハケ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-2	－	93	
401	土師器	S字甕A類	AF5	Ⅰb	(19.0) － (4.5)	1.5	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/3 2.5Y 7/3 2.5Y 3/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-2	－	93	
402	土師器	S字甕A類	AE5	Ⅰb	(20.0) － (1.8)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 4/1	ヨコナデ/ヨコナデ	－/押引刺突文	廻間Ⅰ-3	－	93	
403	土師器	S字甕B類	AE5	Ⅰb	(12.6) － (2.5)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-4	－	93	
404	土師器	台付甕	AF5-AG6	Ⅰb	－ (7.9) (5.1)	－	密（φ5mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 7/3 7.5YR 7/4	指ナデ/ナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ	－	93	
405	土師器	台付壺	AF5-AG6	Ⅰb	－ (10.8) (7.0)	－	密（φ9mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	5YR 6/6 7.5YR 6/4 10YR 5/1	ナデ、指オサエ/ナデ、ミガキ	－	時期不明	－	93	
406	土師器	受口系鉢	AF5-AG6	Ⅰb	(15.8) － (3.9)	1.7	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 8/2	ヨコナデ、ハケ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	－/刺突文	廻間Ⅰ-3	－	93	
407	土師器	鉢	AF5-AG6	Ⅰb	(18.0) － (7.3)	3.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/8 5YR 6/8 5YR 6/8	ヨコナデ、ハケ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-3	－	93	
408	土師器	有孔鉢	AI2	Ⅰb	－ (4.8) (2.3)	－	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 8/2	ナデ/ナデ	－	時期不明	焼成前穿孔	93	

表47　土器類観察表（24）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
409	土師器	有孔鉢	AF5-AG6	Ⅰb	－ (4.2) (5.3)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	－	廻間Ⅰ-0	焼成前穿孔	93	
410	須恵器	甕	AF5	Ⅰb	－ － (6.4)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/1 7.5YR 5/1 7.5YR 7/1	ナデ/タタキ	－	猿投 時期不明	－	93	
411	須恵器	坏蓋	AF5	Ⅰb	(18.0) － (2.8)	1.2	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	N7 N7 N7	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	－	美濃須衛Ⅳ期第1小期	－	93	
412	須恵器	坏身	AE5	Ⅰb	(11.8) 8.4 6.8	1.2	密（φ1.2mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/1 7.5YR 6/1 7.5YR 6/3	回転ナデ/回転ナデ	－	美濃須衛Ⅴ期第1小期	－	93	
413	灰釉陶器	皿	AE5	Ⅰb	－ 7.2 (1.9)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	－	猿投 折戸53	－	94	
414	灰釉陶器	皿	AF5	Ⅰb	－ 6.6 (2.1)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	N 7/1 N 7/1 N 7/1	回転ナデ/回転ナデ	－	猿投 折戸53	重ね焼痕	94	
415	灰釉陶器	小瓶	AI2	Ⅰb	－ 6.0 (4.0)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ	－	猿投 黒笹90	－	94	
416	灰釉陶器	耳皿	AF5	Ⅰb	(11.9) (5.6) (2.8)	3.1	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナデ	－	猿投 黒笹90	－	94	
417	山茶碗	碗	AH3	Ⅰb	－ (8.0) (1.3)	－	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ	－	尾張型 第5型式	籾殻痕	94	
418	大窯	擂鉢	AI2	Ⅰb	－ － (2.8)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	5YR 3/3 7.5YR 8/1 5YR 3/3	回転ナデ/回転ナデ	－	大窯第2段階前半	錆釉	94	
420	弥生土器	高坏	AC5	－	－ － (3.5)	－	密（φ0.5mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ	－/波状文	山中Ⅰ-2	内外面赤彩	95	
421	弥生土器	高坏	AB5	－	－ － (10.0)	－	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/3 10YR 7/4 10YR 7/4	ナデ、指ナデ/ナデ、ミガキ	－	山中Ⅱ-3	1穿孔3方向	95	27
422	土師器	有段高坏	AB5	－	(19.4) 12.9 15.9	2.0	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 8/3	ミガキ、板ナデ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-2～3	1穿孔3方向	95	27
423	土師器	有段高坏	AI7	－	－ (12.5) (14.0)	－	やや粗（φ4mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 7/4 10YR 8/2 10YR 8/2	ミガキ、ナデ、ハケ/ミガキ	－	廻間Ⅰ-4	2穿孔1組 2方向	95	27
424	土師器	有段高坏	AH7	－	(23.5) － (11.0)	1.3	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	－	廻間Ⅲ-1	1穿孔3方向	95	27
425	土師器	西濃型高坏	AF6	－	－ － (5.8)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英をわずかに含む）	良好	5YR 6/4 5YR 6/4 10YR 7/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3	－	95	
426	土師器	西濃型高坏	AB5	－	(24.8) － (9.4)	2.3	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 6/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ナデ、ミガキ/ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3	382と同一	95	
427	土師器	西濃型高坏	AG5	－	(26.0) － (4.7)	1.0	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	5YR 6/8 5YR 6/8 10YR 5/1	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅰ-3	－	95	
428	土師器	西濃型高坏	AI3	－	(26.0) － (7.3)	2.0	密（φ5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 6/6 7.5YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	多条沈線文/－	廻間Ⅱ-2	－	95	

表48　土器類観察表（25）

掲載番号	種別	器種	出土位置 遺構番号・グリッド等	出土位置 層位	大きさ(cm) 口径 底径 器高	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
429	土師器	有稜高坏	AC5	—	— — (5.3)	—	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 7/3 10YR 7/4 5Y 5/1	不明/不明	—	廻間Ⅰ-4	1穿孔3方向	95	
430	土師器	高坏	AC5	—	— — (6.2)	—	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 8/2	ナデ/ミガキ	—	廻間Ⅰ～Ⅲ	1穿孔	95	
431	土師器	高坏	AC5	—	— — (7.8)	—	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 5YR 6/6 7.5YR 6/6	指オサエ/不明	—/横線文	廻間Ⅰ-1	—	95	
432	土師器	高坏	AB5	—	— — (5.4)	—	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 7/6	絞り込み、ハケ/ミガキ	—/横線文	廻間Ⅰ-3	1穿孔3方向	95	
433	土師器	低脚高坏	AH7	—	— (6.8) (3.5)	—	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/4 7.5YR 6/4 7.5YR 5/1	ナデ、ハケ/ナデ、ミガキ	—	廻間Ⅰ-3	2穿孔1組2方向	95	
434	土師器	器台	AC5	—	— — (8.6)	—	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/4 10YR 7/4	指ナデ/ミガキ	—	廻間Ⅰ-1	1穿孔3方向	96	
435	土師器	器台	AB5	—	(16.4) — (8.0)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 6/4 7.5YR 5/6 10YR 6/4	ミガキ、指ナデ/ミガキ	—/横線文	廻間Ⅰ-3	—	96	
436	土師器	月影式装飾器台	AH7	—	— — (3.3)	—	密（φ1mm以下の長石、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/6 10YR 7/3 N 4/	指オサエ/指ナデ	—	廻間Ⅰ式併行	三角形・心葉形の透孔	96	28
437	土師器	く字甕	AH6	—	(18.2) — (2.4)	1.9	密（φ3mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	—/刺突文	廻間Ⅰ-1	—	96	
438	土師器	く字甕	AB5	—	(17.1) — (4.2)	1.0	密（φ1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/6 10YR 5/4 10YR 5/4	ハケ、ヨコナデ/ハケ、ヨコナデ	—	廻間Ⅰ-4	—	96	
439	土師器	く字甕	AB5	—	— — (13.1)	—	密（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/6	ナデ、輪積痕/ナデ	—	廻間Ⅱ	—	96	
440	土師器	受口系甕	AG2	—	(16.0) — (4.6)	1.3	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 7/3 10YR 7/3	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	—/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	—	96	
441	土師器	受口系甕	AI6	—	(20.0) — (2.6)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 10YR 5/2	ヨコナデ/ヨコナデ	沈線文/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-2	—	96	
442	土師器	受口系甕	AB5	—	(20.0) — (3.0)	1.0	密（φ2mm以下の長石をわずかに含む）	普通	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	—/刺突文、横線文	廻間Ⅰ-3	—	96	
443	土師器	受口系甕	AH6	—	(30.6) — (18.3)	1.7	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/4 10YR 3/1 10YR 6/4	ヨコナデ、ハケ、板ナデ、輪積痕/ヨコナデ、ハケ	—/刺突文	廻間Ⅱ-1	43・44と同一	96	28
444	土師器	S字甕A類	AC4	—	(14.0) — (3.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	2.5Y 7/3 2.5Y 7/3 2.5Y 4/1	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	—/押引刺突文	廻間Ⅱ-1	—	96	
445	土師器	S字甕B類	AI7	—	(12.0) — (2.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/2 10YR 6/4 2.5Y 3/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	—	廻間Ⅱ-4	—	96	
446	土師器	S字甕B類	AI7	—	(12.0) — (2.8)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 8/2 10YR 8/2 10YR 2/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	—	廻間Ⅱ-2	—	96	

表49　土器類観察表（26）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ（cm）	口縁部残存率（X/12）	胎土	焼成	色調（内面）（外面）（断面）	器面調整 内面/外面	文様 内面/外面（幅単位cm）	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
447	土師器	Ｓ字甕Ｂ類	AH6	－	(11.7) － (3.2)	1.5	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/3 7.5YR 6/3 7.5YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅱ-4	－	96	
448	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	AI7	－	(14.0) － (3.1)	1.7	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 5/3 10YR 6/4 N 3/	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	96	
449	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	AI7	－	(14.0) － (3.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/4 2.5Y 7/3 N 4/	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	－/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	96	
450	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	AI7	－	(17.6) － (2.0)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	10YR 7/2 7.5YR 4/2 10YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	沈線文/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	96	
451	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	AI7	－	(20.0) － (2.7)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/8 7.5YR 6/8 7.5YR 4/1	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	沈線文/－	廻間Ⅲ-1	－	96	
452	土師器	Ｓ字甕Ｃ類	AI7	－	(17.1) － (4.8)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/3 2.5Y 8/3 2.5Y 2/1	ヨコナデ、ハケ、指オサエ/ヨコナデ、ハケ	沈線文/沈線文	廻間Ⅲ-1	－	96	
453	土師器	月影式甕	AH6	－	－ － (3.4)	1.0	密（φ1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む）	普通	10YR 7/4 7.5YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－/擬凹線文	廻間Ⅰ式併行	－	97	
454	土師器	白江式甕	AD5	－	(29.8) － (8.2)	1.0	密（φ3mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	5YR 6/6 5YR 6/6 5YR 6/6	ヨコナデ、板ケズリ/ヨコナデ、ハケ	－/擬凹線文	廻間Ⅱ式併行	－	97	
455	弥生土器	台付甕	AD4	－	－ (8.5) (4.4)	－	密（φ2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 8/3 7.5YR 8/3 10YR 4/1	ナデ、ハケ/不明	－	山中Ⅰ-3	－	97	
456	弥生土器	台付甕	AD5	－	－ (9.6) (4.8)	－	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 5YR 6/3	ナデ/ナデ	－	山中Ⅰ-3	－	97	
457	土師器	甕	C区	－	－ 7.0 (4.9)	－	やや粗（φ5mm以下の長石、石英、雲母をわずかに含む）	普通	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 4/1	ナデ、板ナデ/ナデ	－	廻間Ⅰ	－	97	
458	土師器	甕	AB5	－	－ (7.4) (4.0)	－	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 7/4	指オサエ、ハケ/板ナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	97	
459	土師器	甕	AD5	－	－ (3.4) (2.7)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャートを多く含む）	良好	5YR 5/6 5YR 5/6 5YR 5/6	板ケズリ/ナデ	－	時期不明	－	97	
460	土師器	甕	AC5	－	－ (4.4) (3.5)	－	やや粗（φ1mm以下の長石、チャートを多く含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 7/4	指ナデ/ナデ	－	時期不明	－	97	
461	弥生土器	パレス壺	AC5	－	－ － (1.8)	－	密（φ1mm以下のチャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 8/4 10YR 8/4 10YR 8/4	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/擬凹線文	山中Ⅰ-3	口縁部内面赤彩	97	
462	土師器	広口壺	AB5	－	(14.8) － (4.6)	1.8	密（φ5mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 6/4 10YR 4/1 7.5YR 6/4	ヨコナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	－	廻間Ⅰ-2	－	97	
463	土師器	広口壺	AG2	－	(17.8) － (5.0)	4.5	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	5YR 7/8 5YR 6/8 7.5YR 7/3	不明/不明	－	廻間Ⅰ-3	－	97	
464	土師器	広口壺	AI7	－	(12.6) － (5.5)	2.5	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	－	廻間Ⅰ-3	－	97	28

表50　土器類観察表（27）

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部残存率(X/12)	胎土	焼成	色調(内面)(外面)(断面)	器面調整内面/外面	文様内面/外面(幅単位cm)	分類・時期	その他	挿図	図版
			遺構番号・グリッド等	層位	口径 底径 器高										
465	土師器	加飾壺	AJ7	—	(15.3) — (6.5)	3.0	密（φ5mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 7/4	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、指オサエ、ハケ	羽状文/横線文	廻間Ⅰ-3	466と同一	97	
466	土師器	加飾壺	AJ7	—	(15.3) — (6.3)	2.9	密（φ5mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 7/4	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ、指オサエ、ハケ	羽状文/横線文	廻間Ⅰ-3	465と同一	97	
467	土師器	加飾壺	AK7	—	(19.8) — (2.7)	1.0	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 7/6 7.5YR 7/4 7.5YR 7/4	ヨコナデ/ヨコナデ	羽状文/羽状文	廻間Ⅰ-3	—	97	
468	土師器	加飾壺	AJ7	—	(22.0) — (3.5)	1.2	密（φ4mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 10YR 8/3	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	沈線文、羽状文/羽状文	廻間Ⅰ-3	—	97	
469	土師器	内湾壺	AI7	—	9.1 4.0 15.8	8.1	密（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	7.5YR 5/4 7.5YR 6/6 7.5YR 4/1	ヨコナデ、ミガキ、指オサエ、板ナデ/ヨコナデ、ミガキ	—	廻間Ⅰ-2	—	97	28
470	土師器	壺	AB6	—	— 3.4 (4.8)	—	密（φ7mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 7/6 7.5YR 7/7	板ナデ/不明	—	時期不明	—	97	
471	土師器	壺	AB5	—	— (5.3) (2.2)	—	密（φ2mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む）	普通	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 4/1	ナデ、ハケ/ナデ	—	時期不明	—	97	
472	土師器	壺	AC5	—	— — (3.4)	1.0	やや粗（φ2mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	10YR 8/4 10YR 7/4 10YR 8/2	ヨコナデ/ヨコナデ	—/擬凹線文	廻間Ⅰ～Ⅱ	口縁部内面赤彩	97	
473	土師器	有孔鉢	AE5	—	— (3.0) (4.0)	—	密（φ6mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 7/6 7.5YR 6/4 10YR 4/1	ナデ、指オサエ/ハケ、ナデ、指オサエ	—	廻間Ⅰ-4	焼成前穿孔	98	
474	土師器	鉢	AB5	—	(11.1) 4.2 5.0	1.0	やや粗（φ3mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	普通	7.5YR 5/6 7.5YR 6/4 7.5YR 7/6	ヨコナデ、指オサエ/ヨコナデ	—	廻間Ⅱ-2	—	98	
475	土師器	ミニチュア鉢	AC5	—	(5.3) (3.4) 2.6	2.1	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	10YR 7/3 10YR 5/1 10YR 8/2	ナデ/ナデ、指オサエ	—	時期不明	—	98	
476	弥生土器	不明	AD5	—	(17.4) — (4.8)	1.0	やや粗（φ1mm以下の長石、石英、チャート、雲母をわずかに含む）	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 10YR 5/2	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ	—/沈線文	時期不明	—	98	28
477	須恵器	長頸瓶	—	—	— — (6.5)	—	密（φ1mm以下の長石、チャートをわずかに含む）	良好	2.5Y 4/2 2.5Y 3/3 2.5Y 6/2	回転ナデ/回転ナデ	—	美濃須衛Ⅳ期第3小期	—	98	
478	灰釉陶器	碗	AI2	—	— (9.4) (3.1)	—	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナデ/回転ナデ	—	猿投 黒笹90	—	98	
479	灰釉陶器	皿	—	—	— 7.1 (2.0)	—	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナデ	—	猿投 折戸53	—	98	
480	山茶碗	碗	AI2	Ⅰb	— 8.4 (2.8)	—	密（φ1mm以下の長石をわずかに含む）	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナデ/回転ナデ	—	尾張型 第4型式	籾殻痕	98	

表51　石器・石製品観察表

掲載番号	器種	出土位置		石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	挿図	図版
		遺構番号･グリッド等	層位		長さ	幅	厚さ				
7	砥石	SI2	1	砂石	(17.0)	23.6	5.0	3241.1	荒砥、敲打痕あり	12	
92	砥石	SD4	1	凝灰岩	8.0	2.8	2.4	57.8	仕上げ砥	48	28
381	砥石	BA5	Ⅲ	砂石	14.7	6.8	3.4	553.5	仕上げ砥	91	
419	五輪塔	AJ2	－	花崗岩	27.0	29.5	31.0	13000.0	水輪	94	28
481	砥石	AJ7	－	砂石	(17.6)	(13.8)	4.4	1454.8	荒砥、敲打痕あり	98	28
482	磨製石斧	AH6	－	砂石	(3.7)	(3.3)	0.8	18.4	上端部欠損、短冊形	98	28
483	ＲＦ	AJ7	－	チャート	2.4	2.4	0.5	3.6	－	98	

表52　金属製品観察表

掲載番号	器種	出土位置		材質	大きさ(cm)			重量(g)	備考	挿図	図版
		遺構番号･グリッド等	層位		長さ	幅	厚さ				
119	鉄鏃	SD6	d	鉄	(4.2)	(1.3)	0.5	4.0	－	54	28
380	刀子	BA5	Ⅲ	鉄	(2.8)	1.3	0.2	3.0	－	91	28

第４章　自然科学分析

第１節　炭化材の樹種同定及び放射性炭素年代測定

１　実施の経緯

Ｄ区で検出した竪穴建物(SI13)の床面直上からは、ほぼ完形の器台(76)と受口系甕(77)が出土している。このうち受口系甕に接して直径約３cmの塊状の炭化材(取上番号2189)が出土した。炭化材元来の形状は確認できなかったが、出土状況から建物廃絶時に土器を並べ、その傍らで木を燃やした祭祀が行われた可能性が考えられる。樹種の特定と土器型式から比定される年代との比較検討を目的として、炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した。

２　結果の概要と考察

樹種同定の結果、SI13出土炭化材はカエデ属であった。カエデ属は比較的堅硬な樹種で建築材にも用いられている。炭化材の形状からは建築部材と特定できないが、建築部材を燃やした可能性もある。また、放射性炭素年代測定の結果、暦年代は２世紀前半～４世紀前半の値を示した。炭化材と共伴して出土した76及び77は、廻間Ⅱ式１段階（３世紀中葉）と考えられる。このことから測定結果は土器型式から推測される暦年代と整合する。

３　炭化材樹種同定

（１）はじめに

SI13の床面直上から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている。分析は小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

（２）試料と方法

試料は、SI13から出土した炭化材１点（試料No.1）である。SI13は、伴出した土師器（受口状口縁甕、器台）の型式（いずれも廻間Ⅰ式４段階）から弥生時代末～古墳時代初頭の遺構と考えられている。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）にて検鏡及び写真撮影を行なった。

（３）結果

同定の結果、試料は広葉樹のカエデ属であった。同定結果を表53に示す。

表53　竪穴建物(SI13)出土炭化材の樹種同定結果

試料No.	遺構番号	層位	取上番号	種類	樹種	時期	年代測定番号
1	SI13	c	2189	炭化材	カエデ属	弥生時代末～古墳時代初頭	PLD-45220

以下に、同定された材の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真（写真１）を示す。

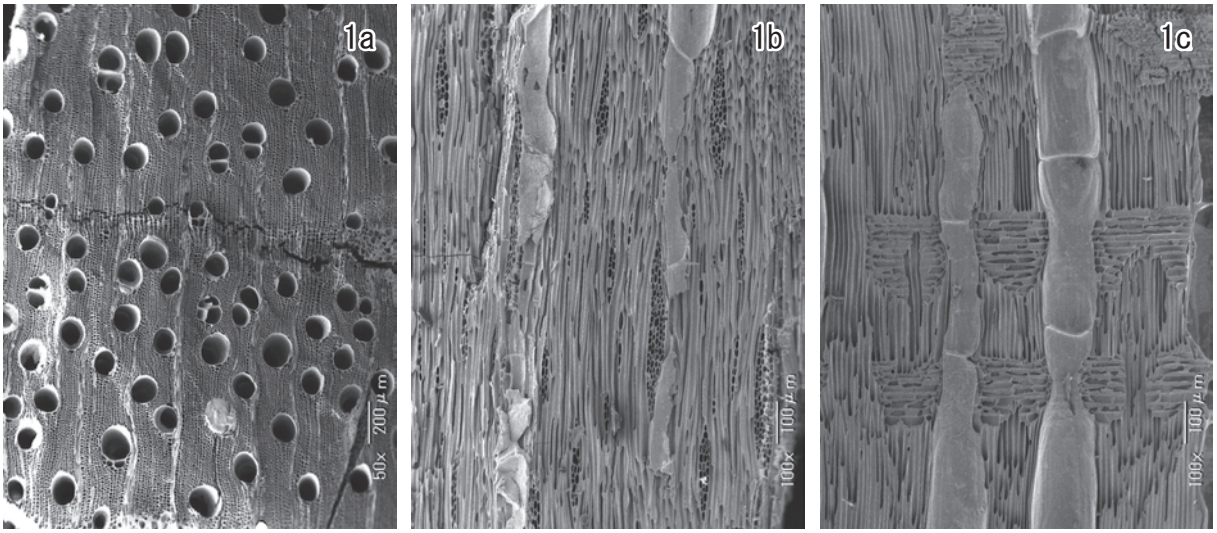


写真１　SI13 出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真
1a-1c：カエデ属（No.1）、a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

①カエデ属　*Acer*　ムクロジ科　写真１　1a-1c(No.1)

小型の道管が単独ないし２～３個複合してやや疎らに散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで、木口面に雲紋状の文様がみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅１～６列となる。

カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

（４）考察

SI13の炭化材（試料No.1）は、カエデ属であった。カエデ属は比較的堅硬な樹種である（伊東ほか2011）。

岐阜県内で確認されている古墳時代の建築材では、モミ属やヒノキなどの針葉樹、クリやコナラ属アカガシ亜属などの多様な広葉樹がみられ、カエデ属も確認されている（伊東・山田編2012）。

参考文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂2011『日本有用樹木誌』、海青社
伊東隆夫・山田昌久編2012『木の考古学―出土木製品用材データベース―』、海青社

４　放射性炭素年代測定

（１）はじめに

SI13から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定も行われている。分析はパレオ・ラボAMS年代測定グループ（伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・小林克也）（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

（２）試料と方法

試料は、SI13から出土した炭化材１点（試料No.1:PLD-45220）である。樹種同定の結果、試料No.1

はカエデ属で、最終形成年輪は残っていなかった。SI13は出土した土器の型式から、弥生時代末～古墳時代初頭の遺構と考えられている。測定試料の情報、調製データは表54のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製　1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表54　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-45220	試料No.1 遺構：SI13 層位：C 遺物No.2189-1	種類：炭化材（カエデ属） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L,塩酸：1.2 mol/L）

（３）結果

表55に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、図112に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表55　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-45220 試料No.1 S258	-27.59±0.22	1827±19	1825±20	210-242 cal AD (68.27%)	131-143 cal AD (2.35%) 156-193 cal AD (8.97%) 195-251 cal AD (78.50%) 294-313 cal AD (5.63%)

（４）考察

SI13の試料No.1（PLD-45220）は、2σ暦年代範囲（確率95.45％）で131-143 cal AD (2.35%)、

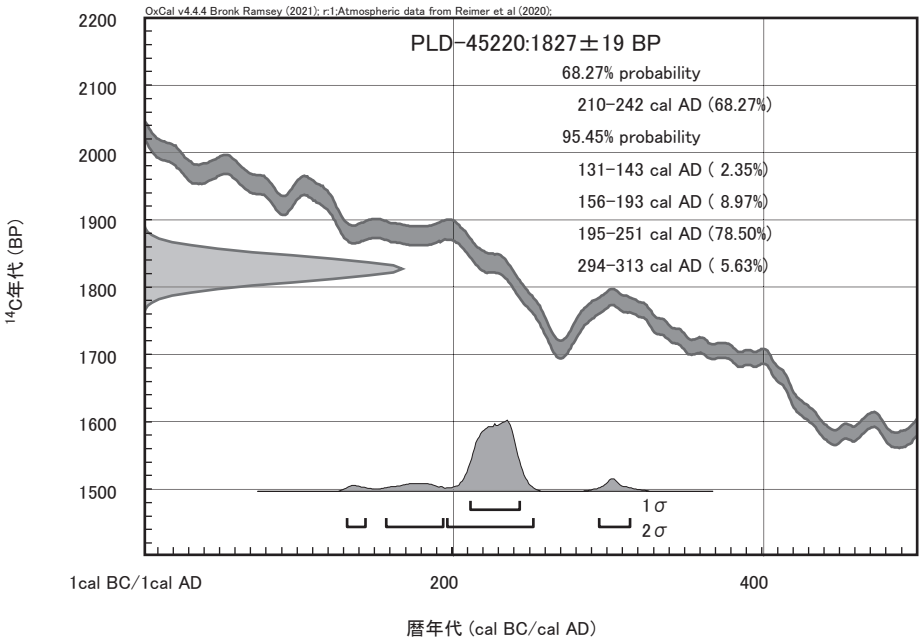


図 112　暦年較正結果

156-193 cal AD (8.97%)、195-251 cal AD (78.50%)、294-313 cal AD (5.63%)で、２世紀前半～４世紀前半の暦年代を示した。これは、藤尾2013を参照すると、弥生時代後期後半～古墳時代前期に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死若しくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、実際に枯死若しくは伐採された年代は、測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

SI13は古墳時代初頭（３世紀中葉）の遺構と考えられており、今回の測定結果は整合的である。

参考文献

Bronk Ramsey, C.2009「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」『Radiocarbon』51(1)

藤尾慎一郎2013『弥生文化像の新構築』、吉川弘文館

中村俊夫2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の^{14}C年代』、日本第四紀学会

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S.2020「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62(4)、doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第５章　総括

第１節　遺構について

１　遺構の変遷

時期を比定できた遺構をもとに、当遺跡において遺構埋土及び遺物包含層（Ⅲ層）で確認されている山中Ⅰ式１段階～廻間Ⅲ式１段階を基準にⅠ期～Ⅲ期に分け、重複関係等から複数の時期のいずれかの可能性がある遺構も含めて、遺構の変遷について述べる（図113、114）。

Ⅰ期（山中Ⅰ式１段階～廻間Ⅰ式２段階）

山中Ⅰ式１段階から廻間Ⅰ式２段階をⅠ期とした。当該期に限定できる遺構は、SI10、SB１、SB２、SA１、SK30、SK69（以上Ａ区）、SI５、SK31、SK37（以上Ｂ区）、SI11、SU３（以上Ｃ区）である。また、当該期に含まれる可能性がある遺構はSI１、SI３、SK51、SK65（以上Ａ区）、SI４（Ｂ区）、SB３、SA４～SA６、SU４（以上Ｄ区）である。

このうち、４棟の竪穴建物（SI７～SI10）と２棟の掘立柱建物（SB１、SB２）、２列の柵（SA１、SA２）が重複するＡ区南側においては、掘立柱建物と柵が竪穴建物（SI10）に先行する。SB２、SA１、SA２は同一地点で建て替えられている。SB１、SB２、SA１、SA２はⅠ期初頭の廻間Ⅰ式１段階まで遡る可能性がある。

Ⅱ期（廻間Ⅰ式３段階～廻間Ⅱ式１段階）

廻間Ⅰ式３段階から廻間Ⅱ式１段階をⅡ期とした。当該期の遺構はSI６、SI８、SI９、SD２、SD３、SD５～SD７、SK49、SK50、SK196、SU１（以上Ａ区）、SK52、SU２（以上Ｂ区）、SK177（Ｃ区）、SI12、SI13、SK140（以上Ｄ区）である。また、当該期に含まれる可能性がある遺構はSI１、SI３、SK51、SK65（以上Ａ区）、SI４（Ｂ区）、SB３、SA４～SA６、SU４（以上Ｄ区）である。

当該期が今回の発掘区における最盛期といえる。このうち、Ａ区南側のSI８、SI９はⅠ期のSI10と重複する。Ⅰ期に引き続き非常に狭い範囲で竪穴建物が繰り返し建て替えられた状況が確認できる。この掘立柱建物、柵、竪穴建物が集中する範囲の北側に近接する溝（SD６、SD７）からは大量の土師器が一括廃棄された状況が確認できた。SD６、SD７を中心とする狭い範囲に同時期の遺構が集中しており（SI６、SD５～SD７、SU１、SK50）、相互に関連する遺構と推測できる。

Ⅲ期（廻間Ⅱ式２段階～廻間Ⅲ式１段階）

廻間Ⅱ式２段階から廻間Ⅲ式１段階をⅢ期とした。当該期の遺構はSI７、SK92（以上Ａ区）である。また、当該期に含まれる可能性がある遺構はSI４（Ｂ区）である。

最盛期のⅡ期末（廻間Ⅱ式１段階）を境に、当該期前半（廻間Ⅱ式２段階～廻間Ⅱ式３段階）は当該期に含まれる可能性があるSI４のみで、この時期に比定できる遺構は確認できなかった。当該期後半（廻間Ⅱ式４段階～廻間Ⅲ式１段階）に比定できるのはSI７とSK92である。SI７はⅠ期及びⅡ期で遺構が重複して集中するＡ区南側で、最も新しい遺構である。また、SK92は大量の土師器が一括廃棄されている。廻間Ⅲ式１段階以降に比定される遺構は確認していないが、このことは遺物包含層（Ⅲ

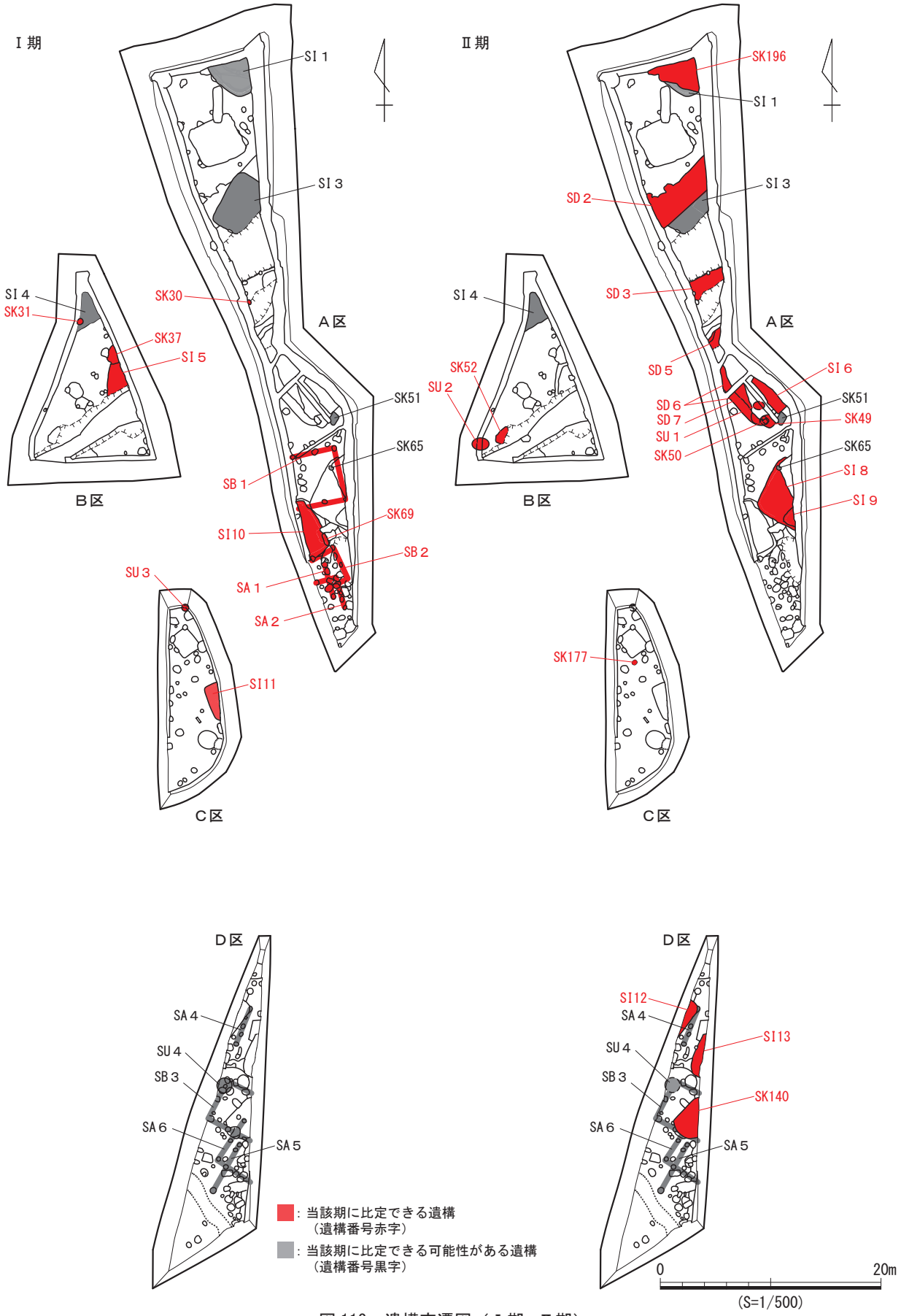


図 113　遺構変遷図（Ⅰ期・Ⅱ期）

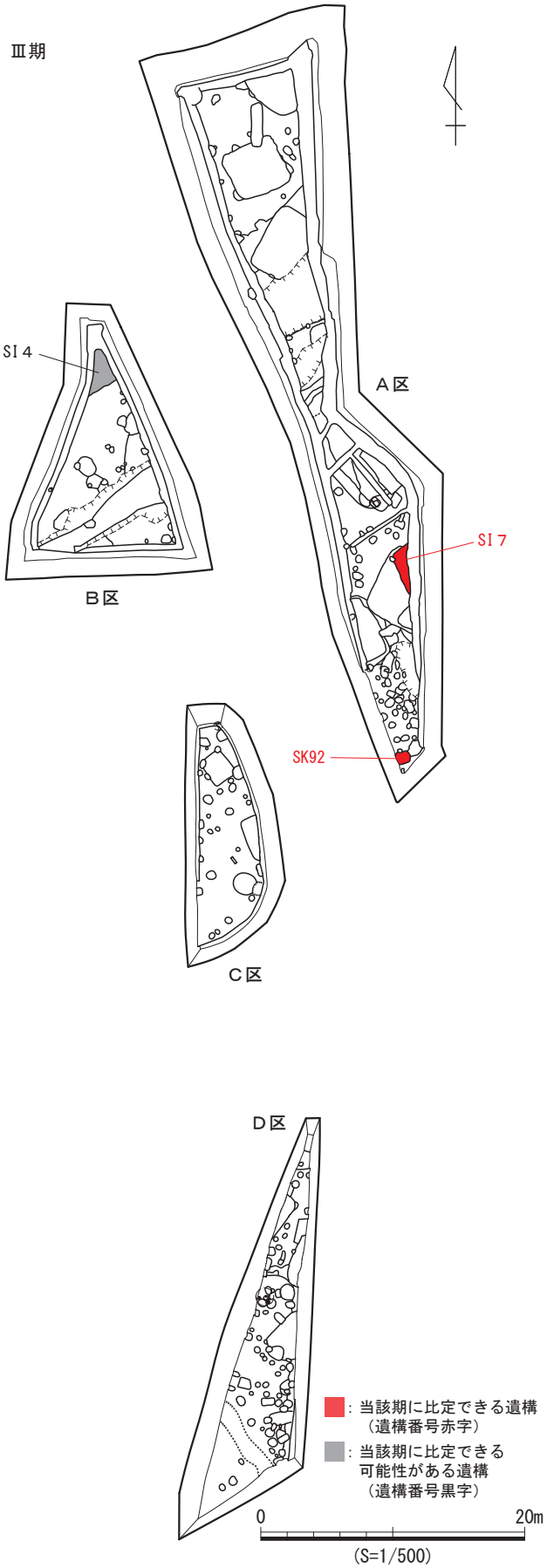


図 114　遺構変遷図（Ⅲ期）

層）の遺物の様相と整合する。

２　遺構種別ごとの様相

竪穴建物　時期を比定できた建物はⅠ期（SI５、SI10、SI11）、Ⅱ期（SI６、SI８、SI９、SI12、SI13）、Ⅲ期（SI７）と各時期に継続して確認できる。このうち、Ａ区南側は４棟の竪穴建物が集中し、重複関係からSI10→SI８→SI９→SI７の順に建て替えられたことがわかる。今回確認した竪穴建物は共通する技法により構築される。いずれの建物も掘方底面に整地土を敷き詰める。整地土は基盤層土と同様の礫を大量に含む。そして礫を取り除いた精製した貼床を整備することなく、礫を大量に含んだ整地土の上面をそのまま床面としている。また、いずれの建物でも炉を確認することはできなかった。SI２を除く建物は、発掘区外に続くため一部のみの確認にとどまり、炉の有無について断定できないが、今回の唯一建物全体を確認したSI２では、炉が確認できず、時期を特定できる遺物も出土しなかった。礫が顔を出す床面は、居住には不向きであり、現代人の感覚では、とても住めたものではない。この点と炉を持たない竪穴建物が少なくとも１棟存在していることを併せると、当遺跡の竪穴建物は居住施設ではなく、倉庫のような施設が想定できる。

掘立柱建物・柵　時期を比定できた建物はいずれもⅠ期（SB１、SB２、SA１、SA２）であり、前述のとおり竪穴建物（SI10）に先行する。掘立柱建物と柵に直接の重複関係はないが、SB１、SA１、SA２は同一方向であるが、Ｄ区の掘立柱建物、柵とは方向が異なる。このうち、遺構の範囲が重複

するSA１とSA２は連続して建て替えられ、同一方向のSB１と同時期に存在した可能性が高い。なお、SA２は柵として報告しているが、Ｌ字形の平面形状で発掘区外に続くため、掘立柱建物の可能性がある。また、SB２、SA１、SA２の遺構の範囲は重複するため、これらは同時に存在したわけではなく、建て替えを繰り返したものと考えられる。SI10に先行して３基の遺構が先後関係をもって順番に建て替えられることから、竪穴建物が構築される以前に掘立柱建物が展開し、掘立柱建物から竪穴建物に移行したと考えられる。Ｄ区における掘立柱建物（SB３）、柵（SA４～SA６）はいずれも同一方向であるが、Ａ区の掘立柱建物、柵とは方向が異なる。このうち、遺構の範囲が重複するSB３、SA５、SA６は連続して建て替えられ、同一方向のSA４と同時期に存在した可能性が高い。なお、SA６は柵として報告しているが、Ｌ字形の平面形状で発掘区外に続くため、掘立柱建物の可能性がある。Ａ区において掘立柱建物、柵が竪穴建物に先行する状況から、Ｄ区の掘立柱建物、柵は時期の特定には至っていないが、竪穴建物に先行して掘立柱建物等が展開したと仮定すると、Ⅰ期まで遡る可能性がある。

現在の道路（以下、現道という。）がＡ区とＢ区及びＣ区の間、Ｃ区とＤ区の間を南北に通る（p２、図２）。この現道がⅠ期、Ⅱ期まで遡る明確な根拠はないが、Ａ区とＤ区で異なる掘立柱建物、柵の方向はそれぞれ現道に面しているとみることも可能であり、現道と同位置に道路状遺構があり、建物が道路に面した方向に建てられていた可能性を指摘しておく。

溝　時期を比定できた溝はⅡ期（SD２、SD３、SD５～SD７）である。いずれの溝もⅡ期の中でも廻間Ⅱ式１段階に比定され、流水の形跡はない。SD６、SD７の遺物出土状況については前段で述べたとおりであるが、遺物が集中して出土したわけではないSD２、SD３、SD５についても流水の痕跡が確認できない。このうち、SD５からは墨書土器（器台）が出土しており、何らかの祭祀行為に伴う遺物と考えられる。SD２、SD３は流水の痕跡が確認できなかったことから、区画溝であった可能性がある。

土坑　時期を比定できた土坑はⅠ期（SK30、SK31、SK37、SK69）、Ⅱ期（SK49、SK50、SK52、SK140、SK177、SK196）、Ⅲ期（SK92）である。このうち、SK196は土坑として報告しているが、発掘区外に続くため全容は明らかではない。遺物の出土状況がSD６、SD７と類似しており、時期も同時期であることから、SK196も大量の土師器を廃棄した溝であった可能性がある。

遺物集積　時期の特定できた遺物集積はⅠ期（SU３）、Ⅱ期（SU１、SU２）である。このうちSU１もSD６、SD７と同様の遺物出土状況で、SD６、SD７と近接することから一体の祭祀行為による可能性がある。また、SU２はSD６、SD７、SU２とは離れている（Ｂ区）が、遺物の出土状況はSU１と類似しており、同様の祭祀行為に伴う可能性がある。SU３、SU４は散在している状況で、遺物包含層（Ⅲ層）中で確認しており、出土遺物の時期にも幅があるため、SU１、SU２とは様相が異なる。

第２節　遺物について

１　遺物の変遷

当遺跡で主に出土した弥生土器と土師器について、前節において設定したⅠ期～Ⅲ期の時期区分にしたがい、その変遷について述べる（図115～121）。

Ⅰ期BnH8aZXえ

Ⅰ期のうち前半（山中Ⅰ式１段階から山中Ⅱ式３段階）に比定できる弥生土器は受口系甕、パレス壺、有段高坏、ワイングラス形高坏(235)、この他に脚部のみ出土したく字甕若しくは受口系甕と考えられる台付甕である。Ⅰ期の弥生土器は、山中式期に明確に比定できる遺構が検出できなかったため、いずれも遺構埋土からの出土ではなく、遺物包含層（Ⅲ層）や竪穴建物構築時に充填された整地土からの出土である。受口系甕は山中Ⅰ式、台付甕は山中Ⅱ式第３段階、パレス壺は山中Ⅰ式３段階、有段高坏は山中Ⅰ式２段階及び山中Ⅱ式３段階、ワイングラス形高坏は山中Ⅱ式３段階が確認できる。

Ⅰ期のうち後半（廻間Ⅰ式０段階から２段階）に比定できる土師器はく字甕、受口系甕、Ｓ字甕０類、Ｓ字甕Ａ類、広口壺、袋状口縁壺、パレス壺、内湾壺、受口系鉢、鉢、月影式鉢（北陸系）、有孔鉢、有段高坏、器台である。

このうち、く字甕、受口系甕、受口系鉢は廻間Ⅰ式０段階から３段階まで連続して確認できる。Ｓ字甕０類、Ｓ字甕Ａ類は廻間Ⅰ式２段階に確認でき、Ｓ字甕Ａ類はⅡ期に続く。広口壺は廻間Ⅰ式１段階及び２段階に確認できる。パレス壺、内湾壺は廻間Ⅰ式０段階、１段階では確認できないが、廻間Ⅰ式２段階から確認でき、Ⅱ期に続く。受口系甕は廻間Ⅰ式０段階から２段階に連続して確認できる。鉢及び月影式鉢（北陸系）は廻間Ⅰ式２段階、有孔鉢は廻間Ⅰ式０段階で確認できる。有段高坏は、Ⅰ期から連続して廻間Ⅰ式０段階及び１段階、器台は廻間Ⅰ式０段階から２段階まで連続して確認できる。

Ⅰ期前半においては、有段高坏は山中Ⅰ式１段階を除くⅠ期前半を通して確認できるが、それ以外の器種は時期が限定され、断片的な出土であるが、Ⅰ期後半になると確認できる器種も増加する。なお、有段高坏はⅠ期末（廻間Ⅰ式２段階）には確認できない。

Ⅱ期

Ⅱ期に比定できる土師器は、く字甕、受口系甕、Ｓ字甕Ａ類、広口壺、加飾壺、パレス壺、内湾壺、受口系鉢、鉢、有孔鉢、有段高坏、西濃型高坏、有稜高坏、椀形高坏、低脚高坏、白江式高坏（北陸系）、器台である。

このうち、く字甕、受口系甕、Ｓ字甕、広口壺、受口系鉢、有段高坏、西濃型高坏、器台は廻間Ⅰ式３段階から廻間Ⅱ式１段階まで連続して確認できる。加飾壺、受口系鉢、椀形高坏は廻間Ⅰ式３段階と廻間Ⅱ式１段階、パレス壺、内湾壺、有稜高坏、低脚高坏は廻間Ⅰ式３段階と４段階、鉢、白江式高坏は廻間Ⅰ式４段階、有孔鉢は廻間Ⅰ式４段階と廻間Ⅱ式１段階に確認できる。

Ⅱ期全体を通して、各器種が確認できるが、なかでもⅡ期後葉（廻間Ⅱ式１段階）に遺構と同様に遺物も最盛期を迎える。SD６やSD７から集中して出土した土師器は実測図上で全体形を確認できる資料が多い。

また、時期の特定には至らなかったが、Ⅰ期若しくはⅡ期に比定できる土師器は、月影式甕（北陸

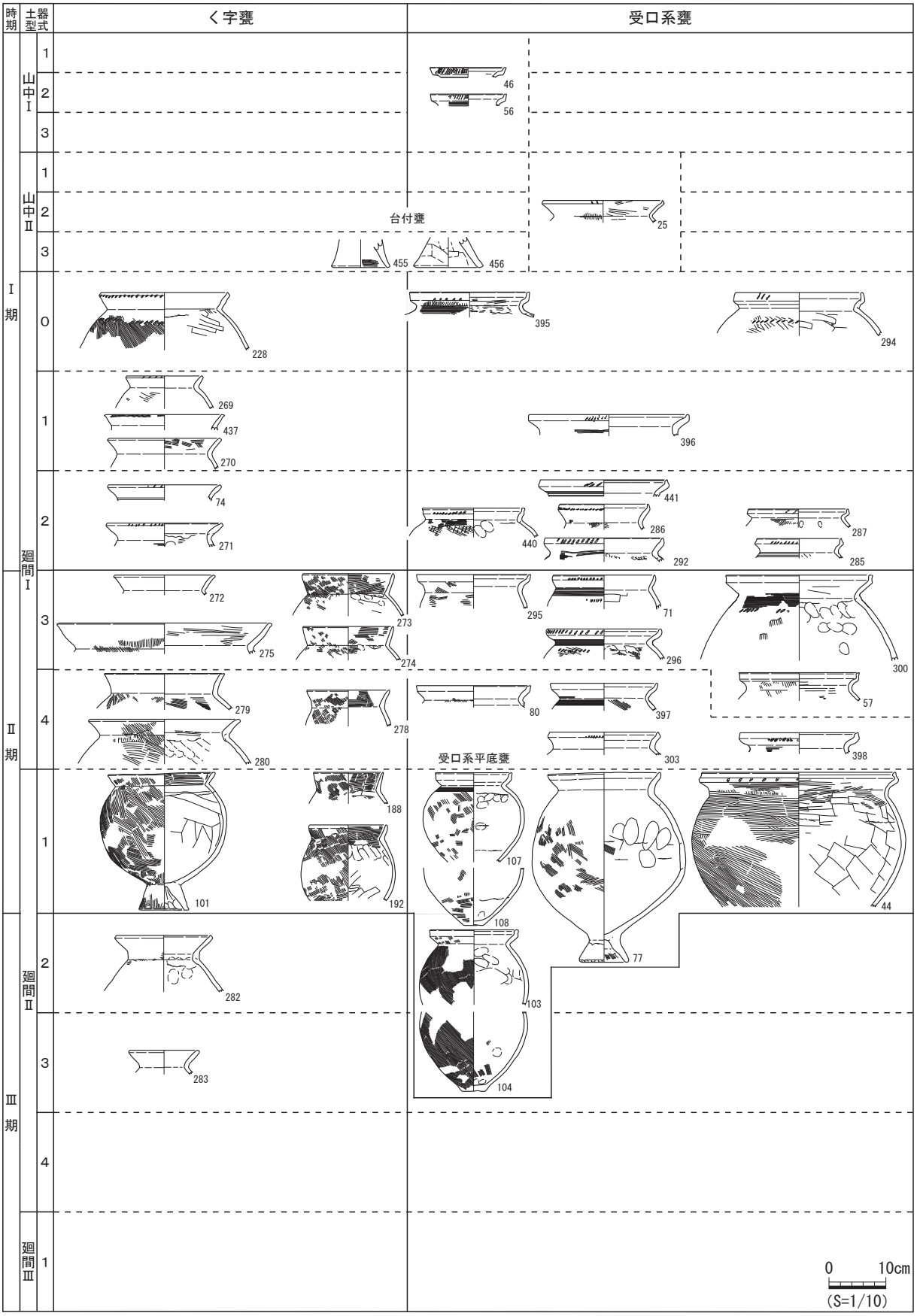


図 115　弥生土器・土師器の変遷（く字甕、受口系甕）

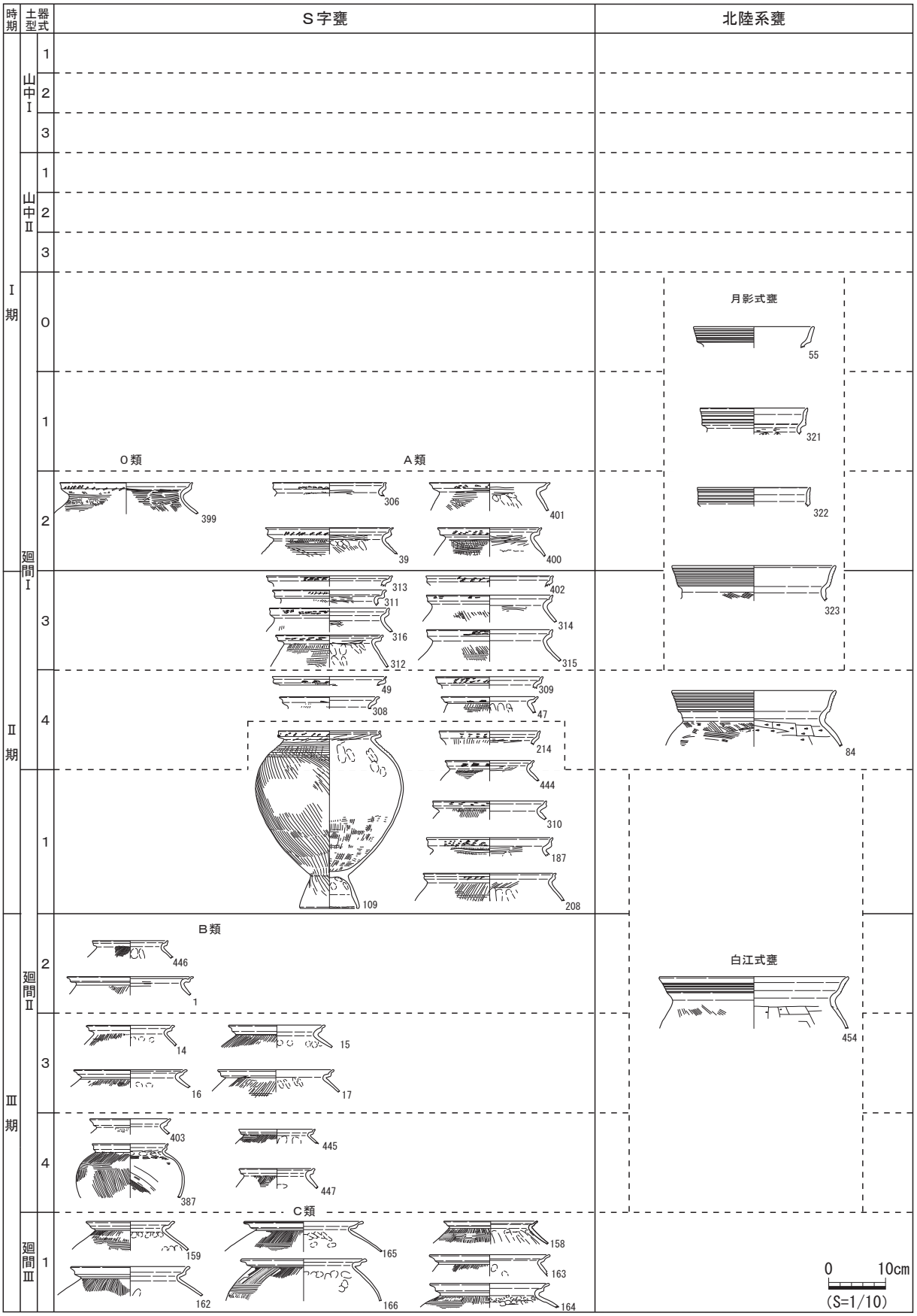


図 116　弥生土器・土師器の変遷（Ｓ字甕、北陸系甕）

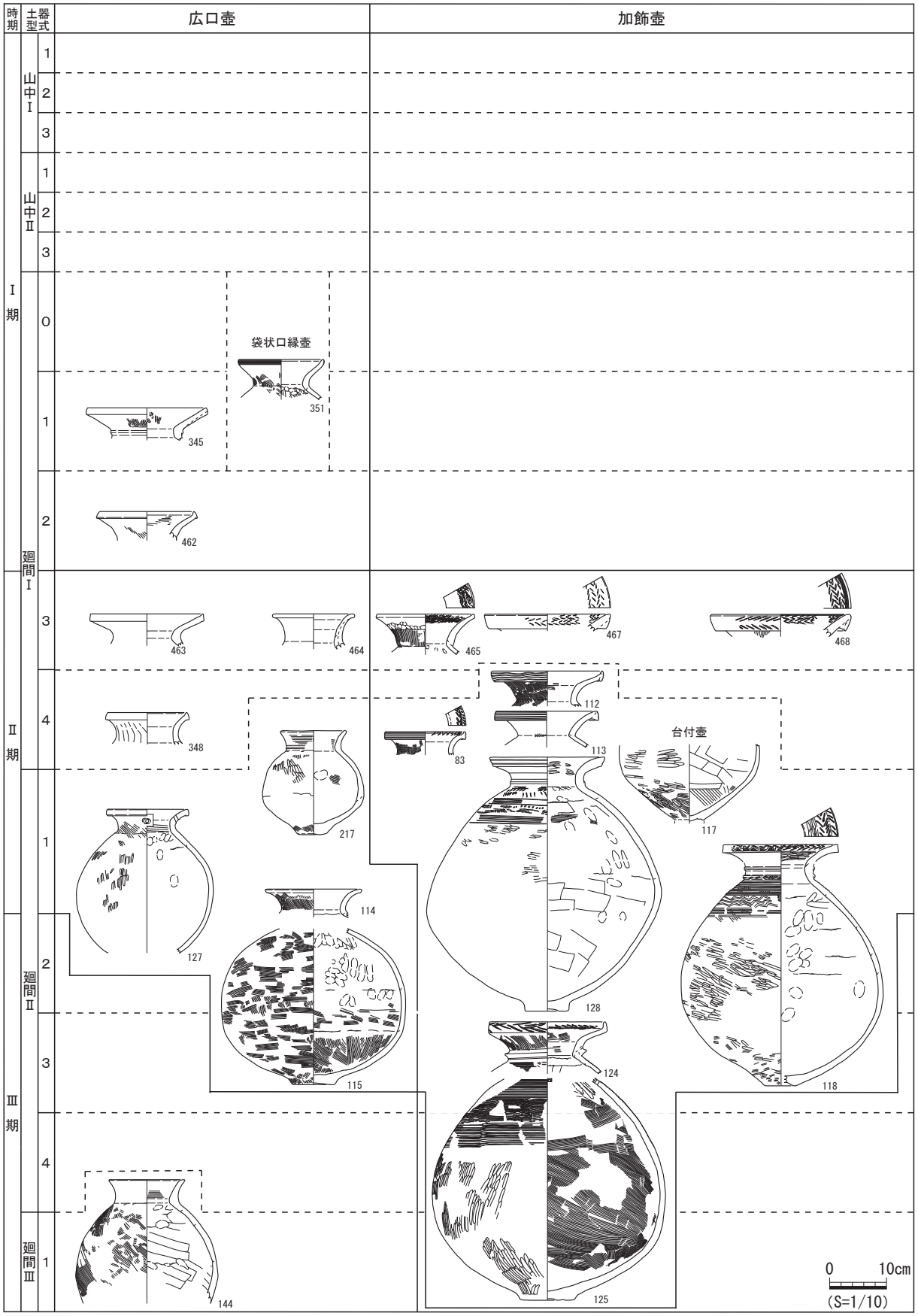


図 117　弥生土器・土師器の変遷（広口壺、袋状口縁壺、加飾壺、台付壺）

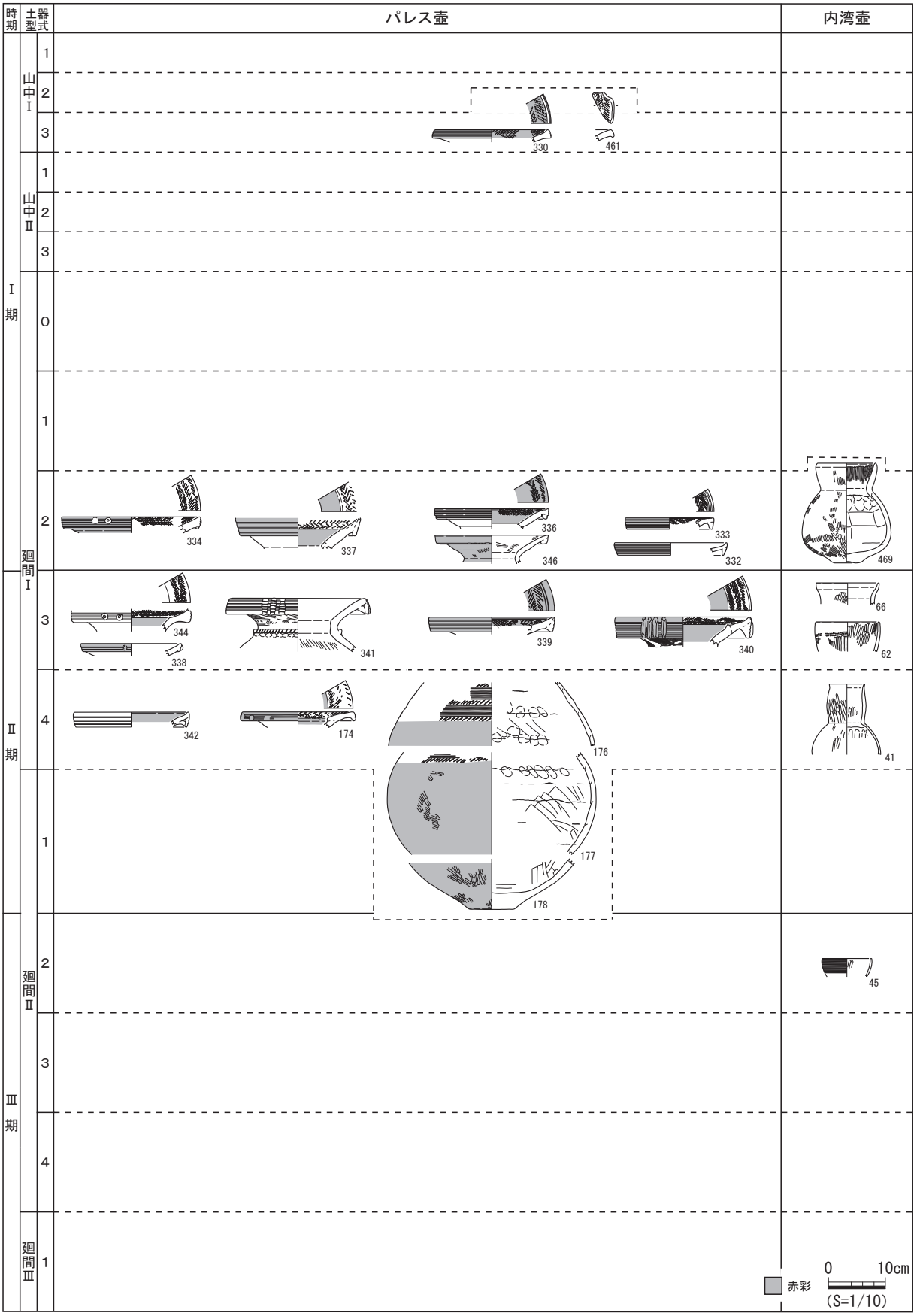


図 118　弥生土器・土師器の変遷（パレス壺、内湾壺）

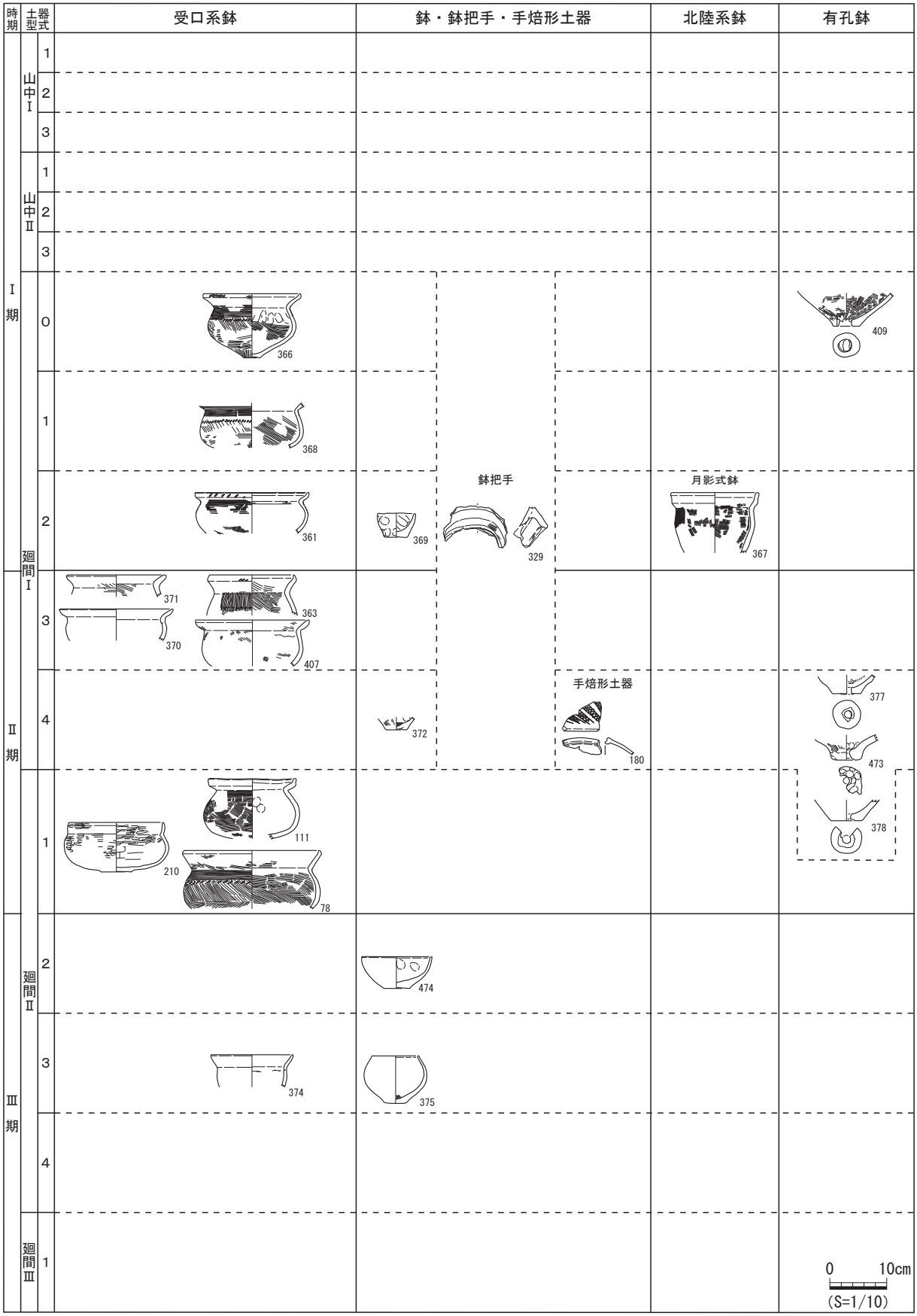


図 119　弥生土器・土師器の変遷（受口系鉢、鉢・鉢把手・手焙形土器、北陸系鉢、有孔鉢）

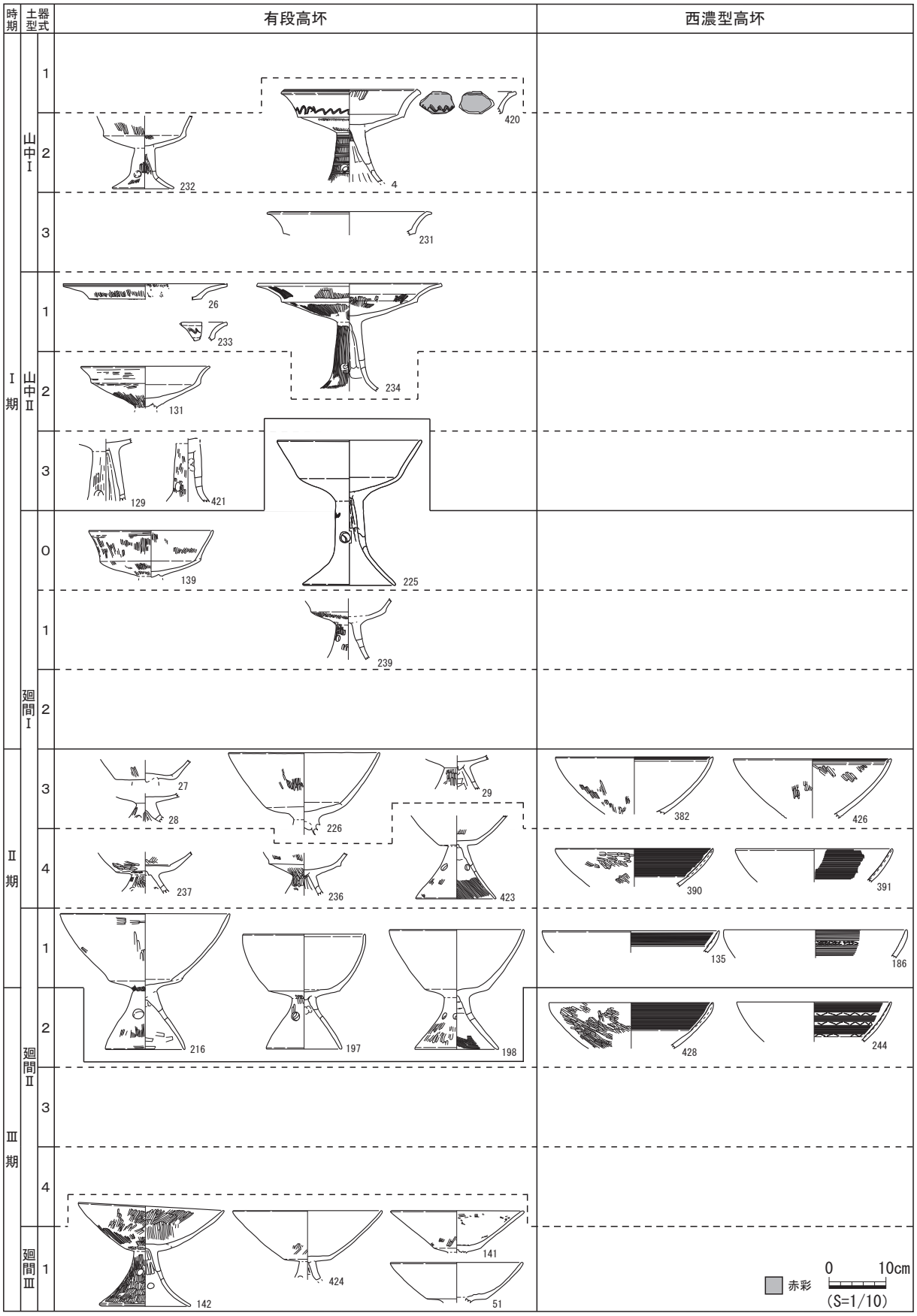


図 120　弥生土器・土師器の変遷（有段高坏、西濃型高坏）

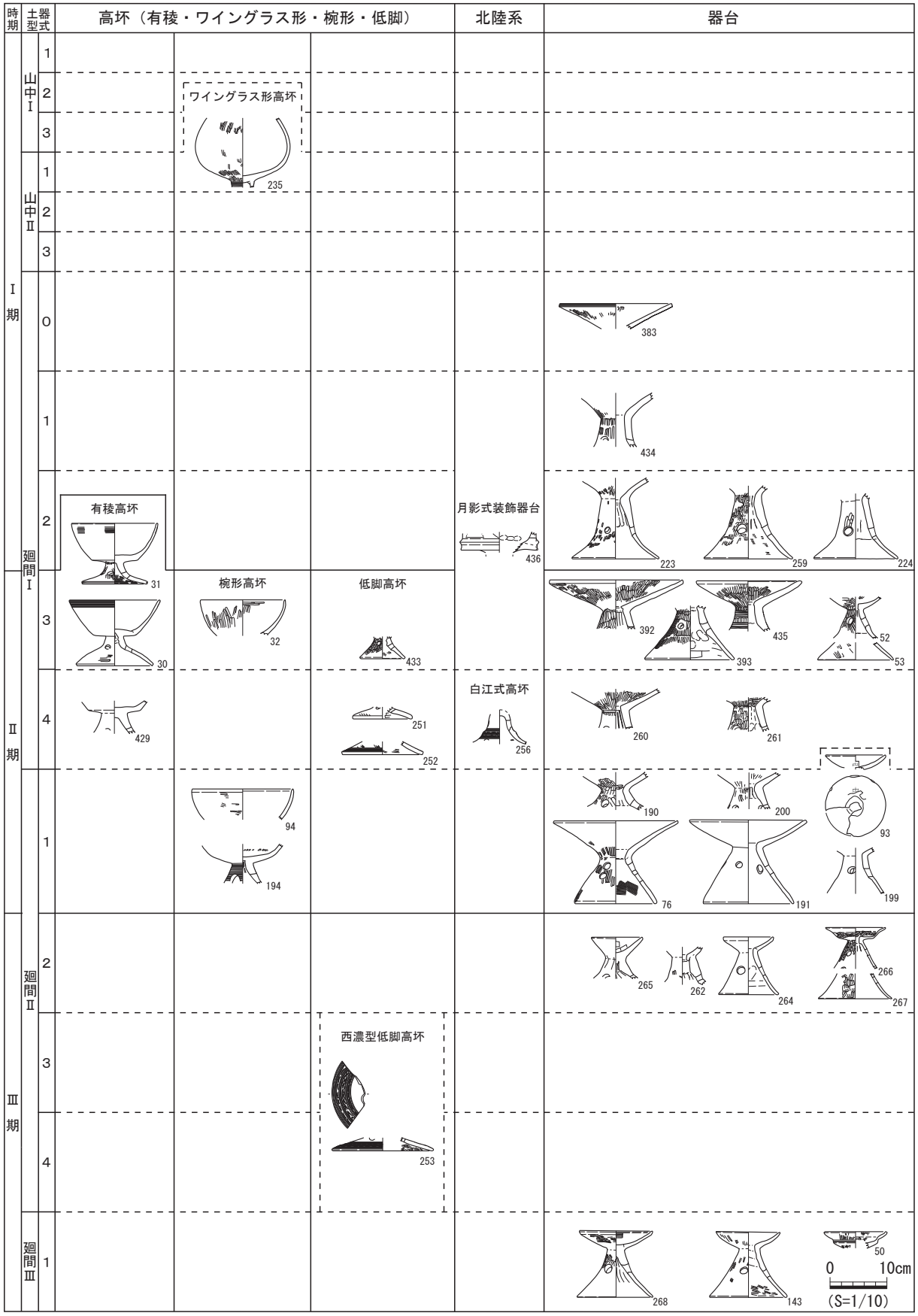


図 121　弥生土器・土師器の変遷（有稜・ワイングラス形・椀形・低脚高坏、北陸系高坏・器台、器台）

系）、鉢把手（伊勢系）、月影式装飾器台（北陸系）である。北陸系土師器については、鉢が廻間Ⅰ式２段階（Ⅰ期）に比定できることから、Ⅰ期の一群の土器セットをなす可能性がある。

Ⅲ期

Ⅲ期に比定できる土師器は、く字甕、Ｓ字甕Ｂ類、Ｓ字甕Ｃ類、広口壺、内湾壺、受口系鉢、鉢、有段高坏、西濃型高坏、西濃型低脚高坏、器台である。

このうち、く字甕、鉢は廻間Ⅱ式２段階から３段階、Ｓ字甕Ｂ類は廻間Ⅱ式２段階から４段階、Ｓ字甕Ｃ類、広口壺、有段高坏は廻間Ⅲ式１段階、受口系鉢は廻間Ⅱ式３段階、西濃型高坏は廻間Ⅱ式２段階、西濃型低脚高坏は廻間Ⅱ式３段階から４段階、器台は廻間Ⅱ式２段階と廻間Ⅲ式１段階で確認できる。

Ⅲ期前半（廻間Ⅱ式２段階から３段階）に時期を特定できる遺構は確認できない。Ⅲ期前半に広口壺、有段高坏などが確認できないことは、遺構の検出状況に整合すると考えられる。一方、Ｓ字甕Ｂ類、受口系鉢、鉢、器台は遺物包含層（Ⅲ層）出土遺物を中心に確認できることから、今回の発掘区以外ではⅡ期前半の遺構も存在すると考えられる。

また、時期の限定には至らなかったが、Ⅱ期若しくはⅢ期に比定できる土師器は、白江式甕（北陸系）である。この白江式甕については、白江式高坏が廻間Ⅰ式４段階（Ⅱ期）に比定できることから、Ⅱ期の一群の土器セットをなす可能性がある。

２　器種ごとの様相

く字甕　43点を第３章で図示し、このうち19点を図115に掲載した。Ⅰ期後半からⅢ期前半にかけて連続して確認できる。Ⅱ期が最盛期となるが、Ⅱ期後葉のSD６、SD７で６点がまとまって出土している。全体形を確認できるものが少ないが、97や101のように他の個体も台部をもち、台付甕となると考えられる。

受口系甕　57点を第３章で図示し、このうち27点を図115に掲載した。Ⅰ期からⅡ期にかけて連続して確認できる。Ⅱ期が最盛期となるが、Ⅱ期後葉のSD６、SD７で９点がまとまって出土している。全体形を確認できるものが少ないが、77のように台部をもつもののほか、103・104（同一個体）や107・108（同一個体）のように平底となるものが確認できる。台付甕と平底甕が共存していたと考えられる。また、44は大口径で、Ｓ字甕にも類似する口縁をもち、鉢に近い器形であるが、北勢・鈴鹿山系の様相若しくは雲出川流域の様相を反映している可能性がある[1)]。

Ｓ字甕　０類２点、Ａ類28点、Ｂ類12点、Ｃ類36点を第３章で図示し、このうち０類１点、Ａ類21点、Ｂ類10点、Ｃ類７点を図116に掲載した。この他に分類できない台部のみのＳ字甕２点を第３章で図示した。Ⅰ期末からⅢ期にかけて連続して確認できる。他の器種と比較して、Ⅱ期、Ⅲ期の各時期に安定して確認できる。全体形を確認できるものは109のみであるが、他の個体も台付甕となると考えられる。Ｃ類は、Ⅲ期末のSK92で29点がまとまって出土している。

広口壺　25点を第３章で図示し、このうち10点を図117に掲載した。Ⅰ期後半（廻間Ⅰ式１段階）からⅡ期にかけて連続して確認できる。Ⅱ期が最盛期となるが、Ⅱ期後葉のSD６、SD７で６点がまとまって出土している。Ⅱ期後葉で一旦途切れるがⅢ期末（廻間Ⅲ式３段階）に再び確認できる。

加飾壺・パレス壺　加飾壺10点、パレス壺22点を第３章で図示し、このうち加飾壺10点を図117、パレ

ス壺18点を図118に掲載した。加飾壺はⅡ期のうち、廻間Ⅰ式３段階と廻間Ⅱ式１段階に確認できる。Ⅱ期後葉のSD６、SD７で６点がまとまって出土している。パレス壺はⅠ期末（廻間Ⅰ式２段階）からⅡ期中葉（廻間Ⅱ式１段階）にかけて確認できる。なお、廻間Ⅰ式０段階若しくは１段階の袋状口縁壺が出土しており、広義の広口壺として図117に掲載した。

加飾壺は、柳ケ坪型壺の祖型と考えられる。同様の加飾壺は当遺跡周辺では、大垣市・東町田遺跡の前方後方形周溝墓（SZ10）（大垣市教育委員会2004）や滋賀県長浜市・五村遺跡の円形周溝墓（滋賀県虎姫町教育委員会ほか1997、植野1997）などで同様の加飾壺が出土しており、西濃から湖北における特徴を反映している可能性がある。

柳ケ坪型壺については、宮腰健司がパレス壺とともに定義し[2)]、さらに、柳ケ坪型壺に認められる口縁部内外面の刺突に注目して、口縁部内外面に刺突が施される壺を分類し、柳ケ坪型壺に関連する「口縁部内外面刺突加飾壺」として定義した[3)]。118、同一個体と考えられる124・125は、口縁部から底部まで残存しており、口縁部内外面に矢羽根状の刺突文、体部に直線文と波状文による加飾が施され、頸部外面下端に突帯が巡る。また、467、468は口縁部内外面に矢羽根状の刺突文が施される。118、124・125、467、468は宮腰の口縁部内外面刺突加飾壺Ｂ類にあたる。また、83は口縁部内面のみに矢羽根状の刺突文、口縁部外面には擬凹線文が施される。465は口縁部内面のみに矢羽根状の刺突文が施される点は83と共通するが、口縁部外面に加飾は施されない。128は口縁部から底部まで残存しており、口縁部内面は加飾が施されず、口縁部外面に擬凹線文、体部に直線文と波状文による加飾が施され、頸部外面下端に突帯が巡る。112、113は、口縁部外面には擬凹線文が施されるが、口縁部内面には加飾は施されない。83、112、113、128、465は口縁部内外面に刺突を持たないため、口縁部内外面刺突加飾壺の定義には当てはまらないが、全体形の把握できる128をみると、体部の直線文と波状文、頸部外面下端の突帯などの加飾は、口縁部内外面刺突加飾壺と共通する。このことから宮腰の口縁部内外面刺突加飾壺に分類できない加飾壺も含め、柳ケ坪型壺の祖型と考えられる。口縁部内外面刺突に限らない多様な加飾壺群が、斉一性の強い柳ケ坪型壺へと収束していく可能性がある。

一方、パレス壺は廻間Ⅰ式４段階までその存在が確認できるが、Ⅱ期後葉以降には確認できない。今回の調査は部分的な発掘であるため、断定はできないが、廻間Ⅱ式１段階にパレス壺から加飾壺へ移行した可能性がある。

内湾壺　10点を第３章で図示し、このうち５点を図118に掲載した。Ⅰ期末からⅡ期中葉（廻間Ⅰ式４段階）にかけて連続して確認できる。Ⅱ期中葉で一旦途切れるがⅢ期初頭（廻間Ⅱ式２段階）に再び確認できる。

受口系鉢　11点を第３章で図示し、図119に掲載した。Ⅰ期後半からⅡ期前葉（廻間Ⅰ式３段階）にかけて連続して確認できる。Ⅱ期中葉で一旦途切れるがⅡ期後葉（廻間Ⅱ式１段階）に再び確認できる。

鉢・鉢把手・手焙形土器・有孔鉢　鉢12点、鉢把手１点、手焙形土器１点、有孔鉢６点を第３章で図示し、このうち鉢４点、鉢把手１点、手焙形土器１点、有孔鉢４点を図119に掲載した。鉢はⅠ期末、Ⅱ期中葉、Ⅲ期前半に断片的に確認できる。鉢把手は廻間Ⅰ式併行に比定できる。美濃地方では類例がないが、津市・六大Ａ遺跡SD１出土把手付有頸鉢（三重県埋蔵文化財センター2002）、津市・雲出島貫遺跡周溝SX484出土鉢（三重県埋蔵文化財センター2001）、松阪市・村竹コノ遺跡検出中・包含層出土鉢Ｅ（三重県埋蔵文化財センター2009）等、伊勢地方で類例が確認できる。これらの把手付鉢は、

「伊勢湾西岸地域には普遍的に見られる器種」である（三重県埋蔵文化財センター2009）。このような伊勢地方に系譜を持つ土器の出土から、伊勢地方との交流がうかがわれる。手焙形土器は、廻間Ⅰ式４段階に比定できるが、小片１点の出土で詳細は不明である。

有段高坏　有段高坏34点を第３章で図示し、このうち27点を図120に掲載した。廻間Ⅰ式２段階、廻間Ⅱ式３段階、４段階を除き、Ⅰ期からⅢ期中葉にかけて連続して確認できる。山中Ⅰ式２段階から山中Ⅱ式３段階まで、山中期においては他の器種は断片的にしか確認できないが、有段高坏は山中期に連続して確認できる。Ⅱ期が最盛期となり、Ⅱ期後葉のSK196では８点がまとまって出土している。また、Ⅲ期末のSK92から３点が出土している。

西濃型高坏　18点を第３章で図示し、このうち８点を図120に掲載した。Ⅱ期からⅢ期初頭にかけて連続して確認できる。いずれも坏部のみの出土で、全体形は確認できない。

有稜高坏・ワイングラス形高坏・椀形高坏・低脚高坏　有稜高坏５点、ワイングラス形高坏１点、椀形高坏３点、低脚高坏５点を第３章で図示し、このうち有稜高坏３点、ワイングラス形高坏１点、椀形高坏３点、低脚高坏４点を図121に掲載した。有稜高坏はⅡ期前葉から中葉、ワイングラス形高坏は山中Ⅱ式１段階、椀形高坏はⅡ期前葉と後葉、低脚高坏はⅡ期前葉から中葉及びⅢ期中葉に断片的に確認できる。有稜高坏は全体形が確認できるものがあるが、ワイングラス形高坏、椀形高坏は坏部から脚上部、低脚高坏は脚部のみの出土で全体形は確認できない。なお、廻間Ⅱ式３段階から４段階に比定した低脚高坏は、脚部に沈線文、連弧文、羽状文が施される西濃型の低脚高坏である。

器台　26点を第３章で図示し、このうち24点を図121に掲載した。Ⅰ期後半からⅢ期初頭にかけて連続して確認できる。Ⅲ期中葉は確認できないが、Ⅲ期末に再び確認できる。Ⅱ期が最盛期となり、Ⅱ期後葉のSK196では４点がまとまって出土している。また、SD５から出土した器台には墨書が確認できる（後述）。

北陸系土器（甕、鉢、高坏、器台）　北陸系土器はセットをなす可能性があることから、まとめて記述する。月影式甕６点、月影式鉢１点、月影式装飾器台１点、白江式甕１点、白江式高坏１点を第３章で図示し、このうち月影式甕５点、白江式甕１点を図116、月影式装飾器台１点、白江式高坏１点を図121に掲載した。月影式甕は廻間Ⅰ式併行、白江式甕は廻間Ⅱ式併行と考えられるが、土器型式の詳細な比定には至らなかった。北陸土器は出土数が10点と限られるが、月影式期と白江式期に複数器種がセットで搬入された可能性がある。

文字若しくは記号が書かれた土器（器台）　SD５から出土した器台(93)で一字の文字若しくは記号を確認している。93は脚部が欠損しており、台部の脚部との境界付近で「中」若しくは「甲」のように見える。器台として正位の状態では文字とすると上下が逆になる（図49、図121）ことから、器台の脚部を折った後に書かれた可能性がある。また、脚部との接合部付近が摩滅しており、完結しているのか、摩滅部分に続くのか不明である。ただし、脚部を折った破砕面の状況からは２文字が書かれていたとは考えられず、１文字と考えられる。文字として書かれたのか、記号として書かれたのか不明である。なお、墨の使用を確認するため、赤外線カメラ（PENTAX 645Z IR）で撮影を行った結果、カメラに文字若しくは記号の画像が写っていることを確認した（写真２、写真３）。また、電子顕微鏡により当該部分の成分を分析した結果、精製した墨は確認できなかったことから、墨以外の物質で書かれた可能性がある[4)]。

写真２　器台（93）赤外線写真

写真３　器台（93）･文字若しくは記号部分赤外線写真

93の時期は古墳時代前期初頭（廻間Ⅱ式１段階）である。これまで墨書、刻書等の文字資料が確認できるのは、岐阜県内では「７世紀以降」（美濃加茂市民ミュージアム2001）で、古墳時代まで遡る資料は確認できない。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての文字資料（墨書・刻書）は、三重県津市・大城遺跡で２世紀前半の刻書土器（安濃町遺跡調査会1998、廣岡1999）、三重県松阪市・貝蔵遺跡で２世紀後半の墨書土器（嬉野町まちづくり推進課・嬉野町教育委員会1998、上田市立信濃国分寺資料館2007）、熊本県前原市・三雲遺跡群で３世紀の刻書土器（平川1999）、長野県木島平村・根塚遺跡で３世紀後半の刻書土器（根塚遺跡発掘調査団2002）、松坂市・片部遺跡で３世紀末～４世紀中葉の墨書土器（嬉野町教育委員会1996、嬉野町まちづくり推進課・嬉野町教育委員会1998）、熊本県玉名市・柳町遺跡で４世紀初頭の木製短甲（墨書、熊本県教育庁文化課2001）等が出土している。当遺跡の93はこれら最古の文字資料の一群に含まれる。

注

１）早野浩二氏（愛知県埋蔵文化財センター）のご教示による。

２）宮腰は柳ケ坪型壺とパレス壺を次のように定義している。柳ケ坪型壺は、１：口縁部が有段状を呈する。２：内外面に刺突が施される。刺突は横方向に連続し、主に羽状を呈する。３：口縁部体部の文様は上半部に限られ、横方向の直線文と波状文が組み合わされる。４：体部文様帯体及び口縁部文様帯の下部にはミガキ調整されることが多い。５：底部は大きく、円盤状を呈し、底外面が上げ底状に凹面をなすものもある。底外面には木葉痕が残る。６：赤彩は施されない。と定義し、一方パレス壺は、ａ：口縁部は有段状を呈するが、内面にのみ刺突が施され外面は凹線または無文で棒状、円形浮文が付けられる。ｂ：体部上半に文様帯が描かれるが、直線文＋波状文・斜位連続刺突文→斜位連続刺突・山形文→山形文と変化し、廻間ⅡからⅢには直線文＋山形文のみとなる。ｃ：口縁部外面から頸部、口縁部内面の文様帯下の頸部、体部外面の文様帯の下位、山形文に赤彩がなされる。と定義している（宮腰2016）。

３）宮腰は柳ケ坪型壺の定義を整理する際に、実際の調査においては口縁部のみが出土することが極めて多く、口縁部から底部まで揃った個体は数少なく、５：木葉痕を有する底部片や３：直線文帯と波状文帯が組み合わさった体部片も柳ケ坪型壺と特定することは難しいことから、上記２）で提示した柳ケ坪型壺の定義のうち、１、２を合わせた内外面の刺突に注目し、次のように分類した。Ａ類：口縁部が逆八字状に延び、その後上方及び斜め上方に延びて有段となるもの。Ａｂは直線的な口縁部の外側に粘土を付加して有段にしているもの。Ｂ類：口縁部が明瞭な有段状とならないものである。Ｂａは口縁部端が下方及び上下方に延びるもの、Ｂｂは面やや肥厚して面をなすもの、Ｂｃは上方に短く延びるものである。頸部に突帯が巡るものが多い。Ｃ類：口縁部の形状がパレス壺などの加飾壺と類似または折衷したもの。と分類し、このうち、Ａ類を柳ケ坪型壺、Ｂ類を柳ケ坪型壺に先行し、柳ケ坪型壺の成立に関わる壺とした。

４）赤外線写真は岡見知紀氏（奈良県立橿原考古学研究所）が撮影した。なお、赤外線写真には文字若しくは記号の画像が写ったが、電子顕微鏡による観察及び非破壊成分分析においては墨の成分は確認できなかった。墨以外にも赤外線に反応する物質は存在するため、赤外線写真に画像が写ったことは必ずしも墨の使用を証明することにはならない（岡見氏のご教示による）。

引用・参考文献

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2015『愛知県史　別編　古代　猿投系』、愛知県
赤塚次郎1988「東海の前方後方墳」『古代』86号、早稲田大学考古学会
赤塚次郎1996「濃尾平野低地部における古墳時代の甕」『鍋と甕そのデザイン』（第４回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会実行員会
赤塚次郎1999「濃尾平野の墓制」『季刊考古学』第67号、雄山閣
赤塚次郎編2002『考古資料大観　第２巻　弥生：古墳時代　土器Ⅱ』、小学館
安濃町遺跡調査会1998『大城遺跡発掘調査報告書』（安濃町埋蔵文化財発掘調査報告５）、安濃町教育委員会
石川県立埋蔵文化財センター1986『漆町遺跡Ⅰ』
石黒立人・宮腰健司2007「伊勢湾周辺地域における弥生土器編年の概要と課題」『伊藤秋男先生古希記念考古論文集』、伊藤秋男先生古希記念考古論文集刊行会
上田市立信濃国分寺資料館2007『古代信濃の文字』（新生「上田市」発足１周年記念事業）
植野浩三1997「区画溝と周溝墓－滋賀県五村遺跡の調査成果をもとに」『文化財学報』第15集、奈良大学文学部文化財学科
宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
嬉野町教育委員会1996『片部遺跡への招待』
嬉野町まちづくり推進課・嬉野町教育委員会1998『「墨・文字・顔」～最古の墨書が語るもの』（古代シンポジウム）
大垣市教育委員会2001『荒尾南遺跡Ⅰ』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第10集）
大垣市教育委員会2003『荒尾南遺跡Ⅱ』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第13集）
大垣市教育委員会2004『東町田遺跡』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第14集）
大垣市教育委員会2008『荒尾南遺跡Ⅲ』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第18集）
各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第４号）
梶山勝1999「漢代中国の対外交渉における文字使用について」『月刊考古学ジャーナル』440、ニューサイエンス社
加納俊介2000「Ｓ字甕の分類を考える」『Ｓ字甕を考える』（第７回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム三重大会実行員会
加納俊介・石黒立人編2002『弥生土器の様式と編年―東海編―』、木耳社
岐阜県教育委員会2002『岐阜県中世城館総合調査報告書』第１集（西濃地区・本巣郡）
岐阜県地方改良協会養老郡支会1925『養老郡志』
岐阜県文化財保護センター2012ａ『荒尾南遺跡Ａ地区Ⅰ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第119集）

岐阜県文化財保護センター2012ｂ『荒尾南遺跡Ｂ地区Ⅰ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第121集）
岐阜県文化財保護センター2013『荒尾南遺跡Ａ地区Ⅱ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第127集）
岐阜県文化財保護センター2014『荒尾南遺跡Ｃ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第129集）
岐阜県文化財保護センター2015『荒尾南遺跡Ｂ地区Ⅱ』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第131集）
熊本県教育庁文化課2001『柳町遺跡Ⅰ』（熊本県文化財調査報告第200集）
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）
小山正忠、竹原秀雄2015『新版標準土色帖』、日本色研事業株式会社
財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2002『八王子遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1992『山中遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第40集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1997『西上免遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集）
財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター1999『門間沼遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第80集）
財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2002『八王子遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集）
財団法人岐阜県文化財保護センター1998ａ『荒尾南遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第26集）
財団法人岐阜県文化財保護センター1998ｂ『今宿遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第37集）
滋賀県虎姫町教育委員会・奈良大学文学部考古学研究室1997『五村遺跡』（虎姫町文化財調査報告書第２集）
高倉洋彰1999「弥生人と漢字」『月刊　考古学ジャーナル』440、ニューサイエンス社
東海考古学フォーラム三重大会実行員会編2000『Ｓ字甕を考える』（第７回東海考古学フォーラム）
東海古墳文化研究会1988「岐阜県西濃地方の前方後方（円）墳の測量調査」『古代』86号、早稲田大学考古学会
中村俊夫2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の^{14}C年代』、日本第四紀学会
根塚遺跡発掘調査団2002『根塚遺跡』（木島平村埋蔵文化財調査報告書No.12）、木島平村教育委員会
平川南1999「福岡県前原市三雲遺跡群における文字使用について」『月刊　考古学ジャーナル』440、ニューサイエンス社

廣岡義隆1999「報告　大城遺跡出土の線刻土器について」『三重大学　日本語学文学』第10号、三重大学日本語日本文学研究室
藤尾慎一郎2013『弥生文化像の新構築』、吉川弘文館
藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第３号、三重県埋蔵文化財センター
藤澤良祐2007「第３節　古瀬戸生産の成立と展開」『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』、愛知県
藤澤良祐2015「付編　中世常滑窯編年の再検討―５型式期以降を中心に―」『上県２号窯跡第９次発掘調査概要報告書』（愛知学院大学考古学発掘調査報告20）、愛知学院大学文学部歴史学科
文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編2010ａ『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』、同成社
文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編2010ｂ『発掘調査のてびき―整理・報告書編―』、同成社
三重県埋蔵文化財センター2001『嶋抜Ⅲ』（三重県埋蔵文化財調査報告218）
三重県埋蔵文化財センター2002『六大Ａ遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財調査報告115-16）
三重県埋蔵文化財センター2009『村竹コノ遺跡』（三重県埋蔵文化財調査報告123-9）
美濃加茂市民ミュージアム2001『文字の登場、そして広まり―古代中世の人と文字をめぐって―』
宮腰健司2016「「柳ケ坪型土器」について」『研究紀要』第17号、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
三輪晃三2021「GISを用いた近代における岐阜県郡域の復原と変遷」『岐阜県文化財保護センター研究紀要』第６号、岐阜県文化財保護センター
養老町1978『養老町史』（通史編上巻）
養老町教育委員会1984『のびゆく養老町』
養老町教育委員会1989『郷土と治水』
養老町教育委員会1990『象鼻山古墳群分布確認調査報告書』
養老町教育委員会1991『郷土の治水―養老町―』
養老町教育委員会1992『養老町の文化財』
養老町教育委員会2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第４集）
養老町教育委員会2010『象鼻山古墳群発掘調査報告書―第１～４次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告書第６集）
養老町教育委員会2014『日吉遺跡発掘調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第７集）
養老町教育委員会2015『象鼻山古墳群発掘調査総括報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第９集）
養老町教育委員会2016『竜泉寺廃寺跡測量調査報告書』（養老町埋蔵文化財調査報告書第10集）
養老町教育委員会2020『千人塚１号古墳範囲確認調査現地説明会資料』
養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1997『象鼻山１号古墳―第１次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第１冊）
養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1998『象鼻山１号古墳―第２次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第２冊）

養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1999『象鼻山１号古墳―第３次発掘調査の成果―』（養老町埋蔵文化財調査報告第３冊）

養老町郷土資料館協議会編1995『養老町の古道』、養老町教育委員会

和氣清章1999「片部・貝蔵遺跡の墨書土器」『月刊　考古学ジャーナル』440、ニューサイエンス社

Bronk Ramsey, C.2009「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」『Radiocarbon』51(1)

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S.2020「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62(4)、doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

Ａ区全景（東が上）

Ｂ区全景（北が上）

図版２　全景

Ｃ区全景（東から）

Ｄ区全景（東から）

SI２床面検出状況（東から）

SI２完掘状況（南東から）

図版４　竪穴建物

SI８床面検出状況（南東から）

SI８完掘状況（南東から）

SI13 床面検出状況（東から）

SI13 遺物出土状況（南西から）

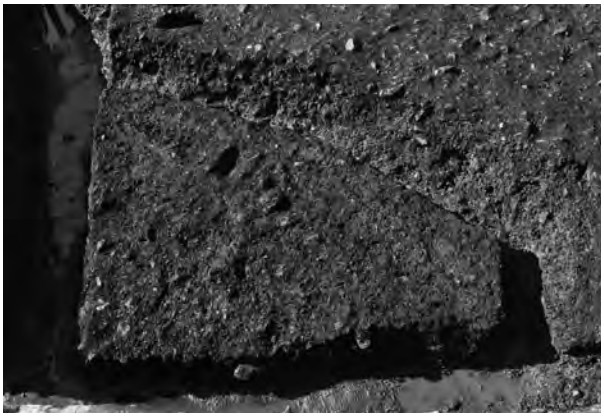
図版６　竪穴建物

SI１床面検出状況（東から）

SI１完掘状況（北東から）

SI４床面検出状況（東から）

SI４完掘状況（東から）



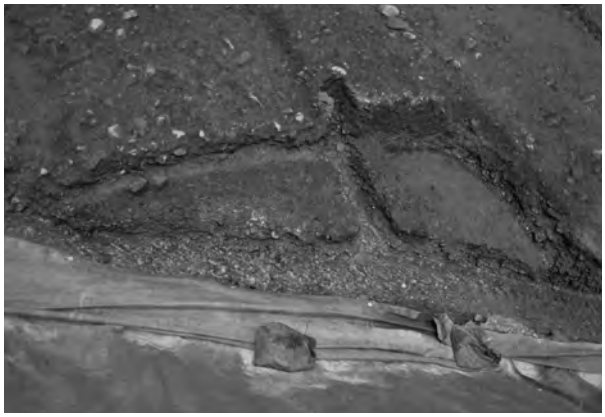
SI５床面検出状況（東から）

SI５完掘状況（東から）

SI６床面検出状況（東から）

SI６ミニチュア台付甕出土状況（南から）

SI７床面検出状況（上面）（東から）



SI７床面検出状況（下面）（東から）

SI10 床面検出状況（東から）

SI10 完掘状況（東から）

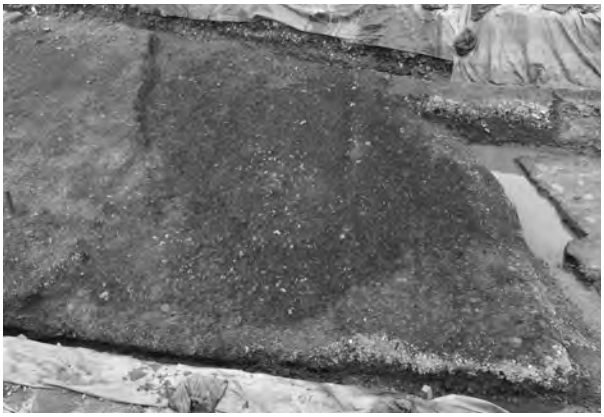
SI３床面検出状況（東から）

SI９床面検出状況（南東から）

SI11 床面検出状況（東から）

SI12 床面検出状況（東から）

図版８　溝



SD２完掘状況（西から）

SD３完掘状況（西から）

SD４完掘状況（西から）

SD５完掘状況（西から）

SD６・SD７完掘状況（南西から）

SD６遺物出土状況（南から）

SD６遺物出土状況（西から）

SD６遺物出土状況（南西から）

SD６遺物出土状況（東から）

SD６鉄鏃（119）出土状況（南から）

図版 10　土坑

SK37 完掘状況（東から）

SK37 遺物出土状況（北から）

SK52 完掘状況（東から）

SK52 遺物出土状況（西から）

図版 12　土坑

SK69 完掘状況（西から）

SK69 遺物出土状況（東から）

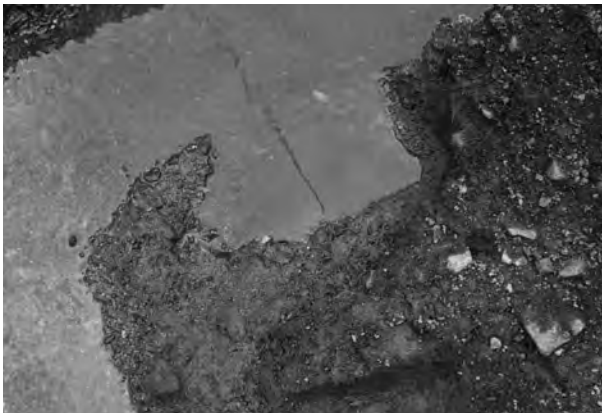
SK92 完掘状況（南から）

SK92 遺物出土状況（南から）

図版 14　土坑

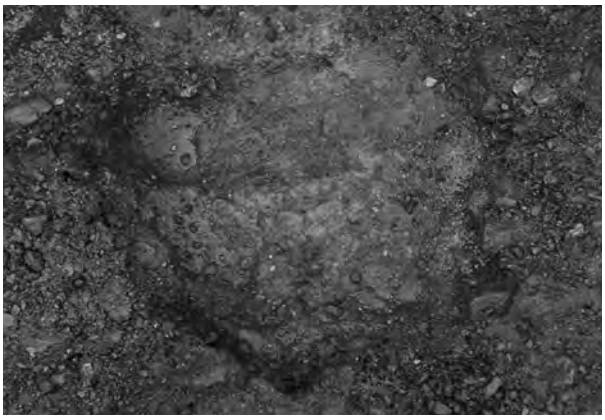
SK196 完掘状況（北から）

SK196 遺物出土状況（北から）

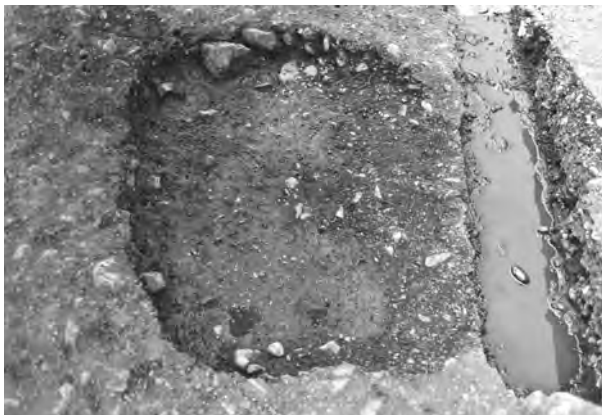


SK30 完掘状況（東から）

SK30 遺物出土状況（土層断面）（東から）



SK31 完掘状況（南東から）



SK49 完掘状況（南東から）

SK102 完掘状況（西から）

SK177 完掘状況（南から）

SK140 完掘状況（東から）

SK140 遺物出土状況（南から）

図版 16　遺物集積

SU１遺物出土状況（南西から）

SU２遺物出土状況（北から）

4

22

31

23

33

40

44

54

図版 18　遺構出土土器類

64

65

75

76

77

84

79

93

97

100

103

104

101

109

図版 20　遺構出土土器類

115

111

116

117

118

124

125

127

126

128

図版 22　遺構出土土器類

131

138

139

140

142

143

144

173

180

185

196

197

210

191

198

216

図版 24　遺構出土土器類

217

219

221

225

223

226

224

228

234

254

235

255

239

256

253

264

図版 26　遺物包含層出土土器類

266

329

268

341

350

367

366

375

387

389

392

393

421

422

423

424

図版 28　土石流堆積土等出土土器類・金属製品・石器・石製品

436

464

443

476

119

380

469

92

482

481

419

報　告　書　抄　録

ふりがな	みょうとくいせき
書名	明徳遺跡
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第166集
編著者名	澤村雄一郎
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　TEL058-237-8550 FAX058-237-8551
発行年月日	2024年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
明徳遺跡（みょうとくいせき）	岐阜県（ぎふけん） 養老郡（ようろうぐん） 養老町（ようろうちょう） 石畑（いしばた）・鷲巣（わしのす）	21341	11214	35° 17’ 21”	136° 33’ 31	20200511 ～20201204 20210506 ～20210805	2,267.1	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
明徳遺跡	散布地 集落跡	弥生時代 古墳時代 奈良時代 中世	竪穴建物 掘立柱建物 柵 柱穴 溝 土坑 遺物集積	13棟 ３棟 ６基 ４基 10条 194基 ４基	土師器 須恵器 灰釉陶器 山茶碗 中近世陶磁器 石器・石製品 金属製品	25,052点 70点 8,510点 49点 19点 ７点 ３点	弥生時代後期から古墳時代前期にかけての居住域を確認

要約	明徳遺跡は、養老山地山麓から氾濫平野へ流れ出る谷川により堆積した砂礫で形成された扇状地の端部に位置する弥生時代から中世にかけての散布地、集落跡である。 今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構や遺物を確認した。主な遺構としては、弥生時代末から古墳時代初頭の竪穴建物３棟、掘立柱建物２棟、溝５条、土坑６基がある。今回の発掘区では、この時期に最も遺構と遺物が集中する。このうち、２条の溝からは大量の土師器が集中して出土した。また、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物が良好に残存する遺物包含層を確認した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第166集

明 徳 遺 跡

2024年３月８日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　株式会社もとすいんさつ